

平成18年度（第50回）  
岩手県教育研究大会発表資料

進路指導・キャリア教育

**将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる  
小学校キャリア教育の推進に関する研究**  
- 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした  
特別活動の指導計画を中心として -

研究協力校  
花巻市立湯口小学校

平成19年1月9日  
岩手県立総合教育センター  
教科領域教育室  
前川岳詩

## 《 目 次 》

研究の目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 内容与方法	2
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 特別活動を中心とする小学校キャリア教育の推進に関する基本構想（第1年次研究の概要）	2
(1) 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる	
小学校キャリア教育の推進に関する基本的な考え方	2
(2) 特別活動を中心としたキャリア教育の展開に関する基本的な考え方	4
(3) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした	
特別活動指導計画の作成についての基本的な考え方	4
(4) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした	
特別活動指導計画の作成の手順と留意点	4
2 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の実際	6
(1) キャリア教育全体構想の実際	6
(2) 特別活動におけるキャリア教育指導構想の実際	7
3 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画に基づく授業実践	9
(1) 授業実践の目的	9
(2) 授業実践の概要	10
4 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの作成	24
(1) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラム作成の意図	24
(2) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの構成	24
(3) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの概要	24
5 小学校におけるキャリア教育の推進及び特別活動を中心とする	
キャリア教育モデルカリキュラムに関するアンケート調査の分析と考察	25
(1) 調査の目的と内容	25
(2) アンケート調査の分析と考察	25
6 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる	
小学校キャリア教育の推進に関する研究のまとめ	27
(1) 成果	27
(2) 課題	28
研究のまとめ	28
1 研究の成果	28
2 今後の課題	29

おわりに

【参考文献】

## 研究の目的

産業・経済の構造的変化、雇用形態の多様化や流動化等を背景として、就職・就業をめぐる環境が激変している。また、最近の若者の離職率の高さやフリーター、ニートの増加などから、勤労観・職業観の未熟さや職業人としての基礎的資質・能力の低下が懸念されている。また、学校教育においては、将来の自分の夢を描けず、学ぶ目的や意欲が欠如した子どもたちの増加も指摘されている。こうした子どもたちの進路にかかわる諸問題を背景に、次代を担う人材の育成の上からも、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育を、早期から推進することが必要とされている。

しかし、小学校段階においては、総合的な学習の時間等の実践により体験的に働く人々の姿や考え方、生き方等に触れる機会は従来よりも増えたものの、生き方指導として組織的・系統的に教育課程に位置付けられ指導されていなかったため、それらを自身の日常生活の有り様や将来の姿に結び付けていく面が弱かった。

このような状況を改善するためには、中学校での進路指導に結び付く「自他の理解や関係作り」、「将来の夢や希望」、「身の周りの仕事や社会への関心・意欲」、「進んで働き目標達成に向けて努力する態度」等を具体的に達成すべき諸能力として定義付け、進路発達を踏まえた到達目標を設定して段階的に身に付けさせる組織的・系統的な指導が必要である。

そこで、この研究は、小学校特別活動に焦点をあて、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした指導計画の作成及び実践をとおして、将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に役立てようとするものである。

## 研究の方向性

小学校における将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てるキャリア教育の推進に資するため、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の実践的な指導計画を作成し、特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育のモデルカリキュラムを提示する。

## 研究の年次計画

本研究は、平成17年度から平成18年度にわたる2年次研究である。

### 第1年次（平成17年度）

将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する基本構想の立案、推進試案の作成、キャリア教育学習プログラムの枠組みの作成、キャリア教育全体計画の作成及びキャリア教育指導構想表の作成

### 第2年次（平成18年度）

キャリア教育全体計画に基づく特別活動指導計画の作成、授業実践とその分析・考察、特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの提示、将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究のまとめ

## 本年度の研究内容と方法

### 1 目標

第1年次に立案した特別活動におけるキャリア教育全体構想に基づき、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の指導計画の作成及び授業実践を行い、特別活動を中心とした実

践的なキャリア教育モデルカリキュラムを提示し、小学校におけるキャリア教育推進の方途を示す。

## 2 内容と方法

- (1) キャリア教育全体計画に基づく特別活動指導計画の作成  
キャリア教育の視点を位置付けた学級活動、学校行事、児童会活動及び特別活動とのかかわりが深い日常的な活動の指導計画を作成する。
- (2) 授業実践と分析・考察(授業実践、観察法)  
特別活動においてキャリア教育を推進する際の典型的事例となる授業を特別活動指導計画の中から選択して実践し、分析・考察する。
- (3) 特別活動を中心として展開するキャリア教育モデルカリキュラムの提示  
キャリア教育のとらえ方や授業づくりについての解説、実践事例及びキャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画集を「小学校キャリア教育モデルカリキュラム」としてまとめ、提示する。作成したモデルカリキュラムについて研究協力校へのアンケート調査を行い、カリキュラムの妥当性の検討を行う。
- (4) 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究のまとめ  
授業実践及び研究協力校へのアンケート調査の分析・考察を基に、小学校キャリア教育の推進に関する研究のまとめを行う。

## 3 研究協力校

花巻市立湯口小学校

### 研究結果の分析と考察

#### 1 特別活動を中心とする小学校キャリア教育の推進に関する基本構想(第1年次研究の概要)

小学校におけるキャリア教育の推進をめざし、第1年次研究(平成17年度)では、小学校におけるキャリア教育の意義や位置付け、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画作成に関する基本的な方向性を明らかにした。この第1年次の研究内容が、本年度の小学校キャリア教育モデルカリキュラム作成の基になるものであり、以下にその要旨を示す。詳細は、第1年次の研究報告を参照されたい。

(参照URL:[http://www.iwate-ed.jp/db/db1/ken\\_data/center/h17\\_ken/04.pdf](http://www.iwate-ed.jp/db/db1/ken_data/center/h17_ken/04.pdf))

#### (1) 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する基本的な考え方

##### ア キャリア教育とは何か

「キャリア教育」とは、個々の児童生徒が自らの将来の生活において、社会的・職業的な自己実現を図り、主体的な生き方ができるよう適切な価値観や態度、能力を育む教育活動である。その教育内容は、「望ましい進路発達を促すための勤労観・職業観に関する内容、生き方や進路の選択にかかわる能力・態度に関する内容」の二点にまとめられる。

本研究における「進路発達」「勤労観」「職業観」の定義は、以下のとおりである。

「進路発達」	児童生徒が自らの生き方や進路を主体的に選択できる力を獲得するまでに育むべき成長、発達の過程
「勤労観」	勤労に対する価値的な理解であり、働くことそのものに対する個人の価値的な見方や考え方、態度
「職業観」	職業に対する価値的な理解であり、生きていく上での職業の意義や役割についての認識

イ 小学校におけるキャリア教育推進の意義

中央教育審議会答申（平成11年）で、小学校からのキャリア教育の推進が求められた。児童期の小学校からキャリア教育を展開する意義を以下にまとめる。

児童期は、将来の主体的な進路選択のための基礎的な資質や能力、態度を育成する時期である。小学校から高等学校までの組織的・系統的なキャリア教育の展開が求められている。児童が自らの将来や進路について主体的に考えようとする力を身に付けることで、学力、生活力の向上、生徒指導上の問題の解決等、進路に関わる問題状況の改善が期待される。

ウ 小学校キャリア教育において培う進路発達にかかわる諸能力

小学校におけるキャリア教育でめざす姿を「将来を見つめ自らの生き方を考える力」を身に付けた児童とし、具体的な姿を以下の四点にまとめた。

小学校キャリア教育でめざす児童

他者との好ましい人間関係を築く中で、自分の個性やよさに気付き、将来の夢や希望を描ける子  
 働くことや役割を果たすことの価値に気付き、職業についての興味や理解を深める子  
 向上心をもって物事に取り組み、目標に向かって努力する意欲や態度を身に付けた子  
 情報を適切に処理しながら、自分の考えを深め、豊かに表現できる子

「将来を見つめ自らの生き方を考える力」を身に付けた児童

この、めざす児童像の実現を図るためにキャリア教育で具体的に育てたい力が、「進路発達にかかわる諸能力」である。本研究では、「キャリア教育学習プログラムの枠組み（例）」（国立教育政策研究所）を基に、【表1】に示す四領域、八具体能力を進路発達にかかわる諸能力として設定した。

【表1】キャリア教育で培う進路発達にかかわる諸能力

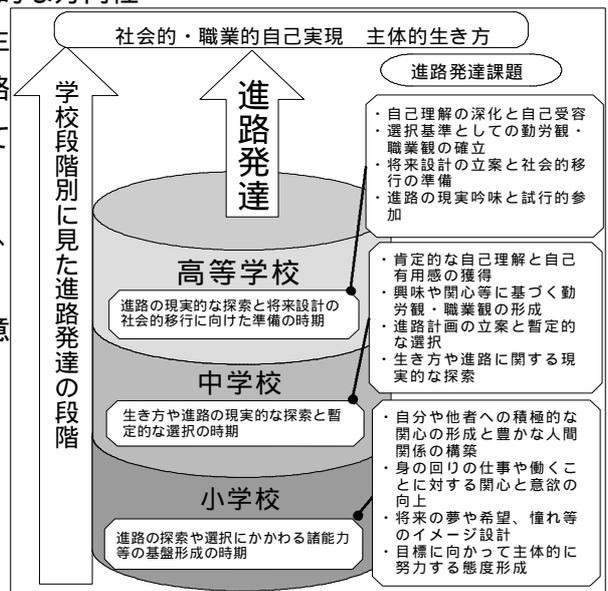
キャリア教育で培う進路発達にかかわる諸能力								
領域	【人間関係を構築する力】		【勤労や職業に対する意欲・理解】		【人生設計へのイメージ形成】		【課題解決の能力・態度】	
	自他の理解や望ましい人間関係の構築にかかわる能力領域		仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域		将来の夢や希望、憧れ等の人生設計にかかわる能力領域		目標に向かって努力する態度の形成にかかわる能力領域	
具体能力	コミュニケーション力 他者の個性や考え方を認め、適切な人間関係を築こうとする力	自己理解力 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようとする心や態度	役割認識力 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たしたりする力	職業理解力 働くことの喜びや価値に気付いたり、様々な職業について理解したりする力	将来設計力 夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、自分の将来の人生や職業生活における夢や憧れを主体的に描こうとする力	情報活用力 自らの目標に向かい主体的に努力したり、適切に課題解決したりする力	課題解決力 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たしたりする力	意思決定力 主体的に自らの意思を決定したり、進んで自己の考えを表現したりする力

エ 小学校におけるキャリア教育推進についての基本的な方向性

キャリア教育は【図1】で示したように、児童生徒の発達段階に応じた進路発達課題（望ましい進路発達のために実現させたい発達課題）を達成させていくことが大切となる。小学校のキャリア教育では、将来の主体的な進路選択のための基盤づくりとして、基礎的な資質や能力、態度を育成していく。

その際の基本的な方向性として、次の二点に留意する。

現行の教育活動をキャリア教育の視点から見直し、各教育課程に含まれるキャリア教育の要素を明らかにする。  
 各教育課程にキャリア教育で培いたい諸能力を計画的・系統的に位置付けていく。



【図1】各学校段階におけるキャリア教育の位置付け

(2) 特別活動を中心としたキャリア教育の展開に関する基本的な考え方

ア 特別活動を中心としてキャリア教育を展開する意義

特別活動を中心としてキャリア教育を展開する意義は、次の三点である。

- ・個性の発見や理解、社会性の育成といった特別活動で育成すべき資質や能力は、キャリア教育がめざす方向性と重なる。
- ・特別活動は教科や他領域等との関連が大きく、特別活動でのキャリア教育の効果を教科や他領域等に転移させたり、教科等との関連を生かしたりすることができる。
- ・中学校、高等学校では、キャリア教育の中核をなす進路指導が学級活動やホームルーム活動の中で行われることが多い。小学校においても、特別活動をキャリア推進の核に位置付けることで、小・中・高一貫したキャリア教育の充実を図ることが期待できる。

以上の三点の理由から、本研究では特別活動を中心としたキャリア教育の在り方に迫る。

イ 特別活動におけるキャリア教育の進め方に関する方向性

特別活動においてキャリア教育を進める際の方向性として、次の二点を基本的な考え方として押さえる。

- ・清掃活動の意義を考えたり、職業調べをしたりするなどの活動題材への直接的なかかわりとおして、目的とする能力育成を図る。
- ・話し合い活動や実践活動等、あるテーマについて話し合ったり、実際に活動したりという特別活動の活動形態そのものを諸能力育成の場として位置付けていく。

これらの基本的な考え方を基に、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画を作成する。

(3) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の作成についての基本的な考え方

特別活動におけるキャリア教育の推進は、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の指導計画を作成することから始まる。この指導計画の作成は、「キャリア教育全体構想の立案 キヤリア教育指導構想の立案」の二段階で進める。

キャリア教育全体構想では、学校の教育活動におけるキャリア教育の位置付け、目標及び育成する能力や指導の方向性等を、「キャリア教育学習プログラムの枠組み」「キャリア教育全体計画」「全体構想表」に明示する。

キャリア教育指導構想とは、キャリア教育全体構想における特別活動の位置付けを押さえた上で、特別活動におけるキャリア教育年間題材一覧と学級活動及び学校行事等の指導計画案（特別活動の授業プラン）を示したものである。この特別活動におけるキャリア教育の指導構想立案が、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画となる。

キャリア教育全体構想及び特別活動におけるキャリア教育指導構想の具体的な内容と作成上の留意点を以下に示す。

ア キャリア教育全体構想の内容と作成上の留意点

キャリア教育学習プログラムの枠組み作成について

「キャリア教育学習プログラム」とは、児童生徒の発達段階に応じ、キャリア教育において培う能力や態度を具体的に示したものであり、指導計画を編成する際の基となる。その作成に当たっては、国立教育政策研究所から示された「学習プログラムの枠組み（例）」の形式、内容を参考にし、キャリア教育で培う「能力・態度」を小学校（低学年・中学年・高学年）、中学校、高等学校別に作成する。小・中・高それぞれの学校段階でどのような力を育成するかを明示することで、小学校から高等学校までの12年間の一貫したキャリア教育が展開できるよう、系統性・発

展性に留意する。

キャリア教育全体計画の作成について

キャリア教育全体計画は、学校教育の目標実現に当たりキャリア教育が、学校教育のどの場で、どのように資するか、学校教育推進上のキャリア教育の位置付けを示したものであり、キャリア教育に対する学校の基本的な考え方を表したものである。全体計画に記載する内容は、学校教育目標、キャリア教育で育成すべき能力（全体指導目標・学団別指導目標）、教科、領域等での指導の場と指導内容、キャリア教育推進上の留意点とする。

キャリア教育で育成する能力と指導の場の全体構想表の作成について

キャリア教育学習プログラムとキャリア教育全体計画を基に、八つの具体能力を、教育課程のどの場で育成するかを示したものを全体構想表にまとめる。キャリア教育年問題材の配当計画のための資料として活用するものである。

#### イ 特別活動におけるキャリア教育指導構想（進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画）の内容と作成上の留意点

特別活動におけるキャリア教育の年問題材一覧

学級活動を特別活動におけるキャリア教育の基盤として位置付け、全学年、全時間の授業内容を年問題材一覧に掲載する。学校行事等の活動では、進路発達にかかわる能力育成との関連が大きい題材を選定して、年問題材一覧を作成する。また、係活動や清掃活動等、学級活動とのかかわりが大きい日常の諸活動についても題材一覧に記載する。この題材一覧には、題材名と活動のねらい、キャリア教育の視点からの目標（育成をめざす能力）を明示する。作成に当たっては、現行の特別活動指導計画をキャリア教育の視点から見直し、指導時期や指導内容、教科や行事等との関連から検討し、活動題材を再構成したり、新設したりする。

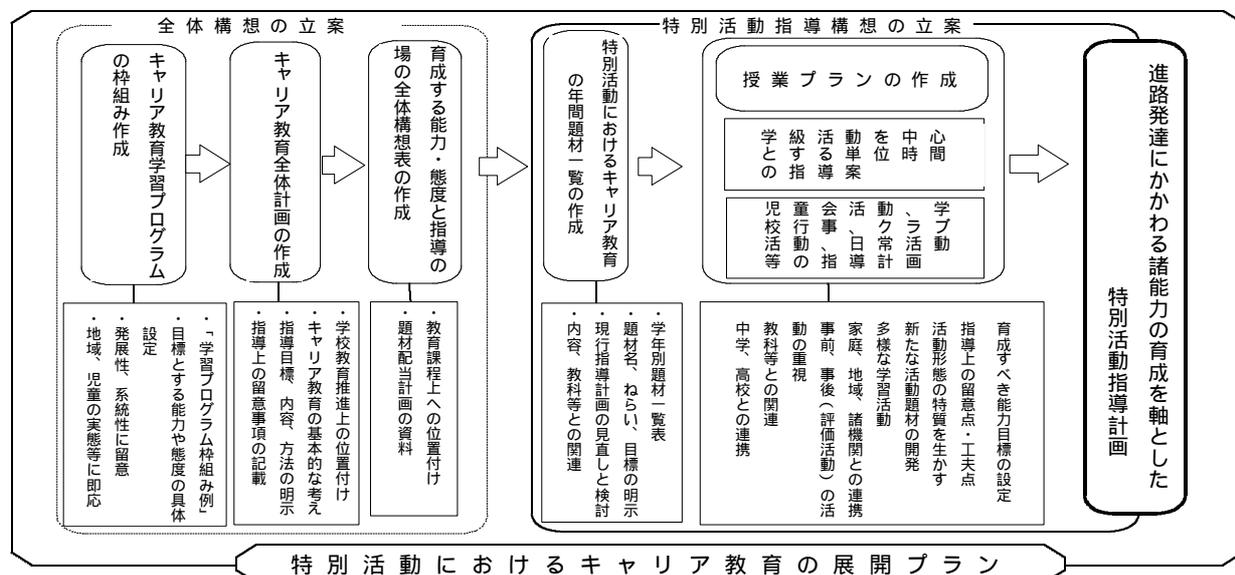
特別活動の授業プラン（学級活動指導案・学校行事等の指導計画案）

授業プラン（指導案・指導計画案）には、キャリア教育で培うべき能力と指導の手だて（方法）を明示するとともに、指導上の留意点・工夫点として以下の七点を押さえる。

特別活動の基本的な活動形態（話し合い活動、実践活動等）の特質を生かす。  
望ましい進路発達を図るための活動内容を開発する。  
多様な学習活動を工夫する。  
事前・事後の活動を重視する。  
家庭や地域、関係諸機関との連携を図る。  
教科、他領域との関連性を指導に生かす。  
中学校、高等学校との指導内容の接続や指導体制の連携を図る。

#### (4) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画作成の手順と留意点

これまで述べてきたことを踏まえ、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画作成手順と留意点を【図2】にまとめた。



【図2】 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の作成手順と留意点

2 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の実際

(1) キャリア教育全体構想（キャリア教育全体計画）の実際

キャリア教育全体構想を構成する「キャリア教育学習プログラムの枠組み」及び「全体構想表」の実際は、別冊資料「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開」P26～P28を参照されたい。ここでは、学校教育におけるキャリア教育の位置付け（目的・目標・指導内容等）を明示し、キャリア教育推進の基盤となる「キャリア教育全体計画」の実際を示した。（【資料1】花巻市立湯口小学校キャリア教育全体計画）

資料のポイント に示すように、全体計画の中心には湯口小学校がめざす子ども像があり、キャリア教育は学校教育目標の実現を図るための方途としての位置付けが為されている。ポイント は、児童の発達段階に応じて設定したキャリア教育の指導目標であり、これらの目標が各学年

**花巻市立湯口小学校キャリア教育全体計画**

<p>キャリア教育の目的 児童一人一人の自己実現を図り、自らの人生を主体的に生きるための価値観や能力・態度を育成する。</p> <p>小学校学習指導要領 【総則】「児童に生きる力をはくむことをめざし、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」 【総則 第3】「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。」 【総則 第5】「各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること。」 【第4章 特別活動】「児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるように工夫すること。」</p>	<p><b>学校教育目標</b> 気力と集中力で自ら鍛え、自ら学び、自らをつくる子どもの育成 心のあたたかい子ども 進んで学ぶ子ども 体をきたえる子ども 根強い子ども</p> <p style="font-size: 2em; color: blue;">ポイント</p> <p><b>めざす子ども像</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>心のあたたかい子ども</li> <li>相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>価値あるものに感動できる子ども</li> <li>礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>よく考え、正しく判断できる子ども</li> <li>体をきたえる子ども</li> <li>進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>健康・安全に気をつける子ども</li> <li>自分で決め、体力づくりに励む子ども</li> <li>規則正しい生活ができる子ども</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学ぶ子ども</li> <li>基礎・基本を身に付け、学び方がわかる子ども</li> <li>課題を見つけ、進んで学ぶ子ども</li> <li>自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>筋道を立てて深く考える子ども</li> <li>根強い子ども</li> <li>ねばり強く仕事をやりぬく子ども</li> <li>力を合わせて活動する子ども</li> <li>くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul> </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> <li>心のあたたかい子ども</li> <li>相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>価値あるものに感動できる子ども</li> <li>礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>よく考え、正しく判断できる子ども</li> <li>体をきたえる子ども</li> <li>進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>健康・安全に気をつける子ども</li> <li>自分で決め、体力づくりに励む子ども</li> <li>規則正しい生活ができる子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学ぶ子ども</li> <li>基礎・基本を身に付け、学び方がわかる子ども</li> <li>課題を見つけ、進んで学ぶ子ども</li> <li>自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>筋道を立てて深く考える子ども</li> <li>根強い子ども</li> <li>ねばり強く仕事をやりぬく子ども</li> <li>力を合わせて活動する子ども</li> <li>くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul>	<p>教育関係法令等 日本国憲法 教育基本法 学校教育法 小学校学習指導要領 岩手県学校教育指導指</p> <p><b>児童の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おたやかで着直である。</li> <li>・明るく、誰にでも挨拶ができる。</li> <li>・知的な好奇心が豊かで学習意欲に富む。</li> <li>・粘り強さに欠ける。</li> <li>・相手の立場を考えた言動に欠ける。</li> </ul> <p><b>家庭・地域の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育への関心が高く教育振興運動が盛んである。</li> <li>・学校に対する支援体制が確立されている。</li> <li>・行事や授業における協力も積極的である。</li> <li>・自然環境、文化遺産、伝統行事等の自然環境、社会環境が豊かな。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>心のあたたかい子ども</li> <li>相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>価値あるものに感動できる子ども</li> <li>礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>よく考え、正しく判断できる子ども</li> <li>体をきたえる子ども</li> <li>進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>健康・安全に気をつける子ども</li> <li>自分で決め、体力づくりに励む子ども</li> <li>規則正しい生活ができる子ども</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで学ぶ子ども</li> <li>基礎・基本を身に付け、学び方がわかる子ども</li> <li>課題を見つけ、進んで学ぶ子ども</li> <li>自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>筋道を立てて深く考える子ども</li> <li>根強い子ども</li> <li>ねばり強く仕事をやりぬく子ども</li> <li>力を合わせて活動する子ども</li> <li>くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul>			

学校教育目標とめざす子ども像をキャリア教育全体計画の中核にする

キャリア教育指導目標			
将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる			
低学年指導目標	中学年指導目標	高学年指導目標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や周りの人々との関心を高め、豊かな人間関係を築く力を育てる 人間関係構築：コミュニケーション能力・自己理解力</li> <li>身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上を図る 勤労や職業に対する意欲・理解：役割認識力・職業理解力</li> <li>将来への夢や希望を醸成し、自らの豊かな人生設計へイメージ形成させる 人生設計へのイメージ形成：将来設計力・情報活用能力</li> <li>目標に向かって主体的に努力する態度や諸課題を解決する力を育てる 課題解決の能力・態度：課題解決力・意思決定力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活の仕方を身に付け、友達と仲良く活動できる。</li> <li>当番や係、身の回りの様々な仕事の大切さに気付き、自らの役割をやり遂げることができる。</li> <li>将来の夢や希望をもつ。</li> <li>基本的な学習の仕方を身に付け、意欲的に学習に臨むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達とのよさに付き、協力して物事に取り組むことができる。</li> <li>身の回りの職業や仕事に関心をもつとともに、自らの仕事に積極的に関わることができる。</li> <li>将来の夢や希望を膨らませる。</li> <li>課題に向かい、主体的に努力することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分らしさを生かし、自己の責任を自分で果たすことができる。</li> <li>様々な職業についての理解を深め、働くことの大切さや意義に気付く。</li> <li>自らの将来の在り方考える大切さに気付き、職業や生き方に対する憧れを膨らませる。</li> <li>目標実現のための方法を考え、主体的に努力することができる。</li> </ul>

ポイント

発達段階に応じ、育成する能力領域毎にキャリア教育の指導目標を具体化する

学校教育全体を通じたキャリア教育の推進						
教科・領域・日常活動等におけるキャリア教育の指導内容						
各教科	道徳	特別活動			総合的な学習の時間	日常生活における諸活動
		学級活動	学校行事	児童会・クラブ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本の定着</li> <li>問題解決的な学びの力の育成</li> <li>各教科における「生きる力」の育成</li> <li>主体的なコミュニケーション活動</li> <li>生活場面からの教材化</li> <li>学習事項の生活場面や将来の生き方への適用</li> <li>生活を支える身の回りの人々の仕事や役割</li> <li>人生に対する考え方や生き方</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣や善悪の判断、社会生活上のルールや生活態度の育成</li> <li>自主性、協力性、思い助け合う態度</li> <li>生活を支える人々の役割の理解と感謝</li> <li>働くことの意義の理解と責任感</li> <li>目標に向かい主体的に努力する態度や希望をもって生きる心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の形成</li> <li>希望や目標をもって生きる態度の形成</li> <li>望ましい人間関係の育成</li> <li>生活上の諸問題の実践的解決</li> <li>生活を支える役割の理解と責任の遂行</li> <li>主体的な話し合いやコミュニケーション活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標の実現に向けた努力の蓄積</li> <li>充実感</li> <li>集団活動を理解</li> <li>勤労や生産活動の尊さ</li> <li>やまびの感</li> <li>集団行動における望ましい態度形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団活動を支える組織や役割の理解</li> <li>役割や責任感を果たす意欲</li> <li>義務と充実感の獲得</li> <li>交流</li> <li>自己の興味や関心の追究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力</li> <li>主体的な探求活動</li> <li>自己のよりよい生き方を考える場</li> <li>自然体験、社会体験、観察、実験、見学等の体験的学習、問題解決的学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日直、清掃活動、給食時の当番活動等における役割の理解と責任の遂行</li> <li>休み時間における関係構築活動、飼育活動</li> </ul>

ポイント

特別活動とのかかわりが大きい日常活動の場におけるキャリア教育の視点を明示する

キャリア教育推進のための基盤				
学級・学年経営の充実	基本的生活習慣の確立	キャリア教育についての教職員との共通理解	PTA及び地域の諸施設、諸機関との連携	地域の諸行事、人材、環境等を生かした題材開発

湯口中学校との協力、連携

ポイント

キャリア教育推進の基盤となる事項を明示する

【資料1】キャリア教育全体計画

における特別活動の題材で身に付けさせたい力を設定する際の基になる。この目標実現のために、特別活動における四内容（学級活動、学校行事、児童会活動、クラブ活動）での指導事項を示したものがポイントである。ポイントの日常生活における諸活動は、特別活動とのかかわりが大きい内容であり、特別活動におけるキャリア教育展開プランの中に位置付け、指導計画作成の際にも取り上げていく。キャリア教育推進のための基盤として挙げた事項(ポイント)は、具体的な授業プランの作成の際の指導上の留意点・工夫点の項に取り上げていく。

このキャリア教育全体計画の主な五つのポイントに留意して、以下に示す特別活動におけるキャリア教育指導構想の立案（進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の作成）を進めた。

(2) 特別活動におけるキャリア教育指導構想（進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした指導計画）の実際

キャリア教育全体構想を基に、特別活動における具体的なキャリア教育の授業を構想したものがキャリア教育指導構想（進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした指導計画の作成）である。指導計画の作成は、キャリア教育の視点を位置付けた特別活動年問題材一覧の作成と、それに基づく学級活動、学校行事等の授業プランの（指導案・指導計画案）作成をもって進めた。

ア 特別活動におけるキャリア教育の年問題材一覧の実際

年問題材一覧は、特別活動の基盤となる学級活動と、学校行事等（他、児童会活動、クラブ活動、日常活動）の【表2】キャリア教育の視点を位置付けた学級活動年問題材一覧（抜粋）二つで構成した。

年問題材一覧の作成に当たり、次の二点に留意した。

1点目は、これまでに行われてきた学級活動及び学校行事等の活動の中に、キャリア教育の視点を明示したことである。【表2】に示すように、学級活動及び学校行事等の題材一覧に、その題材で中心的に育成する進路発達にかかわる能力を示した。例えば、新学期当初各学級で行われる一年間の目標作りの活動では、自分の生き方

**第5学年学級活動年問題材一覧** キャリア教育の視点

月	題材名	指導要領の項目	指導のねらい	進路発達にかかわる能力									
				自己理解力	自己管理能力	自己表現力	自己決定力	職業理解力	職業活用能力	職業計画力	職業実践力		
4月	友達増やそう	(2)	互いの自己紹介をとお互いの理解を深めよう。										
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級生活をめざそう。										
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために役割を分担しよう。										
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。										
5月	あいさつを活発にしよう	(1)	気持ちのよいくらしを送るためのよりよい挨拶の仕方を探ることができよう。										
	運動会を成功させよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができよう。										
	どんな仕事があるかな？	(2)	食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事を知り、職業に対する興味をもつ。										
	お気に入りの仕事を調べてみよう	(2)	興味をもった仕事について調べ、将来の職業生活についての関心を広げよう。										

その題材の活動を通じ、中心的に育成する進路発達にかかわる具体能力を示した

学校行事等の題材一覧も学級活動題材一覧と同様の形式である

【表3】新設した学級活動の主な題材（抜粋）

学年	題材名	内容
1	自分でできること	自分の生活態度を見つめ、向上心をもって自分のことは自分でやり遂げようとする気持ちをもつ。
2	教えて！あなたのこと、友達のこと	自分の好きなことを考えたり、友達のよさを見つけたりする活動を行い、自己理解を深める。
3	先生方の仕事調べに挑戦	学校生活を支える人々の動きに気付き、学校生活への意欲や自己の役割への責任感を高める。
4	地域の働く人から学ぼう	地域生活を支える人々の動きを調べ、役割の大切を知るとともに、働くことや職業への関心をもつ。
	何でも自慢大会をしよう	自分の得意なことや自慢を紹介し合い、自他の個性や互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く。
5	どんな仕事があるかな？	食卓のご飯やサッカーワールドカップに関連した仕事を調べ、仕事や職業のかかわりや役割を考える。
	「働く」って何？	働くことには、役割を果たしたり、自己の力を発揮したりすることによって得られる喜びがあることに気付く。
6	「フリーター」って何？	フリーター問題を調べ、働くことや仕事についての興味をもち、自分の将来の職業生活への関心をもつ。
	未来の「自分史」をつくらう	未来の自分史を思い描き、夢や希望をもって自らの将来設計について考える。
	もうすぐ中学生	新しい生活に向けた期待や希望を膨らませるとともに、中学進学に向け、目標をもって生活しようとする意欲をもつ。

を大切にしようとする自己理解力や一年間の努力目標を具体的に設定する課題解決力など、進路発達にかかわる能力を重点的な育成のポイント（【表2】印）として示した。

2点目は、従来の指導計画を見直した上で、特別活動の目標実現とバランスのよい進路発達を図るという観点から、学級活動において新たな題材の開発を行ったことである（前頁【表3】）。キャリア教育学習プログラムに示した達成すべき進路発達課題の一覧の中で、従来の活動では十分な育成が図られていない領域等を中心に題材を新設した。特に、自他の理解に関することや、仕事、働くことへの価値の理解や意欲に関すること、将来の夢や希望、人生設計に関する内容等、各学年の発達段階を考慮した上で盛り込むようにした。

イ キャリア教育の視点を位置付けた特別活動授業プランの実際

(F) キャリア教育の視点を位置付けた学級活動指導案

キャリア教育全体構想に基づき、学級活動における具体的な授業構想を立案したものが、キャリア教育の視点を位置付けた学級活動指導計画【表4】【表5】である。指導案の作成に当たって留意したことは、以下の五点である。

- ・本題材におけるキャリア教育のポイントを示す。（【表4】）
- ・本題材で重点的に育成をめざす進路発達にかかわる諸能力を具体的に記す。（同）
- ・進路発達の育成に視点を当てた指導上の留意点、工夫点を示す。（同）
- ・事前指導、事後指導の留意事項を示し、系統的、計画的な指導が行えるようにする。（同）
- ・本題材にかかわる他教科等との関連の視点を示し、組織的な指導が行えるようにする。（同）

【表4】キャリア教育の視点を位置付けた学級活動(2)の指導案例

1. 題材名 「未来の『自分史』を作ろう」 〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕	2. 目標 夢や憧れをもって、自らの将来設計について考えることができる。	3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力 キャリア教育のポイント 未来の自分史を思い描かせること 自らの将来を見据えさせながら、今の生活での努力目標をもたせる場とする。 進路発達にかかわる諸能力 【自己理解力】：未来の自分史作りをとおし、自分の将来について夢や希望をもって主体的に考えようとする。 【職業理解力】：自分の関心のある職業について、興味を広げたり、 【将来設計力】：豊かな家庭生活や社会生活を送るために、人間関係を築くことを知る。 【課題解決力】：将来の夢に向かい、人生の節目での見通しや目標達成に向けて意欲的に取り組もうとする。	
4. 展開案	事前 「自分史」のワークシートと記入例を作成しておく。 本時の学習内容(自分の将来について考える)を予告しておく、 えておくよう話しておく。 イチロー選手、松井選手の自叙伝をもとに、「夢をもって過ごした少年時代」にかかわる資料を作成しておく。	本時 1 イチローを読み、松井選手、松井選手の例を基に、本時では自分の将来について考えていくことを確認し、本時の学習の見通しをもつ。 未来の自分史を作ってみよう。 2 「自分史」の内容を知る。 年齢に応じて、所属する集団(学校・職場等)を書く。 それぞれの年齢で、してみたいこと、しようとしていることを文とイラストで書く。 3 「自分史」作りに取り組む。 自分の将来に向かって、これから頑張っていきたいことを考える。 作成した「自分史」を交換して見合い、感想を交流し合う。 4 「自分史作り」を行って感じたことをワークシートに書く。 5 教師の話や聞き、これからの学校生活 本時の学習内容を発展・継続させる視点を示す	事後 作成した作品を掲示したり、通信等で知らせたりしながら振り返る。 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点 【国語】 谷川俊太郎の詩「生きる」を読み、将来について夢や希望の気持ちをもつ。 【道徳】 資料「天女」をもつ。 他教科等との関連の視点

【表5】話し合い活動、集会活動等の指導案の形式(一部)

4. 展開案	事前 計画委員会を組織し、議題、話し合いのめあて、話し合いの内容、役割分担を決める。 話し合いカードを学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「どのような役割(係)が必要か、自分の考えをしっかりとらせたておく。」	本時 話し合いの順序 1 はじめの言葉 2 係の紹介 3 議題の確認 4 先生から 話し合い活動(全体・係・グループ)の仕事の内容役割決め 話し合い活動(係)の振り返り 5 振り返り 6 まどめ 7 先生から 8 終わりの言葉	事後 決定した学級組織を教室に掲示し、誰がどのような役割があるか明示しておく。 係ポスターを掲示する。帰りの会等で、各係や組織の活動内容をお互いに評価させ、計画したことの実践化を促す。
--------	--	--	--

なお、展開案の本時の形式は、学級活動の授業の形態に応じるように配慮した。【表4】の指導案は、教師の意図的、計画的な指導が中心となる学級活動(2)「日常の生活や学習への適応及び健康安全に関すること」の指導案例である。児童が学級生活の諸問題を話し合いで解決する話し合い活動や集会活動、係活動などの学級活動(1)の指導案は、【表5】のように話し合いの順序や集会活動等のプログラムの進行に沿って、指導のポイントを示すようにした。

(1) キャリア教育の視点を位置付けた学校行事、児童会活動、クラブ活動、日常活動の指導計画案

学校行事等の指導計画【表6】キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の指導計画案の例

案作成の留意点は、以下の三点である。

- ・本題材で育成する進路発達にかかわる能力を具体的に記し、キャリア教育の視点を明確にする。(【表6】)
- ・事前、事後の活動を重視し、本題材にかかわる一連の活動をとおり、進路発達の育成を図る。(同)
- ・教師の評価の視点を明確にする。(同)

事前指導では、児童自身が、その活動でどのような力を身に付けるか具体的なイメージをもち、活動目標や意欲をもつことができるような活動を計画した。事後指導では、事前に立てた目標の達成状況や自らの取り組み態度を振り返らせる活動を位置付け、事前から事後までの一連の活動をとおりして目標の実現が図られるようにした。

学習発表会におけるキャリア教育展開案		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・学校行事・総合的な学習の時間等
1. 目標			
仲間と協力してものごとを成し遂げる喜びを感じるとともに力や表現力を高めることができる。		本題材で育成をめざす進路発達にかかわる諸能力と、どのような場でどんな指導を行うか、指導の方向性を示す	
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 学習発表会での自己の役割を明確に表現し、PR(広報)活動に取り組みさせることにより、地域の人とのかかわりの場を設ける。具体的な目標を設定させ、その実現に向けて努力する態度を培う。		<b>本題材におけるキャリア教育の視点</b> 【コミュニケーション力】：自分の役割を精一杯表現し、集団活動に意図的に取り組むことができる。【役割認識力】：学習発表会を成功させようとする意欲をもち、自らの役割を責任をもって果たす。【職業理解力】：学習発表会のPR活動を行い、働くことや地域の人と触れ合うことに喜びを感じる。【課題解決力】：学習発表会での自らの目標を立て、その実現に向けて努力することができる。【意思決定力】：学習発表会にかかわる話し合い活動に進んで取り組み、自らの努力目標を立てることができる。【自己理解力】：音楽表現や身体表現等の創作活動に取り組み、自己の興味を広げることができる。	
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	1 学習発表会の意義を話し合う。(どんな力をつける行事か)	話し合いを通じ、自らの役割を明確に気付け、めあてを明確にする。	<b>事前指導のポイント</b> 【役割認識・課題解決・意思決定】 ・学習発表会の成功のために、どの役割も大切であることに気付かせる。【役割認識】 ・学習発表会取り組みカードに記入させながら、自己の役割やめあてを明確にもたせるようにする。【役割認識・コミュニケーション・職業理解】
	2 主な活動内容を知り、学習発表会を成功させるために必要なことを話し合う。	学習発表会取り組みカードに記入させながら、自己の役割やめあてを明確にもたせるようにする。	
活動時	3 学習発表会のめあて、きまり、役割等を話し合いつづめる	めあてを明確にもたせるようにする。	<b>その行事への目標設定や意欲付け、取り組み方法の具体化など、事前指導のポイントを示す</b> 【コミュニケーション・課題解決】 ・めあてを明確にもたせるようにする。カードへの記入状況や練習態度を観察し、適切なアドバイスや指導を行う。【役割認識・課題解決・意思決定】 ・挨拶や礼儀をしっかりと指導し活動させる。ちらし配りを通じ、地域の一員としての自覚や働くことの楽しさを感じさせる。【コミュニケーション・職業理解】
	練習時・学習発表会練習	練習時・学習発表会練習	
事後	1 自分で決めためあてを基に、発表のめあてを確認する。	めあてを明確にもたせるようにする。	<b>事前に立てた目標に基づき、取り組み状況を振り返らせる場や今後の方向性をもたせる場を設ける</b> 【役割認識・意思決定】 ・めあてを意識して本番の活動に臨めるよう、朝の会で一人一人の役割や頑張ることを確認させる。【役割認識・意思決定】 ・めあてを基に、自分の役割や取り組み態度を確認させる。【役割認識・意思決定】 ・学習発表会の様子について、振り返りや話し合いを行う。【自己理解】
	2 学習発表会のめあて、きまり、役割等を話し合いつづめる	めあてを明確にもたせるようにする。	
事後	3 学習発表会のめあて、きまり、役割等を話し合いつづめる	めあてを明確にもたせるようにする。	<b>事後指導のポイント</b> 【自己理解】 ・自分の取り組み態度を自己評価し、振り返りや話し合いを行う。【自己理解】 ・自分の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さを伝える。【役割認識・職業理解】 ・協力してものごとをやり遂げることの満足感を次の活動に生かすよう話す。【意思決定】
	4 学習発表会のめあて、きまり、役割等を話し合いつづめる	めあてを明確にもたせるようにする。	
4. 評価の視点と方法			
自分の役割を自覚し、精一杯表現活動や係の活動に取り組むことができた		評価の視点	
【学級会での話し合いの状況・学習発表会協力してものごとをやり遂げることの満足感や活動中の態度・振り返りの活動での作文の記述や発言内容・取		何をどのような方法で評価するかを明示する	

3 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画に基づく授業実践

(1) 授業実践の目的

特別活動を中心とするキャリア教育推進のための実践的な資料提供を目的として授業実践(【表7】)を行った。作成した指導計画の中から、キャリア教育の特徴的な授業を選択、実践した。実践授業は、5頁に示した特別活動授業のプランの作成上の留意点・工夫点に基づいて行った。次頁より、学級活動及び学校行事の実践概要の一部を示す。

【表7】実践授業の題材とキャリア教育のポイント

活動内容	題材	学年	特別活動におけるキャリア教育のポイント
学級活動	教えて!あなたのこと、友達のこと	2	家庭との連携(手紙による協力)を図った指導
	先生方の仕事調べに挑戦	3	多様な学習活動(先生方へのインタビュー調査)の工夫
	命のつながり	4	
	どんな仕事があるかな?ご飯&Wカップ編	4	教科の学習(体育科、社会科)との関連を図った指導
	お気に入りの仕事調べ	5	望ましい進路発達を図るための新たな活動内容の開発(勤労や職業、自己の生き方への関心を高める題材)
	「フリーター」って何?	6	
	もうすぐ中学生	6	中学校との連携を図った指導
学校行事	大運動会	全校	キャリア教育の視点から事前・事後の活動を重視した行事指導
	朝の会・帰りの会	全校	
	たてわり班自由遊び	全校	日常的な活動における進路発達を図る指導の工夫

(2) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画に基づく授業実践の概要

**学級活動の授業実践 1 【話し合い活動の特質を生かした指導】**

指導上の留意点・工夫点  
〔活動形態の特質を生かす〕

そうじについての話し合い活動と「二宮金次郎」で勤労観を培う授業  
～ 第4学年 「そうじの仕方を見直そう」 ～

**本実践のポイント**

- Point 1 学校のシンボル像「二宮金次郎」の教えの意味を知らせ、働くことの大切さを考えさせる。
- Point 2 自分たちの清掃活動を見つめさせ、そうじの大切さやよりよいそうじの仕方を考えさせる。
- Point 3 自分の考えを話したり、目的に応じて話し合ったりするコミュニケーション力を培う。

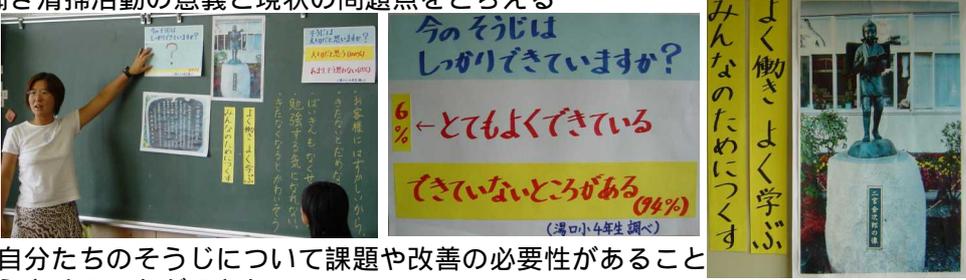
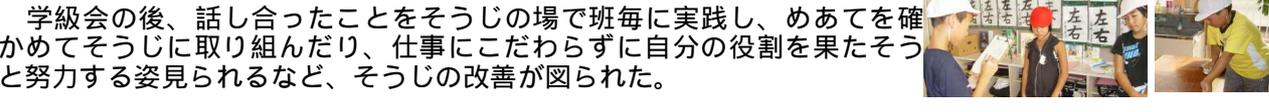
1. 題材名 「そうじの仕方を見直そう」 (4年 学級活動(1): 学級や学校の生活の向上に関すること)			
2. 目 標 そうじの意義や役割を果たすことの大切さに気付き、よりよい清掃活動の在り方を考えたり、進んで仕事に取り組みようとする意欲を高めたりする。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 清掃活動について取り上げ、働くことの意義や気持ちよさ、役割を果たすことの大切さを考えさせる場とする。 集団の場でも自分の考えをしっかりともち、表現できる力を育てる場とする。また、話し合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話し合い活動に主体的に取り組む。 【役割認識力】: 清掃活動の意義や役割を果たすことの大切さに気付く。 【職業理解力】: 働くことの楽しさを知り、進んで清掃活動に取り組みようとする意欲をもつ。 【課題解決力】: これまでの清掃活動の問題点に気付き、課題を克服するための手立てを考え、実践できる。</p>			
4. 展開案			
事前 話し合い活動(本時) 事後	清掃や働くことへの価値に気付かせる資料として、二宮金次郎に関する資料を準備しておく。今の清掃活動の現状について見直すアンケートを実施し、資料化しておく。 係担当の子どもたちには、話し合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話し合いカード」を学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「今の清掃活動には、どんな問題があるか」「問題を改善するためにはどんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりと持たせておく。		
	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声がけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】
	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】
	3 議題の確認 「そうじパワーアップ作戦」を立てよう。	・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。	・二宮金次郎の資料を基に、働くことの意義やそうじの大切さを具体的に指導する。 【職業理解・役割認識】
	4 先生から 今のそうじの問題点 二宮金治郎の話(働くことの意義)	・担任の話聞き、現状のそうじの問題点を考える。 ・校舎内に二宮金次郎像が設置してあることの意味を知り、働くことやそうじの意義を考える。	・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】
	5 話し合い 今のそうじには、どんな問題があるか よりよいそうじができるための対策	・話し合いの柱に沿い、そうじについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">今のそうじの問題点 これからの取り組み</div>	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】
	6 まとめ	・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。	
	7 先生から	・本時の話し合いについて担任の話聞く。	
8 終わりの言葉	・係が開会宣言をする		
資料等	話し合いカード アンケート結果 VTR 二宮金次郎の写真 振り返りカード		
事後 「そうじパワーアップカード」を作り、一定期間、そうじへの取り組み状況をシール等でチェックさせ、実践化を促す。 子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。			
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点			
【道徳】 資料「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読み、働くことの大切さや、進んで社会のために役に立とうとする心情を培う。			

**指導のポイントと工夫**

「二宮金次郎」の教材化  
話し合い活動の「先生から」の項で、「いつも見ているけど、よくわからない」という二宮金次郎を取り上げる。  
金次郎の生き方や業績を紹介し、「よく学び、よく働く」姿が手本であることを知らせ、働くことの意義について考えさせるきっかけにする。

そうじの意義に気付かせ、  
勤労意欲を高める指導  
これまでのそうじの実態についてのアンケート結果を示し、そうじの問題点に気付かせる。なぜそうじが必要か、どんなところが問題かを考えさせながら、具体的な改善策を立てさせていく。

コミュニケーション力を  
育む指導  
議長や書記等、話し合いの進行にかかわる役割がある子どもには、事前の準備(仕事のポイント)を入念にさせておく。  
話し合いの場面では、一人一人が自分の意見を持ち、積極的に考えを話せるように、「話し合いのめあて」を設定したり、「話し合いカード」を用いたりしながら、集団の場でも自分の考えを表現できる力を育てる。

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）	
事前（話し合い）の準備・活動	<p>(1) そうじについてのアンケートをとる そうじの必要性についての考えと、自分たちのそうじの様子についてのアンケートを行い、簡単な資料（グラフ）にまとめておいた。</p> <p>(2) 二宮金次郎に関する資料を準備する 働くことやそうじの意義についてとらえさせる資料として、学校の正門前に設置されている二宮金次郎像に関する資料（銅像の写真、「金次郎の教え」）を作成した。</p> <p>(3) 話し合い活動の準備をする 子どもたちが目的意識をもって学級会に臨むように、「話し合いカード」（「そうじパワーアップ作戦シート」）を準備し、議題、話し合いのめあて、自分なりの考えをカードに記入させた。また、議長や書記、提案者等の係のある児童には、自分の役割を的確に果たすための準備（原稿書き等）や練習に取り組ませた。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="790 235 1125 672"> <p>そうじについてのアンケート</p> <p>4年</p> <p>1 今のそうじは、しっかりできていると思いますか</p> <p>ア とてもよくできている イ たいへんよくできている ウ すこしできていないところがある エ しっかりできていない</p> <p>2 できていないところ（問題があるところ）はどこなところだと思いますか</p> <p>3 そうじは大切だと思いますか</p> <p>ア とても大切だと思う イ どちらかというと大切だと思う ウ どちらかというと大切とは思わない エ 大切とは思わない</p> <p>4 もっとよいそうじにするために、どんなことをがんばればよいでしょうか</p> </div> <div data-bbox="1125 235 1476 672"> <p>4年生 そうじパワーアップ作戦シート</p> <p>4年</p> <p>1 今日の学級会で話し合うこと（きざし）</p> <p>2 話し合いのめあて</p> <p>3 自分の考えをもう一度 今のそうじでどんなところが問題？ そうじをパワーアップするためには？</p> <p>4 話し合いで決まったこと</p> <p>5 学級会をふりかえろう （「これからのそうじについて思ったこと」）</p> <p>（話し合いのめあてについて）</p> </div> </div>
話し合い活動（学級会）	<p>(1) 「先生から」の話を聞き清掃活動の意義と現状の問題点をとらえる そうじに関するアンケートでは、そうじの必要性や大切さを認める考えが100%でありながら、現状のそうじに問題があると回答した子どもたちが94%であった。この結果から、自分たちのそうじについて課題や改善の必要性があることを、子どもたちにとらえさせることができた。</p> <p>アンケート結果に次いで、二宮金次郎の写真とその「教え」の資料を提示した。二宮金次郎について、子どもたちは、「どんなことをした人か」「どうして、像になって学校の正面に設置してあるか」ほとんどわかっていなかったが、教師の説明で「よく働き、よく学ぶ」「みんなのためにつくす」といった金次郎の姿が、全校のモデルになるものであること知った。そして、学校の中で「よく働き、みんなのためにつくす」場面がそうじであることを確認し、話し合いに対する意欲を高めさせた。</p> <p>(2) 今のそうじの問題点と改善策を話し合う 話し合いの柱は、「今のそうじでどんな問題点があるか」「その問題をどう改善してそうじをパワーアップさせるか」の二点である。事前に、話し合いカードに自分の考えを書かせておいたため、積極的に発言する姿が見られた。また、話し合いを進行する議長や書記等の子どもも、自分の役割を適切に果たすことができた。</p>	 <p>今日のそうじは、しっかりできていますか？ 6% ← とてもよくできている （きいていないところがある 94%） （湯口小4年生調べ）</p> <p>よく働き、よく学ぶ みんなのためにつくす</p>
実践活動	<p>学級会の後、話し合ったことをそうじの場で毎日に実践し、めあてを確かめてそうじに取り組んだり、仕事にこだわらずに自分の役割を果たそうと努力する姿見られるなど、そうじの改善が図られた。</p> 	

授業実践を終えて（考察）

二宮金次郎の「よく学び、よく働く」という教えとは、キャリア教育の目的とも重なる。学校のシンボルとも言える金次郎を教材化することで、働くことの意義を考えさせたり、自らの生活を改善させようとしたりする意欲をもたせられたことができた。そうじの現状の問題点を話し合う場面では、仕事の分担についてのトラブルが出されたが、この問題の解決策を話し合わせることで、役割や協力することの大切さを考えさせることができた。また、学級会という場で、自分の考えを進んで話したり、テーマに基づいて話し合ったりするという、コミュニケーションの力も養うこともできた。

# 学級活動の授業実践 2【望ましい進路発達を図るための活動内容の開発】

「フリーター問題」から将来の職業生活への関心を高めた授業  
 ~ 第6学年 「『フリーター』って何？」 ~

指導上の留意点・工夫点  
 【新たな活動題材の開発】

## 本実践のポイント

- Point 1 「フリーター」についての知識を広げ、職業への関心や理解を深めさせる。
- Point 2 いろいろなことに積極的に挑戦し、自分のやりたいことを見つけていくことの大切さを伝える。
- Point 3 グラフや統計等、資料を適切に読み取ったり、活用したりする力を高める。

1. 題材名 「『フリーター』って何？」  
 【6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成】

2. 目標  
 フリーター問題について調べたことをとおし、いろいろな仕事についての興味をもち、自分の将来の職業生活についての関心を高める。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 将来の職業選択の際の一つの資料として「フリーター」に関する情報を提供し、フリーターの問題に気付かせながら、自己の生き方を考えさせるきっかけとする。  
 グラフや統計等の資料を適切に読み取る力を育てる場とする。

**進路発達にかかわる諸能力**  
 【職業理解力】：職業には様々な種類があることに気付いたり、「フリーター」に関する知識を広げたりしながら、仕事についての理解を深める。  
 【将来設計力】：将来の自分の職業生活について、夢や憧れの気持ちを膨らませることができる。  
 【情報活用力】：辞書を活用したり、統計資料や読み物資料を読み取ったりしながら、「フリーター」について正しい情報を得る。

4. 展開案  
 事前 校内の教職員から、子どもたちの憧れの職業についてインタビューし、クイズを作成しておく。フリーターに関する資料を収集し、6年生の児童が理解しやすいよう加工しておく。

	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
本 時 課 題 追 究 ま と め	1 自分が知っている職業や興味ある職業について発表し合う。	先生方の憧れの職業当てクイズ	・子どもたちから出された職業はどれも大事に扱う。 【職業理解・将来設計】
	2 「先生方のなりたがった職業当てクイズ」を行い、本時の学習についての興味・関心を高める。	フリーターの数	・クイズをとおして、本時の学習に対する和やかな雰囲気を作るとともに、いろいろな職業があることに気付かせたい。 【職業理解・将来設計】
	3 「フリーター」の数の推移をグラフで示し、本時の学習課題を設定する。 「フリーター」について考えよう。		・「フリーター」の数が増大していることをグラフから読み取らせ、フリーターについての関心をもたせる。 【職業理解・情報活用】
	4 「フリーター」について知っていることや言葉からイメージすることを発表し合う。	辞書	・子どもたちから出された発言事項を板書で整理する。「よくわからない」という声も認め、以後の展開で生かす。 【職業理解】
	5 「フリーター」の意味を辞書で調べる。 「定職に就かずアルバイトで生計を立てている人」	フリーターの声	・辞書を活用させ「フリーター」「定職」「アルバイト」等の用語を調べさせ、フリーターの意味をとらえさせる。 【職業理解・情報活用】
	6 「フリーターの声」や文書資料から、フリーターが増えてきたわけをとらえる。	定職従事者とフリーターとの雇用条件の差	・フリーター増加の理由は様々挙げられるが、本時では、雇用上の理由と本人の意志(やりたいことが見つからない)の2点を取り上げる。 【職業理解・将来設計・情報活用】
	7 生涯賃金や保険制度、税金面、働くことへの意識等、フリーターがかかえる問題点を知る。		・賃金等の問題に加え、自分のやりたいことが見つからないという意識の問題を取り上げ、安易に「フリーター」を選択することがないよう配慮する。 【職業理解・将来設計・情報活用】
	8 フリーターについてどのように考えるか、意見を交換し合う。		・単純にフリーターを否定することはしない。いろいろな力を伸ばしていくことの大切さを知らせ、今後の生活についての意欲をもたせる。 【将来設計】
	9 教師の話聞き、いろいろなことに興味を抱きチャレンジする気持ちをもつことが大切であることを知る。		

事後 本時で将来の職業生活への興味・関心を高めさせた上で、次の学級活動での「未来の自分史作り」の学習を行う。

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【学級活動】 「未来の自分史作り」で、夢や希望を膨らませながら将来の人生設計について考える。  
 【社会】 「憲法と私たちの暮らし」において、基本的人権としての職業選択の自由や納税の義務について調べる。

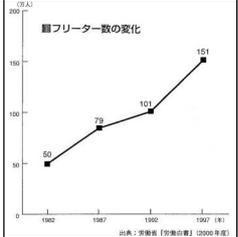
## 指導のポイントと工夫

「フリーター」の理解  
 船橋情報ビジネス専門学校提供のスライド資料や「フリーターがわかる本！」等のデータを小学生にもわかるよう加工し、クイズ形式で提示していく。フリーターとは何か、賃金や雇用の問題、「生きがい」の問題等を重点的に取り上げ、フリーターについて小学生なりの理解を図る。

やりたいことを見つけることの大切さの指導  
 フリーターの一歩の問題点が、「やりたいことが見つからない」ことであることを知らせる。「やりたいことを見つける」ために、小学校では、いろいろなことにチャレンジして、自分の好きなことを見つけたり、幅広い力を付けたりしていくことが大切であることを伝える。

資料活用・選択の力を高める指導  
 児童の実態に応じながら、標題や目盛りを読む、わかったことを発表させるなど、グラフや資料等の基本的な読み方を丁寧に指導していく。

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）
課題把握の段階	<p>(1)自分の興味ある職業を発表し合う                  知っている職業や自分が興味をもっている職業について、自由に発表させた。プロスポーツ選手や看護師等、子どもたちは思い思いに発言した。現時点で将来の仕事を考えている子は、学級の3割程度であったが、改めて自分の職業に目を向けさせる機会になった。</p> <p>(2)「先生方が子どもの時になりたがった職業」についてクイズで答える                  校内教職員の個人名が書かれたカードと職業名が書かれたカードの2種類を示し、子どものときになりたかった職業をクイズにして出題した。子どもたちは、先生方の性格や特徴から答えを予想し、意外な答えに驚いたり、納得して正解を聞いたりする姿が見られた。</p> <p>(3)「フリーターの数」の推移のグラフから学習課題を立てる                  右のグラフを提示した。はじめに標題を隠し、どんな仕事をしている人の数のグラフか予想させた上で、グラフを公表した。資料から気付いたことを問い、「フリーター」の数がどんどん増えていることを確認させた。「フリーター」についての子どもの「名前は聞いたことがあるけど、よくわからない」という反応を受け、「フリーターについて考えよう。」という本時の学習課題を設定した。</p>
課題追究の段階	<p>(1)「フリーター」のイメージを話し合う                  はじめ、自由に「フリーター」のイメージを発表させた。児童からは、「好きなことができてうらやましい」「何となく、かっこいい感じ」という肯定的なイメージ（数人）、「プラプラしている人」に代表される否定的なイメージ（3人）そして残りほとんどの子の「よくわからない」という3タイプの発言が出された。</p> <p>(2)「フリーター」の定義を押さえる                  6年生の子どもにもイメージできるように、「フリーターとは、決まった仕事に就かないで、アルバイトで給料をもらっている人」と説明した。</p> <p>(3)フリーターが増加しているわけを知る                  フリーターが増加しているわけを二点に絞って説明した。1点が、働きたくても働けないという雇用上の理由で、もう1点が、本人の意志に関する「やりたいことが見つからない」というものである。「自分が原因になっているのはどっちの理由？」と問い、後者の「とりあえずフリーターにでもなるか…」という、自分のやりたい仕事が見つけれず、安易な気持ちでフリーターを選択したタイプの理由に着目させた。</p> <p>(4)「船橋情報ビジネス専門学校」作成のスライド資料からフリーターがかかえる問題点に気付く                  フリーターの現状や問題点をとらえさせるために、船橋情報ビジネス専門学校が作成したフリーのプレゼンテーションソフトを使用した。クイズ形式のプレゼンテーション構成になっており、児童も楽しみながらフリーターについての理解を深めることができた。特に、フリーターと正社員の生涯賃金の差や医療関係の待遇の差などには、特に驚いていた。                  シートを見せた後、改めてフリーターについてどう思うか問うと、「フリーターは大変!」「やっぱりなりたくない!」という声が聞かれた。</p>
まとめの段階	<p>担任の話から豊かな将来を歩むためのアドバイスを聞く</p> <p>豊かな将来を生きるためには、自分の好きな仕事に打ち込むことが大切であることを伝えた。そして、自分のやりたい職業を見つけるためには、今の学校生活でいろいろなことにチャレンジしながら、自分の好きなことを見つけていくことが大事であることを話した。学校での全部の学習や生活の中から得意なことを見つれたり、伸ばしたりしていくとよいという話をして授業を終えた。</p> <p>〔子どもたちの振り返りの感想から〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーターになると、正社員とは3億円もの差があることにとてもおどろきました。何よりもフリーターは、自分の人生が楽しくないなと思いました。ぼくは、自分の好きな仕事で楽しく仕事して、豊かな人生を送りたいなと思いました。</li> <li>・自分が好きなことを見つけるためにアルバイトをしている人は仕方ないと思ったけれど、ただフリーターをやっている人は、減ってほしいと思いました。私はフリーターではなく、ちゃんとした仕事につきたいです。</li> <li>・正社員とフリーターは、すごい差がありました。私は今は自分がなりたくないものではなくて、そんなことを考えもしなかったけれど、今日の勉強で早めに自分の夢を見つけようと思いました。いろいろなことに全力で取り組んで、好きなことを見つけたいです。</li> </ul>



【船橋情報ビジネス専門学校作成資料】

授業実践を終えて(考察)

将来「フリーターにでも」と安易な進路を選択することがないように、小学校段階で押さえさせたいこととして、「フリーターの現状や問題点を知らせる、いろいろなことにチャレンジして自分が好きなことを見つけさせるようにする」の2点を中心に授業した。児童の振り返りの作文を読むと、フリーターの現実的な問題（経済面、雇用面）をとらえた記述や、これからの学校生活を前向きに送ろうとする意欲的な記述が見られ、授業の目的は達成できたととらえる。フリーター問題を考えさせることをとおし、自分の将来の職業に目を向けさせたり、これからの学校生活への目的意識を持たせたりすることができた。

# 学級活動の授業実践 3 【インタビュー活動を取り入れた授業】

指導上の留意点・工夫点  
〔多様な学習活動の工夫〕

## 校内の教職員へのインタビュー活動で学校生活を支える人々の働きに気付かせた授業 ～ 第3学年 「先生方の仕事調べに挑戦」 ～

### 本実践のポイント

- Point 1 学校生活を支える人々の働きや役割に気付かせ、働く人々への感謝の気持ちをもたせる。
- Point 2 自分自身の学校生活を充実させようとする意欲の向上を図る。
- Point 3 「働く人」に直接触れさせ、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせる。

### 1. 題材名 「先生方の仕事調べに挑戦」

〔3年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

### 2. 目標

多くの人たちの仕事の上に学校生活が成り立っていることに気付き、学校生活を支える人々への感謝の気持ちをもつ。

### 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

自分たちの学校生活は多くの人たちの仕事で支えられていることに気付かせ、役割の大切さをとらえさせたり、働く人々への感謝の気持ちをもたせたりする。  
「先生方の仕事調べ」を行い、働く人の姿に直接触れ合う場を設けるとともに、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせる。

#### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】: 礼儀ある態度で挨拶したり、インタビュー活動に取り組んだりする。
- 【役割認識力】: 学校生活は、多くの先生方の仕事の上に成り立っていることに気付く。
- 【職業理解力】: 働く人の姿から、仕事の喜びや役割を考えたりする。
- 【情報活用力】: インタビュー活動で、必要な情報を得ることができる。

### 4. 展開案

事前	事前に校内の先生方に学習内容を知らせ、インタビュー活動への協力を依頼しておく。効率よくインタビュー活動ができるよう、ワークシートやグループ分け等の準備を行っておく。		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
本 課 時	1 校内で働く職員の写真から、本時は「先生方の仕事」について考える学習であることを知る。	職員の写真	・先生方の仕事の様子について、知っていることを発表させながら、先生方の仕事の多様性に気付かせ、本時の学習への意欲付けと方向付けを図る。 【職業理解】
	2 先生方の仕事にはどのようなものがあるか話し合い、本時の課題をとらえる。 <b>先生方の仕事の様子を調べよう。</b>		
	3 「先生方の仕事調べ」の方法を知り、インタビューの仕方を練習する。 【インタビューの仕方】 挨拶をする。 活動の目的を話し、インタビューの了解を得る。 インタビューをする。 感想を述べ、お礼の挨拶をする。	インタビューシート	・本時は、担任外の先生について調べさせる。「インタビューシート」を用い、約束事や方法を具体的に指導し、グループ毎に役割を分担させたり、インタビューの練習をさせる。 【情報活用・コミュニケーション】
	4 グループ毎にインタビュー活動に取り組む。	調査用紙	・活動の様子を観察し、適宜指導したり、賞揚したりする。 【情報活用・コミュニケーション】
	5 インタビュー結果を基に、自分たちの学校生活における先生方の仕事の役割や、先生方の願いを考える。	先生方の願い (VTR)	・どの先生の仕事も、自分たちの学校生活を支える大事なものであることに気付かせる。 【役割認識・職業理解】
	6 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。	ワークシート	・「充実した学校生活を送ってほしい」という先生方の願いに気付かせるとともに、自分自身の学校生活に向かう気持ちを振り返らせる。 【役割認識・コミュニケーション】
	7 今後の学校生活に期待する担任の話を聞く。	担任の話	
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、充実した学校生活を送ろうとする意欲を高める。		

### 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【総合的な学習の時間】 「湯口のお店屋さん今昔」で、インタビューや電話のかけ方の練習をする。
- 【日常活動】 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちをもち、毎日の学習や清掃活動や係活動に取り組む。

### 指導のポイントと工夫

学校生活を支える人々の働きに気付かせる  
担任外の教職員の仕事に視点を当て、「誰がどんな仕事をしているか」ということに関心をもたせ、調べ活動を行わせる。どの仕事も、自分たちの学校生活を支える大事な働きがあることに気付かせる。

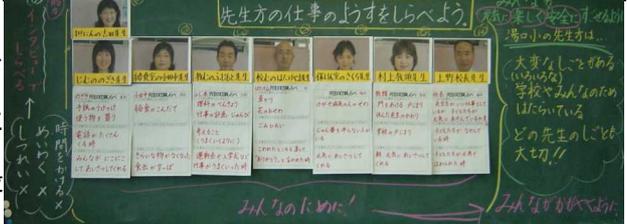
### 学校生活への意欲の向上を図る指導

子どもたちのよりよい学校生活と健やかな成長を願い、様々な場で働いている教職員の思いに気付かせ、自分自身の学校生活に向かう気持ちを振り返らせる。多くの教職員の応援と愛情を実感させながら、「もっと自分もがんばろう!」とする意欲を高めさせる。

### 基本的なインタビューの仕方を学ばせる指導

「先生方への仕事調べ」の活動で、インタビューの仕方を具体的に指導する。グループで役割を決めさせ、事前に練習させた上で調査活動に取り組ませる。指導の重点は、次の4点である。

- ・挨拶をしっかりする
- ・質問項目をはっきりする
- ・メモをとる
- ・自分の言葉で感想を話す

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）	
課題把握の段階	<p>(1) 「先生方の仲間分け」から先生方の仕事への興味をもつ 教職員の顔写真を掲示し、それぞれが自由に考えた観点で、二つの仲間分けをさせた。児童は外見からの判断でグループ分けしたが、他の分け方がないか考えさせたところ、普段働く場所や、担当授業の有無など、仕事の様子に着目した分け方ができた。</p> <p>(2) 本時の課題をつかむ 「先生方の仲間分け」の最後に、指導者が担任と担任ではない教職員とに分け、「先生方の仕事は、みな同じですか？」と発問し、教職員の仕事の違いを押さえさせた上で、担任外の職員に着目させた。担任に比べ、担任外の職員の仕事についてはあまりわかっていないということから、学習課題を設定させた。</p>	
課題追究の段階	<p>(1) インタビューの準備をする 「先生方の仕事調べ」をインタビューで行うことを確認した後、その際の留意点として右の五点を押ささせた。これらのポイントに沿って、ワークシート（右）を用い、グループ毎に役割分担を決めさせ、インタビューの練習に取り組ませた。</p> <div data-bbox="571 600 967 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>挨拶をきちんとする。 聞きたいことをわかりやすく質問する。 役割分担をしっかりと決める。 メモをとる。 お礼をしっかりとる。</p> </div> <p>(2) グループ毎にインタビュー活動に取り組む それぞれの担当の先生方から聞いてきたことを後で紹介し合うこと、教室に戻ってくる時間、インタビューの五つのポイント等を確認した後で、グループに分かれてインタビュー活動を行った。 どのグループも、自分の役割を果たしながら、真剣に活動に取り組んだ。最後の「お礼の挨拶」では、インタビューをしての感想を交えて話すよう指示した結果、流暢な表現にはならなくとも、自分の言葉で気付いたことや感じたことを話す姿が見られた。</p> <p>(3) 調べたことを交流し合う 「その先生はどんな仕事をしているか、仕事で大変なことは何か、仕事でうれしいことは何か」という三点について、それぞれのグループがインタビューしてきたことを紹介し合った。各グループの発表から、これまで気付かなかった教職員の仕事を知ることができた。</p> <p>(4) ビデオから先生方の願いを知る 先生方はどんな願いをもって仕事をしているかを、事前に収録したインタビュービデオを視聴して調べさせた。どの先生も、「湯口小学校の子どもたちが、元気に学校生活を送れるよう」それぞれの仕事に一生懸命に取り組んでいることに気付かせることができた。</p>	<p style="text-align: center;">学級活動（「先生方の仕事しらべ」）ワークシート</p> <div data-bbox="975 551 1458 891" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: right;">3年</p> <p>1 先生方の仕事をインタビューで調べてみよう！ インタビューの仕方をマスターしよう。</p> <p>1 明るくさわやかに挨拶します。 たんとう（ ） 先生、こんにちは！</p> <p>2 じっくり聞きます。 たんとう（ ） ぼくたち（わたしたち）は、3年生の 班です。</p> <p>3 インタビューをしてもよいかなしめませう。 たんとう（ ） 今、学校の先生方のお仕事について調べているのですが、先生にインタビューしてよろしいでしょうか。 ・OK 「ありがとうございます。それでは、よろしくおねがします。」 ・NO 「わかりました。お礼をいってごきげんようでした。」</p> <p>4 インタビューします。 たんとう（ ）（ ）（ ） （質問1）「先生は、ふだんどんな仕事をなさっていますか？」 （質問2）「先生のお仕事で、たいへんなことはどんなことですか？」 （質問3）「先生が好きな仕事をしていて、うれしいことはどんなことですか？」</p> <p>5 先生方へお礼の言葉を言います。 たんとう（ ）（全員） ぼくは（わたし）は、先生のお話を聞いて、「……（自分の言葉で）……」と思いました。</p> <p>6 お礼のあいさつをします。 たんとう（ ）（班長） 先生、インタビューをさせていただき、ありがとうございました。 （全員で、「ありがとうございます」）</p> <p>2) さあ、インタビューにちょうせん！ 【インタビューする先生】 先生！ Q1 「先生は、ふだんどんな仕事をなさっていますか？」</p> </div> 
まとめの段階	<p>(1) 「先生方の仕事調べ」でわかったことをまとめる 板書や本時の活動を振り返らせ、以下の三点を押さえた。 湯口小学校の先生方は、みんなや学校のために頑張っていること 学校の先生方の仕事には、いろいろな内容や役割があること どの先生方の仕事も、自分たちが学校生活を送るためにとても大切であること</p> <p>(2) 自分の考えをまとめる 本時の学習を終えて考えたことをワークシートにまとめさせた。「自分が知らないところで先生方がいっぱい仕事をしていることがわかった」「私たちのためにがんばってくれて、とてもうれしい」「先生方もがんばっているから、自分ももっとがんばりたい」といった感想書かれていた。</p> <div data-bbox="831 1357 1458 1581" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>	

授業実践を終えて（考察）

児童にとって、最も身近な「働く人」である「先生方の仕事調べ」とおし、子どもたちの適切なキャリア発達（進路発達）を図る上で、次の三点の成果を得られた。一つめは、自分たちの生活を支える仕事や、働く人の存在に気付かせることができたことである。具体的な調べ活動を通じ、児童は、これまで気付かなかった先生方の仕事や役割を改めて知ることができた。そのことで、働くことの意義を自分なりに考えたり、仕事への興味を感じたりすることができた。二つめは、基本的なインタビューの仕方を学ばせることができたことである。この活動で学んだマナーや挨拶、応答の仕方等は中学校、高等学校での職場体験や職業調べなどの活動に生かされる。三つめは、子どもたちが自らの学校生活をよりよくしようとする意欲をもつことができたことである。子どもたちの身近なところで展開した本時の活動は、効果的であった。

保護者の協力を得ながら、自己理解や他者理解を深めさせた授業  
～ 第2学年 「教えて！あなたのこと、友達のこと」 ～

本実践のポイント

- Point 1 保護者に手紙等の協力をしていただきながら、自分自身のよさや周囲の愛情に気付かせる。
- Point 2 好きなことや将来の夢を考えさせ、自分自身を見つめさせ、自己理解を深めさせる。
- Point 3 人によって個性が異なること、みんなが大切な存在であることに気付かせる。

1. 題材名 「教えて！あなたのこと・友達のこと」 (2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成)				
2. 目標 自分の好きなことやよさを考えたり、友達のよいところを見つけたりする活動をとおり、自他の存在を大切にしようとする気持ちをもつ。				
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 自分の好きなことや得意なこと、将来の夢等を考えさせ、自分自身を見つめさせるとともに、将来の生き方への関心を膨らませる。 「よいところ見つけ」の活動を取り入れ、他者の目から自分自身のよさに気付かせるとともに、自他の存在を大切にしようとする気持ちや態度を育む。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：仲間作りゲームや友達のよさ見つけなどの活動に取り組み、他者との温かな関係を築くことができる。 【自己理解力】：自分自身の好きなことや得意なこと、将来の夢を進んで表現できる。また、他者からの「よいところメッセージ」から、自分のよさに気付く。 【将来設計力】：自分を大切にしようとする気持ちをもち、将来の夢やこれからの生き方への関心を膨らませることができる。</p>				
4. 展開案				
事前	事前に保護者に授業内容を知らせ、子どもたちのよさを手紙に書いていただくよう、依頼しておく。担任からも、一人一人の子の「よいところメッセージ」を書いて準備しておく。			
本 時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 簡単な「仲間作りゲーム」を行い、学習の雰囲気作りをする。 ・「アドジャン」 ・「リズム手合わせ」 ・「ほめあいゲーム」 ・「肩もみ」</p> <p>2 教師の自己紹介クイズを解きながら本時の活動内容を知る。 おしえてみんなのこと！ ～「しょうかいカード」を作ろう！～</p>	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	課題追究	3 「しょうかいカード」を書き、隣り同士見せ合い、他己紹介形式で発表し合う。	しょうかいカード	・他者とのかかわりが深められる活動を取り入れ、協力し合いながら活動しているペアを紹介する。友達のよさに目を向ける布石の活動とする。 【コミュニケーション】
		4 「しょうかいカード」の内容(自分のよさ)と記入のための活動方法(よいところ見つけ)を知る。		・カードの項目に沿って自由に記述させることで、自分自身について見つめさせたり、考えさせたりする場とする。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】
		5 「よいところ見つけ」の活動を行う。隣り同士で、メッセージカードを書き、交換し合う。班の中で交換し合う。	しょうかいカード	・他者のよさに気付くことの価値を話し、活動の意義付けをする。周りの人から肯定的な評価を受けることの気持ちよさを十分に感得させたい。 【自己理解・将来設計】
		6 教師や家の人が書いた「メッセージカード」を読む。	教師と家の人のメッセージカード	・活動の様子を把握し、カードが書けない子には、助言を与える。 【コミュニケーション】
		7 「しょうかいカード」を記入する。		・メッセージカードはじっくりと読ませ、自己肯定感をもたせる場にする。 【自己理解・将来設計】
		まとめ	8 本時の活動を振り返り、感想を書く。 9 今後の学校生活に期待する担任の話	ワークシート
	事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、これからの生活でも自分や友達を大事にした学校生活を送るよう励ます。授業の様子を学級通信で伝え、家庭でもこれからの生活や将来の夢等の話題を提供していく。「よいところ見つけ」の活動を帰りの会でも継続し、互いのよさを大事にしようとする態度を継続して指導する。		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点				
【道徳】 資料「ひろったビスケット」で、友達を大切にしようとする心情をもつ。				

指導のポイントと工夫

**保護者の協力**  
事前に授業のねらいを説明し、「我が子」のよさを手紙に書いていただく。この手紙で、自分自身のよさや自分を取り囲む家族の愛情に気付かせる。授業後も、家庭でこれからの生活や将来の夢について語り合う場を設けさせる。

**自己理解を深める指導**  
自分のことをみんなに伝える「しょうかいカード」作りの活動をとおり、自分の好きなことや将来の夢を考えさせ、自分自身を見つめさせる。また、保護者や担任、友達からの「よいところメッセージカード」を読ませ、自分自身のよさに気付かせるとともに、自分を大事にしようと思う気持ちを育てる。

**個性の違いや他者理解を深める指導**  
「しょうかいカード」を比べさせ、好きなことや得意なこと、将来の夢は人によって異なることに気付かせる。また、友達のよさをメッセージで伝える「よいところ見つけ」の活動を行い、他者理解を深め、誰にもよいところがあることに気付かせる。

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）	
事前の授業準備	<p>保護者への協力の依頼                      授業の趣旨と保護者に協力していただきたいことを右のような学年通信で各家庭に伝えた。書いていただいた手紙は、授業当日まで児童に内緒で保管しておいた。                      担任からのカードの作成                      担任からも、子どもたち一人一人のよさを具体的に書いた「よいところ発見カード」を準備した。</p>	<p>平成18年9月13日（水）                      2年生の保護者の皆様へ                      2学年担任                      学級活動「すごい発見つけしよう」にかかわるお願い                      初秋の風がさわやかに渡る季節となりました。日頃より本校の教育活動に際しましては、皆様のご協力とご支援を賜り、心より感謝申し上げます。さてこの度、学級活動の授業で、「すごい発見つけしよう」という活動を行うことになりました。自分や友達の得意なことやよいところをお互いに見つけ合い、自他を大事にし合う気持ちをもったり、よりよい人間関係を築いたりすることをめざして、ご家庭の方々からお子さんのよいところを挙げていただきたく、下記のとおりお願い申し上げます。                      お忙しいところ、大変お手数をおかけいたしますが、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>記                      お願いしたいこと                      ・お家の方々からご覧になって、お子さんのよいところ（ここがよいところだなあ、すごいところだなあ...と感じられているところ）をお書き願います。                      ・記入の要領                      ・別紙の用紙に、できるだけ具体的に書きます。お子さんのやさしさで、何かお手伝いしてもらったときのお家の方々のうれしい気持ちや、エピソードなども添えられるといいです。                      ・お子さん自身が読みますので、2年生の子が読みやすいよう、平易な表現でお書きください。                      ・お家の方のよいところが書かなくても、みなさんでお書きになって、どちらでも結構です。                      ・お手持ちの封筒に用紙を入れ、子どもたちに内緒でご提出下さい。                      ・ご提出をお願いします日                      ・大変恐縮ですが、9月19日（火）までに担任までご提出をお願いします。</p>
課題把握の段階	<p>(1)「仲間作りゲーム」                      自分自身を見つめて自己開示したり、互いのよさを発見し合ったりする活動を行うための受容的な雰囲気作りとして、エンカウンター的手法を取り入れた、仲間作りゲームを行った。隣同士で手をつないだり、肩をもみ合ったりする活動を行った。</p> <p>(2)「先生の自己紹介」                      授業の方向性をとらえさせること、互いの自己紹介への活動意欲をもたせることを目的として、右のようなプレゼンシートを用い、クイズ形式で「先生の自己紹介」を行った。この活動を基に、クラスみんながお互いのことをもっと知り合い、仲良くなるために自己紹介を行うという本時の活動の方向性をとらえることができた。</p>	<p>「自己紹介シート」の項目は、「好きな遊び、好きな食べ物、得意なこと、将来の夢、そして自分のよいところ」です。はじめは空欄（シークレット）にしておいた。</p>
課題追究の段階	<p>(1)「しょうかいカード」を書く                      「しょうかいカード」に、自分の好きなことや得意なこと、将来の夢などを書かせた。でき上がったシートは、最初、隣同士で発表し合い、その後、全体の場で、互いの友達のことを紹介し合った。この活動で、「好きなことや得意なことは人によって違うこと」を押さえることができた。</p> <p>(2)「しょうかいカード」の内容を知る                      「しょうかいカード」は、自分のよさについて書くところである。児童から、「えええ～っ、わかかないよ!」「ぼくには、いいところなんてないもん!」...等の声が聞こえたが、それらの声を受け止め、自分のよさは自分ではなかなか気付きにくいことから、自分の周りの人（自分の家族、先生、友達）から聞いてみるという活動を行うことにした。</p> <p>(3)お家の人からのお手紙・担任からのメッセージカードを読む                      お家の人の手紙や担任からのメッセージを読む児童の表情は、真剣で、とてもうれしそうだった。一つ一つの言葉を何度も繰り返して読み、書かれてあることを楽しそうに友達に教える子の姿も見られた。</p> <p>(4)友達のよいところ見つけ                      カードを用い、友達のよさを見つける活動を行った。「いつもおそうじをちゃんとやってすごいね」「べんきょうのときの、なんでも思いつく力がすごいです」など、子どもなりに見つけた友達のよさが書かれてあった。</p> <p>(5)自分のよさを書く                      お家の方からのお手紙、担任と友達からのメッセージという三つの材料から、改めて「自分のよさ」を見つめ、「しょうかいカード」に記入させた。「自分にはよいところ何て、無い!」と言っていた子どもも、お母さんからの「いつも弟の面倒を見てあげて、偉いね。やさしいね。」という手紙を読み、自分のよさとしてそのことをシートに書いていた。</p>	<p>「すごい発見つけしよう」の「しょうかいカード」</p> <p>「このどろが早いところ。あまさんがよぶとすぐにとんで来て、あまさんがいしてくれます。野球のれんしゅうも人より大きな声で、家でもお兄ちゃんがいなくて、しんどうやボールをしたりして、いっしょうけんめいがんばっている。うががうてきだよ」と書いています。</p> <p>は は より</p> <p>「いいねすごいね!すごいね!」</p>
まとめの段階	<p>学んだことを確認する                      本時の学習で学んだこととして、以下の三点を押さえた。                      好きなことや得意なことは人によって違う                      みんな、一人一人よいところがある                      みんな、お家の人や先生、友達から大事にされている</p>	<p>今日の学習で学んだことをまとめよう。</p> <p>好きなことや得意なことは、人によって違う</p> <p>みんなひとりひとり、よいところがある</p> <p>みんな、おうちの人や先生、ともだち、わがやがられている</p>

授業実践を終えて(考察)

「じこしょうかいカード」作りを行うことで、児童は様々な具体的な観点から、自分自身の好きなことや「特性」について考えることができた。また、将来のことを考える楽しさや夢を描くことの楽しさも味わうことができた。「自分を大事に思う気持ち」を育てるために行った「お家の人からの手紙」や「先生のメッセージカード」は、とても有効であった。「自分には、いいところなんて無い!」と言っていた子どもも、手紙を読む表情は、とてもうれしそうだった。毎日、一緒に生活している家族でも、普段なかなかその子のよさを伝える場は多くない。学校、家庭双方から、その子のよさに気付かせることを意図した指導は、効果的であった。

職業の種類や役割を考えさせ働くことへの興味・関心を高めた授業

～ 第5学年 「どんな仕事があるかな? 『ご飯&Wカップ編』」 ～

本実践のポイント

- Point 1 社会科の学習を発展させ、「ごはん」を切り口に、職業と生活とのかかわりを考えさせる。
- Point 2 職業には多くの種類があること、どの仕事も大切な役割を為していることに気付かせる。
- Point 3 学校の学習が職業にどのようにかかわるか考えさせ、学校生活への意欲を高める。

1. 題材名 「どんな仕事があるかな? 『ご飯&Wカップ編』」  
〔学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事やサッカーの世界カップに関連した仕事を調べることとおし、仕事や職業には様々なかかわりや役割があることに気付く。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

キャリア教育のポイント

ひとつの事象には、多くの仕事がかかわっており、それぞれ大切な役割があることに気付かせる。職業には幅広い種類があることに気付かせ、働くことや職業への興味をもたせる。

進路発達にかかわる諸能力

【将来設計力】: 働くことや仕事に対する興味や関心をもつ。

【職業理解力】: 一つの事象に関連して多くの仕事や職業があることに気付かせ、職業への興味をもつ。

【役割認識力】: どの仕事も、それぞれに大切な役割を果たしていることに気付く。

4. 展開案

事前	本時で用いる資料として、運動会の仕事に関するVTR、ご飯の実物、サッカーワールドカップ関連の資料(VTR、写真)を準備しておく。 本時は社会科の「米作り」(農家の仕事)の学習の発展である。稲作に関する仕事の様子を押さえておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 運動会のVTRを視聴し、仕事に「着目」した学習であることを知る。	運動会のビデオ	・運動会のビデオから、「仕事」や「働く」という視点から運動会を振り返らせる。 【将来設計】
	2 「ご飯」の実物から社会科の学習内容を想起し、本時の課題を立てる。	ご飯の実物	・ご飯の実物を提示し、学習への興味を高める。社会科で学習した農家の仕事の様子を想起させながら本時の課題につなげる。 【職業理解】
	食卓にご飯届くまでにどんな仕事があるだろう。		
	3 ウェビングの要領で、米作りの仕事から食卓にご飯が届くまでの過程にある仕事を書き出す。		・ウェビングの手法で、職業の関連を具体的に考えさせる。完成したウェビングマップを基に、職業の種類の多さや、どの仕事も大切な役割を果たしていることなどの意味を押さえる。 【職業理解・役割認識】
4 完成したウェビングマップを見て、仕事や職業について話し合う。 ・「仕事」と「職業」の意味 ・ご飯に関連した職業の多さ ・それぞれの仕事の役割 ・諺「職業に貴賤なし」	田んぼからご飯までのスライド		
5 サッカーワールドカップを題材に、それに関連した仕事調べを行い、職業にはいろいろな関連や種類があることを知る。また、それらの仕事と、今の学校での学習との関連を考える。	ワールドカップ関連の記事	・身近な話題を基に、職業調べを行い、職業への関心を深めさせる。 【職業理解・将来設計】	
7 本時の学習を振り返り、わかったことと考えたことをシートに書く。			
8 次時の活動について知る。 ・「お気に入りの仕事調べをしよう」			【将来設計】
事後	授業の様子や個々の子どもたちの感想を学級通信等で知らせ、家庭でも自分に興味ある出来事や職業への興味をもたせるよう促す。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【社会】 「米作りのさかんな地域」で、米作りの仕事の様子や働く人々の工夫や苦勞を調べる。

指導のポイントと工夫

職業と生活のかかわりを気付かせる指導

食卓に「ごはん」が届くまでにどのような仕事があるか挙げさせ、農家の仕事以外にも、輸送や包装、調理にかかわる仕事など、多くの職種があり、どれも欠かせない仕事であることに気付かせる。

職業の種類と役割を考えさせる指導

「ごはんが届くまで」の例に加え、児童に関心の高い「サッカーワールドカップ」に関する職業のウェビングマップ作りの活動を取り入れる。サッカーチームを支える用具係「ホペイロ」という仕事を紹介しながら、職業の種類と役割を考えさせていく。

職業と学校生活の関連を考えさせる指導

「ワールドカップ」に関連した仕事マップに注目させ、「サッカー選手 体育」「通訳 英語」「マスコミ 国語」など、学校での授業がどんな職業に関係するか考えさせることをとおし、毎日の学校生活や授業の大切さに気付かせていく。そして、将来につながる日々の学校生活を充実させようとする意欲を高めさせていく。

## 授業の実際

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）
課題把握の段階	<p>(1)運動会の様子を振り返り、「仕事」に着目する            本時は、運動会の直後に行った授業で、その時の係活動や準備の仕事など、「働く」場面を編集した資料を導入資料として提示した。運動会が一人一人の仕事や働きで成功したことを押さえた上で、本時では仕事の着目した学習を行っていくことを知らせた。</p> <div data-bbox="1066 353 1441 387" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">運動会での「仕事」の場面を編集した資料</div>  <p>(2)茶碗一杯の「ごはん」から課題を設定する            茶碗に盛りつけたご飯の実物を提示し、「このご飯の中にどんな『仕事』があるか」発問した。5年生の社会科の学習で「米作り」を学んでいる子どもたちは、すぐに「農業」と答えた。社会科の学習を想起できた子どもたちを評価しながら、「今、教室のこの場に、ご飯が届けられるまでにあった仕事は、農業だけ？」と重ねて問い、本時の学習課題「食卓にご飯が届けられるまでにどんな仕事があるだろう。」を設定した。</p> 
	課題追究の段階
まとめの段階	

## 授業実践を終えて(考察)

教科学習の発展として提示した「ごはん」は、社会科で学習した農業の学習を基に仕事のつながりを考えさせることができ、とても有効な資料だった。ウェビングの手法は、仕事や職業の多様さやつながり、それぞれの仕事の役割が視覚的にもよくとらえられ、効果的だった。さらに、ワールドカップという一見すると子どもたちからかけ離れた「仕事」も、日常の学校での授業とのかかわりが大きいことに気付かせることができたことは、学校生活への子どもたちへの意欲を高めることにつながった。

中学校との連携を図って、希望や目標をもって生きる態度の形成を図った授業  
～ 第6学年 「もうすぐ中学生」 ～

本実践のポイント

- Point 1 進路にかかわる諸資料を適切に活用できる力を培う。
- Point 2 中学進学を控えた子どもたちの夢や希望を育み、目標をもって生活しようとする意欲を培う。
- Point 3 系統的な進路指導を図るために、中学校との連携を図る。

1. 題材名 「もうすぐ中学生」 (6年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)			
2. 目標 中学校生活に対する不安や悩みを解消し、新しい生活に向けた期待や希望を膨らせるとともに、中学進学に向け目標をもって生活しようとする意欲を高めることができる。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 資料を適切に活用して課題を解決させたり、進路について自己の考えを深めさせたりする。中学生活における期待や希望を膨らませ、目標をもって生活する態度を培う。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【自己理解力】：中学進学や中学校生活に関する問題等について主体的に考える。 【将来設計力】：中学校生活への期待や希望を膨らませる。 【情報活用力】：グラフやインタビュー等の資料から問題を見つけたり、解決したりする 【意思決定力】：中学進学に向け、目標をもって生活しようとする意欲をもつ。</p>			
4. 展開案			
事前	事前に進学にかかわる児童の意識調査を行い、中学校生活に対する児童の不安や悩み、実態等をとらえ、資料化しておく。 中学校との連携を図り、児童の中学校生活への抵抗感を取り除いたり、希望を膨らませたりすることができる資料を準備しておく。(VTRや中学生の作品等)		
本 時	課題把握	1 中学校生活に対する意識調査の資料を見て、気付いたことを話し合う。 2 本時の課題をとらえる。 中学校の生活の様子を調べよう。	資料等 中学校生活への意識(アンケート結果)
	課題追究	3 中学校の時間割表を見て、小学校との違いを調べる。 ・教科の名称、数、種類の違い ・時程の違い ・クラブ活動の有無 ・教科担任制 等	中学校の時間割表
		4 中学生の話や作品等を見たりしながら、中学校生活の実際の様子についてのイメージをもつ。	中学生の声(VTR) 中学生の作品等 中学教師の声(VTR)
		5 中学校教員の話やインタビュー等の資料を聞き、中学進学に向けた準備として、必要なことを聞く。	目標カード
		6 中学進学に向け、今後の生活における自己の目標を立てる。	ワークシート
		7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。	担任の話
		8 小学校生活の締めくくりにあたって、中学校生活への意欲を高める。	
	事後	各自が立てた生活の目標を教室に掲示し、目標の実践化を図る。 授業の様子や個々の子どもたちの感想等、学級通信等で知らせ、中学校に向けた意識を家庭との連携の上で図るようにする。 子どもたち個々の取り組みの様子を観察し、適宜賞揚したり、指導したりする。 感想を記述したワークシートに教師からの励ましの言葉を記す。	
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点			
<p>【国語】 詩「生きる」を読み、自分の将来の生き方を考える。 【道徳】 資料「自分への手紙」で、自分の長所や短所を見つめながら、将来について考える。 【総合的な学習の時間】 「ぼく・私の未来」の学習で、自分の将来を考える場をもつ。 【日常生活】 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持をもち、清掃活動や係活動に取り組む。</p>			

指導のポイントと工夫

資料を活用する力の育成  
指示や発問を明確にしたり、メモをとらせたりしながら、グラフの読み取りやインタビューの話の聞き取りを適切に行わせる。また、進路についての関心や問題意識をもたせる。

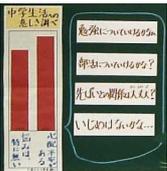
夢や希望、意欲の醸成  
先輩である中学生の作品を紹介したり、アドバイスを聞かせたりしながら中学校生活に対する不安や悩みの解消を図る。さらに、中学校生活のすばらしさに触れさせながら、新しい生活への期待を抱かせるとともに、自身の現在の生活態度についても見つめ直させ、目標をもって学習や生活に取り組ませるようにする。

中学校との連携

次の2点を中心に、中学校との連携を図る。

- ・6年生児童にとって身近な先輩の中学生の作品やアドバイス、中学校教師の話等を資料として用いる。
- ・本時の授業を終えての中学校への子どもたち個々の思いを中学校教師に伝え、情報の共有化を図り、中学校入学後の指導に生かしていく。

## 授業の実際

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）
課題把握の段階	<p>中学校生活に対する意識調査の結果から本時の課題を立てる            事前に、中学校生活についての意識について、児童からアンケート調査した結果をグラフで提示した。グラフから気付いたことやわかったことを話し合わせながら、中学校に対する不安や心配を感じている子が学級の中に多くいることを全体で確かめ、本時の課題「中学校の生活の様子を調べよう」を設定した。</p>  <p>課題把握の場面で使用したグラフとアンケート結果。中学進学を自分たち自身の問題としてとらえさせた。</p>
課題追究の段階	<p>(1) 中学校の時間割から小学校との違いを調べる            児童の進学先である中学校の協力を得て、中学1年生の実際の時間割をいただき提示した。この時間割を使い、小学校との違いを見つけさせた。「英語」や「選択」などの新しく発見した授業に、子どもたちは興味を抱くことができた。</p> <p>(2) 先輩の話や作品から中学校の生活の様子を調べる            時間割で発見した「美術」の時間に作成した先輩の実際の作品を中学校からお借りし、紹介した。レタリングや静物画などすばらしい作品の数々に触れ、児童から「すごいなあ...」「上手だなあ...」という声を聞くことができた。            「先輩からの話」では、事前に子どもたちが感じていた「勉強や部活」の問題を中心にインタビューしたものをVTRで提示した。小学校の時からなじみであった先輩の話は、不安や悩みの解消と中学校生活への期待を膨らませるのに効果的であった。また、先輩のアドバイスから中学校では、自分の努力しだいでたくさんの可能性を広げられることを感じ取らせることができた。</p> <p>(3) 中学校教師の話から中学進学に備える心構えを聞く            中学校で児童を迎える中学校教師からの「中学進学に備えたアドバイス」を、VTRで視聴させた。小学校段階での学習をきちんと身につけること、自分のことはきちんと自分でできるようになること、挨拶や礼儀など当たり前のことを当たり前にできるようになることが話され、児童に現在の自分の生活を振り返らせるのに効果的であった。</p> <p>(4) 今後の生活における自己の目標を立てる            本時の学習を振り返らせながら、卒業までの学校生活で努力していきたい目標を個々の子どもたちにワークシートに書かせました。手伝いや学習、体力作りなど、子どもたちは自分の生活を見つめながら自分なりの目標を立てていた。</p>  <p>小学校生活の過ごし方で、自分が特に頑張っていきたいことをカードに書かせ、教室に掲示した。子どもたちが目標の達成状況を毎日自分で振り返り、その評価結果をシールで表した。</p>
まとめの段階	<p>小学校生活の締めくくりの過ごし方について担任の話を聞く            授業のまとめとして、担任自身の小学校卒業時の体験談を話した。当時、夢に描いていたことを写真やカセットテープで紹介しながら、夢や目標をもって生活することの大切さと日々の生活の心構えを話し、授業を終えた。</p> 

## 授業実践を終えて(考察)

本実践は、小学校卒業の13日前に行った。小学校生活の締めくくりをどのように過ごすか、子どもに考えさせたり、中学校進学やそれに続く人生への意欲を高めさせたりすることができた。

本実践では、授業で扱う中心資料として、インタビューや作品の提供などで中学校の協力を得た。先輩の中学生の体験談や作品紹介、中学校教師のアドバイスなどは、児童にとって身近で具体的なものであった。実際の進学先からの資料提供は大変効果的で、子どもたちの不安や悩みの解消、そして期待や希望の醸成につながったととらえる。

さらに、授業の計画の説明、実施報告等、中学校の担当者と協議の場を設けたことは、小学校、中学校それぞれの情報の共有化を図ることができ、双方の指導に貴重な資料を得ることができた。中学校では、小学校から入学してくる子どもたちの思いを事前に把握することができ、入学時の適応指導に生かすことができるものととらえる。

事前指導から事後指導まで、運動会への一連の取り組みの中で展開するキャリア教育  
～ 第6学年の指導実践例 ～

本実践のポイント

代表的な学校行事「大運動会」の中には、キャリア教育の視点が豊富に含まれる。運動会本番前の事前指導から事後の指導までの運動会にかかわる一連の取り組みの中で、キャリア発達(進路発達)の育成を図る。

- Point 1 運動会を通じて期待されるキャリア発達の要素を明確にする。
- Point 2 「行事をとおして育てる」という、行事指導の原点に立ち返った指導をする。
- Point 3 育てたい力に視点を当てた事前指導、事後指導を重視する。

運動会指導におけるキャリア教育展開案		指導学年	全学年	
		指導の場	学級活動・学校行事等	
1. 目 標				
望ましい集団行動の仕方や協力して活動することの大切さを学ぶとともに、目標に向かって努力したり、進んで責任を果たそうとしたりする態度身に付ける。				
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<b>キャリア教育のポイント</b> 運動会に臨むめあて作りや振り返りの活動を重視し、一連の過程を指導の場ととらえる。将来の適切な職業生活や社会生活を営む上で必要となる、挨拶や集団行動の大切さを理解させる。目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりする態度を養う。				
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 運動会を成功させるための話し合いの活動に進んで参加し、自分の考えや意見を表現できる。また、場に応じた適切な挨拶をすることができる。 【役割認識力】: 運動会を成功させるために、様々な役割があることに気づき、自らも進んで自分の責任を果たそうと努力することができる。 【職業理解力】: 働くことや役割を果たすことの喜びを感じることができる。 【課題解決力】: 運動会を成功させるためのきまりやルールを守る。また、目標の実現を願い、具体的な取り組みをすることができる。 【意思決定力】: 運動会の成功や自己の向上をめざし、自分なりの目標を立てることができる。				
3. 指導計画				
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点		
事前	学級活動等	1 運動会の意義(どんな力をつける行事か)を話し合う。	・これまでの経験や校長先生の話などから、運動会はいろいろな力が高める場であることに気付かせ、運動会についての個々の願いをもたせる。 【コミュニケーション・意思決定】	
		2 運動会についての願いをもつ。		
活動時	練習時・帰りの会	3 運動会での自分の役割や仕事を確かめる。	・カードを用い自己の役割や仕事を明らかにし、運動会でのめあてや努力事項をもたせる。 【役割認識・意思決定】	
		4 運動会の目標やがんばることを決め、運動会に向けての意欲をもつ。		
		1 何をどのように頑張るか、具体的なめあてを立てる。		・練習開始時に、挨拶をしっかりすることやめあてを意識して取り組むことを確認する。 【コミュニケーション・課題解決】
		2 めあてを意識しながら、活動に取り組む。		
3 「運動会がんばりカード」を基に、めあての達成状況を自己評価する。	・カードに自己の練習態度を記入させることをとし、活動状況を自己評価させ、翌日の活動にめあてをもって臨ませるようにする。 【課題解決・意思決定】			
4 自己の取り組みを反省したり、友達のがんばりを紹介し合ったりしながら、翌日の練習のめあてを立てる。		・カードの記述状況や活動時の子どもたちの様子を観察し、適切なアドバイスや賞揚を行う。 【課題解決・意思決定】		
事後	運動会当日	1 カードを基に、運動会のめあてを確認し、頑張ることを決める。	・めあてをもって本番の活動に臨めるよう、朝の会で一人一人の役割や頑張ることを確認させる。 【意思決定・役割認識】	
		2 めあてを基に、自分の仕事や役割を果たしたり、競技や応援に取り組んだりする。		
		3 運動会の様子について、担任の話聞きながら、自己の取り組みの様子を簡単に振り返る。		・子どもたちの活動の様子を記録し、振り返りの資料とする。 【役割認識・職業理解・課題解決】
事後	学級活動	1 カードを基に、めあての達成状況や自己の取り組み態度について反省する。	・教師の側からも子どもたちの頑張りの様子を具体的に伝え、自分たちの成長を実感させる。 【課題解決・役割認識・職業理解】	
		2 働くことや役割を果たすことの意義を話し合う。		
		3 運動会を通じて学んだことや成長できたことをおさえる。		・自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】
4. 評価の視点と方法				
集団行動のルールや自己の役割を果たすことの大切さを理解できたか。 〔・振り返りの作文の記述状況 ・教師間の情報交換 ・振り返りの活動における発言〕 目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりすることができたか。 〔・めあてカードの取り組み状況 ・活動状況の観察 ・担当教師間の情報交換〕				

指導のポイントと工夫

運動会で培うキャリア発達の要素

次の5点が指導のポイントになる。

- ・挨拶をしっかりする
- ・集団の約束を守る
- ・目標に向かい努力する
- ・仕事を着実にやり遂げる
- ・行事を支える役割に気付く

これらの力をどこで、どのように育てるか明確に押さえて指導する。

行事を通して育てる

行事の形の上だけの「出来栄え」ではなく、その活動でどんな力を育てたいかという視点を大事にする。子どもたちの行事への取り組み過程を的確に見取り、適切な指導や評価を行います。また、子どもたち自身にも運動会の目標を立てさせ、自己評価させながら活動に臨ませる。

事前、事後指導の重視

運動会の意義を押さえさせ、自分なりの目標をもたせる事前指導を行う。そして運動会の一連の取り組みを終えた後、自己の取り組み態度と成長を振り返らせる事後指導を行う。運動会を通じ、どんな力がついたか、どんなこと学んだか子どもたちが実感できるようにする。

過程	授業の概要（指導の手だてと児童の反応）	
事前の学級活動	<p>(1)運動会の意義をとらえる 「なぜ運動会があるのか?」ということを変更して考えさせた。過去5年間の運動会を経験した子どもたちも、この問いにはとまどいを示した。そこで、活動の中に「校長先生の話」を位置付け、学校行事の中での運動会を意義を話していただいた。この話を基に、運動会がたくさんのことを学び、成長できる場であること、そしてその頑張りの場合は、競技だけでなく係や応援、仕事などたくさん場があることを押さえさせた。</p> <p>(2)運動会での役割を確かめ、自分の目標を決める 運動会を成功させるためには、自分の頑張る場がわかり、そして、自分の目標をしっかりと決めることが大切であることを押さえ、「運動会がんばりカード」に自分の仕事、役割、めあて(目標)を記入させた。自分が頑張りたいことを具体的に3つ決めさせ、運動会の取り組み期間中、毎日自己評価させるように表に記入させた。「がんばること」の内容は、単なる競技の目標ではなく、自分の仕事や役割にかかわるもの、運動会練習の態度等を中心に決めさせた。</p>	
準備期間の取り組み	<p>(1)「がんばりカード」でめあての達成状況を自己評価しながら運動会練習に取り組む 「がんばりカード」を廊下に掲示し、毎日の帰りの会でシールを使って自己評価させ、ここでの反省を翌日の練習に生かしていくようにさせた。</p> <p>(2)運動会準備の仕事で自分の役割を果たす 運動会前日の準備では、それぞれの係活動の準備や会場設営に、全員で取り組みました。各係担当の先生の話をよく聞き、真剣に活動に取り組む姿が見られた。準備活動終了後は、これまでの取り組み態度を評価するとともに、当日のめあてを確認させた。</p>	
<p>大運動会当日 <span style="float: right;">それぞれが立てためあてに基づき、各係の仕事や競技、役割に一生懸命に取り組む姿が見られた。</span></p>		
運動会終了後の学級活動	<p>(1)運動会の振り返りビデオを見て運動会の取り組み状況を振り返る 係活動に取り組む場面を中心に編集したビデオを視聴させ、運動会での自分や友達の頑張りを発表させた。</p> <p>(2)運動会を支えた係の働きを考える 「もし係が頑張らなかったらどうなったか?」ということを考えさせた。子どもたちは、係活動無しには運動会が成功できなかったことを話し、役割の大切さを気付くことができた。また、みんなのために一生懸命に働いてどんな気持ちになったかを発表させることで、その気持ちのよさを引き出すことができた。</p> <p>(3)運動会で成長できたことや学んだことをまとめる 「がんばりカード」の「運動会で学んだこと・パワーアップできたこと」の欄に、各自記入させ発表させた。この発表を基に、役割や責任を果たすことの大切さや喜び、めあてに向かって努力することのすばらしさをとらえさせることができた。</p>	

授業実践を終えて(考察)

<p>以下は、運動会後に研究協力校(授業実践校)の職員から寄せられアンケートの回答の一部である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで、勝敗や順位に傾きがちだった子どもの視点が、係活動を中心とした「協力する」「責任を果たす」といった方向に行ったことが大きい。6年生の子どもたちの、全体を見ようとする意識やリーダーとしての自覚が高まった。「運動会を成功させるために」という視点から、この行事が実に多くのキャリア教育と関わっていることを実感できた。運動会は、キャリア教育を展開する上で、とてもよい機会であったと思う。</li> <li>運動会で付けたい力が、子ども達の将来に生きるということを意識しながら指導することができた。</li> <li>運動会の意味や何を育てるのかを自分の中で明確にもつことができ、子どもたちに何を育てるのかという視点ははっきりした。今までは、終わったら何も残らなかった。</li> <li>一人一人が力を発揮すれば、成果が必ず出るということに小さな2年生でも気づくことができた。驚きである。やはり、キャリア教育のためもの...と思いました。</li> <li>「みんなとがんばるのだ、みんなで作り上げるのだ」という意識を常にもたせ、時々反省させることでめあてを守ろうとする意識を高めさせた。目的と指導が一貫し、子どもたちに「自分が伸びた」という満足感を味わわせることができた。</li> </ul> <p>アンケートにあるように、事前指導から事後指導までの過程で、子どもたちに多くのことを学ばせ、成長させることができた。ともすると「恒例行事」としてその行事の目的が薄れがちになることも懸念される運動会にキャリア教育の視点を位置付けたことにより、育てたい力が明確になり、結果よりも過程を重視した「行事を通して育てる」指導が実現できた。</p>
---

4 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの作成

(1) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラム作成の意図

平成18年度進路指導研究協議全国大会において、小学校におけるキャリア教育の課題として以下の二点が指摘された。

- ・キャリア教育のとらえや具体的な授業のイメージ化が十分に図られていない。キャリア教育についての基本的な理解や認識が不十分である。
- ・キャリア教育を直ちに「職場体験」「職業教育」としてとらえ、小学校でも同様の活動を取り入れなければならないといったキャリア教育についての曲解、誤解がある。

本研究ではこうした課題に対応し、小学校におけるキャリア教育の推進に資することを目的として、「キャリア教育モデルカリキュラム」を提示する。これは、これまで取り組んできた指導計画作成や授業実践の成果をまとめ、実践的なキャリア教育の指針として示したものである。

(2) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの構成

【図3】のように、特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムは、キャリア教育についての基本的な理解を図ることを目的とした「理論編」「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開～キャリア教育授業づくりの基本ステップ～」と、特別活動を中心としたキャリア教育の具体的な授業構想を示した「実践編」「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開～キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン～」の2部構成とした。



【図3】特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの内容教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン～)の2部構成とした。

(3) 特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの概要

特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの内容構成及びその概要を次頁【表3】にまとめた。

【表8】特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの内容構成と概要

	目的	章構成とタイトル	掲載内容とその概要
特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラム 理論編	キャリア教育の考え方や方向性について基本的な理解を図る。 特別活動を中心としたキャリア教育の指導計画及び授業についての理解を図る。	キャリア教育のとらえQ&A	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育の概念や目的、国、県の動向、基本的な推進の方向性等について、14のQ&amp;A形式で解説した。</li> <li>キャリア教育にかかわるトピックや新聞記事、指導計画作成に関する実物資料等を掲載し、キャリア教育の理解が具体的に図られるようにした。</li> </ul>
		特別活動を中心としたキャリア教育の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動をとおしてキャリア教育を進める際の基本的な視点や考え方を示した。</li> <li>特別活動をとおしてキャリア教育を推進する際の具体的な手順やポイントを8段階のステップ方式で解説した。</li> <li>題材一覧や指導案等の実物を基にした具体的な解説をした。</li> </ul>
		キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業づくりの実際 1 キャリア教育全体構想案の立案 2 キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体構想立案で作成する諸資料（「学習プログラムの枠組み」「全体計画」等）の実物を示した。</li> <li>特別活動で行うキャリア教育の典型的な題材として、「学級活動」「学校行事」「日常的な活動」の実践例を具体的に示した。</li> <li>キャリア教育の視点を明示した指導案及び授業で用いたワークシート等の諸資料、児童の感想、写真等を掲載した。</li> </ul>
特別活動を中心としたキャリア教育の推進資料として、キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画を提示する。	キャリア教育の視点を位置付けた学級活動指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>各活動におけるキャリア教育のポイントや育成する進路発達（キャリア発達）にかかわる能力を具体的に示した。</li> <li>進路発達を促す指導上の留意点、工夫点を具体的に明示した。</li> <li>事前指導、事後指導のポイントを示した。</li> <li>本題材にかかわる各教科や道徳、総合的な活動の時間等との関連の視点を示した。</li> </ul>	
	キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の指導計画案		

5 小学校におけるキャリア教育の推進及び特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムに関するアンケート調査の分析と考察

(1) 調査の目的と内容

提示した特別活動を中心とするキャリア教育モデルカリキュラムの内容検証及び小学校におけるキャリア教育推進の状況等を明らかにするため、研究協力校（以下「協力校」と表記）教師へのアンケート（評定尺度法と自由記述法の併用）調査を行う。一部調査は、昨年度実施した調査結果との比較検討を行い、キャリア教育に対する協力校教師の意識の変容をとらえる。アンケート調査の内容と設問意図は、【表9】のとおりである。

【表9】アンケート調査の内容と設問意図

設問内容	設問意図
1 キャリア教育の具体的なイメージをもつことができたか	キャリア教育についての理解状況の把握
2 特別活動におけるキャリア教育の授業の手順や留意点を理解できたか	
3 「理論編」について気付いた点、意見、感想等	モデルカリキュラムの内容検証
4 「実践編」について気付いた点、意見、感想等	
5 掲載した指導計画によるキャリア教育推進についての意見、感想等	
6 各小学校においてキャリア教育を推進していく上でのポイント	

(2) アンケート調査の分析と考察

ア キャリア教育についての理解状況について

【表10】は協力校教師のキャリア教育への理解状況を把握する資料として、キャリア教育に対する具体的なイメージ形成の状況についてまとめたものである。平成17年度調査の段階では、キャリア教育の具体的なイメージをもてないとする回答が3名（回答者、10名）であったが、今年度の調査では、全ての教師がキャリア教育についてのイメージ形成がなされたと回答している。その理由

【表10】キャリア教育についての理解状況

【設問1】 「キャリア教育」の具体的なイメージをもつことができたか		
	平成17年調査	平成18年調査
ア イメージできた	0	5
イ 大体のイメージはできた	6	5
ウ あまりイメージできない	3	0
エ イメージできない	0	0

「注」無回答1 (単位：人)

【平成18年調査の「ア」「イ」の回答理由】

- ・指導案が具体的だった。実際に授業を見ることができた。
- ・資料が具体的で、どのような場面でどのような力を育てるが明らかであったため。
- ・実践例が豊富に提示されていたため。
- ・授業を参観したり、自分で授業したりしたため。
- ・まだ消化しきれないところはあるが、具体的に授業の中でどのように進めていくか、どのような内容を取り上げていくのか、多くのことがわかった。
- ・資料から、子どもたちにつけたい力をどう指導していけばよいかわかった。
- ・今までやってきた中からのキャリア教育の実践だったから。

としては、モデルカリキュラムからキャリア教育で付けたい力や内容がとらえられたこと、掲載した指導案や授業実践例が具体的かつ豊富であったこと、さらにモデルカリキュラムを基にした実際の授業を参観したり、自分で実践してみたりしたことなどが挙げられている。

キャリア教育の具体的な授業レベルでの理解状況は、【表11】の〔設問2〕の回答状況からとらえた。資料（モデルカリキュラム）を熟読していないという理由から、「あまり理解できなかった」との回答が1名あったが、他の全ての教師は特別活動におけるキャリア教育の授業づくりのについて大体の理解はできたと回答している。

【表10】【表11】の資料から、協力校教師は提示したモデルカリキュラムを読むこと、さらにモデルカリキュラムを基にした具体的な実践に触れることで、キャリア教育のについての理解を深めたものととらえる。

#### イ モデルカリキュラムの内容について

【表12】に、モデルカリキュラムの内容に関する調査項目〔設問3～5〕についての自由記述の回答（回答者、10名）をまとめた。

「理論編」の設問では、「Q & A」形式の解説により内容が十分に理解できること、実践編の項で板書や資料、児童の反応等が具体的で実際の授業がイメージできること等の回答が多く、作成意図であるキャリア教育に対する基本的な理解を図ることという目的は達せられたものととらえる。

〔設問4〕〔設問5〕は、「実践編」及び作成した指導計画についての意見を求めたものである。指導計画集については、「指導のポイントがとらえられる」「具体的ですぐに実践できる（実践したい）」等の回答が得られた。指導計画に記載した授業の内容に関しては、小学校においてキャリア教育を推進する際のポイントとなる、「これまでの教育課程にキャリア教育の視点を生かす」「日

【表11】キャリア教育についての理解状況

〔設問2〕 特別活動におけるキャリア教育の授業づくりの手順や留意点を理解することができたか	
	平成18年調査
ア 理解できた	3
イ 大体は理解できた	4
ウ あまり理解できなかった	1
エ 理解できなかった	0
「注」無回答2 (単位:人)	
〔回答理由〕	
(ア・イ) ・学年の発達段階を考えて作成されている。 ・1年生から段階を踏んで、行事と合わせて高めていくことがわかった。 ・資料が具体的で実践例が豊富に示されているため。	
(ウ) ・資料を熟読できなかった。	

【表12】モデルカリキュラムの内容に関する記述状況

〔設問3〕	「理論編」(「キャリア教育授業づくりの基本ステップ」)についての意見等
	「実践編」(「キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン」)についての意見等
	モデルカリキュラムに掲載した指導計画によるキャリア教育推進についての意見等
〔設問4〕	
〔設問5〕	

常の実践を積み重ねて力をつける」といった点に触れた記述が多くあった。モデルカリキュラムの内容が、キャリア教育推進の方向性の理解に適したものであったととらえる。

#### ウ 今後のキャリア教育推進における課題について

今後のキャリア教育推進に関する意見等を【表13】にまとめた。

課題として最も多く挙げられたことは、キャリア教育についての正しい理解を図る必要があるということである。アンケートの指摘に見られたように、「キャリア」という用語による

<p>【表13】今後のキャリア教育推進に関する意見等</p> <p>〔設問6〕 今後、県内各小学校でキャリア教育を推進していく上での課題やポイントと思われること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャリア教育」についての正しい知識を広めること。そして実践を通し、その有用性を教師が体感していくことが必要。</li> <li>・「キャリア教育」という名前がいまひとつ…。教育の内容と「キャリア」というイメージがずれているような…。気張らず取り組めるモデル資料があればよい。</li> <li>・特別活動の研究会で、積極的に紹介していきたい。そのことで、底辺の拡大周知につながる。</li> <li>・ネーミングはやはり、エリート教育とまちがえやすいので、別名を考えてはどうか。生き方指導は、児童の進路指導として必要な学びであると思う。</li> <li>・モデルカリキュラムをもとに授業実践をする。学校公開をし、子どもたちの生き生きとした姿を見せる。</li> <li>・その大切さを知らせることが必要。学校体制で取り組みたい。</li> <li>・キャリア教育の授業についての具体的なイメージをもつことが、まず第一に必要。そして、小学校段階でやるべきことを把握して実践していくべきである。</li> </ul>
---

キャリア教育の誤解が相当数あるものと思われ、県内各小学校においてキャリア教育についての理解は未だ十分とは言えない。如何にキャリア教育についての理解と実践の普及が大きな課題であると言える。キャリア教育についての理解を広める方法として、作成した指導計画案に基づく授業実践の推進と普及、特別活動研究会等での協力校の研究内容の紹介等が挙げられた。

6 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究のまとめ  
本年度の目標は、第1年次に立案した特別活動におけるキャリア教育全体構想に基づき、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の指導計画の作成及び授業実践を行い、特別活動を中心とした実践的なキャリア教育モデルカリキュラムを提示し、小学校におけるキャリア教育推進の方途を示すことであった。その成果と課題について以下にまとめる。

#### (1) 成果

ア 第1年次に立案した特別活動におけるキャリア教育全体構想に基づき、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の指導計画を作成することができた。

(ア) 従来の特別活動の指導計画を生かしたり、新たに題材開発をしたりしながら、キャリア教育の視点を位置付けた小学校全学年の学級活動及び学校行事等の年間題材一覧を作成することができた。

(イ) キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる諸能力及び進路発達を促す指導上の留意点を明示した単位時間の学級活動指導案、学校行事等の指導計画案を作成することができた。

(ウ) 事前や事後の指導のポイント及び他教科等との関連の視点を示し、系統的・計画的なキャリア教育の展開を意図した指導計画の作成ができた。

イ 作成した特別活動の指導計画を基に、学級活動、学校行事、日常的な活動の場で具体的なキャリア教育の授業実践を行い、意図した児童の反応を得ることができた。

(ア) 特別活動指導計画作成の視点及び授業プラン作成上の留意点に基づき、幅広い視点から小学校全学年を網羅する多様なキャリア教育授業実践を行うことができた。

(イ) 従来の学級活動の趣旨を生かした実践や新たに題材を開発した実践を行うことにより、学級活動におけるキャリア教育の多様なパターンの授業実践ができた。

(ウ) キャリア教育の視点を位置付けた学校行事及び日常的な活動の授業実践ができた。

(イ) 学級活動及び学校行事等、それぞれの活動のねらいの達成を図ることをとおし、児童の進路発達にかかわる諸能力を多様な視点から育成することができた。

ウ キャリア教育の基本的なとらえや特別活動に焦点を当てた授業構想の立案の仕方及び授業実

践例を掲載した特別活動を中心とした実践的なキャリア教育モデルカリキュラムを作成することができた。

(ア) キャリア教育についての「理論編」(『『生き方』を学ぶキャリア教育の展開 ~キャリア教育授業づくりの基本ステップ~』)を作成し、小学校におけるキャリア教育についての基本的な理解を図ることを目的とした具体的な手だて(手引き書)の提示ができた。

(イ) キャリア教育についての「実践編」(『『生き方』を学ぶキャリア教育の展開 ~キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン~』)を作成し、特別活動を中心としたキャリア教育の授業構想立案の具体的な手だて(手引き書)の提示ができた。

## (2) 課題

作成したモデルカリキュラムを基に授業実践を行い、それぞれの授業レベルでは成果を得た。しかし、モデルカリキュラム全体を通じての授業実践は為されていない。このカリキュラムを基にした授業実践を継続し、児童の変容を見取りながら、モデルカリキュラムの修正、改善を加えていく必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、本研究で作成した特別活動を中心とする実践的なキャリア教育モデルカリキュラムは、小学校におけるキャリア教育推進に資するものであるととらえる。

### 研究のまとめ

本研究は、進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動の実践的な指導計画を作成し、特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育のモデルカリキュラムの提示をめざしたものである。

2年次研究の第1年次である昨年度は、先行研究や文献から得た資料を基にキャリア教育の意義や位置付けを分析・検討した上で、特別活動におけるキャリア教育の全体構想の立案を行った。

第2年次である今年度は、キャリア教育全体構想を基に、キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導計画の作成と授業実践を行い、特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育のモデルカリキュラムを提示した。

2年間の研究の成果と課題について、以下のようにまとめることができる。

#### 1 研究の成果

(1) 将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する基本構想の立案

キャリア教育の意義や学校教育における位置付け、めざすべき児童生徒像、育成すべき諸能力等を明らかにすることができた。このことにより、小学校キャリア教育においてめざす児童像と培うべき力を具体化することができ、その実現のための基本構想を立案することができた。

(2) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画の作成に関する推進試案の作成  
キャリア教育において培うべき進路発達にかかわる八つの能力を具体的に設定することができた。そして、これらの能力を培うための特別活動指導計画の位置付けや内容及びその作成のための手順や留意点を明示した特別活動指導計画の作成に関する推進試案を作成することができた。

(3) キャリア教育全体構想の立案

先行研究や文献、研究協力校での教育計画(学校経営概要)等の資料を基に、育成すべき能

力を児童の発達段階毎に示したキャリア教育学習プログラムの枠組みとキャリア教育全体計画及び全体構想表を作成し、キャリア教育の全体構想を立案することができた。

(4) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画

キャリア教育全体構想を基に、キャリア教育のポイントや育成すべき進路発達にかかわる能力及び指導上の留意点や工夫点等を盛り込んだ特別活動の指導計画を作成することができた。この指導計画を基に、小学校の各学年における題材や育成する能力、指導展開案を具体的に示すことができた。

(5) 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動指導計画に基づく授業実践

特別活動においてキャリア教育を展開する際のポイントに焦点を当て、典型的な授業題材について実践を行った。この実践を基に、キャリア教育の授業の方途や指導のポイントを具体的に示すことができた。

(6) 小学校キャリア教育モデルカリキュラムの提示

作成した特別活動指導計画や実践授業の概要を「キャリア教育モデルカリキュラム」としてまとめた。このことにより、キャリア教育についての基本的な理解の段階から具体的な授業づくりの段階までを解説した資料提示ができ、小学校キャリア教育の推進に資することができた。

## 2 今後の課題

(1) 本研究で示した特別活動におけるキャリア教育推進の具体的な方途を、他教科等にも広げ、キャリア教育が学校の教育活動全体を通じて展開されるよう、キャリア教育指導計画の一層の充実と具体化を図っていく必要がある。

(2) 本研究で作成した「小学校キャリア教育モデルカリキュラム」について、具体的な実践をとおしながら、さらに改善、拡充を図るとともに、リーフレットや小冊子の活用等、各学校における本カリキュラムの普及の方途を検討していく必要がある。

## おわりに

この研究を進めるに当たって、花巻市立湯口小学校の先生方や子どもたち、保護者の方々、湯口中学校の皆さんから、多大なるご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

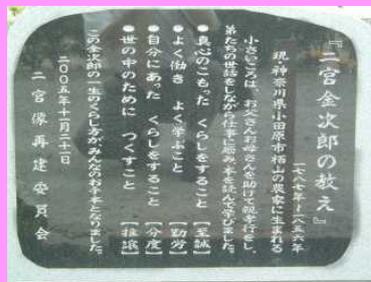
## 【参考文献】

- 池上彰監修・こどもくらぶ著(2003),『キャリア教育に役立つたくさんの仕事 たくさんの未来』  
全10巻,小峰書店
- 井上裕吉編著(1997),『学級を「場」とする進路の指導 「生きる力」を育てる』,明治図書
- 大久保幸夫(2004),『仕事のための12の基礎力』,日経BP社
- 神奈川県立総合教育センター(2005),『キャリア教育推進ハンドブック』,神奈川県立総合教育センター
- 京都教育大学附属京都小学校・京都中学校(2005),『特色ある学校作り「新学校構想」』
- 京都教育大学附属京都小学校・京都中学校(2006),『これならできるキャリア教育』,明治図書
- 児島邦宏・三村隆男編(2006),『小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案』,明治図書
- 児玉光雄(2004),『松井秀喜・イチローに学ぶ プロフェッショナル・シンキング』,二見書房
- こどもくらぶ編(2005),『だれにもわかるキャリア教育のテーマ50』,学事出版
- 斎藤孝(2001),『「できる人」はどこがちがうのか』,ちくま新書
- 仙崎武・池場望・宮崎冴子(1999),『21世紀のキャリア開発』,文化書房博文社
- 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子(1991),『進路指導論』,福村出版
- 鳥居徹也(2005),『フリーター・ニートになる前に読む本』,三笠書房
- 内藤勇次編著(1997),『夢と希望を育てる生き方の教育』,学事出版
- 日本進路指導協会(2005・2006),『進路指導第78巻～第79巻』,(財)日本進路指導協会発行
- 沼津市立原東小学校・三村隆男(2005),『キャリア教育が小学校を変える』,実業之日本社
- 花巻市立湯口小学校(2005・2006),『学校経営概要』
- ひらたつまびらか・鶴田麻也美著(2006),『小学校キャリア教育と授業プログラム』,日本標準
- 福地守作(1995),『キャリア教育の理論と実践』,玉川大学出版部
- フリーター研究会編(2001),『フリーターがわかる本!』,数研出版
- 古田足日(1970),『ロボット・カミィ』,福音館書店
- 三村隆男(2004),『キャリア教育入門 その理論と実践のために』,実業之日本社
- 三村隆男編著(2004),『はじめる小学校キャリア教育』,実業之日本社
- 三村隆男編著(2006),『キャリア教育と道徳教育で学校を変える!』,実業之日本社
- 宮川八岐・有村久春編(1999),『小学校学習指導要領Q&A～解説と展開～』,教育出版
- 悠木そのま(2004),『みんなのキャリアデザイン なりたい自分になるために』,文芸社

# 「生き方」を学ぶ キャリア教育の展開

～「キャリア教育」授業づくりの基本ステップ～

「キャリア教育」って何？  
今、どうしてキャリア教育なの？  
小学校のキャリア教育の授業って、どうするの？



## はじめに

「キャリア教育の理念は、現在の教育を救う一つの考え方である。」と言われます。昨今、フリーターやニートの増加、子どもたちの学ぶ意欲や学力の低下、将来の夢や憧れの喪失等々、様々な社会問題や教育課題が発生する中、子どもたちに確かな生きる力を培う教育として、今、キャリア教育が注目を集めています。とりわけ、小学校段階から発達段階に応じ、主体的に自らの進路を選択・決定できる能力を培う教育の推進が求められています。

本書「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開」は、小学校におけるキャリア教育の推進に資することを目的として作成したもので、主にキャリア教育についての基礎的な理論を中心に解説してあります。内容は、キャリア教育の基本的な考え方や特別活動を中心とするキャリア教育の授業づくりの仕方、実践事例の紹介等によって構成され、キャリア教育について実践的に学べるように編集しました。なお、本書を基に、特別活動の指導計画案集としてまとめたものが、「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開」です。

両書が、先生方のキャリア教育実践の一助になれば幸いです。

## もくじ

<b>I</b>	<b>キャリア教育の基本的なとらえQ&amp;A</b>	(1)
<b>II</b>	<b>特別活動を中心としたキャリア教育の授業づくり</b>	(16)
<b>III</b>	<b>キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業づくりの実際</b>	(25)
<b>1</b>	<b>キャリア教育全体構想案の立案</b>	(26)
(1)	キャリア教育学習プログラムの枠組み	(26)
(2)	キャリア教育全体計画	(27)
(3)	キャリア教育全体構想表	(28)
<b>2</b>	<b>キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業実践</b>	(29)
(1)	学級活動におけるキャリア教育の展開例	(30)
	「すごいなみつけ」で自己理解と他者理解の深化を図った授業	
	「学校の仕事調べ」で勤労に関する理解や意欲の啓蒙を図った授業	
	教科学習を基に命の尊さを考えさせ将来の夢や希望を育んだ授業	
	職業の種類や役割を考えさせ働くことへの興味・関心を高めた授業	
	自らの夢を考えさせ日々の学校生活への意欲の向上を図った授業	
	「フリーター問題」から将来の職業生活への関心を高めた授業	
	中学校と連携し希望や目標をもって生きる態度の形成を図った授業	
	そうじについての話し合い活動をとおしてキャリア発達の育成を図った授業	
	係活動についての話し合い活動をとおしてキャリア発達の育成を図った授業	
(2)	学校行事「運動会指導」におけるキャリア教育の展開例	(52)
(3)	日常的な活動におけるキャリア教育の展開例	(55)
	「たてわり班自由遊び」をとおして	
	「朝の会・帰りの会」をとおして	
	<b>【参考資料】</b>	<b>(59)</b>

# キャリア教育の基本的なとらえ

## Let's learn !

## Q & A

この章では、キャリア教育の概要や目的、推進の方向性など、キャリア教育についての基本的な考え方について14のQ&Aで解説します。

### MENU

- Q 1 「キャリア教育」とはどのような教育なのでしょうか  
 Key Word **生き方教育** **勤労観・職業観** **主体的な生き方・進路選択**
- Q 2 今どうしてキャリア教育の推進が求められているのでしょうか  
 Key Word **職業・勤労にかかわる社会問題** **生き方・進路の問題**
- Q 3 昨今のキャリア教育をめぐる動向はどのようになっていますか  
 Key Word **小学生からキャリア教育** **組織的・系統的キャリア教育**
- Q 4 小学校からキャリア教育を行う理由は何ですか  
 Key Word **主体的進路選択のための基礎** **小、中、高の系統性**
- Q 5 キャリア教育では、どのような子どもの姿をめざすのですか  
 Key Word **社会的自己実現** **主体性** **適切な判断・処理・思考** **自己の考え**
- Q 6 キャリア教育では、どのような力を育てていけばよいのでしょうか  
 Key Word **キャリア教育学習プログラムの枠組み** **進路発達にかかわる諸能力**
- Q 7 キャリア教育を始めるといことは、「新たな教育活動を始め」ということなの  
 のでしょうか  
 Key Word **生きる力** **学習指導要領** **教育活動の見直し**
- Q 8 小学校でのキャリア教育の進め方についての基本的な考え方を教えてください  
 Key Word **現行教育課程** **キャリア教育の視点**
- Q 9 各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等においてキャリア教育を行う際  
 には、どのような視点が大切になるのでしょうか  
 Key Word **既存の教育課程の枠**
- Q 10 キャリア教育はどのような手順で進めていけばよいのでしょうか  
 Key Word **全体構想立案** **指導構想立案**
- Q 11 キャリア教育学習プログラムの枠組みはどのように作成したらよいのですか  
 Key Word **「勤労観・職業観を育む学習プログラムの枠組み(例)」**
- Q 12 キャリア教育全体計画はどのように作成すればよいのですか  
 Key Word **学校の全体教育計画** **学習指導要領**
- Q 13 育成する能力・態度と指導の場の全体構想表の作成はどのように進めたらよいの  
 ですか  
 Key Word **教科等の特性と指導内容**
- Q 14 キャリア教育を推進していくために、どのような基盤整備に心がけたらよいので  
 しょうか  
 Key Word **学年・学級経営** **基本的生活習慣** **共通理解** **連携**



## Question 1

### 「キャリア教育」とはどのような教育なのですか？

## Answer

「キャリア教育」は、子どもたち個々の「生き方」にかかわる指導援助です。キャリア教育では、子どもたちが自らの将来の生活において自己実現を図り、主体的な生き方ができるよう適切な価値観や態度、能力を育みます。



キャリア教育とは、子どもたち一人一人の進路発達を支援し、望ましい勤労観や職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる能力や態度を育成する教育です。

「キャリア教育」という言葉は、昨今、いろいろな所で耳にします。「キャリア教育」という文言が、文部科学行政関連の公文書の中に初めて登場したのが、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」（平成11年）においてです。この中で、キャリア教育について、「望ましい職業観・勤労観及び職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」という説明がなされています。

また、平成16年に文部科学省から示された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」（以下「キャリア教育報告書」と略します）では、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」ととらえています。そして「キャリア教育」について、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育。端的には、児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」と定義

付けています。「キャリア発達」とは、「進路発達」と同じ意味で使われます。子どもたちが、自らの生き方や進路を主体的に選択できる力を獲得するまでに育てていく成長や発達の過程のことです。「勤労観」「職業観」は、キャリア教育で子どもたちに育む価値観です。勤労観とは、勤労についての価値的な理解であり、働くことそのものに対する個人の価値的な見方や考え方、態度を意味します。職業観とは、職業についての価値的な理解であり、生きていく上での職業の意義や役割についての認識を意味します。

つまり、キャリア教育とは、子どもたちの生き方にかかわる指導・援助です。子どもたちが自らの将来の生活において、社会的・職業的な自己実現を図り、主体的な生き方ができるよう適切な価値観や能力、態度を育む教育活動であることからとらえることができます。

#### キャリア教育とは...

子どもたちが、働くことにかかわりながら自己実現が図られるように、一人一人の進路発達を支援し、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる能力や態度を育成する教育です。

#### 誤解していませんか？ 「キャリア教育」の意味 「キャリア教育 エリート教育」

「キャリア教育 = エリート養成教育」、という誤解はないでしょうか。「ノンキャリア」「キャリア組」という言葉は、確かに「上級公務員」「高級官僚」といった意味での使われ方がありますが、もともとの「キャリア」の語源には「車の轍・目標に向かって進んだ足跡」という意味があります。

キャリア教育は、決して「いい大学」に進学したり、「いい仕事」に就職したりすることを目的とするものではなく、一人一人の子どもが自分の人生の生き方を自分で考え、自分の進むべき道を自己選択、自己決定できる力を育てるものです。つまり、一人一人の子どもが自分の人生をよりよく生きるための「生き方」を学ぶ教育がキャリア教育なのです。

Question 2

今どうしてキャリア教育の推進が求められているのでしょうか？

Answer



若者の離職率の高さやフリーター、ニートの増加が社会問題になっています。勤労観や職業観の未熟さ、職業人としての基礎的な資質や能力の低下が懸念されています。

将来の自分の夢を描けず、学ぶ目的や意欲が欠如した子どもたちの増加が指摘されています。自らの人生を主体的に生きようとする意欲や態度、自己の問題を適切に処理する力の育成が大切になってきているのです。

今、子どもたちの「生き方」や進路にかかわる問題が深刻になってきています。

キャリア教育報告書では、次のような問題点を指摘しています。

高校進学者の中途退学者の増加、大学進学者の無気力化、フリーターやニートの増加、若年層の早期離退職...といった青少年の勤労意識や職業意識の希薄化に伴う問題が深刻化してきていること。さらに、円滑な人間関係が構築できない、自分の問題を自分で適切に処理できない、生きる喜びや充実感を感じられない...等、自らの人生を主体的に生き抜こうとする力を欠く大人が増加していることです。

同報告書は、学校生活の場においても、子どもたちの将来の生き方や進路にかかわる問題状況を指摘しています。不登校やいじめ、集団不適應、非行等の問題行動、将来の夢や憧れの喪失、学ぶ意欲や学力の低下、学校での学びと社

会生活との分断等の問題です。

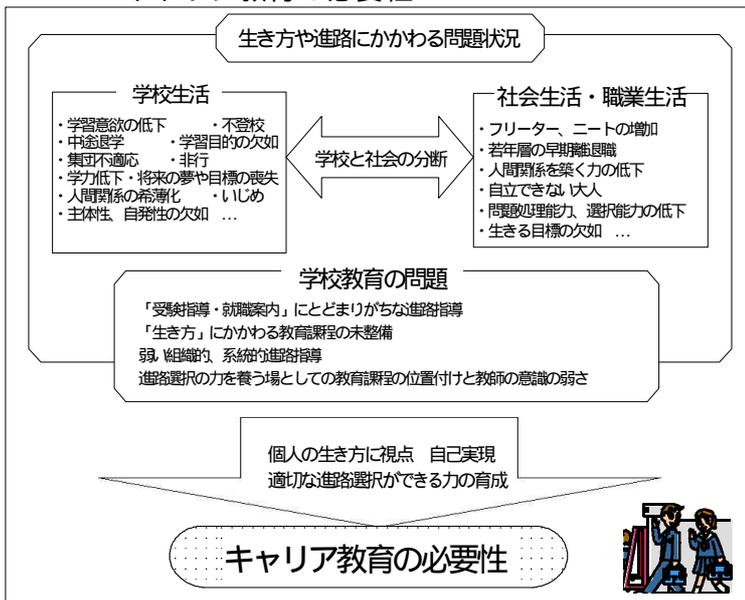
このような問題状況を改善していくためには、子どもたちが自らの意思で自らの進路を決定し、自分の生き方を見つめながら自己実現を図ろうとする力や態度を育てていくことが必要です。そのため学校教育において、学校での学びが自らの豊かな社会生活に生きて働くものになるように、社会人や職業人としての資質や能力を高めたり、豊かな人間性を育成したりする教育が求められています。

子どもたちの進路にかかわる指導は、これまでも中学校や高等学校を中心に、「進路指導」として扱われてきました。けれども、どうしても上級学校への進学や就職のための「受験指導・就職案内」的な指導にとどまる傾向が見られました。そのため、子どもたちの将来の職業生活や人生設計等を見通し、子どもたち自身の「生き方」という視点からの指導は十分ではありませんでした。

また、小学校においては、「進路指導」という言葉さえもなじみが薄く、自らの進路の在り様を考えさせたり、適切な進路選択のために必要な態度や力を養ったりする教育は、あまり為されてはきませんでした。

以上に示すように、現在の学校教育において、「個人の生き方」といった視点から一人一人の子ども自己実現を図り、自らの人生を主体的に生きる力として適切な進路選択ができる力を養う教育、すなわち「キャリア教育」をどのように行っていくか、その在り方が今、重要な課題となっているのです。

【図1】生き方や進路にかかわる問題状況とキャリア教育の必要性



「フリーター・ニート」とは、どういう人たち？

内閣府では次のように定義しています。

**フリーター** 学生と主婦を除く15～34歳の若年のうち、パート、アルバイト（派遣等を含む）及び働く意志のある無職の人

**ニート** 高校や大学などの学校及び予備校、専修学校等に通学しておらず、配偶者のいない15～34歳の人(Not in Education, Employment or Training)

Question 3

昨今のキャリア教育をめぐる動向はどのようになっていますか？

Answer

教育界だけでなく、経済界においてもキャリア教育の推進が求められ、国レベルでキャリア教育関連の諸政策が展開されています。このことは、若者の勤労や進路に関する問題状況の深刻さを表しています。

小学校段階から、子どもたちの発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が必要とされています。岩手県においても、県の教育課題重点施策の一つに小学校におけるキャリア教育の推進が挙げられています。



最近のキャリア教育に関する国の動向として、3つの主な動きについて紹介します。

『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(調査研究報告書)』

職業観・勤労観の育成等にかかる取組の現状と課題や各学校段階等において取り組むべき主な課題について分析し、職業観・勤労観を育むための小・中・高一貫した系統的な学習プログラムの開発等についてまとめられたものです。(平成14年11月 報告書公表・国立教育政策研究所)

『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書』

子どもたちの成長・発達や進路を取り巻く今日の新たな状況を踏まえ、生涯にわたるキャリアを形成していく基盤を培う場として特に重要な意味を持つ、初等中等教育におけるキャリア教育の基本的な方向等について、まとめられたものです。(平成16年1月28日 報告書公表・文部科学省)

『若者自立・挑戦プラン』

高い失業率やフリーターやニートの増加などの問題に対し、文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣及び経済財政政策担当大臣の4大臣から構成される「若者自立・挑戦戦略会議」が立ち

上がりました。この施策では、キャリア教育の推進が大きな柱のひとつとして位置付けられています。文部科学省では、関係機関や産業界、地域との連携を図りながら、義務教育段階からの組織的・系統的なキャリア教育の推進やインターシップなどの職業体験の促進、フリーターへの再教育の実施など、教育の面から若年者雇用問題などに取り組んでいます。

国同様に本県においても、右の岩手日報紙にあるように小学校からのキャリア教育の推進が、重要な教育課題施策となっています。

日 幸辰(夕刊) 2006年(平成18年)3月13日(月曜日)

# 小学生からキャリア教育

**県教委**

増加するニートやフリーター対策のため、県教委は勤労観、職業観を育成するキャリア教育を小学生から始める。新年度、県内二地区をモデル地域に指定し、キャリア教育の視点から小学校教育の在り方を見直す。小学校はこれまでも生活科や総合的な学習の時間、道徳特別活動などで「自立や生き方」について教育をしてきた。そうした学習内容を見直し、中学や高校へと続くキャリア教育プログラムづくりを目指す。

## 職業観の育成に力

新年度から学習内容を見直し

県教委が新たに取組むのは、小中高キャリア教育地域ぐるみ推進事業。県の1006年度当初予算案に三百四十万円が盛り込まれた。具体的には職場見学、職場体験、農林漁業体験、廃品回収など生活科や総合的な学習の時間、特別活動で行われている授業・活動だけでなく、あいさつ・掃除、児童会など学校で日常行われている活動もキャリア教育の視

◎ キャリア教育 児童生徒に望ましい職業観や勤労観、職業に関する知識や技能を身に付けさせる。自分の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。これまでは中学や高校卒業時の進路就職のための進路指導は行われてきたが、小学生も含め発達段階に応じたキャリア教育が求められている。

建築士の指導員(ニハス)を招き、早町の児童、県教委は新年度、小学生の学習や活動に「キャリア教育」の視点を盛り込み、職業意識を育てる事業を始める。資料

北上、宮古をモデル地区

(参考；岩手県教育委員会学校教育室ホームページ <http://www2.iwate-ed.jp/sed/eresch/carrer.html>)

## Question 4

## 小学校からキャリア教育を行う理由は何ですか？

## Answer

児童期は、将来の主体的な進路選択のための基礎的な資質や能力、態度を育成する時期であり、進路発達上重要な位置付けがなされています。



組織的・系統的なキャリア教育の推進のために、小学校から高等学校等まで一貫した指導が重要です。小学校から、発達段階に応じたキャリア教育を行うことが大切なのです。

キャリア教育の推進によって、学校教育における諸問題の改善が期待されます。

中央教育審議会「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」の答申において、「望ましい職業観・勤労観及び職業に対する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある」と述べられています。

小学校では学習指導要領に、「進路指導」という明文化された位置付けはなされてはいませんが、子どもたちの適切な進路発達を促し、望ましい能力・態度を育てていくためには、次のような理由から、児童期である小学校段階からキャリア教育を展開していくことが重要であると言えます。

## 進路発達における児童期の重要性から

児童期は、空想から興味が生まれ、様々な能力へと発展する段階です。また、この時期は、将来の主体的な進路選択のための基礎的な資質や能力、態度を育成する時期です。つまり、児童期は進路発達上重要な位置付けがなされるのです。ものの見方や考え方、価値観や人との接し方など、キャリア教育で育成する能力や態度は、人間としての生き方に直接かかわるものであり、中学校や高等学校での「進路指導」の時間のみで養われるものではありません。適切な時期に、適切な力を、計画的・系統的に育成していくことがキャリア教育のねらいの実現のために必要となります。

## 組織的・系統的なキャリア教育の推進のために

子どもたち個々の発達段階に即し、適切な進路発達を図るためには、小学校から高等学校までの各学校段階において、組織的・系統的なキャリア教育を展開していくことが重要です。

「キャリア教育報告書」においても、小・中・高12年間の一貫したキャリア教育の必要性が求められています。とりわけ中学校との接続を意識しながら、小学校でのキャリア教育の充実を図ることは、指導の充実につながるものです。



## 学校教育における進路にかかわる問題状況の改善のために

上越教育大学の三村隆男先生は、「キャリア教育によって、子どもたちは自分の人生を大切にすることを学び、同じように他人を大切にできるようになります。学校内でのいじめの兆候も見当たらなくなります」と主張しています。子どもたちが自らの将来や進路について主体的に考えようとする力を身に付けることにより、学ぶ意欲が高まり学校生活の向上が期待されます。キャリア教育によって、人間関係の改善、学力や生活力の向上、生徒指導上の問題の改善等、子どもたちの生きる力が高まり、現在学校教育において抱えている多くの問題状況の改善が期待されます。

Question 5

キャリア教育では、どのような子どもの姿をめざすのですか？

Answer

「自らの人生に前向きに臨み、自己の個性をよりよく発揮しながら社会的な自己実現を図ろうとする主体性を身に付けた人間」、「多様な考え方や情報を適切に判断、処理したり、思考したりしながら、自己の考えを確立できる人間」が、最終的な目標像です。

小学校では、自らの生き方や進路を主体的に選択できる力の基礎的な素地を培います。

文部科学省は、「キャリア教育報告書」において、キャリア教育を推進する上での基本とすべき方向性について、右のように4点を挙げています。

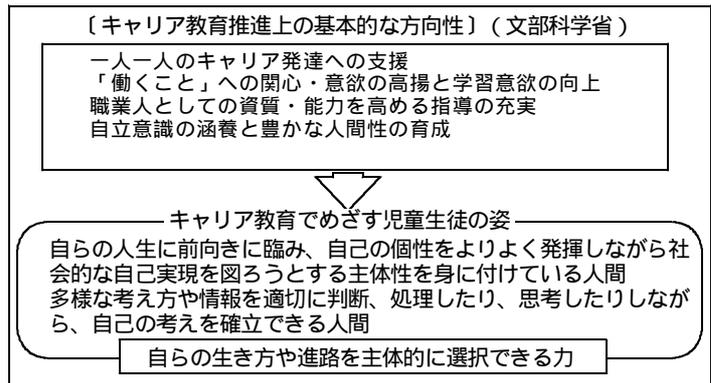
この方向性に基づいて、小学校から高等学校までのキャリア教育においてめざす子どもの姿を、「自らの人生に前向きに臨み、自己の個性をよりよく発揮しながら社会的な自己実現を図ろうとする主体性を身に付けている人間」「多様な考え方や情報を適切に判断、処理したり、思考したりしながら、自己の考えを確立できる人間」とまとめました。

このめざす姿に到達するために、子どもたちに培う力が、「自らの生き方や進路を主体的に選択できる力」です。これは、子どもたちが、自己の個性をよりよく発揮しながら自己実現を図り、生きる喜びを感じ、主体的な生き方ができるようになるために必要となる力です。具体的には、自らの生き方や進路の選択決定に作用する能力や態度ととらえられます。

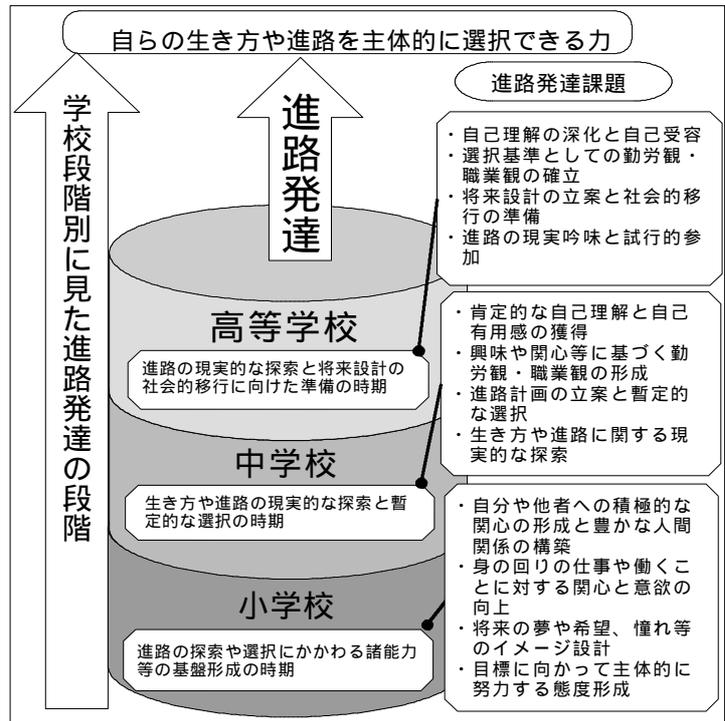
キャリア教育では、【図3】のように各学校段階に応じた進路発達課題（進路発達上、達成が期待される発達課題）を達成させ、望ましい進路発達を図りながら、この力を育てていくことが大切になります。

進路の探索や選択にかかわる諸能力等の基盤形成に位置付く小学校では、次のよう

な子どもの姿をめざしてキャリア教育を展開します。



【図2】キャリア教育でめざす児童生徒の姿



【図3】児童生徒の進路発達と進路発達課題

小学校キャリア教育でめざす児童の姿

他者との好ましい人間関係を築く中で、自分の個性やよさに気付き、将来の夢や希望を描ける子  
働くことや役割を果たすことの価値に気付き、職業についての興味や理解を深める子  
向上心をもって物事に取り組み、目標に向かって努力する意欲や態度を身に付けた子  
情報を適切に処理しながら、自分の考えを深め豊かに表現できる子

Question 6

キャリア教育では、どのような力を育ていけばよいのですか？

Answer

「自らの生き方や進路を主体的に選択できる力」を具体化した能力が、キャリア教育で培う具体能力になります。

進路発達課題に対応した能力領域の視点から、子どもたちの進路発達をバランスよく支援していくことが大切です。そのために、「進路発達にかかわる諸能力」をキャリア教育で培う具体能力として設定します。

国立教育政策研究所「キャリア教育学習プログラムの枠組み(例)」を参考に、育成する具体能力を設定します。

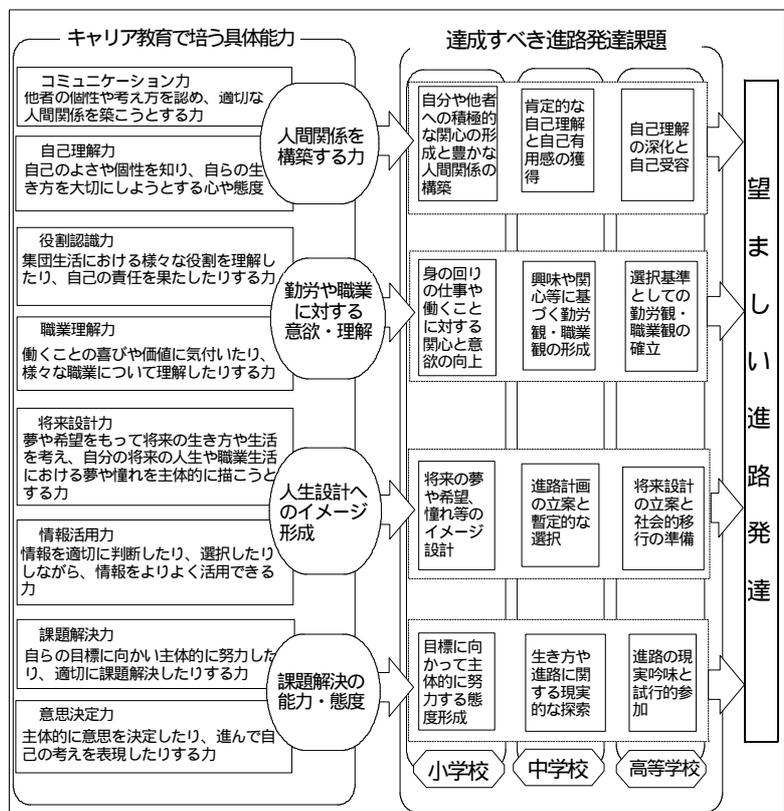
キャリア教育の最終的な目標は、子どもたちが自分の将来の生き方や進路を主体的に選択できる力を培うことにあります。この力を育てるためには、進路発達に対応した能力領域の視点から子どもたちの進路発達をバランスよく支援していくことが大切です。この能力領域を基に、キャリア教育で培う具体能力として設定したのが、「進路発達にかかわる諸能力」です。

これらの能力領域や具体能力を設定する際には、国立教育政策研究所から示された「キャリア教育学習プログラムの枠組み(例)」が参考になります。ただし、これはあくまでも「例」ですので、学校や子どもたちの実態等を考慮しながら、自校に相応しい能力領域や具体能力を位置付けることが大切です。

ここでは【図4】のように、キャリア教育で培う能力領域を「自他の理解や望ましい人間関係の構築にかかわる能力領域(人間関係を構築する力)、仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域(勤労や職業に対する意欲・理解)、将来の夢や希望、憧れ等の人生設計にかかわる能力領域(人生設計へのイメージ形成)、目標に向かって努力する態度の形成にかかわる能力領域

(課題解決の能力・態度)」の4つとし、これらを基に育てるべき具体能力として8つの力を定めた例を紹介します。

この図のように、育てるべき能力を具体的に設定することにより、小学校、中学校、高等学校それぞれの学校段階で達成が望まれる進路発達課題が明確になり、目標を焦点化したキャリア教育の推進が期待できます。



【図4】進路発達にかかわる諸能力(例)と進路発達課題

Question 7

キャリア教育を始めるといことは、「新たな教育活動を始めるといことなのでしょうか？」

Answer

学習指導要領、キャリア教育ともに、子どもたちの「生きる力」を育てることをめざしており、その目的が合致しています。キャリア教育は、決して「新しい教育活動」ではありません。

キャリア教育は、子どもたちが、自分の人生を主体的に生きられるようになるために、必要な能力や態度、知識をどのように育てるかという視点から現行の全教育活動を見直すことから始まります。キャリア教育を始めるといことは、決して新たな教育活動を始めることではありません。

小学校学習指導要領には、「キャリア教育」「進路指導」等の文言の記載は見られません。しかし、小学校学習指導要領総則の教育課程編成の一般方針の項では、「各学校においては、児童の生きる力を育むことをめざし、創意工夫を生かし特色ある教育活動を展開する中で、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」と記されています。このことは、一人一人の子どもの進路発達を支援し、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる能力・態度を育成することをめざしたキャリア教育の目的と合致するものです。

三村先生は、「キャリア教育は新しい教育ではありません。今までの授業や学校生活の中に、その材料があります。例えば、日常行われる清掃活動や給食の配膳の仕事等も勤労観の育成に大きな役割を担います。」と主張しています。また、筑波大学教授の渡辺三枝子先生は、「キャリア教育は、教育活動全体で取り組むもので、新たにキャリア教育専用の活動を取り入れる必要はありません。キャリア教育は、児童生徒が、

小学校学習指導要領におけるキャリア教育に関する主な記述  
 【総則】  
 「児童に生きる力をはぐくむことをめざし、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、個性を生かす教育の充実に努めなければならない」  
 【総則 第3】  
 「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」  
 【総則 第5】  
 「各教科等の指導に当たっては、児童が学習課題を選択したり、自らの将来について考えたりする機会を設けるなど工夫すること」  
 【第4章 特別活動】  
 「児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるように工夫すること」

自分の人生を主体的に生きられるようになるために、必要な能力や態度、知識をどのように育てるかという視点から全教育活動を見直すことから始まります。」と述べています。

したがって、キャリア教育は別個な教育課程を編成して展開するのではなく、現行の教育課程をキャリア教育の視点からとらえ直し、それぞれの教育課程を推進する中で目標の実現を図っていくものととらえます。



ちょっと待って！ 「キャリア教育」「職場体験」「職業教育」

「キャリア教育を始めると聞くと、「さあ、職場体験!」「それ、職業教育!」ととられがちですが、「ちょっと待った!」です。確かに職業について調べたり、実際に働く人の姿を見学したりする活動は大事なキャリア教育の学習の要素ではありますが、キャリア教育で育てたい力は、「主体的に自らの生き方や進路を主体的に選択できる力」であり、進路発達にかかわる力を**バランスよく**育てていくことが大切なのです。進路発達にかかわる力とは何かを具体的にとらえながら、その力をどの教育活動でどのように育てていくか考えていくことが大切です。職場体験や職業教育は、キャリア教育の「一部」なのです。

## Question 8

小学校でのキャリア教育の進め方についての基本的な考え方を教えてください

## Answer

「キャリア教育」として新たな教育課程を創設したり、特定の時間を設けたりするのではなく、教科等の通常の教育活動を展開する中で適切な進路発達を図ります。

教科等の各教育課程にキャリア教育で培いたい諸能力を計画的・系統的に位置付けていきます。

各教育課程にキャリア教育の視点を位置付けて授業を展開することにより、キャリア教育及び各教育課程双方の目標が相乗的に実現され、子どもたちの生きる力が育まれていくものと考えます。

小学校においてキャリア教育を推進するに当たって、次の2点を基本的な考え方として押さえます。

一つは、「キャリア教育」として新たな教育課程を創設したり、特定の時間を設定したりするのではないということです。「生きる力」の育成をめざして編成された現行の教育課程には、キャリア教育の要素が多く含まれています。そこで、教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の既存の指導計画を生かしたり、通常の日常活動で行われている給食指導や清掃指導等の場を通じたりしながら、学校教育全体をとおした中でキャリア教育を展開していきます。

もう一点は、教科等の各教育課程にキャリア教育で培うべき諸能力を計画的・系統的に位置付けていくということです。各教育課程において、進路発達にかかわる具体能力をどこでどのように育てていくかを明らかにしながら、キャリア教育の推進を図っていきます。そのために、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の各教育課程でキャリア教育の視点として位置付けられる内容と、培うべき能力を押さえていくことが大事になります。

このように、各教育課程にキャリア教育の視点を位置付けて授業を展開することにより、キャリア教育の目的の実現が図られるとともに、その教育課程の目標も相乗的に実現され、より

## キャリア教育は、どの学年でも！

望ましい進路発達を図るためには、子どもたちの発達段階に応じた進路発達課題を達成させる指導が必要です。将来の自分の人生を主体的に考え、しっかりとした進路を選択できる力を培うためには、1年生には1年生なりに、6年生には6年生なりに育みたい態度や力があるのです。キャリア教育は系統的、計画的に進めることが大切です。

## キャリア教育は、どの教育活動でも！

6年生の国語の教材に谷川俊太郎さんの「生きる」という詩があります。授業では、この詩の感想を交流し合ったり、将来の夢を想像したりする学習が行われますが、「自分の考えをしっかりと話す・聞く」「将来の夢や希望を膨らませる」といったことは、キャリア教育で培いたい視点です。このように、各教育課程においてキャリア教育の視点を明らかにすることによって、通常の授業の中で進路発達にかかわる力を育てることができるのです。

充実した授業が期待できるのです。

つまり、「キャリア教育の視点を各教育課程に位置付ける」ことは、子どもたちの生きる力を培う上で各教育課程が果たすべき役割を今一度明確にすることでもあり、キャリア教育の推進は学習指導要領に示された各教育課程の目標実現に直結するものなのです。



Question 9

各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等においてキャリア教育を行う際には、どのような視点が大切になるのでしょうか？

Answer

キャリア教育は、既存の教育課程の枠の中で、その目標達成を図る過程で推進します。

各教育課程における、キャリア教育の指導内容(進路発達にかかわる能力の育成が図られる内容)の洗い出しが必要です。

キャリア教育は、既存の教育課程の枠の中で、その目標達成を図る過程で推進していきます。

各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間、日常活動等の場における指導内容を吟味し、それらの教育課程においてキャリア教育の指導内容(進路発達にかかわる能力の育成が図られ

る内容)として位置付けられる内容を洗い出していくことが大切です。

各教科等において位置付けられるキャリア教育の視点やキャリア教育とのかかわりがある指導内容には、下表のような内容が挙げられます。

自らの生き方や進路を主体的に選択できる力

人間関係を構築する力	コミュニケーション力	自己理解力
勤労や職業に対する意欲・理解	役割認識力	職業理解力
人生設計へのイメージ形成	将来設計力	情報活用力
課題解決の能力・態度	課題解決力	意思決定力
能力領域	具体能力	

教育課程	キャリア教育の視点・キャリア教育とのかかわりがある指導内容
各教科	基礎・基本の定着 主体的なコミュニケーション活動 学習事項の生活場面や将来の生き方への適用 生活を支える身の回りの人々の仕事や役割 人生に対する考え方や生き方 問題解決的な学び方の習得 生活場面からの教材化
道徳	基本的な生活習慣や善悪の判断、社会生活上のルール 自主性、協力し合い助け合う態度 働くことの意義の理解と責任感 目標に向かい主体的に努力する態度や希望をもって生きる心 生活を支える人々の役割の理解と感謝
特別活動	学級活動 基本的な生活習慣の形成 望ましい人間関係の育成 生活を支える役割の理解と責任の遂行 希望や目標をもって生きる態度の形成 生活上の諸問題の実践的解決 主体的なコミュニケーション活動
	学校行事 目標の実現に向けた努力の蓄積と充実感 勤労や生産活動の尊さ、喜びの感得 集団活動を支える役割理解 集団行動における望ましい態度形成
	委員会活動 クラブ活動 集団活動を支える組織や役割の理解 異年齢間の交流 役割や責任を果たす意義と充実感 自己の興味・関心の追究
総合的な学習の時間	自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力 主体的、創造的な探求活動 自然体験、社会体験、観察・実験、見学等の体験的学習、問題解決的学習 自己のよりよい生き方を考える場
日常生活の諸活動	日直、清掃活動、給食時の当番活動等における役割の理解と責任の遂行 休み時間における集団遊び等での人間関係構築 栽培活動、飼育活動



## Question 1 0

キャリア教育はどのような手順で進めていけばよいのでしょうか？

## Answer

キャリア教育の推進は「キャリア教育全体構想立案」と「キャリア教育指導構想立案」の二本柱で進めます。

全体構想では、「キャリア教育学習プログラムの枠組み」「全体計画」「育成する能力・態度と指導の場の全体構想表」を作成します。

キャリア教育は、決して新しい教育課程を編成することではありません。「適切な進路発達(キャリア発達)をどこで、どのように図るか」という観点から、これまで行われてきた教育活動を見直し、計画的、系統的に進路発達にかかわる諸能力を育成していくことが求められます。

そこで、キャリア教育を推進する際には、「キャリア教育全体構想立案」と「キャリア教育指導構想立案」という二本の柱について構想を立てることが必要になります。



### キャリア教育全体構想とは

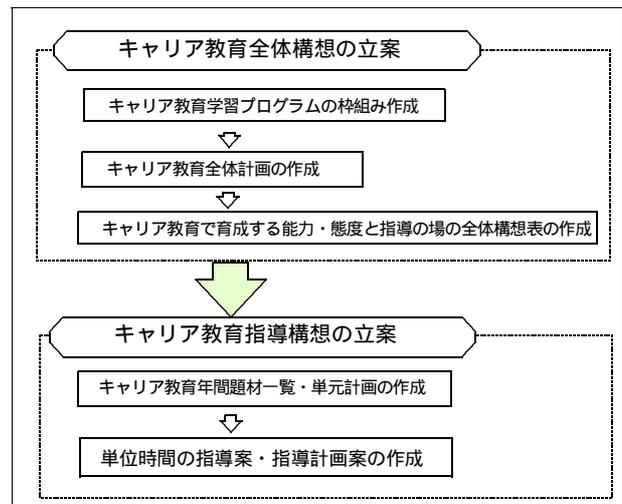
「キャリア教育全体構想」とは、全教育活動の中のどの教育課程の場で、どのような進路発達にかかわる力をつけていくか、キャリア教育の全体構想について立案したものです。具体的には次の3つの手順で構想を立てていきます。

#### キャリア教育学習プログラムの枠組み作成

キャリア教育学習プログラムとは、子どもたちの発達段階に応じ、キャリア教育において培う能力や態度を具体的に示したものです。これがキャリア教育の指導計画を編成する際の基になります。

#### キャリア教育全体計画の作成

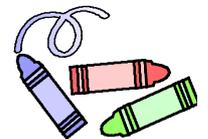
これはキャリア教育が、学校教育のどの場で、どのように資するか、学校教育推進上のキャリア教育の位置付けを示したものです。キャリア教育に対する学校の基本的な考え方を表したものになります。



【図5】キャリア教育の具体的な構想の手順

### 育成する能力・態度と指導の場の全体構想表の作成

キャリア教育学習プログラムとキャリア教育全体計画を基に、進路発達にかかわる具体能力を、教育課程のどの場で育成するかを示したものを全体構想表としてまとめたものです。



### キャリア教育指導構想とは

キャリア教育全体構想を基に、各教育課程の実際の授業の場での、キャリア教育の指導構想を具体化したものが「キャリア教育指導構想」です。ここでは、単元や単位時間レベルでの指導計画を作成して、キャリア教育の具体的な授業プランを立てます。



Question 1 1

キャリア教育学習プログラムの枠組みはどのように作成したらよいのですか？

Answer

国立教育政策研究所から示された「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」を参考に、自校の子どもたちや学校、地域の実態等を基に、育成すべき能力領域、具体的能力・態度を設定します。

子どもたちの発達段階を小学校(低学年、中学年、高学年)、中学校、高等学校の五つの段階でとらえ、それぞれの段階で育成すべき能力・態度を育成します。

小学校から高等学校までの12年間の系統性が見通せるよう、表形式で作成します。

作成に当たっては、国立教育政策研究所の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」が参考になりますが、これはあくまでも「例」です。自校の子どもたちや地域、学校等の実態をとらえながら、「将来の自分の生き方や進路を主体的に選択できる子ども」に育てるために必要な力を決めていきます。

育てたい力を9ページに掲げた4領域、8具体能力と定めて設定したものです。

「学習プログラム枠組み」に掲載する項目  
 進路発達段階  
 学校段階毎の進路発達課題  
 育成する能力領域  
 育成する具体能力  
 発達段階毎の育成すべき能力・態度

下のキャリア教育学習プログラムの枠組みは、

【キャリア教育学習プログラムの枠組み(例)】

項目	項目			進路発達を促すために育成する具体的能力・態度		
	低学年	中学年	高学年	中学校	高等学校	
進路発達段階	進路の探索や選択にかかわる諸能力等の基礎形成の時期			生き方や進路の現実的な探索と暫定的な選択の時期	進路の現実的な探索と将来設計の社会的移行に向けた準備の時期	
進路発達課題 (望ましい進路発達を図るために達成すべき発達課題)	自分や他者への積極的な関心の形成と豊かな人間関係の構築 身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上 将来の夢や希望、憧れ等のイメージ設計 目標に向かって主体的に努力する態度形成			肯定的な自己理解と自己有用感の獲得 興味や関心等に基づく勤労観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的な選択 生き方や進路に関する現実的な探索	自己理解の深化と自己受容 選択基準としての勤労観・職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実的試行と試行的参加	
進路発達にかかわる諸能力						
能力領域	具体的能力					
【人間関係を構築する力】 自他の理解や望ましい人間関係の構築にかかわる能力領域	【コミュニケーション力】 他者の個性や考え方を認め、適切な人間関係を築こうとする力 【自己理解力】 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようとする心と態度	・基本的な挨拶や返事やがし りことができる。 ・友達と仲良く遊んだり、活動したりすることができる。 ・自分の好きなことや得意なことを表現できる。	・相手の意見をよく聞き、協力して物事に取り組むことができる。 ・自分の考えや意見をもち、表現できる。 ・自分の良さや個性について考え、自分自身についての関心をもつ。	・他者のよさに気づき、進んで人間関係を築こうとする。 ・相手の気持ちを考えながら、集団活動に意欲的に取り組む。 ・自分の長所に気づき、自分らしさを発揮しようとする。 ・自分自身の生き方に関心をもつ。	・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダー、フォロアーの立場を理解し、目的の実現に向けて協力して活動できる。 ・自己の良さや個性について、理解を深める。 ・自分を大事にしようとする心をもつ。	・他者の価値観や個性を認め、場に応じたコミュニケーションを図ることができる。 ・リーダー、フォロアーシップを発揮し、自他の能力とチームワークを高める。 ・自己の職業的な能力・適性を理解し、それらを人生設計や職業生活に生かそうとする。 ・自らの人格や人生を大切にしようとする。
【勤労や職業に対する意欲・理解】 仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	【役割認識力】 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たしたりする力 【職業理解力】 当番や係などの仕事をやり働くことの喜びや価値に気づいたり、様々な職業について理解したりする力	・当番や係の大切さを知り、自分の責任を果たすことができる。 ・当番や係などの仕事をやり働くことの喜びに気づく。 ・家族の仕事や、身の回りの職業に関心をもつ。	・学校生活を支える人々の役割を知り、自らも進んで責任を果たそうとする。 ・働くことの楽しさを知り、進んで係や当番に取り組む。 ・いろいろな職業があることを知り、職業についての興味・関心を高める。	・社会生活には様々な役割があることや、その大切さを知る。 ・自己の役割を知り、進んで責任を果たそうとする。 ・生活を支える職業の役割や働くことの大切さ、苦労を知る。 ・関心のある職業について、興味を深め、理解を深める。	・よりよい集団活動のための役割分担や、その方法等がわかる。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考えることができる。 ・勤労の意義や働く人々の様々な思いを知る。 ・職業についての特色や必要な資質等の理解を深め、自らの生き方や進路選択について考えることができる。	・場に応じて自己の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たすことができる。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ・多様な職業観、勤労観を理解し、勤労や職業に対する理解と認識を深める。 ・職業生活における権利や義務、就業方法等についての理解を深める。
【人生観やイメージ形成】 将来の夢や希望、憧れ等の人生設計にかかわる能力領域	【将来設計力】 夢や希望をもつて将来の生き方や生活を考え、将来の人生や職業生活における夢や目標を主体的に描こうとする力 【情報活用力】 情報を適切に判断したり、選択したりしながら情報をよりよく活用する力	・学校や社会生活において、好きなものを見つけたら、興味や関心を広げたりすることができる。 ・図書を活用したり、インタビュー活動をしたりしながら、必要な情報を得ることができる。	・夢や希望を膨らませながら、自らの将来について考えることができる。 ・関心をもち、インスピレーション活動をしたりしながら、必要な情報を得ることができる。	・憧れとする職業をもち、学習することや将来のことを考える大切さに気づく。 ・多様な資料収集の方法を身に付け、必要な情報を的確に得ることができる。	・将来の夢や職業を思い描き、職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・将来の進路希望に基づき、当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して、調査・収集・整理し活用することができる。	・自己を生かせる生き方や進路について、現実的に考えることができる。 ・将来の進路希望に基づき、現実的な理解に基づき、進路計画を立ててその実現に努力する。 ・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討することができる。
【課題解決の能力・態度】 目標に向かって努力する態度の形成にかかわる能力領域	【課題解決力】 自らの目標に向かい主体的に努力したり、適切な課題解決したりする力 【意思決定力】 主体的な応答の仕方を選択したり、進んで自己の考えを表現したりする力	・基本的な生活習慣を身に付け、身の回りのことは自分で解決できる。 ・きまりを守り、やるべきことを着実にやり遂げることができる。 ・基本的な応答の仕方を選択したり、自分の意思を表現することができる。	・自らの生活の向上をめざして目標を立て、その実現に向けて努力することができる。 ・自分と友達のを比べながら関心することができる。 ・分かりやすく自分の考えを表現することができる。	・自らの生活の向上や将来の夢の実現を願い、目標とそとの実現方法を考え、主体的に努力することができる。 ・話し合い等の場に進んでかわり、他者の意見を取り入れながら自己の意思を高めることができる。	・自ら課題を見出すことの大切さを理解し、よりよい生活や生き方をめざすことができる。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとする。 ・多様な意見や考えを認め、比較したり検討したりしながら、自己の意思を高め、表現できる。	・将来設計、進路希望の実現をめざして課題を設定し、その解決に主体的に取り組む。 ・自己を生かせる役割を果たすための課題と解決策を考え、実行できる。 ・多様な意見や考えを客観的に判断し、自己の意思を構築できる。 ・場に応じながら、自己の思いや意見を適切に表現することができる。

Question 1 2

キャリア教育全体計画はどのように作成すればよいのですか？

Answer

【キャリア教育全体計画（例）】

学校の全体教育計画を基にします。学校の教育目標とめざす子ども像の育成に向けて、キャリア教育を位置付けていきます。

(ポイント)

キャリア教育の学習指導要領上の位置付けを明記し、キャリア教育の目的と内容を押さえます。

(ポイント)

キャリア教育学習プログラムの枠組みを基に、キャリア教育の指導目標である態度や能力を具体化します。

(ポイント)

低学年、中学年、高学年それぞれに、指導目標を具体化して設定します。

(ポイント)

教科・領域等の各教育課程におけるキャリア教育の指導内容を挙げ、キャリア教育推進の方向性を示します。

(ポイント)

実践上の配慮事項や指導上の留意事項等を、キャリア教育を推進していくための基盤として押さえます。

(ポイント)

<p><b>キャリア教育の目的</b></p> <p>○児童一人一人の自己実現を図り、自らの人生を主体的に生きるための価値観や能力・態度を育成する。</p> <p><b>キャリア教育の内容</b></p> <p>小学校学習指導要領</p> <p>○「めざす子ども像」を踏まえ、児童の発達段階に応じたキャリア教育の推進を図る。</p> <p>【原則 第1】 児童に生きる力をはぐくむことをめざし、自ら学び自ら考える力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な力が確かな定着を図り、個性を生かす教育の実践に努めなければならない。</p> <p>【原則 第2】 「学びがやまの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」</p> <p>【原則 第3】 【各教科等の指導に当たっては、児童が学習経験を蓄積したり、自らの将来について考えたりする機会を創出するなど工夫すること】</p> <p>【原則 第4（キャリア教育）】 【児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること】</p>	<p style="text-align: center;"><b>花巻市立湯口小学校キャリア教育全体計画</b></p> <p style="text-align: center;">学校教育目標</p> <p>【努力と集中力で自ら考え、自ら学び、自らをつくる子どもの育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 心のあたたか子ども</li> <li>◇ 体をきたえる子ども</li> <li>◇ 進んで学ぶ子ども</li> <li>◇ 挑戦強い子ども</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>ポイント</b></p> <p style="text-align: center;">めざす子ども像</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>（心のあたたか子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>・価値あるものに感動できる子ども</li> <li>・礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>・よく考え、正しく判断できる子ども</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>（進んで学ぶ子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を身に付け、学びがはかまる子ども</li> <li>・詳細を見つめ、進んで学ぶ子ども</li> <li>・自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>・創造を立って深く考える子ども</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>（体をきたえる子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>・健康・安全に気をつける子ども</li> <li>・目標を決め、体力づくりに取り組む子ども</li> <li>・継続正しい生活ができる子ども</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>（挑戦強い子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はげしく仕事をやりぬく子ども</li> <li>・力を合わせて活動する子ども</li> <li>・くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>・他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p>（心のあたたか子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>・価値あるものに感動できる子ども</li> <li>・礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>・よく考え、正しく判断できる子ども</li> </ul>	<p>（進んで学ぶ子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を身に付け、学びがはかまる子ども</li> <li>・詳細を見つめ、進んで学ぶ子ども</li> <li>・自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>・創造を立って深く考える子ども</li> </ul>	<p>（体をきたえる子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>・健康・安全に気をつける子ども</li> <li>・目標を決め、体力づくりに取り組む子ども</li> <li>・継続正しい生活ができる子ども</li> </ul>	<p>（挑戦強い子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はげしく仕事をやりぬく子ども</li> <li>・力を合わせて活動する子ども</li> <li>・くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>・他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul>	<p><b>教育関係法令等</b></p> <p>日本国憲法 教育基本法 学校教育法 小学校学習指導要領 指導要領 指導要領解説 指導要領解説</p> <p><b>児童の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おだやかなで専断である。</li> <li>・明るく、誰にでも挨拶ができる。</li> <li>・知的好奇心が豊かであり、学習意欲が高い子どもが多い。</li> <li>・粘り強さに欠ける。</li> <li>・相手の立場を考えた行動に欠ける。</li> </ul> <p><b>家庭・地域の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育への関心が強く教育推進意欲が望ましい。</li> <li>・学校に対する支援体制ができてきている。</li> <li>・学校の諸行事や授業における協力が積極的である。</li> <li>・自然環境、文化遺産、伝統行事等の自然環境、社会環境が豊かである。</li> </ul>
<p>（心のあたたか子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の気持ちを考え、思いやりのある子ども</li> <li>・価値あるものに感動できる子ども</li> <li>・礼儀正しい挨拶ができる子ども</li> <li>・よく考え、正しく判断できる子ども</li> </ul>	<p>（進んで学ぶ子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎・基本を身に付け、学びがはかまる子ども</li> <li>・詳細を見つめ、進んで学ぶ子ども</li> <li>・自分の考えをもち、表現する子ども</li> <li>・創造を立って深く考える子ども</li> </ul>					
<p>（体をきたえる子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進んで運動を楽しむ子ども</li> <li>・健康・安全に気をつける子ども</li> <li>・目標を決め、体力づくりに取り組む子ども</li> <li>・継続正しい生活ができる子ども</li> </ul>	<p>（挑戦強い子ども）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はげしく仕事をやりぬく子ども</li> <li>・力を合わせて活動する子ども</li> <li>・くじけず、たくましく生きる子ども</li> <li>・他人に尽くす喜びを感じる子ども</li> </ul>					

キャリア教育指導目標			
将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる			
<p style="text-align: center;"><b>ポイント</b></p> <p>自分や周りの人々への関心を高め、豊かな人間関係を築く力を育てる 人間関係構築：コミュニケーション能力・自己理解力</p> <p>身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上を図る 勤労や職業に対する意欲・理解・役割理解力・職業理解力</p> <p>将来への夢や希望を醸成し、自らの豊かな人生設計へイメージを形成させる 人生設計へのイメージ形成・将来設計力・情報活用能力</p> <p>目標に向かって主体的に努力する態度や諸課題を解決する力を育てる 課題解決の能力・態度・課題解決力・意思決定力</p>	<p><b>低学年指導目標</b></p> <p>○基本的な生活の仕方を身に付け、友達と仲良く活動できる。</p> <p>○当番や係、身の回りの様々な仕事の大切さに気づき、自らの役割をやり遂げることができる。</p> <p>○将来の夢や希望をもつことができる。</p> <p>○基本的な学習の仕方を身に付け、意欲的に学習に取り組むことができる。</p>	<p><b>中学年指導目標</b></p> <p>○自分や友達と協力して物事に取り組むことができる。</p> <p>○身の回りの職業や仕事に関心をもつとともに、自らの仕事に積極的にかかわることができる。</p> <p>○将来の夢や希望を膨らませることができる。</p> <p>○課題に向かい、主体的に努力することができる。</p>	<p><b>高学年指導目標</b></p> <p>○自分らしさを生かし、自己の責任を遂げて果たすことができる。</p> <p>○様々な職業の様子についての理解を深め、働くことの意義や大切さに気づく。</p> <p>○自らの将来の在り方考える大切さに気づき、職業に対する憧れを膨らませる。</p> <p style="text-align: center;"><b>ポイント</b></p>

教科・領域等におけるキャリア教育の指導内容						
各教科	道徳	特別活動			総合的な学習の時間	日常生活における諸活動
		学級活動	学校行事	見学会・クラブ		
<p>○基礎・基本の定着</p> <p>○問題解決的な学び方の習得</p> <p>○主体的なコミュニケーション活動</p> <p>○生活場面からの教材化</p> <p>○学習事項の生活場面や将来の生き方への活用</p> <p>○生活を支える身の回りの人々の仕事や役割</p> <p>○人生に対する考え方や生き方</p>	<p>○基本的な生活習慣や善悪の判断、生活上のルール</p> <p>○自主性、協力的な働き合い態度</p> <p>○生活を支える人々の役割の理解と感謝</p> <p>○働くことの意義の理解と責任感</p> <p>○目標に向かい、主体的に努力する態度や希望をもって生きる心</p>	<p>○基本的な生活習慣の形成</p> <p>○希望や目標をもつて生きる態度の形成</p> <p>○望ましい人間関係の育成</p> <p>○生活上の諸問題の適切な解決</p> <p>○生活を支える役割の理解と責任の遂行</p> <p>○主体的なコミュニケーション活動</p>	<p>○目標の実現に向けた努力の蓄積と充実感</p> <p>○集団活動を支える役割理解</p> <p>○勤労や生産活動の尊厳と喜びの獲得</p> <p>○集団行動における望ましい態度の形成</p>	<p>○集団活動を支える組織や役割の理解</p> <p>○役割や責任を果たす意義や充実感</p> <p>○異年齢間の交流</p> <p>○自己の興味・関心の追究</p>	<p>○自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力</p> <p>○主体的、創造的な探究活動</p> <p>○自己のよりよい生き方を考える場</p> <p>○自然体験、社会体験、観察・実験、見学の体験的学習、問題解決的学習</p>	<p>○日直、清掃活動、給食時の当番活動等における役割の理解と責任の遂行</p> <p>○休み時間における集団遊び等での人間関係構築</p> <p>○給食活動、飼育活動</p>

キャリア教育推進のための基盤					
学級・学年経営の充実	基本的生活習慣の確立	キャリア教育についての教職員の共通理解	PTA及び地域の協賛施設、諸機関との連携	地域の諸行事、人材、環境等を生かした取り組み	湯口中学校との協力、連携

ポイント

ポイント

### Question 1 3

育成する能力・態度と指導の場の全体構想表の作成はどのように進めたらよいのですか？

### Answer

キャリア教育学習プログラムとキャリア教育全体計画をもとに作成します。

育成をめざす進路発達にかかわる諸能力を、学校のどの教育課程の場で図っていくか、教科等の特性や指導内容等から検討して構想表にまとめます。

作成に当たっては、教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の特性や指導内容と進路発達にかかわる諸能力とを照らし合わせ、教科等のねらいとキャリア教育とのねらいが相乗的に図られる場を検討することが大切です。

また、朝の会や帰りの会、清掃活動や給食当番の活動の場等も、キャリア教育の目的実現には大切な場となりますので、こうした日常活動も構想表に位置付けていくとよいでしょう。

【小学校における進路発達を促すために育成する能力・態度と指導の場の全体構想表（例）】

段階	低学年	中学年	高学年
進路発達課題	自分や他者への積極的な関心の形成と豊かな人間関係の構築 身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上	進路の探索や選択にかかわる諸能力等の基礎形成の時期 将来の夢や希望、憧れ等のイメージ設計 目標に向かって主体的に努力する態度形成	
人間関係を構築する力	・ 基本的な挨拶や返事や返事がしっかりできる。 ・ 友達と仲良く遊んだり、活動したりすることができる。 教科等（生活、授業全般での学習指導） 道徳（礼儀、友情、助け合い） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（朝の会、帰りの会、休み時間等）	・ 相手の意見をよく聞き、協力して物事に取り組むことができる。 ・ 自分の考えや意見を持ち、表現できる。 教科等（国語、教科全般での学習指導） 特別活動（学級活動） 日常生活（朝の会、帰りの会等）	・ 他者のよさに気付き、進んで人間関係を築こうとする。 ・ 相手の気持ちを考えながら、集団活動に意欲的に取り組む。 道徳（友情・信頼、尊敬・感謝） 特別活動（学級活動、児童会活動、学校行事） 日常生活（係活動等）
自己理解力	・ 自分の好きなことや得意なことを表現できる。 教科（生活科、図工、音楽、体育、国語） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（朝の会等）	・ 自分の良さや個性について考え、自分自身についての関心をもつ。 教科（国語、音楽、図工） 総合的な学習の時間 特別活動（学級活動）	・ 自分の長所に気付き、自分らしさを発揮しようとする。 ・ 自分自身の生き方に関心をもつ。 教科（国語、社会、家庭、音楽、図工） 総合的な学習の時間 道徳（向上心、個性伸長） 特別活動（学級活動）
役割認識力	・ 当番や係の大切さを知り、自分の責任を果たすことができる。 道徳（勤勉、誠実、尊敬・感謝） 特別活動（学級活動） 日常生活（清掃、給食、係活動）	・ 生活を支える人々の役割を知り、自らも進んで責任を果たそうとする。 教科（社会科） 総合的な学習の時間 道徳（勤勉、誠実、勤労） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（清掃、給食、係活動等）	・ 社会生活には様々な役割があることや、その大切さを知る。 ・ 自己の役割を知り、進んで責任を果たそうとする。 教科（社会、家庭） 道徳（勤勉、誠実、勤労） 特別活動（学級活動、児童会活動、学校行事） 日常生活（係活動等）
職業理解力	・ 当番や係などの仕事をやりとげることに喜びに気付く。 ・ 家族の仕事や、身の回りの職業に関心をもつ。 教科（生活科） 道徳（家族愛、勤勉、誠実） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（清掃、給食、係活動）	・ 働くことの楽しさを知り、進んで係や当番に取り組む。 ・ いろいろな職業があることを知り、職業についての興味・関心を高める。 教科（社会） 道徳（勤労、誠実、勤勉） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（清掃、給食、係活動等）	・ 生活を支える職業の役割や働くことの大切さ、苦勞を知る。 ・ 関心のある職業について、興味を広く理解を深める。 教科（社会） 道徳（尊敬） 特別活動（学級活動、学校行事） 総合的な学習の時間
将来設計力	・ 学校や社会生活において、好きなものを見つけたり、興味や関心を広げたりすることができる。 教科（生活、音楽、図工、体育） 特別活動（学級活動）	・ 夢や希望を膨らませながら、自らの将来について考えることができる。 教科（図工） 特別活動（学級活動）	・ 憧れとする職業をもち、学習することや将来のことを考える大切さに気付く。 教科（国語、社会、家庭） 道徳（向上心、個性伸長） 特別活動（学級活動、学校行事） 総合的な学習の時間
情報活用能力	・ 要点をとらえた話の聞き方ができる。 教科（国語、授業全般での学習指導） 特別活動（学級活動） 日常生活（朝の会、帰りの会等）	・ 図書を活用したり、インタビュー活動をしたりしながら、必要な情報を得ることができる。 教科（理科、社会、国語） 総合的な学習の時間 特別活動（学級活動）	・ 多様な資料収集の方法を身に付け、必要な情報を的確に得ることができる。 教科（社会、理科、国語、算数） 総合的な学習の時間 特別活動（学級活動）
課題解決力	・ 基本的な生活習慣を身に付け、身の回りのことは自分で解決できる。 ・ しまりを守り、やるべきことを真実にやり遂げることができる。 教科（生活科） 道徳（自立、勤勉、誠実、規則の尊重） 特別活動（学級活動） 日常生活（清掃、給食、係活動）	・ 自らの生活の向上をめざして目標を立て、その実現に向けて努力することができる。 教科（社会、体育、教科全般） 道徳（努力、誠実） 特別活動（学級活動、学校行事） 総合的な学習の時間	・ 自らの生活の向上や将来の夢の実現を願い、目標とその実現方法を考え、主体的に努力することができる。 教科（社会、国語、教科全般） 道徳（向上心、個性伸長） 特別活動（学級活動、学校行事） 総合的な学習の時間
意思決定力	・ 基本的な応答の仕方を身に付け、自分の意思を表現することができる。 教科等（授業全般での学習指導） 道徳（礼儀） 特別活動（学級活動） 日常生活（朝の会、帰りの会等）	・ 自分と比べながら、友達のを聞きとることができ。 ・ 分かりやすく自分の考えを表現することができる。 教科等（国語、授業全般での学習指導） 特別活動（学級活動、学校行事） 日常生活（朝の会、帰りの会）	・ 話し合い等の場に進んでかわり、他者の意見を取り入れながら自己の意思を高めることができる。 教科等（授業全般での学習指導） 特別活動（学級活動）

小学校で達成をめざす4つの進路発達課題を明示

育成すべき能力・態度（めざす児童の姿）

中心的な指導の場となる教育課程上の位置付け

進路発達にかかわる能力領域と具体能力



## Question 1 4

キャリア教育を推進していくために、どのような基盤整備に心がけたらよいのでしょうか？

## Answer

学年、学級経営の充実を図ります。

子どもたち一人一人の基本的な生活習慣の形成に努めます。

キャリア教育の目的や内容、推進の方策について教職員の共通理解を図って進めます。

PTA や地域の諸施設、諸機関との連携を図ります。

中学、高校との指導内容の接続や指導体制の連携を図ります。



キャリア教育は学校の教育活動全体を通じて行われます。もちろん、その中心は授業ですが、円滑なキャリア教育の推進を図るために、「キャリア教育の基盤整備」を図っていくことが必要です。

### 学年、学級経営の充実

キャリア教育は、学校での学びの成果が将来の社会生活に生きて働くよう、学校と社会の円滑な接続を図る取り組みでもあります。日々の授業が充実したものになるよう、教室に一人一人の子どもの確かな学びを保障する雰囲気を作っていくことが、キャリア教育推進の大事な条件となります。

また、子どもたちに「自分の人生を大切にしよう」という気持ちを高めるために、一人一人の存在を尊重し合ったり、互いに高め合ったりし合う民主的な学級風土を作っていくことが大切になります。

### 基本的な生活習慣の形成

キャリア教育で育てる「主体的に自らの生き方や進路を選択決定できる力」の基本となるのが、「集団や社会のルールに適応した行動がとれること。そして、自分のことは自分で決めたり、解決したりできること」です。とりわけ小学校では、「生きる力」の基本として、適切な集団行動の仕方や基本的な生活習慣をしっかり身に付けさせていくことが大切です。そうした基盤形成なしには、一人一人の子どもに適切な進路選択の力を育むことはできません。

### 教職員の共通理解

キャリア教育は、教室にとどまるものではありません。委員会活動や運動会など、学級や学年の壁を越えた場もキャリア教育の対象です。キャリア教育は学校全体での組織的、系統的な取り組みが必要であり、そのために、キャリア教育の目的や学校としての指導の方向性などについて、全教職員の共通理解が大切になります。

### PTAや地域、関係機関との連携

キャリア教育では、「働くこと」や「役割を果たすこと」の意義を学ぶことが、大切な学習内容です。また、学校での学びと社会との接続を図っていくことは、キャリア教育の主たるテーマでもあります。身近な家庭や地域、関係諸機関との連携を図ることにより、子どもたちが仕事や働くことについて主体的に学ぶことができたり、様々な人々の生き方に直接触れることで、自らの生き方を考えたりすることができずす。

### 中学校、高等学校との連携

小学校は進路発達上の一時期にすぎません。小、中、高12年間のキャリア教育を見通した上で、小学校段階でのキャリア教育の充実を図る必要があります。指導の系統性、一貫性を図り、キャリア教育の目的を実現するためにも、中学校や高等学校等との接続を図った指導が大事になります。指導内容の関連を考慮したり、中学校の教師や卒業生を交えた授業を行うなどの指導体制上の連携を図ったりすることが大切になります。

# 特別活動を中心とした キャリア教育の授業づくり

キャリア教育は、学校の全ての教育活動の中で展開されるものですが、ここでは小学校キャリア教育の具体的な授業づくりとして、特別活動をその中心に据えたアプローチについて紹介します。この章の内容は、特別活動におけるキャリア教育の視点や基本的な考え方、指導計画作成の手順などについての解説です。

特別活動を中心としたキャリア教育の授業づくりは次のようなステップで進めていきます。



## 「特別活動を中心としたキャリア教育の授業づくり」のステップ

### STEP 1

特別活動におけるキャリア教育の意義

特別活動においてキャリア教育を推進することの意義や基本的な考え方についてとらえます

### STEP 2

特別活動におけるキャリア教育についての基本的な考え

### STEP 3

キャリア教育の視点を位置付けた指導計画作成の視点

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画の作成のポイントや手順をとらえます

### STEP 4

特別活動年問題材一覧の作成

年問題材一覧の作成のポイントと方法をとらえます

### STEP 5

特別活動授業プランの作成のポイント

授業プラン作成上のポイントをとらえます

### STEP 6

学級活動(1)の指導案作成

キャリア教育の視点を位置付けた学級活動(1)と学級活動(2)の指導案作成のポイントをとらえます

### STEP 7

学級活動(2)の指導案作成

### STEP 8

学校行事等の指導計画の作成

キャリア教育の視点を位置付けた学校行事、児童会活動、クラブ活動、日常活動等の指導計画作成のポイントをとらえます

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業実践

## Step 1

# 特別活動を中心としてキャリア教育の推進を図ることの意義を理解しましょう

## Points

特別活動もキャリア教育も、個性の発見や理解、社会性の育成がキーワード。個々の子どもの豊かな自己実現をめざすという方向性が一致しています。

特別活動でのキャリア教育の効果を、教科や他領域等に転移させることが期待されます。

中学校、高等学校の進路指導は、学級活動中心に行われています。小、中、高一貫したスタンスで、キャリア教育の推進を図ることができます。

小学校学習指導要領において、特別活動の目標が次のように示されています。

望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。

この目標に示された「心身の調和のとれた発達と個性の伸張を図る」「集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」ことは、一人一人の子どもたちが自らの生き方の中で自己実現を図ることができるようにめざしたキャリア教育の方向性と一致するものです。

同指導要領には、「学級活動などにおいて、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること」も特別活動の指導計画作成の配慮事項として示されています。

また、キャリア教育で培いたい能力（人間関係を構築する力、勤労や職業についての意欲・理解、人生設計へのイメージ形成、課題解決の能力・態度）は、個性の発見や理解、社会性の育成といった特別活動で育成すべき資質や能力と重なるものでもあります。

さらに、特別活動は教科や他領域等との関連が大きいことから、特別活動でのキャリア教育の効果を教科、他領域に転移させたり、教科等との関連を生かした重点的なキャリア教育を展開したりすることが期待できるのです。

また、中学校や高等学校ではキャリア教育の

中核となる進路指導が学級活動やホームルーム活動の中で多く行われています。ですから、小学校においても、特別活動をキャリア推進の核に位置付けることで、小・中・高一貫したキャリア教育の充実を図ることができるものと考えられます。

特別活動は、キャリア教育の視点を多く内包した教育活動であり、キャリア教育の柱として位置付けることが期待できるのです。

### キャリア教育の視点を含む特別活動の内容例

#### 〔学級活動〕

- ・学級会の議事運営やテーマについての話し合い活動
- ・係や当番活動における役割の遂行
- ・学級や集団のルールについての理解
- ・基本的生活習慣の形成
- ・始業式での努力目標の設定
- ・将来の夢や目標の設定



#### 〔児童会活動〕

- ・「6年生を送る会」「1年生を迎える会」などでの役割の遂行
- ・委員会活動での活動内容の企画や役割遂行

#### 〔クラブ活動〕

- ・自己の興味の追求
- ・共通の興味をもつ異学年間の交流

#### 〔学校行事〕

- ・各行事での目標設定と実現に向けた努力
- ・運動会、学習発表会などでの役割の遂行

... 等々、キャリア教育の内容、満載！

## Step 2

# 特別活動におけるキャリア教育展開についての基本的な考え方を押さえましょう

## Points

特別活動を構成する4つの内容(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事)における活動題材への直接的なかかわりをとおして、目的とする能力の育成を図ります。

特別活動の活動形態(「話し合い活動」「実践活動」「振り返り活動」)そのものも、諸能力の育成の場として位置付けます。



特別活動の内容及び活動形態におけるキャリア教育の視点を押さえることが大切です。

特別活動においてキャリア教育を推進する際には、次の2点をポイントとして押さえます。

活動内容や活動形態の特質とねらいをとらえた上で、それぞれの活動の中に育成したい諸能力を位置付けていくことが大切です。

一つは、特別活動を構成する4つの内容(学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事)における活動題材への直接的なかかわりをとおして、目的とする能力の育成を図っていくということです。

もう一つは、特別活動の活動形態そのものも、諸能力の育成の場として位置付けるということです。特別活動は、基本的に「話し合い活動」「実践活動」「振り返り活動」という三つの活動形態をとります。題材への直接的なかかわりの場だけではなく、その題材について意見や考えを交流し合う話し合いの場や、実践活動を顧みて自分の成長や課題を明らかにしていく振り返りの場なども、進路発達にかかわる大事な諸能力育成の場ととらえていきます。

### (1) 特別活動の内容とキャリア教育の視点

#### 学級活動

学級活動は、「児童一人一人が、集団の中で自己を生かし、日常生活を営むために必要な行動の仕方を身に付けるなど、健全な生活態度の育成にかかわる活動」(「小学校学習指導要領解説特別活動編」)です。また、同解説書は、「学級活動などにおいて、児童が自ら現在及び将来の生き方を考えることができるよう工夫すること」も求めています。このように、学級活動がめざす方向性は、一人一人の自己実現を図り、主体的な人生を歩むための力の育成をめざすキャリア教育の方向性とも重なるものです。特別活動を中心としたキャリア教育の推進において、学級活動はその基盤に位置付くものです。

#### 児童会活動

児童会活動は、全校児童で組織する児童会において、学校生活の充実と向上を図るために協力して問題を解決することを特質としています。異年齢集団による活動をとおし、協力して活動することの意義や自己の責任を果たすことの大切さを理解したり、奉仕の精神を学んだりする場、個性を伸張する場として位置付けられます。

#### クラブ活動

クラブ活動は、自己の興味を追究することをとおし、将来に向けた夢や希望を醸成する場として位置付けられます。また、異年齢集団による活動をとおし、自己や他者の個性やよさに気付き、望ましい人間関係を構築する力を育成することができる場でもあります。また、自己の役割を果たす大切さや目標に向かって努力することの価値を学ぶ場としても位置付けられます。

#### 学校行事

学校行事は、(1)儀式的行事、(2)学芸的行事、(3)健康安全・体育的行事、(4)遠足・集団宿泊的行事、(5)勤労生産・奉仕的行事の5つの内容から構成されています。いずれの行事においても、集団生活を支える役割や立場の大切さを学んだり、個性を尊重したりする場として位置付けられます。また、勤労生産・奉仕的行事は、勤労観や職業観などの働くことに対する価値観を形成したり、職業についての理解を深めたりする場として位置付けられます。

### (2) 特別活動の活動形態とキャリア教育の視点

#### 話し合い活動

話し合い活動は、学校生活の充実と向上についての解決策を決めたり、日常生活や学習への適応及び安全に関することについて情報交換したりする際の中心的な活動です。この話し合い活動は、進路発達にかかわる諸能力の中のコミュニケーション力、自己理解力、課題解決力、意思決定力等の育成の場となります。

#### 実践活動

「なすことによって学ぶ」ことが特質とされる(「小学校学習指導要領解説特別活動編」)特別活動において中心的な活動です。進路発達にかかわる全能力育成の場として具体的な体験活動をとおす中で、目標の実現を図っていきます。

#### 振り返り活動

振り返り活動は、事前に立てた活動の目標を顧みながら、自他の活動の成果や成長等について振り返る場です。主に自己理解力、将来設計力、意思決定力等の力を育成する場として位置付けられます。

## Step 3

# キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導計画作成の視点と手順を押さえましょう

## Points

特別活動で「どのような力」を、「どのような活動」で、「どのように」育成するかを明示します。

作成上の視点や手順を押さえ、段階的に作成を進めていきます。

特別活動を中心としたキャリア教育は、キャリア教育の視点を位置付けた指導計画の基に展開されます。その作成に当たっては、進路発達にかかわる諸能力の育成の方途を的確に示していくことが必要です。

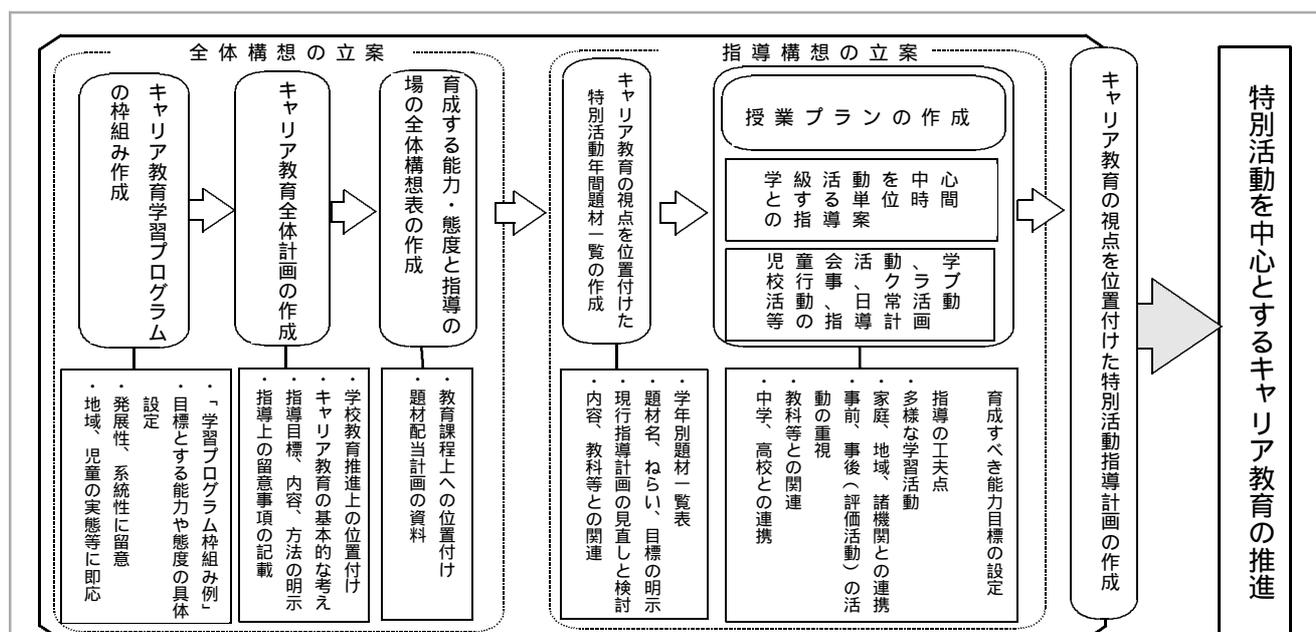
### キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導計画作成上の視点

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画作成の視点として、次の6点が挙げられます。

児童の学年に応じた進路発達課題と育成すべき諸能力を具体的に設定します。  
 特別活動を構成する4内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）や基本的な活動形態（話し合い活動、実践活動、振り返り活動）の特質を生かします。  
 望ましい進路発達を図るための活動内容を開発していきます。  
 望ましい進路発達を図るための指導内容と指導方法の留意点、工夫点を盛り込みます。  
 他教科、他領域等との関連を考慮します。  
 小学校6年間の系統性及び中学校や高等学校との一貫性や関連を考慮していきます。

### キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画の作成手順

指導計画の作成は、下図のように「『全体構想の立案』『指導構想の立案』という流れで進めます。全体構想の立案は、『キャリア教育の基本的なとらえ』（Question10～13）に示した要領で作成します。この全体構想をもとに、具体的な特別活動の指導計画を作成する段階が「指導構想の立案」です。指導構想の立案は、次の「Step 4～8」の要領で進めていきます。



【キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導計画の作成手順】

## Step 4

# キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導構想立案 「特別活動年問題材一覧」を作成しましょう

## Points

「キャリア教育学習プログラムの枠組み」と「キャリア教育全体計画」を基に、進路発達にかかわる諸能力の育成が組織的・系統的に図られるよう配慮しながら、年間の題材配当を考えます。

基本は、これまでの指導計画を生かすこと。従来の特別活動の指導計画をキャリア教育の視点から検討し、それぞれの活動のねらいに、育成したい「進路発達にかかわる能力」を位置付けていきます。

従来の指導計画で進路発達にかかわる具体能力の育成が十分ではないところについては、新たな題材を計画し、バランスよく進路発達の育成が図られるようにします。

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導構想立案の第一段階は、「特別活動年問題材一覧」を作成することです。その際に、最も基本となることは、これまで行ってきた特別活動の授業や指導計画を生かしていくということです。従来の特別活動の指導計画を、キャリア教育の視点から見直していくことが出発点になります。

作成に当たっては、始めに、キャリア教育学習プログラムの枠組みやキャリア教育全体計画を基に、育成したい進路発達にかかわる諸能力を押さえます。

### 【特別活動年問題材一覧（例）】

学級活動は、特別活動の基盤となる活動です。各学年ごとに作成します。指導要領（1）は、「学級や学校の生活の充実と向上に関すること」であり、弾力性、融通性のある題材です。（2）は「日常生活や学習への適応及び健康安全に関すること」で学級担任が着実に指導すべき内容となります。

次に、特別活動の各活動のねらいに育成したい進路発達にかかわる諸能力を位置付け、組織的・系統的に進路発達の育成が図られるよう題材の配当を考えます。その際に、従来の学級活動や行事では育成が不十分なものについては、これまでの活動を吟味・検討した上で、新たな題材を配当していくことも必要になってきます。

この年問題材一覧には、次のような項目を記載するとよいでしょう。

- ・ 題材名 ・ 指導時期（学年） ・ 指導のねらい
- ・ **進路発達にかかわる能力**

（第6学年 学級活動年問題材一覧）

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力					行事等の関係	
				自己理解能力	職業理解能力	将来設計能力	情報活用能力	意思決定能力		
4月	最高学年の役割	(2)	最高学年としての役割を知り、その責任を果たそうとする意欲とリーダーとしての自覚をもつ。							入学式 始業式
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級像を話し合い、その実現に向け、学級目標を決めることができる。							
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。							
5月	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。							修学旅行 児童総会
	修学旅行を成功させよう	(1)	修学旅行の目的を明らかにし、目的実現のための目標や約束を決めることができる。							
	修学旅行を振り返ろう	(1)	目標や約束の達成状況を振り返り、旅行の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。							
	そうじ名人になろう	(2)	そうじの仕方を探し直し、よりよいそうじの仕方を知るとともに、働くことへの一層の意欲をもつ。							
	運動会を成功させよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。							

（キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の題材一覧）

活動・行事・題材	学年	月	活動の主なねらい	進路発達にかかわる能力				
				自己理解能力	職業理解能力	将来設計能力	情報活用能力	意思決定能力
1学期始業式	全学年	4	進級の喜びを感じ、新学年での学校生活における期待と目標をもつ。					
入学式	1・高	4	新入生の入学を互いに喜び合い、新しい学校生活における夢や希望をもつ。					
交通安全教室	全学年	4	正しい交通安全の仕方を知り、自らの身を守る安全意識を高める。					
修学旅行	6	5	社会のルールを学ぶとともに、見聞を広げたり、課題を追究したりする力を高める。					
運動会練習	全学年	5~6	運動会の目標を立て、その実現に向かって努力できる。					

学校行事、児童会活動、クラブ活動、児童会活動の中で、キャリア教育の視点を多く含む活動を選定し題材配当します。

## Step 5

## キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導構想立案 特別活動授業プランの作成上のポイントを押さえましょう

## Points

指導目標、活動内容、指導方法を明確に押さえましょう。

多様な学習活動を取り入れ、子どもたちの主体的な学習を促します。

家庭や地域などとの連携を図りましょう。

実践活動だけではなく、事前や事後の活動も重視します。

教科や他領域等との関連を押さえながら、組織的・系統的な指導をめざします。

中学校や高等学校との連携を図りましょう。



特別活動の授業は、学級を活動の場の中心とする学級活動と、全校的な活動の場である学校行事等（児童会活動、クラブ活動を含みます）に大別できます。いずれにおいても、どのような力をどのように育成していくかという指導目標（内容）や指導方法を、指導者が明確に押さえておくことが重要です。ですから、授業プラン（指導案・指導計画案）には、キャリア教育で培うべき能力と指導の手だて（方法）を具体的に盛り込んでいくことが必要になります。

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業では、指導の手だてとして、次の5点がポイントとなります。

### 多様な学習活動を工夫します



特別活動の特質は、「なすことによって学ぶ」ことです。キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業でも、多様な体験的な活動を取り入れ、子どもたちの主体的な学びを促します。具体的には、話し合い活動や係活動、ボランティア体験、家庭や地域の仕事調べ等の調査活動、中学校や諸施設との交流活動等が考えられます。授業に当たっては、これらの諸活動の特性を把握し、授業の目的実現の方途として位置付けていくことが大切です。

### 家庭や地域、関係諸機関との連携を図ります

キャリア教育では、「働くこと」や「役割を果たすこと」の意義を学ぶことが大切な学習内容です。家庭や地域、関係諸機関との連携を図

った活動プランを構想することにより、諸活動に取り組む子どもたちの意欲が高まり、仕事や働くことについて主体的に学ぶことができます。また、様々な人々の生き方に直接触れることは、子どもたち自身が自らの生き方を考えることにもつながっていきます。

### 事前・事後の活動を重視します

学習の場を単なる活動にとどめるのではなく、事前と事後の活動を含めた、一連の流れの中で指導していくことが効果的な指導につながります。事前の活動では、活動の目標や目的、方法、見通し等を子どもたち自身が具体的にもてるような指導の工夫が大切です。事後では、活動の目標に照らし合わせ、一連の活動を振り返らせながら、適切な評価活動を行っていくことが重要になります。

### 教科、他領域との関連性を指導に生かします

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じて展開されるものです。教科や他領域との関連性を考慮し、組織的・計画的な指導を心がけていくことが、指導の効果を高めていくことにつながります。

### 中学校、高等学校との連携を図ります

指導の系統性、一貫性を図り、キャリア教育の目的を実現するためには、中学校、高等学校等の接続を図った指導も必要です。指導内容の関連性を考慮すると共に、中学校の教師や卒業生を交えた授業を行うなどの指導体制上の連携も有効であると考えられます。

# Step 6

## キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導構想立案

### 授業プラン 「学級活動指導案」〔学級活動(1)〕を作成しましょう

#### Points

学級活動(1)は、「学級や学校の生活の充実と向上に関する活動」であり、授業の形態は、子どもたち主体の話合い活動(学級会)になります。

学級活動(1)では、学級会の運営にかかわるそれぞれの役割を果たしたり、議題(テーマ)に意見を交わし合ったりする話合いの活動そのものが、キャリア教育の視点到位置付きます。

#### 【学級活動(1)の指導案例：話合い活動主体の「学級会型」授業】

- Point**  
本時の活動目標を明示します。
- Point**  
本時の活動をとおして育成したい進路発達にかかわる能力目標を具体的に記載します。
- Point**  
授業の準備や事前の指導のポイントに記載します。
- Point**  
話合いの過程に応じて、活動のポイントや目標達成のための指導上の留意点、工夫点を具体的に記載します。
- Point**  
事後指導のポイントや評価の視点を示し、事前指導から通じた一連の指導で目標実現を図ります。
- Point**  
他教科等の関連の視点を示し、組織的、発展的な指導を図ります。

第6学年特別活動(学級活動)指導案				
1. 題材名 「学級目標を決めよう」 【学級活動(1)：学級や学校の生活の向上に関すること】				
2. 目標 一人一人が学級の成員としての自覚と理想の学級像をもち、よりよい学級生活を願いながら、主体的に学級目標作りに取り組むことができる。				
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<b>キャリア教育のポイント</b> 集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。 よりよい学校生活を願う気持ちをもたせ、目標をもって行動することの意義に気付かせる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、学級目標作りにも主体的に取り組む。 【役割認識力】：話合い活動における自分の役割を理解し、事前の準備や当日の運営において、意欲的に責任を果たそうとする。 【意思決定力】：学級目標についての話し合いを通じ、よりよいクラスを作っていこうとする願いを高め、目標実現に向けた一層の実践意欲をもつ。				
4. 展開案				
始業式や学級活動(「最高学年の役割」)の授業等で、最上級生としての意欲とリーダーとしての自覚を高めておく。 計画委員会を組織し、議題、話合いのめあて、話合いの内容、役割分担を決める。 係担当の子どもたちには、話合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話合いカード」学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「どのような学級にしたいか」「どのような目標がよいか」の2点について、自分の考えをしっかりと決めておく。				
事前	話合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話合いカード  振り返りカード
	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話合い参加させる。 【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
	3 議題の確認	・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。	・最高学年として役割や小学校生活最後の一年であること等について触れ、目標作りに向けた意欲を高める。 【意思決定・役割認識】	
	4 先生から	・担任の話聞き、学級目標について積極的に話し合おうとする気持ちと、話合いの視点をもつ。	・話合いの目的(「最高の顔」=最高のクラス)を常に意識させ、それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話合いをさせたい。 【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
	5 話合い	・話合いの柱に沿い、学級目標について話し合う。  自分が願うクラスの姿 どんな目標がよいか ・スローガン ・具体目標	・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視점에話す。 【意思決定・役割認識】	
	6 まとめ	・話合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。		
	7 先生から	・本時の話合いについて担任の話聞く。		
8 終わりの言葉	・係が開会宣言をする。			
事後	話合い(学級会)の様子を学級通信にまとめ、話合い活動を振り返らせながら、今後の話合いや学級生活に向けた意欲を高める。 決まった学級目標を掲示し、日々、目標を意識した生活に心がけさせる。教師も、常に学級目標に立ち返らせながら、子どもたちの学級生活の様子について評価していく。			
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点				
<b>【学級活動】</b> 題材「最高学年の自覚」において最高学年に進級した喜びを感じるとともに、最上級生としての自覚をもつ。 <b>【国語】</b> 巻頭の詩「創造」を読み、今後の生活についての意欲や夢を膨らませる。				

## Step 7

### キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導構想立案

#### 授業プラン 「学級活動指導案」〔学級活動(2)〕を作成しましょう

### Points

学級活動(2)は、「日常生活や学習への適応及び健康安全に関すること」であり、年間指導計画に則り、教師の意図的、計画的な指導が求められます。

学級活動(2)では、基本的な指導過程を「課題把握 課題追究 まとめ」で構成します。

子どもたちが明確な課題意識をもち、よりよい課題解決を行うために、教師の具体的な資料提示や活動の工夫が大切になります。

#### 【学級活動(2)の指導案例：教師の意図的、計画的指導が中心となる授業】

**Point**  
本時の活動目標を明示します。

**Point**  
本時の活動をとおして育成したい進路発達にかかわる能力目標を具体的に記載します。

**Point**  
授業の準備や事前の指導のポイントを記載します。

**Point**  
指導過程に応じて、指導のポイントや目標達成のための指導上の留意点、工夫点を具体的に記載します。学習活動に応じた具体資料を掲載します。

**Point**  
事後指導のポイントや評価の視点を示し、事前指導から通じた一連の指導で目標実現を図ります。

**Point**  
他教科等の関連の視点を示し、組織的、発展的な指導を図ります。

1. 題材名 「どんな仕事があるかな? 『ご飯 & Wカップ編』」 (学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)		
2. 目標	食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事やサッカーのワールドカップに関連した仕事を調べることをとおし、仕事や職業には様々なかわりや役割があることに気付く。	
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力	<p><b>キャリア教育のポイント</b> ひとつの事象には、多くの仕事がかかわっており、それぞれ大切な役割があることに気付かせる。職業には幅広い種類があることに気付かせ、働くことや職業への興味をもたせる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【将来設計力】：働くことや仕事に対する興味や関心をもつ。 【職業理解力】：一つの事象に関連して多くの仕事や職業があることに気付く、職業への興味をもつ。 【役割認識力】：どの仕事も、それぞれに大切な役割を果たしていることに気付く。</p>	
4. 展開案	<p>本時で用いる資料として、運動会の仕事に関するVTR、ご飯の実物、サッカーワールドカップ関連の資料(VTR、写真)を準備しておく。 本時は社会科の「米作り」(農家の仕事)の学習の発展である。稲作に関する仕事の様子を押さえておく。</p>	
事前	<p>学習活動</p> <p>1 運動会のVTRを視聴し、仕事に「着目」した学習であることを知る。</p> <p>2 「ご飯」の実物から社会科の学習内容を想起し、本時の課題を立てる。</p> <p>3 ウェビングの要領で、米作りの仕事から食卓にご飯が届くまでの過程にある仕事を書き出す。</p> <p>4 完成したウェビングマップを見て、仕事や職業について話し合う。 ・「仕事」と「職業」の意味 ・ご飯に関連した職業の多さ ・それぞれの仕事の役割 ・諺「職業に貴賤なし」</p> <p>5 サッカーワールドカップを題材に、それに関連した仕事調べを行い、職業にはいろいろな関連や種類があることを知る。また、それらの仕事と、今の学校での学習との関連を考える。</p>	
本時	<p>資料等</p> <p>運動会のビデオ</p> <p>ご飯の実物</p> <p>田んぼからご飯までのスライド</p> <p>ワールドカップ関連の記事</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <p>・運動会のビデオから、「仕事」や「働く」という視点から運動会を振り返らせる。 【将来設計】</p> <p>・ご飯の実物を提示し、学習への興味を高める。社会科で学習した農家の仕事の様子を想起させながら本時の課題につなげる。 【職業理解】</p> <p>・ウェビングの手法で、職業の関連を具体的に考えさせる。完成したウェビングマップを基に、職業の種類の多さや、どの仕事も大切な役割を果たしていることなどの意味を押さえる。 【職業理解・役割認識】</p> <p>・身近な話題を基に、職業調べを行い、職業への関心を深めさせる。 【職業理解・将来設計】</p> <p>・ワールドカップに関連する全ての仕事、今の学校での学習と関係することに気付かせ、日常の学習を大切にしようとする意欲をもたせる。 【将来設計】</p>
まとめ	<p>6 本時の学習を振り返り、わかったことや考えたことをシートに書く。</p> <p>7 次時の活動について知る。 ・「お気に入りの仕事調べをしよう」</p>	
事後	<p>授業の様子や個々の子どもたちの感想を学級通信等で知らせ、家庭でも自分に興味ある出来事や職業への興味をもたせるよう促す。</p>	
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点	<p>【社会】 「米作りのさかんな地域」で、米作りの仕事の様子や働く人々の工夫や苦労を調べる。</p>	

# Step 8

## キャリア教育の視点を位置付けた特別活動指導構想立案 授業プラン 「学校行事等の指導計画」を作成しましょう

### Points

活動時だけでなく、事前指導、事後指導を含めた一連の流れの中で、目標実現を図っていきます。

本活動におめるキャリア教育の視点を明示し、育成する能力目標を押さえます。

指導上の留意点や工夫点を押さえます。

### 【学校行事・児童会活動・クラブ活動・日常活動の指導計画例】

〔キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の題材一覧〕				進路発達にかかわる能力						
活動・行事・題材	学年	月	活動の主なねらい	キャリア・メンタリティ	自己理解力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力
1学期始業式	全学年	4	進級の喜びを感じ、新学年での学校生活における期待と目標をもつ。							
入学式	1・高	4	新入生の入学を互いに喜び合い、新しい学校生活における夢や希望をもつ。							
交通安全教室	全学年	4	正しい交通安全の仕方を知り、自らの身を守る安全意識を高める。							
修学旅行	6	5	社会のルールを学ぶとともに、見聞を広げたり、課題を追究したりする力を高める。							
運動会練習	全学年	5~6	運動会の目標を立て、その実現に向かって努力できる。							
運動会	全学年	6	集団行動の仕方を学び、目標に向かって努力したり、責任を果たしたりする態度を身に付ける。							
プール清掃	4~6	6	進んで働くとする意欲をもち、自分の仕事を着実にやり遂げることができる。							
古代むら体験学習	4	6	集団行動のルールを知るとともに、自己の責任を果たすことの大切さや集団活動の楽しさに気付く。							
1学期終業式	全学年	7	1学期の学校生活での成長と課題を振り返り、夏休みに向けての目標をもつ。							
陸上記録会	5・6	9	学校の代表としての誇りをもち、目標をもって、応援や競技に力を発揮できる。							
学習発表会	全学年	10	自分のめあてをもって活動に取り組み、創造力や表現力を高める。							
2学期終業式	全学年	12	1学期の学校生活での成長と課題を振り返り、夏休みに向けての目標をもつ。							
3学期始業式	全学年	1	これまでの学校生活の反省を生かしながら、新学期に臨む意欲と目標をもつ。							
スキー遠足	全学年	2	スキーをとおし、集団で活動することの楽しさや、集団行動のルールを知る。							
体育館ワックス塗り	6	3	校舎への感謝の気持ちをもち、進んで仕事に取り組み、勤労の喜びを知る。							
修了式練習	1~5	3	修了式の意義を知り、一年間のまとめとしての態度を考え、練習に参加できる。							
修了式	1~5	3	一年間の自らの努力と成長に自信をもち、次年度への期待と目標をもつ。							
卒業式練習	4~6	3	それぞれの学年における卒業式の意義を知り、目標をもって練習に取り組むことができる。							
卒業式	4~6	3	6年生の卒業を互いに喜び合い、それぞれの新しい生活に臨む期待と目標をもつことができる。							



Point  
その行事(活動)の  
目標を明示します。

Point  
その行事(活動)を  
とおして育成したい  
進路発達にかかわる  
能力を具体的に記載  
します。

Point  
事前、事後を含め、  
目標を達成のための  
指導上のポイントを  
記載します。



指導学年 1年生  
指導の場 学校行事・学級活動等

#### 入学式におけるキャリア教育展開案(1年生)

1. 目標

入学の喜びを実感し、新しく始まる学校生活における夢や希望を膨らませることができる。

2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
入学は、将来の夢の実現に向けた「はじめの一步」であることを知らせ、新しい生活への夢や希望を膨らませる。  
挨拶や返事、道具の出し入れなど、自分のことは自分でやり遂げようとする意欲や態度を培う。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【将来設計力】: 将来の夢を描き、その実現に向けた一歩として、学校生活への期待を膨らませることができる。  
【コミュニケーション力】: 元気な声で挨拶や返事をしようとする。  
【課題解決力】: 自分のことは自分で解決しようとする意欲をもつ。

3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	1 学校の様子や入学式の意義についての担任の話(評価)を聞く。 2 挨拶、返事の仕方等の練習をする。 3 入学式で頑張ることを決め、式に臨む心構えをもつ。	・子どもたちの将来の夢を引き出しながら、学校生活への意欲を高める話をする。【将来設計】 ・挨拶や返事、話の聞き方が入学後の最初の学習であること(コミュニケーション)を知らせ、式中で頑張るめあてをもたせる。
活動時	1 先生方の話をしっかり聞く。 2 元気な声で、挨拶や返事をする。	・子どもたちの話の聞き方、表情、姿勢等を観察し、式後での指導資料にする。【コミュニケーション・将来設計】
事後	1 式中の様子について、担任の話(評価)を聞く。 2 これから頑張っていきたいことや楽しみなことを発表し合う。 3 これからの学校生活の過ごし方について、担任の話(評価)を聞く。	・式での頑張りの様子を具体的に評価する。また、これからの夢や期待を自由に発表させながら、今後の学校生活への期待感を膨らませる。【将来設計】 ・入学後は、できるだけ自分のことは自分でできるように、意欲をもたせる。【課題解決】

4. 評価の視点と方法

入学の喜びを実感し、学校生活への期待と意欲を膨らませることができたか。  
〔・式中や学級活動時に発言や態度の観察・保護者との情報交換〕

# キャリア教育の視点を位置付けた 特別活動授業づくりの実際

これまで述べてきましたように、「キャリア教育の授業」とは全く新しい教育課程の取り組みでもなければ、「キャリア教育」として特定の時間を設けて行うものでもありません。キャリア教育は、既存の教育課程の枠の中で、それぞれのねらいの実現を図る過程に培いたい能力を位置付けていくことによって推進されるものです。ですから、「キャリア教育の授業」とは、「各教科や領域等に進路発達（キャリア発達）にかかわる諸能力を位置付けた授業」ということができます。

このキャリア教育の授業は、キャリア教育の視点を位置付けた教科等の指導案を作成することから始まります。この章では、キャリア教育学習プログラムの枠組み及びキャリア教育全体計画を基に展開される特別活動の授業づくりとして、進路発達の諸能力の育成を軸とした特別活動の指導計画例を紹介します。

## キャリア教育全体構想案

項目	小学校	中学校	高等学校
キャリア教育の目的	進路意識の醸成、キャリア意識の育成、進路意識の醸成、キャリア意識の育成	進路意識の醸成、キャリア意識の育成、進路意識の醸成、キャリア意識の育成	進路意識の醸成、キャリア意識の育成、進路意識の醸成、キャリア意識の育成
キャリア教育の学習プログラムの枠組み	キャリア教育の学習プログラムの枠組み	キャリア教育の学習プログラムの枠組み	キャリア教育の学習プログラムの枠組み

キャリア教育  
学習プログラムの枠組み

項目	内容
キャリア教育全体計画	キャリア教育全体計画

キャリア教育全体計画

項目	内容
キャリア教育全体構想表	キャリア教育全体構想表

キャリア教育全体構想表

特別活動

## 特別活動授業プラン

キャリア教育の視点を  
位置付けた特別活動の  
年間題材一覧  
学級活動  
学校行事等

学年	特別活動（学級活動）指導案
第4学年	<p>「命のつながり」 【学習意欲】：命のつながりを感じ、命の大切さを理解し、命を大事にする気持ちを持つ。</p> <p>【学習態度】：命の大切さを理解し、命を大事にする気持ちを持つ。</p> <p>【学習成果】：命の大切さを理解し、命を大事にする気持ちを持つ。</p>

キャリア教育の視点を位置付けた  
学級活動(1)&(2)の指導案  
学級活動(1)  
「学級や学校の生活と充実と向上に  
関すること」  
学級活動(2)  
「日常の生活や学習への適応及び健康  
に関すること」

実施時期	4月	行事名	第1学期始業式	学年	全年
活動目標	進級の喜びを感じ、新学年での学校生活における成長目標をもつ。				
本活動におけるキャリア教育の視座	【将来設計力】：新しい学年に進級した喜びを感じ、新しい生活に向けた期待を膨らませる。 【課題解決力】：新しい学年で頑張りたいことや挑戦したいことをもち、新学年の目標を立てることが出来る。 【意思決定力】：新しい生活への意欲を高め、自分らの目標を主体的に表現することができる。				
指導上の留意点・工夫点	【役割分担力】：新学年の役割分担をスムーズに行うための工夫を凝らす。 【意思決定力】：新学年の目標を立てることが出来る。				
活動時	- 式でのそれぞれの学年の子どもたちの様子（態度、合言葉）を観察しておく。 - 式での子どもたちの頑張りの様子を具体的に評価する。 - 新しい仲間との出会いのすばらしさを伝え、以後の学校生活への期待と目標をいたがせる話をする。				

キャリア教育の視点を位置付けた  
学校行事等の指導計画案  
学校行事  
児童会活動  
クラブ活動  
日常活動

# 1 キャリア教育全体構想案の立案

キャリア教育の視点を位置付けた特別活動授業づくりの実例

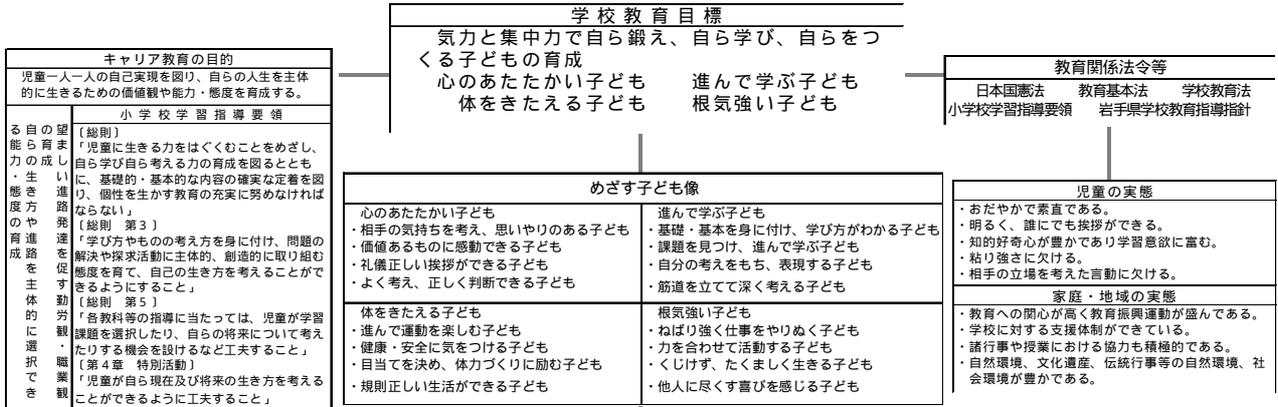
## キャリア教育全体構想案(1) 「キャリア教育学習プログラムの枠組み」の実例

		小 学 校			中 学 校	高 等 学 校
		低学年	中学年	高学年		
進路発達段階		進路の探索や選択にかかわる諸能力等の基盤形成の時期			生き方や進路の現実的な探索と暫定的な選択の時期	進路の現実的な探索と将来設計の社会的移行に向けた準備の時期
進路発達課題 (望ましい進路発達を図るために達成すべき発達課題)		自分や他者への積極的な関心の形成と豊かな人間関係の構築 身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上 将来の夢や希望、憧れ等のイメージ設計 目標に向かって主体的に努力する態度形成			肯定的な自己理解と自己有用感の獲得 興味や関心等に基づく対峙観・職業観の形成 進路計画の立案と暫定的な選択 生き方や進路に関する現実的な探索	自己理解の深化と自己受容 選択基準としての対峙観・職業観の確立 将来設計の立案と社会的移行の準備 進路の現実吟味と試行的参加
進路発達にかかわる諸能力		進路発達を促すために育成する具体的能力・態度				
能力領域	具体能力					
【人間関係を構築する力】  自他の理解や望ましい人間関係の構築にかかわる能力領域	【コミュニケーション力】 他者の個性や考え方を認め、適切な人間関係を築こうとする力	・基本的な挨拶や返事がしっかりできる。 ・友達と仲良く遊んだり、活動したりすることができる。	・相手の意見をよく聞き、協力して物事に取り組むことができる。 ・自分の考えや意見を持ち、表現できる。	・他者のよさに気付き、進んで人間関係を築こうとする。 ・相手の気持ちを考えながら、集団活動に意欲的に取り組む。	・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・リーダー、フォロアーの立場を理解し、目的の実現に向けて協力して活動できる。	・他者の価値観や個性を認め、場に応じたコミュニケーションを図ることができる。 ・リーダー、フォロアーシップを発揮し、自他の能力とチームワークを高める。
	【自己理解力】 自己のよさや個性を知り、自らの生き方を大切にしようとする心と態度	・自分の好きなことや得意なことを表現できる。	・自分の良さや個性について考え、自分自身についての関心をもつ。	・自分の長所に気付き、自分らしさを発揮しようとする。 ・自分自身の生き方に関心をもつ。	・自己の良さや個性について、理解を深める。 ・自分を大事にしようとする心をもつ。	・自己の職業的な能力・適性を理解し、それらを人生設計や職業生活に生かそうとする。 ・自らの人格や人生を大切にしようとする。
【勤労や職業に対する意欲・理解】  仕事や働くことへの価値の理解や意欲にかかわる能力領域	【役割認識力】 集団生活における様々な役割を理解したり、自己の責任を果たしたりする力	・当番や係の大切さを知り、自分の責任を果たすことができる。	・学校生活を支える人々の役割を知り、自らも進んで責任を果たそうとする。	・社会生活には様々な役割があることや、その大切さを知る。 ・自己の役割を知り、進んで責任を果たそうとする。	・よりよい集団活動のための役割分担や、その方法等がわかる。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考えることができる。	・場に応じて自己の果たすべき役割を自覚し、積極的に役割を果たすことができる。 ・ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。
	【職業理解力】 働くことの喜びや価値に気付いたり、様々な職業について理解したりする力	・当番や係などの仕事をやりとげることの喜びに気付く。 ・家族の仕事や、身の回りの職業に関心をもつ。	・働くことの楽しさを知り、進んで係や当番に取り組む。 ・いろいろな職業があることを知り、職業についての興味・関心を高める。	・生活を支える職業の役割や働くことの大切さ、苦労を知る。 ・関心のある職業について、興味を広げ理解を深める。	・勤労の意義や働く人々の様々な思いを知る。 ・職業についての特色や必要な資質等の理解を深め、自らの生き方や進路選択について考えることができる。	・多様な職業観・勤労観を理解し、勤労や職業に対する理解と認識を深める。 ・職業生活における権利や義務、就業方法等についての理解を深める。
【人生設計のイメージ形成】  将来の夢や希望、憧れ等の人生設計にかかわる能力領域	【将来設計力】 夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、将来の人生や職業生活における夢や憧れを主体的に描こうとする力	・学校や社会生活において、好きなものを見つけたり、興味や関心を広げたりすることができる。	・夢や希望を膨らませながら、自らの将来について考えることができる。	・憧れとする職業をもち、学習することや将来のことを考える大切さに気付く。	・将来の夢や職業を思い描き、職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・将来の進路希望に基づき、当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。	・自己を生かせる生き方や進路について、現実的に考えることができる。 ・職業についての総合的・現実的な理解に基づき、進路計画を立ててその実現に努力する。
	【情報活用力】 情報を適切に判断したり、選択したりしながら情報をよりよく活用できる力	・要点をとらえた話の聞き方ができる。	・図書を活用したり、インタビュー活動をしたりしながら、必要な情報を得ることができる。	・多様な資料収集の方法を身に付け、必要な情報を的確に得ることができる。	・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して、調査・収集・整理し活用することができる。	・卒業後の進路や職業・産業の動向について、多面的・多角的に情報を集め検討することができる。
【課題解決の能力・態度】  目標に向かって努力する態度の形成にかかわる能力領域	【課題解決力】 自らの目標に向かい主体的に努力したり、適切に課題解決したりする力	・基本的な生活習慣を身に付け、身の回りのことは自分で解決できる。 ・きまりを守り、やるべきことを着実にやり遂げることができる。	・自らの生活の向上をめざして目標を立て、その実現に向けて努力することができる。	・自らの生活の向上や将来の夢の実現を願い、目標とその実現方法を考え、主体的に努力することができる。	・自ら課題を見出すことの大切さを理解し、よりよい生活や生き方をめざすことができる。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決しようとする。	・将来設計、進路希望の実現をめざして課題を設定し、その解決に主体的に取り組む。 ・自己を生かし役割を果たすための課題と解決策を考え、実行できる。
	【意思決定力】 主体的に自らの意思を決定したり、進んで自己の考えを表現したりする力	・基本的な応答の仕方を身に付け、自分の意思を表現することができる。	・自分と友達の考えを比べながら聞くことができる。 ・分かりやすく自分の考えを表現することができる。	・話し合い等の場に進んでかわり、他者の意見を取り入れながら自己の意思を高めることができる。	・多様な意見や考えを認め、比較したり検討したりしながら、自己の意思を高め、表現できる。	・多様な意見や考えを客観的に判断し、自己の意思を構築できる。 ・場に応じながら、自己の思いや意見を適切に表現することができる。

(花巻市立湯口小学校版)

# キャリア教育全体構想案(2) 「キャリア教育全体計画」の実際

## 花巻市立湯口小学校キャリア教育全体計画



学校教育全体を通じたキャリア教育の推進						
教科・領域・日常活動等におけるキャリア教育の指導内容						
各教科	道徳	特別活動			総合的な学習の時間	日常生活における諸活動
		学級活動	学校行事	児童会・クラブ		
基礎・基本の定着 問題解決的な学び方の習得 各教科における「生きる力」の育成 主体的なコミュニケーション活動 生活場面からの教材化学習事項の生活場面や将来の生き方への適用 生活を支える身の回りの人々の仕事や役割 人生に対する考え方や生き方	基本的な生活習慣や善悪の判断、社会生活上のルール 自主性、協力し合い助け合う態度 生活を支える人々の役割の理解と感謝 働くことの意義の理解と責任感 目標に向かい主体的に努力する態度や希望をもって生きる心	基本的な生活習慣の形成 希望や目標をもって生きる態度の形成 望ましい人間関係の育成 生活上の諸問題の実践的解決 生活を支える役割の理解と責任の遂行 主体的な話し合いやコミュニケーション活動	目標の実現に向けた努力の蓄積と充実感 集団活動を支える役割理解 勤労や生産活動の尊さや喜びの感得 集団行動における望ましい態度形成	集団活動を支える組織や役割の理解 役割や責任を果たす意義と充実感 異年齢間の交流 自己の興味や関心の追究	自ら学び、考え、主体的に判断し、問題を解決する資質や能力 主体的、創造的な探求活動 自己のよりよい生き方を考える場 自然体験、社会体験、観察・実験、見学等の体験的学習、問題解決的学習	日直、清掃活動、給食時の当番活動等における役割の理解と責任の遂行 休み時間における集団遊び等での人間関係構築 栽培活動、飼育活動

キャリア教育推進のための基盤					
学級・学年経営の充実	基本的な生活習慣の確立	キャリア教育についての教職員の共通理解	PTA及び地域の諸施設、諸機関との連携	地域の諸行事、人材、環境等を生かした題材開発	湯口中学校との協力、連携

(花巻市立湯口小学校版)

# キャリア教育全体構想案(3) 「キャリア教育全体構想表」の実際

段階	低学年	中学年	高学年
進路発達課題	進路の探索や選択にかかわる諸能力等の基礎形成の時期		
課題	自分や他者への積極的な関心の形成と豊かな人間関係の構築 身の回りの仕事や働くことに対する関心と意欲の向上	将来の夢や希望、憧れ等のイメージ設計 目標に向かって主体的に努力する態度形成	
進路発達を促すために育成する能力・態度と主な指導の場			
人間関係を構築する力	<b>コミュニケーション力</b> ・基本的な挨拶や返事や返事がしっかりできる。 ・友達と仲良く遊んだり、活動したりすることができる。 教科等(生活、授業全般での学習指導) 道徳(礼儀、友情、助け合い) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(朝の会、帰りの会、休み時間等)	・相手の意見をよく聞き、協力して物事に取り組むことができる。 ・自分の考えや意見をもち、表現できる。 教科等(国語、教科全般での学習指導) 特別活動(学級活動) 日常生活(朝の会、帰りの会等)	・他者のよさに気付き、進んで人間関係を築こうとする。 ・相手の気持ちを考えながら、集団活動に意欲的に取り組む。 道徳(友情・信頼、尊敬・感謝) 特別活動(学級活動、児童会活動、学校行事) 日常生活(係活動等)
	<b>自己理解力</b> ・自分の好きなことや得意なことを表現できる。 教科(生活科、図工、音楽、体育、国語) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(朝の会等)	・自分の良さや個性について考え、自分自身についての関心をもつ。 教科(国語、音楽、図工) 総合的な学習の時間 特別活動(学級活動)	・自分の長所に気付き、自分らしさを発揮しようとする。 ・自分自身の生き方に関心をもつ。 教科(国語、社会、家庭、音楽、図工) 総合的な学習の時間 道徳(向上心、個性伸長) 特別活動(学級活動)
勤労や職業に対する意欲・理解	<b>役割認識力</b> ・当番や係の大切さを知り、自分の責任を果たすことができる。 道徳(勤勉、誠実、尊敬・感謝) 特別活動(学級活動) 日常生活(清掃、給食、係活動)	・生活を支える人々の役割を知り、自らも進んで責任を果たそうとする。 教科(社会科) 総合的な学習の時間 道徳(尊敬、勤労、誠実、勤勉) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(清掃、給食、係活動等)	・社会生活には様々な役割があることや、その大切さを知る。 ・自己の役割を知り、進んで責任を果たそうとする。 教科(社会、家庭) 道徳(勤勉、誠実、勤労) 特別活動(学級活動、児童会活動、学校行事) 日常生活(係活動等)
	<b>職業理解力</b> ・当番や係などの仕事をやりとげることに喜びに気付く。 ・家族の仕事や、身の回りの職業に関心をもつ。 教科(生活科) 道徳(家族愛、勤勉、誠実) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(清掃、給食、係活動)	・働くことの楽しさを知り、進んで係や当番に取り組む。 ・いろいろな職業があることを知り、職業についての興味・関心を高める。 教科(社会) 道徳(勤労、誠実、勤勉) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(清掃、給食、係活動等)	・生活を支える職業の役割や働くことの大切さ、苦労を知る。 ・関心のある職業について、興味を広げ理解を深める。 教科(社会) 道徳(尊敬) 特別活動(学級活動、学校行事) 総合的な学習の時間
人生設計へのイメージ形成	<b>将来設計力</b> ・学校や社会生活において、好きなものを見つけたり、興味や関心を広げたりすることができる。 教科(生活、音楽、図工、体育) 特別活動(学級活動)	・夢や希望を膨らませながら、自らの将来について考えることができる。 教科(図工) 特別活動(学級活動)	・憧れとする職業をもち、学習することや将来のことを考える大切さに気付く。 教科(国語、社会、家庭) 道徳(向上心、個性伸長) 特別活動(学級活動、学校行事) 総合的な学習の時間
	<b>情報活用能力</b> ・要点をとらえた話の聞き方ができる。 教科(国語、授業全般での学習指導) 特別活動(学級活動) 日常生活(朝の会、帰りの会等)	・図書を活用したり、インタビュー活動をしたりしながら、必要な情報を得ることができる。 教科(理科、社会、国語) 総合的な学習の時間 特別活動(学級活動)	・多様な資料収集の方法を身に付け、必要な情報を的確に得ることができる。 教科(社会、理科、国語、算数) 総合的な学習の時間 特別活動(学級活動)
課題解決の能力・態度	<b>課題解決力</b> ・基本的な生活習慣を身に付け、身の回りのことは自分で解決できる。 ・きまりを守り、やるべきことを着実にやり遂げることができる。 教科(生活科) 道徳(自立、勤勉、誠実、規則の尊重) 特別活動(学級活動) 日常生活(清掃、給食、係活動)	・自らの生活の向上をめざして目標を立て、その実現に向けて努力することができる。 教科(社会、体育、教科全般) 道徳(勤勉・努力、誠実) 特別活動(学級活動、学校行事) 総合的な学習の時間	・自らの生活の向上や将来の夢の実現を願い、目標とその実現方法を考え、主体的に努力することができる。 教科(社会、国語、教科全般) 道徳(向上心、個性伸長) 特別活動(学級活動、学校行事) 総合的な学習の時間
	<b>意思決定力</b> ・基本的な応答の仕方を身に付け、自分の意思を表現することができる。 教科等(授業全般での学習指導) 道徳(礼儀) 特別活動(学級活動) 日常生活(朝の会、帰りの会等)	・自分と比べながら、友達の考えを聞くことができる。 ・分かりやすく自分の考えを表現することができる。 教科等(国語、授業全般での学習指導) 特別活動(学級活動、学校行事) 日常生活(朝の会、帰りの会)	・話し合い等の場に進んでかわり、他者の意見を取り入れながら自己の意思を高めることができる。 教科等(授業全般での学習指導) 特別活動(学級活動)

(花巻市立湯口小学校版)

## - 2 キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の授業実践

ここでは、特別活動の中で展開するキャリア教育の実際の授業について紹介します。前の章で、キャリア教育の全体構想の立案として、「学習プログラムの枠組み」「全体計画」「全体構想表」の実例を示しましたが、その全体構想を基に展開した特別活動の実際の授業場面として、「学級活動」「学校行事」「日常的な活動」の指導例を掲載しています。その他の題材や児童会活動、クラブ活動等の指導例は、別冊のキャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導計画集「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開」をご参照下さい。

	題材名等	学年	キャリア教育の視点と指導のポイント	P
<b>学級活動</b> 	教えて！ あなたのこと、友達のこと	2年	保護者の協力を得ながら、人によって個性が異なることや、自分自身のよさに気付かせ、自己理解、他者理解を深めさせます。	30
	先生方の仕事調べに挑戦	3年	自分たちの学校生活を支えるために多くの人の働きがあることに気付かせるとともに、学校生活に対する一層の意欲を高めます	33
	命のつながり	4年	体育（保健）の学習を基に、命の尊さに気付かせ、自分の人生を大切にしようとする気持ちや将来の夢や希望を育みます。	36
	どんな仕事があるかな？ 『ご飯&Wカップ編』	5年	社会科の「米作り」の学習を発展させ、身の回りの職業の種類やそれぞれの仕事の役割を考えさせ、働くことへの興味・関心を高めます。	38
	お気に入りの仕事調べ	5年	自分の憧れの職業について考えさせながら、日々の生活や学習の大切さに気付かせ、学校生活への意欲を高めます。	40
	「フリーター」って何？	6年	「フリーター問題」を取り上げながら、日々の生活態度を振り返らせ、将来の職業生活への関心を高めます。	42
	もうすぐ中学生	6年	中学校と連携した指導を行い、新しい生活への希望や目標をもって生きる態度の形成を図ります。	45
	そうじの仕方を見直そう	4年	学校のシンボル像「二宮金次郎」の教えを基に、自分たちのそうじについて見つめさせ、働くことの意義を考えさせます。	48
	係活動を見直そう	5年	「係活動マニフェスト」づくりに取り組みせ、新しい活動を企画したり、協力して仕事に取り組んだりする力や態度を育てます。	50
<b>学校行事</b> 	「大運動会」	全校	学校行事「運動会」を通し、目標をもって努力したり、自己の役割を責任をもって果たしたりする態度、場に応じた挨拶やルールを守った集団行動の仕方などを指導します。	52
<b>日常的な活動</b> 	日直当番の仕事 「朝の会・帰りの会」	1年 & 6年	目標をもって生活しようとする態度、挨拶などの基本的な生活習慣を指導します。また、日直の活動で、仕事に対する責任感を育てます。	55
	「たてわり班自由遊び」	全校	6年生は、集団をまとめたり、活動を企画したりする力を育てます。下学年は、約束を守って、楽しく集団活動できる態度を育てます。	57

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 保護者の協力を得ながら、自己理解や他者理解を深めさせた授業 ～ 第2学年 「教えて！あなたのこと、友達のこと」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 保護者に手紙等の協力をしていただきながら、自分自身のよさや周囲の愛情に気付かせます。
- Point 2 好きなことや将来の夢を考えさせ、自分自身を見つめさせ、自己理解を深めさせます。
- Point 3 人によって個性が異なること、みんなが大切な存在であることに気付かせます。

#### 指導のポイントと工夫

##### 保護者の協力

事前に授業のねらいを説明し、「我が子」のよさを手紙に書いていただきます。この手紙で、自分自身のよさや自分を取り囲む家族の愛情に気付かせます。授業後も、家庭でこれからの生活や将来の夢について語り合う場を設けます。

##### 自己理解を深める指導

自分のことをみんなに伝える「しょうかいカード」作りの活動をおし、自分の好きなことや将来の夢を考えさせ、自分自身を見つめさせます。また、保護者、担任の先生、友達からの「よいところメッセージカード」を読み、自分自身のよさに気付かせ、自分を大事にしようと思う気持ちを育てます。

##### 個性の違いや他者理解を深める指導

「しょうかいカード」を比べさせ、好きなことや得意なこと、将来の夢は人によって異なることに気付かせます。また、友達のよさをメッセージで伝える「よいところ見つけ」の活動を行い、他者理解を深めるとともに、誰にもよいところがあることに気付かせます。

1. 題材名 「教えて！あなたのこと・友達のこと」 (2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成)			
2. 目標 自分の好きなことやよさを考えたり、友達のよいところを見つけたりする活動をおし、自他の存在を大切にしようとする気持ちをもつ。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 自分の好きなことや得意なこと、将来の夢等を考えさせ、自分自身を見つめさせるとともに、将来の生き方への関心を膨らませる。 「よいところ見つけ」の活動を取り入れ、他者の目から自分自身のよさに気付かせるとともに、自他の存在を大切にしようとする気持ちや態度を育む。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：仲間作りゲームや友達のよさ見つけなどの活動に取り組み、他者との温かな関係を築くことができる。 【自己理解力】：自分自身の好きなことや得意なこと、将来の夢を進んで表現できる。また、他者からの「よいところメッセージ」から、自分のよさに気付く。 【将来設計力】：自分を大切にしようとする気持ちをもち、将来の夢やこれからの生き方への関心を膨らませることができる。			
4. 展開案			
事前	事前に保護者に授業内容を知らせ、子どもたちのよさを手紙に書いていただくよう、依頼しておく。担任からも、一人一人の子の「よいところメッセージ」を書いて準備しておく。		
本 課 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 簡単な「仲間作りゲーム」を行い、学習の雰囲気作りをする。 ・「アドジャン」 ・「リズム手合わせ」 ・「ほめあいゲーム」 ・「肩もみ」		・他者とのかかわりが深められる活動を取り入れ、協力し合いながら活動しているペアを紹介する。友達のよさに目を向ける布石の活動とする。
	2 教師の自己紹介クイズを解きながら本時の活動内容を知る。 おしえてみんなのこと！ ～「しょうかいカード」を作ろう！～	教師の自己紹介クイズ (P.C)	【コミュニケーション】 ・カードの項目に沿って自由に記述させることで、自分自身について見つめさせたり、考えさせたりする場とする。
	3 「しょうかいカード」を書き、隣り同士見せ合い、他己紹介形式で発表し合う。	しょうかいカード	【コミュニケーション・自己理解・将来設計】 ・他者のよさに気付くことの価値を話し、活動の意義付けをする。周りの人から肯定的な評価を受けることの気持ちよさを十分に感得させたい。
	4 「しょうかいカード」の内容(自分のよさ)と記入のための活動方法(よいところ見つけ)を知る。		【自己理解・将来設計】
	5 「よいところ見つけ」の活動を行う。隣り同士で、メッセージカードを書き、交換し合う。班の中で交換し合う。	しょうかいカード	・活動の様子を把握し、カードが書けない子には、助言を与える。
	6 教師や家の人書いた「メッセージカード」を読む。	教師と家の人からのメッセージカード	【コミュニケーション】 ・メッセージカードはじっくりと読ませ、自己肯定感をもたせる場にする。
	7 「しょうかいカード」を記入する。		【自己理解・将来設計】 ・誰にもよさがあり、互いを大事にし合うことの大切さを伝える。
まとめ	ワークシート		【コミュニケーション・自己理解・将来設計】
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、これからの生活でも自分や友達を大事にした学校生活を送るよう励ます。授業の様子を学級通信で伝え、家庭でもこれからの生活や将来の夢等の話題を提供していく。「よいところ見つけ」の活動を帰りの会でも継続し、互いのよさを大事にしようとする態度を継続して指導する。		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点			
【道徳】 資料「ひろったビスケット」で、友達を大切にしようとする心情をもつ。			

## 授業の実際

### 事前の授業準備

#### 保護者への協力の依頼

授業の趣旨と保護者に協力していただきたいことをお便りで各家庭に伝えました。書いていただいたお手紙は、どれも子どもたちへの保護者の愛情にあふれたものでした。

#### 担任からのカードの作成

担任からも、子どもたち一人一人のよさを具体的に書いた「よいところ発見カード」を準備しました。保護者のお手紙、担任からのカード、そして友達同士の「よいところ見つけ」で、子どもたちに自分自身のよさに目を向けさせていきます。

### 課題把握の段階

#### (1)「仲間作りゲーム」

自分自身を見つめて自己開示したり、互いのよさを発見し合ったりする活動を行うためには、教室が温かく、受容的な雰囲気にならなければならないことが大切です。そこで、授業の導入でエンカウンターの手法を取り入れた、仲間作りゲームを行いました。隣の友達と手をつないだり、肩をもみ合ったりする活動を行い、和やかな雰囲気を作ることができました。

#### (2)先生の自己紹介

授業の方向性をとらえさせること、互いの自己紹介への活動意欲をもたせることを目的として、「先生の自己紹介」を行いました。プレゼンソフトを用い、クイズ形式を取り入れることで、子どもたちは、興味をもちながら「先生の自己紹介」を聞きました。そして、この活動を基に、クラスみんながお互いのことをもっと知り合い、仲良くなるために自己紹介を行うという本時の活動の方向性をとらえることができました。



「自己紹介シート」の項目は、「好きな遊び、好きな食べ物、好きな勉強、とくいなこと、できるようになりたいこと、しょうらいのゆめ、そして自分のよいところ」です。自分のよさの所は、はじめは空欄（シークレット）にしておきました。

### 課題追究の段階

#### (1)「しょうかいカード」を書く

「しょうかいカード」は、自分の好きなことや得意なこと、将来の夢などを書くシートです。項目のどこの欄から書いてもよいことにしましたし、なかなか思いつかないことは後で書いてもよいことにしました。「将来の夢」の欄は、恥ずかしさもあって記入が進まない子もいましたが、教師が机間巡視して「素敵な夢だね」「先生も、その仕事なりたかったよ」などの声かけをすることで、自由に、そして楽しげにシートを書くようになりました。

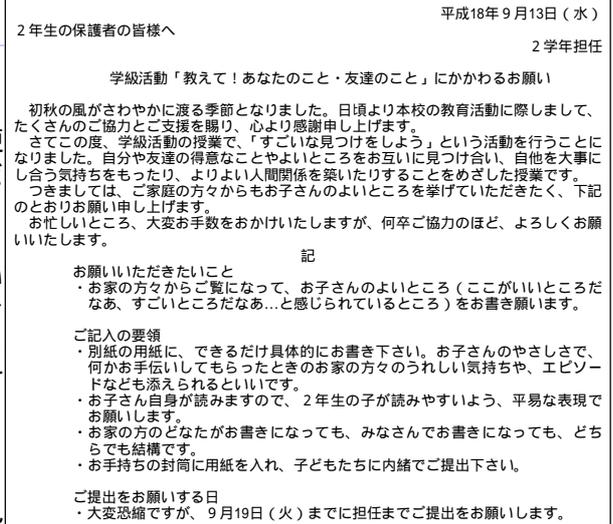
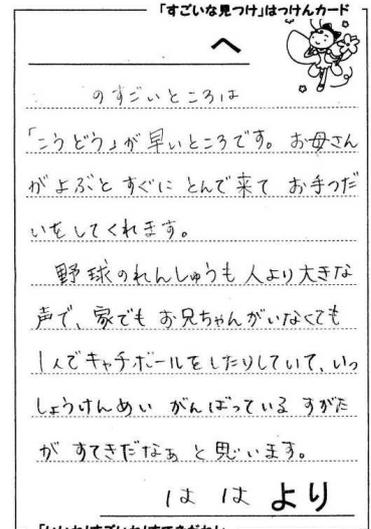
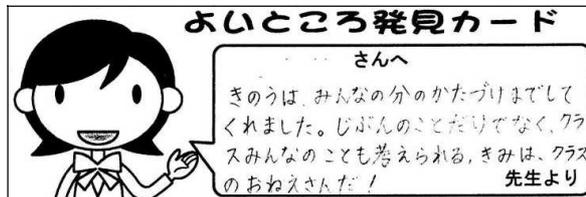


でき上がったシートは、最初、隣同士で発表し合いました。その後、全体の場で、互いの友達のことを紹介し合いました。この活動で、「好きなことや得意なことは人によって違うこと」を押さえることができました。

#### (2)「しょうかいカード」の内容を知る

「しょうかいカード」は、シートの後半にあったシークレット（「キラリ！ぼくの・わたしの...」）のところでした。この項目は、自分のよさについて書くところであることを知らせると、「えええ～っ、わかんないよ！」「ぼくには、いいところなんてないもん！」...等の声が聞こえました。それらの声を受け止め、自分のよさは自分ではなかなか気付きにくいことから、自分の周りの人（自分の家族、先生、友達）から聞いてみるという活動を行うことにしました。

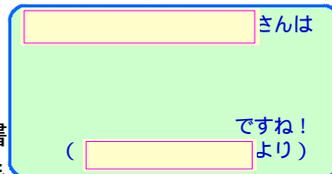
#### (3)お家の人からのお手紙・先生からのメッセージカードを読む



お家の人が書いた手紙や先生からのメッセージを読む子どもたちの表情は、とても真剣で、そしてうれしそうでした。一つ一つの言葉を何度も繰り返して読み、書かれてあることを楽しそうに友達に教える子の姿も見られました。

#### (4) 友達のよいところを見つけ

右のようなカードを用い、友達のよさを見つける活動を行いました。始めに、隣同士、次に班の友達みんなに書くという順番で行いました。子どもたちが書いたカードには、「いつもおそうじをちゃんとやってすごいね」「やさしいきもちがすごいです」「べんきょうのときの、なんでも思いつく力がすごいです」など、子どもなりに見つけた友達のよさが書かれてありました。



#### (5) 自分のよさを書く

お家の方からのお手紙、先生からのメッセージカード、そして友達からの「よいところ発見カード」という3つの材料から、改めて「自分のよさ」を見つめ、「しょうかいカード」に記入しました。「自分にはよいところ何て、無い!」と言っていた子どもも、お母さんからの「いつも弟の面倒を見てあげて、偉いね。やさしいね。」という手紙を読み、自分のよさとしてそのことをシートに書いていました。



#### まとめの段階

##### 学んだことを確認する

本時の活動をとおして感じたことやわかったことを発表させながら、「今日の学習で学んだこと」として、次の3つのことを押さえました。

好きなことやとくいなことは、人によってちがうこと  
 みんなひとりひとりよいところがあること  
 みんなは、お家の人や先生、ともだちから大事に思われていること(愛されていること)

これからも自分も友達も、どちらも大切にしながら頑張っていくことを確認して、本時の学習を終えました。

今日の学習で学んだことをまとめましょう。

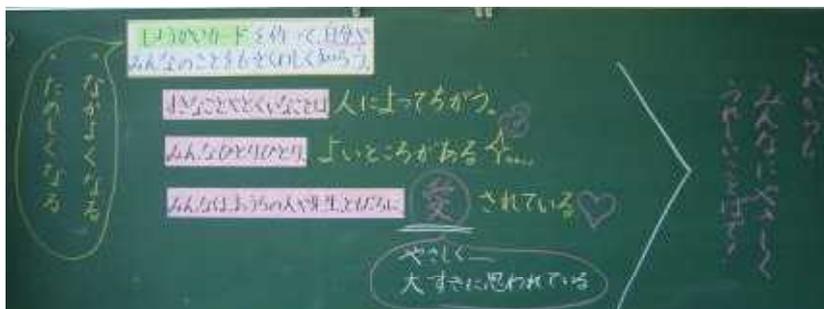
☆好きなことやとくいなことは、  
 人によてちがう

☆みんなひとりひとり、  
 よいところがある☆

☆みんなは、おうちの人や先生、ともだちに、  
 やさしくされている♡

2 「しょうかいカードづくり」の学習をして、わかったことや心にかんじたことを書きましょう。

みんなのきもちがすごく気持ちがいいか  
 まったと思っ、たし、みんなから手紙ももらうと  
 とてもうれしくてみんなに愛されてるんだと思  
 いました。先生のお手紙もお母さんの書いたお手紙  
 ももらえはすごくみんながうなにわたしのこ  
 を考えてくれるのがうれし  
 いです。



## 授業実践を終えて

キャリア教育の目的である「自らの豊かな将来を切り拓く力の育成」の基盤となるものは、自分のことをよく知り、そして自分を大事に思う気持ちをもつことです。そのためには、自分自身のことを見つめ考える場を設けることや、自分自身の存在の尊さに気付かせる活動が大切になります。本時では、「じこしょうかいカード作り」を行うことで、子どもたちは様々な具体的な観点から、自分自身の好きなことや「特性」について考えることができました。また、将来のことを考える楽しさや夢を描くことの楽しさも味わうことができました。「自分を大事に思う気持ち」を育てるために行った、「お家の人からの手紙」や「先生のメッセージカード」は、とても有効でした。「自分には、いいところなんて無い!」と言っていた子も、お手紙を読む表情は、とてもうれしそうでした。毎日、一緒に生活している家族でも、普段なかなかその子のよさを伝える場は多くありません。学校、家庭双方から、その子のよさに気付かせることを意図した指導は、とても効果的でした。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 先生方へのインタビュー活動で学校生活を支える人々の働きに気付かせた授業 ～ 第3学年 「先生方の仕事調べに挑戦」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 学校生活を支える人々の働きや役割に気付かせ、働く人々への感謝の気持ちをもたせます。
- Point 2 自分自身の学校生活を充実させようとする意欲の向上を図ります。
- Point 3 「働く人」に直接触れさせ、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせます。

#### 指導のポイントと工夫

学校生活を支える人々の働きに気付かせる  
担任外の先生方の仕事に視点を当て、「誰が、どんな仕事をしているか」関心をもたせ、調べ活動を行います。どの仕事も、自分たちの学校生活を支える大事な働きがあることに気付かせます。

#### 学校生活への意欲の向上を図る指導

子どもたちのよりよい学校生活と健やかな成長を願い、様々な場で働いている先生方の思いに気付かせ、自分自身の学校生活に向かう気持ちを振り返らせます。多くの先生方の応援と愛情を実感させながら、「もっと自分もがんばろう!」とする意欲を高めます。

#### 基本的なインタビューの仕方を学ばせる指導

「先生方への仕事調べ」の活動で、インタビューの仕方を具体的に指導します。グループで役割を決めさせ、事前に練習させた上で調査活動に取り組みさせます。指導の重点は、次の4点です。

- ・挨拶をしっかりする
- ・質問項目をはっきりする
- ・メモをとる
- ・自分の言葉で感想を話す

1. 題材名 「先生方の仕事調べに挑戦」 (3年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)			
2. 目標 多くの人たちの仕事の上に学校生活が成り立っていることに気付き、学校生活を支える人々への感謝の気持ちをもつ。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 自分たちの学校生活は多くの人たちの仕事で支えられていることに気付かせ、役割の大切さをとらえさせたり、働く人々への感謝の気持ちをもたせたりする。 「先生方の仕事調べ」を行い、働く人の姿に直接触れ合う場を設けるとともに、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 礼儀ある態度で挨拶したり、インタビュー活動に取り組んだりする。 【役割認識力】: 学校生活は、多くの先生方の仕事の上に成り立っていることに気付く。 【職業理解力】: 働く人の姿から、仕事の喜びや役割を考えたりする。 【情報活用力】: インタビュー活動で、必要な情報を得ることができる。			
4. 展開案			
事前	事前に校内の先生方に学習内容を知らせ、インタビュー活動への協力を依頼しておく。 効率よくインタビュー活動ができるよう、ワークシートやグループ分け等の準備を行っておく。		
本 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 校内で働く職員の写真から、本時は「先生方の仕事」について考える学習であることを知る。	職員の写真	・先生方の仕事の様子について、知っていることを発表させながら、先生方の仕事の多様性に気付かせ、本時の学習への意欲付けと方向付けを図る。 【職業理解】
	2 先生方の仕事にはどのようなものがあるか話し合い、本時の課題をとらえる。 <b>先生方の仕事の様子を調べよう。</b>		・本時は、担任外の先生方について調べさせる。「インタビューシート」を用い、約束事や方法を具体的に指導し、グループ毎に役割を分担させたり、インタビューの練習をさせる。 【情報活用・コミュニケーション】
	3 「先生方の仕事調べ」の方法を知り、インタビューの仕方を練習する。 【インタビューの仕方】 挨拶をする。 活動の目的を話し、インタビューの了解を得る。 インタビューをする。 感想を述べ、お礼の挨拶をする。	インタビューシート	・活動の様子を観察し、適宜指導したり、賞揚したりする。 【情報活用・コミュニケーション】
	4 グループ毎にインタビュー活動に取り組む。	調査用紙	・どの先生の仕事も、自分たちの学校生活を支える大事なものであることに気付かせる。 【役割認識・職業理解】
	5 インタビュー結果を基に、自分たちの学校生活における先生方の仕事の役割や、先生方の願いを考える。	先生方の願い(VTR)	・「充実した学校生活を送ってほしい」という先生方の願いに気付かせるとともに、自分自身の学校生活に向かう気持ちを振り返らせる。 【役割認識・コミュニケーション】
	7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。	ワークシート	
	8 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。	担任の話	
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、充実した学校生活を送ろうとする意欲を高める。		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点			
<b>【総合的な学習の時間】</b> 「湯口のお店屋さん今昔」で、インタビューや電話のかけ方の練習をする。 <b>【日常活動】</b> 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちもち、毎日の学習や清掃活動や係活動に取り組む。			

## 授業の実際

### 課題把握の段階

#### (1)「先生方の仲間分け」から先生方の仕事への興味をもつ

担任の先生1名、担任外の先生7名の顔写真を黒板に掲示し、それぞれが自由に考えた観点で、2つの仲間分けをさせました。子どもたちは、始め、男女の違いや眼鏡の有無等、外見からグループ分けしましたが、他の分け方がないか考えさせるところ、それぞれの先生方が普段働く場所や、授業の有無など、先生方の仕事に着目することができました。



校内の先生方を、仲間分けします。その観点を考えることで、先生方の仕事に着

#### (2)本時の課題をつかむ

先生方の仲間分け活動の最後に、指導者が担任と担任ではない先生とに分け、担任外の先生に注目させました。「先生方の仕事は、みな同じですか？」という発問に、「違います！」とは答えた子どもたちですが、担任の先生に比べ、担任外の先生方の仕事についてはあまりよくわかっていないということに気がきました。そこで、担任外の先生方の仕事について調べてみようという学習課題を設定しました。

### 課題追究の段階

#### (1)インタビューの準備をする

先生方の仕事についての調べ方として、「インタビュー」という方法を確認した後で、「バラバラに聞きに行っているの？」という発問から、インタビューをするときの留意点について考えさせました。そこで、インタビューのポイントとして、次の5点に留意させました。

- 挨拶をきちんとする。
- 聞きたいことをわかりやすく質問する。
- 役割分担をしっかりと決める。
- メモをとる。
- お礼をしっかりとる。

これらのポイントに沿って、指導者と担任の二人で、インタビューのモデルを子どもたちに示し、インタビューの仕方を具体的にイメージさせました。

その後で、インタビューをする先生の担当を決め、グループ毎に役割分担をし、インタビューの練習をしました。

**学級活動(「先生方の仕事しらべ」)ワークシート**

3年

1 先生方の仕事の様子をインタビューで調べてみよう！

(1) インタビューの仕方をマスターしよう。

**1 明るくさわやかにあいさつします** たんとう( )

先生、こんにちは！

**2 じこしょうかいをします** たんとう( )

ぼくたち(わたしたち)は、3年生の 班です。

**3 インタビューをしてもよいかたしかめます** たんとう( )

今、学校の先生方のお仕事について調べているのですが、先生にインタビューしてよろしいでしょうか。

・OK 「ありがとうございます。それでは、よろしくおねがいします。」

・NO 「わかりました。おいそがしいところすみませんでした。」

**4 インタビューします** たんとう( ) ( ) ( )

(質問1)「先生は、ふだんどんな仕事をなさっていますか？」

(質問2)「先生のお仕事で、たいへんなことはどんなことですか？」

(質問3)「先生がお仕事をされていて、うれしいことはどんなことですか？」

**5 全員、一人ずつ感想を話します** たんとう(全員)

ぼくは(わたしは)、先生のお話を聞いて、「……(自分の言葉で)……」と思いました。

**6 お礼のあいさつをします** たんとう(班長)

先生、インタビューさせていただき、ありがとうございました。

(全員で、「ありがとうございました」)

2 さあ、インタビューにちょうせん！ 【インタビューする先生； 先生】

Q1 「先生は、ふだんどんな仕事をなさっていますか？」

Q2 「先生のお仕事で、たいへんなことはどんなことですか？」

Q3 「先生がお仕事をされていて、うれしいことはどんなことですか？」

2 今日の学習をふり振り返り、わかったことや思ったことを書きましょう。

「先生方の仕事しらべ」ワークシートには、役割分担、質問内容が記載されています。インタビューするとき気を付けること



#### (2)グループ毎にインタビュー活動に取り組む



それぞれの担当の先生方から聞いてきたことを後で紹介し合うこと、教室に戻ってくる時間、インタビューの5つのポイント等を確認した後で、グループに分かれてインタビュー活動を行いました。インタビューをお願いする先生方には、事前に

活動の趣旨を説明し、協力を依頼しておきました。

どのグループも、自分の役割を果たしながら、真剣に活動に取り組んでいました。最後の「お礼の挨拶」

では、インタビューをしての感想を交えて話すよう指示した結果、流暢な表現にはならなくとも、自分の言葉で気付いたことや感じたことを話す姿が見られました。



(3) 調べたことを交流し合う

「その先生はどんな仕事をしているか、仕事で大変なことは何か、仕事でうれしいことは何か」という3点について、それぞれのグループが先生方からインタビューしてきたことを紹介し合いました。各グループの発表から、教頭先生が毎朝早く学校に来て鍵を開けていることや校務員の先生が花壇の整備や校舎の修繕に行っていることなど、これまで気付かなかった先生方の仕事を知ることができました。

(4) ビデオから先生方の願いを知る

先生方はどんな願いをもって仕事をしているかを、事前に収録したインタビュービデオを視聴して調べました。どの先生も、「湯口小学校の子どもたちが、元気に学校生活を送れるよう」それぞれの仕事に一生懸命に取り組んでいることに気付くことができました。

まとめの段階

(1) 「先生方の仕事調べ」でわかったことをまとめる

版書を基に、本時の活動を振り返らせました。そして、わかったこととして次の3点を押さえました。

湯口小学校の先生方は、みんなや学校のために頑張っていること  
 学校の先生方の仕事には、いろいろな内容や役割があること  
 どの先生方の仕事も、自分たちが学校生活を送るためにとても大切であること

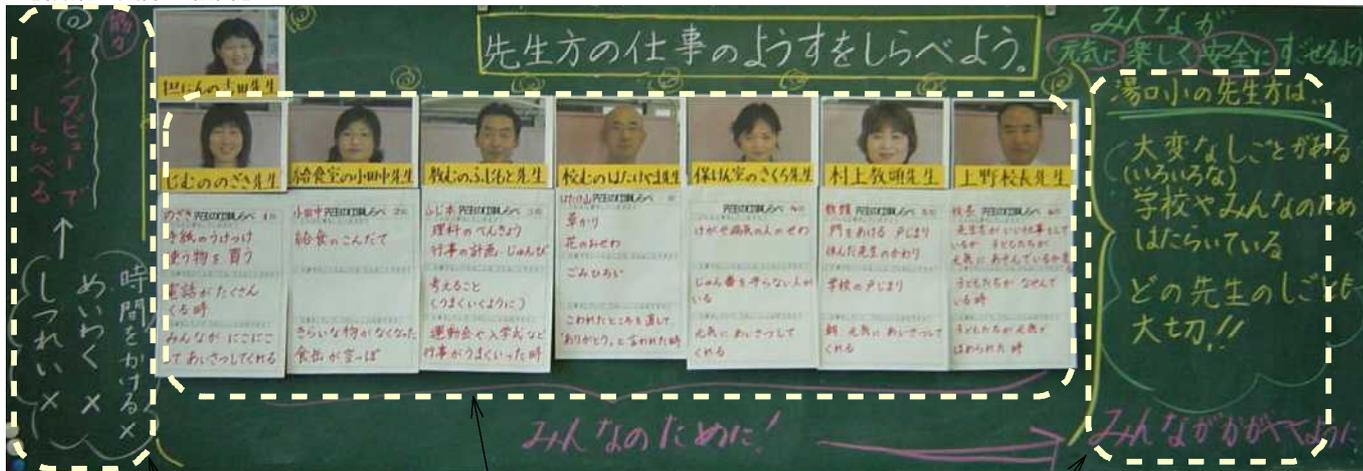


(2) 自分の考えをまとめる

先生方の仕事について調べてみて、考えたことをワークシートにまとめさせました。シートには、「自分が知らないところで先生方がいっぱい仕事をしていることがわかった」「私たちのためにがんばってくれて、とてもうれしい」「先生方もがんばっているから、自分ももっとがんばりたい」といった感想書かれていました。



【授業の実際の板書】



インタビューで気をつけること

インタビューで調べたこと

調べてわかったこと

授業実践を終えて

「学校の先生」は、子どもたちにとって、最も身近な「働く人」です。先生方の仕事調べをとおり、子どもたちの適切なキャリア発達(進路発達)を図る上で、次の3点の成果を得られました。1つめは、自分たちの生活を支える仕事や、働く人の存在に気付かせることができたことです。具体的な調べ活動を通じ、子どもたちは、これまで気付かなかった先生方の仕事や役割を改めて知ることができました。そのことで、働くことの意義を考えたり、仕事への興味を感じたりすることができました。2つめは、基本的なインタビューの仕方を学ばせることができたことです。この活動で学んだマナーや挨拶、応答の仕方等は中学校、高等学校での職場体験や職業調べなどの活動に生かされます。3つめは、子どもたちが自らの学校生活をよりよくしようとする意欲をもつことができたことです。子どもたちの身近なところで展開した本時の活動は、とても効果的でした。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 教科の学習を発展させ、命の尊さに気付かせ将来の夢や希望を育む授業 ～ 第4学年 「命のつながり」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 教科の学習事項（体育・保健）を基に、「命のつながり」についての考える題材を設定します。
- Point 2 命の尊さに気付かせ、自他の命を大切にしようとする心を育みます。
- Point 3 将来の自分の人生について自由に思い描き夢や希望を育みます。

#### 指導のポイントと工夫

教科学習からの題材設定  
 体育の保健の授業で学習した「命の誕生のしくみ」を発展させて、題材の設定をします。体育では、体の発育や発達についての理解が中心のなねらいになりますが、本時ではその学習を基に、命の大切さに気付かせていきます。

命の尊さに気付かせる指導  
 命が誕生するまでの過程を絵図で示したり、写真や家計図などの具体的な資料を用いたりしながら、今ある命は天文学的な確率で誕生したことに気付かせていきます。  
 また、命を支えるイメージマップ作りの活動をおし、命は多くのかかわりの中で営まれていることに気付かせ、命の尊さをとらえさせていきます。

夢や希望を育む指導  
 何事においても「設計図」を描くことが大切であることを話し、一度しかない貴重な人生を有意義に歩むために「人生設計図」作りに挑戦することを伝えます。個々の子どもたちの自由な思いを尊重しながら、ライフプランを思い思いに表現させます。子どもたちの夢や希望を広げながら、命の貴重さを実感させていきます。

1. 題材名 「命のつながり」 〔4年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成・心身ともに健康で安全な生活態度の形成〕																												
2. 目 標 様々な人々とのかかわりや愛情の中で自分の命が育まれてきたことを知り、命を大事にする気持ちをもつ。																												
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力 <b>キャリア教育のポイント</b> 命の尊さに気付かせ、自らの人生をよりよく生きようとする意欲を育てる。 自分のライフステージを自由に描かせ、将来への夢や希望を育む。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：他者のよさや個性を認めようとする気持ちをもち、よりよい人間関係作りに努めようとする。 【自己理解力】：自分の命は多くの人々の愛情に包まれて育まれてきたことに気付く。 【将来設計力】：人生はかけがえの無い貴重なものであることに気付き、自らの将来について夢や希望を主体的に描くことができる。 【意思決定力】：命について主体的に考え、自他の命を大切にしようとする気持ちを高める。																												
4. 展開案																												
事前	体育の保健「育ちゆくわたし」（体の発育の仕方・大人の体への変化・心の変化）の学習において、自らの体や心の成長に対する関心や理解を高めておく。 命に対する関心をもたせる資料として、命の誕生にかかわる具体的（新生児の出生のころの様子・受精卵の大きさ等）な資料を準備しておく。																											
本 課 時 追 究  ま と め	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学習活動</th> <th>資料等</th> <th>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 新生児の誕生のころの資料から、命について関心をもち、本時の学習の見通しをもつ。</td> <td>新生児誕生のころの写真、録音等</td> <td>・出生時の泣き声や足形、写真などを提示し命の誕生について関心をもたせ、本時は命について考えていくことを知らせる。 【自己理解・意思決定】 ・和やかな雰囲気の中で、命についての思いを自由に話させるが、何よりも大事なテーマであることを話し、真剣に考えていくよう伝える。 【自己理解・意思決定】</td> </tr> <tr> <td>2 「命」から連想することを自由に話し合いながら、本時の課題をとらえる。  命はどのようにつながっているのだろうか。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 保健学習を想起し、命の誕生について確かめる。</td> <td>受精に関する図</td> <td>・「精子・卵子・受精・へその尾」等の言葉を確認させる。紙に示した「命の大きさ」の資料を提示し、出生の神秘さや命に対する尊敬な思いを抱かせたい。 【自己理解】</td> </tr> <tr> <td>4 自分の命のつながりを考える。 ・自分 父母 祖父母 … ・「命のバトン」</td> <td>新しい命の大きさ(紙)  家系図</td> <td>・自分の誕生までの過程を、家系図を基に考えさせ、一人でも命のバトンが途絶えたら今の自分が無いことに気付かせる。 【自己理解】 ・今生きていることの喜びを改めて見つめ直させ、「命のバトン」の意義をとらえさせる。 【自己理解】</td> </tr> <tr> <td>5 命を支えるイメージマップを書き、命を支える多くのかかわりに気付く。</td> <td>イメージマップシート</td> <td>・命のバトン以外に、多くの人のかかわりや自然等、多くのものに支えられていることに気付かせる。 【自己理解・コミュニケーション】</td> </tr> <tr> <td>6 自分のライフステージについて、夢や希望を自由に思い描く。</td> <td>世代ワークシート</td> <td>・命には始まりとともに終わりがあることも確認させ、有意義な人生のためには「人生設計図」(ライフステージ)を描くことが大切であることを知らせる。 【自己理解・将来設計】</td> </tr> <tr> <td>7 本時の学習を振り返り、命について考えたことをまとめる。</td> <td></td> <td>・一人一人の思い(夢や希望、憧れ)を尊重し、自由に考えさせる。 【将来設計】</td> </tr> <tr> <td>8 命についての教師の話聞く。</td> <td></td> <td>・家族への感謝の気持ちや、自他の命を大切に生活しようとする意欲をもたせる。 【自己理解・コミュニケーション】</td> </tr> </tbody> </table>	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	1 新生児の誕生のころの資料から、命について関心をもち、本時の学習の見通しをもつ。	新生児誕生のころの写真、録音等	・出生時の泣き声や足形、写真などを提示し命の誕生について関心をもたせ、本時は命について考えていくことを知らせる。 【自己理解・意思決定】 ・和やかな雰囲気の中で、命についての思いを自由に話させるが、何よりも大事なテーマであることを話し、真剣に考えていくよう伝える。 【自己理解・意思決定】	2 「命」から連想することを自由に話し合いながら、本時の課題をとらえる。  命はどのようにつながっているのだろうか。			3 保健学習を想起し、命の誕生について確かめる。	受精に関する図	・「精子・卵子・受精・へその尾」等の言葉を確認させる。紙に示した「命の大きさ」の資料を提示し、出生の神秘さや命に対する尊敬な思いを抱かせたい。 【自己理解】	4 自分の命のつながりを考える。 ・自分 父母 祖父母 … ・「命のバトン」	新しい命の大きさ(紙)  家系図	・自分の誕生までの過程を、家系図を基に考えさせ、一人でも命のバトンが途絶えたら今の自分が無いことに気付かせる。 【自己理解】 ・今生きていることの喜びを改めて見つめ直させ、「命のバトン」の意義をとらえさせる。 【自己理解】	5 命を支えるイメージマップを書き、命を支える多くのかかわりに気付く。	イメージマップシート	・命のバトン以外に、多くの人のかかわりや自然等、多くのものに支えられていることに気付かせる。 【自己理解・コミュニケーション】	6 自分のライフステージについて、夢や希望を自由に思い描く。	世代ワークシート	・命には始まりとともに終わりがあることも確認させ、有意義な人生のためには「人生設計図」(ライフステージ)を描くことが大切であることを知らせる。 【自己理解・将来設計】	7 本時の学習を振り返り、命について考えたことをまとめる。		・一人一人の思い(夢や希望、憧れ)を尊重し、自由に考えさせる。 【将来設計】	8 命についての教師の話聞く。		・家族への感謝の気持ちや、自他の命を大切に生活しようとする意欲をもたせる。 【自己理解・コミュニケーション】
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点																									
	1 新生児の誕生のころの資料から、命について関心をもち、本時の学習の見通しをもつ。	新生児誕生のころの写真、録音等	・出生時の泣き声や足形、写真などを提示し命の誕生について関心をもたせ、本時は命について考えていくことを知らせる。 【自己理解・意思決定】 ・和やかな雰囲気の中で、命についての思いを自由に話させるが、何よりも大事なテーマであることを話し、真剣に考えていくよう伝える。 【自己理解・意思決定】																									
	2 「命」から連想することを自由に話し合いながら、本時の課題をとらえる。  命はどのようにつながっているのだろうか。																											
	3 保健学習を想起し、命の誕生について確かめる。	受精に関する図	・「精子・卵子・受精・へその尾」等の言葉を確認させる。紙に示した「命の大きさ」の資料を提示し、出生の神秘さや命に対する尊敬な思いを抱かせたい。 【自己理解】																									
	4 自分の命のつながりを考える。 ・自分 父母 祖父母 … ・「命のバトン」	新しい命の大きさ(紙)  家系図	・自分の誕生までの過程を、家系図を基に考えさせ、一人でも命のバトンが途絶えたら今の自分が無いことに気付かせる。 【自己理解】 ・今生きていることの喜びを改めて見つめ直させ、「命のバトン」の意義をとらえさせる。 【自己理解】																									
	5 命を支えるイメージマップを書き、命を支える多くのかかわりに気付く。	イメージマップシート	・命のバトン以外に、多くの人のかかわりや自然等、多くのものに支えられていることに気付かせる。 【自己理解・コミュニケーション】																									
	6 自分のライフステージについて、夢や希望を自由に思い描く。	世代ワークシート	・命には始まりとともに終わりがあることも確認させ、有意義な人生のためには「人生設計図」(ライフステージ)を描くことが大切であることを知らせる。 【自己理解・将来設計】																									
7 本時の学習を振り返り、命について考えたことをまとめる。		・一人一人の思い(夢や希望、憧れ)を尊重し、自由に考えさせる。 【将来設計】																										
8 命についての教師の話聞く。		・家族への感謝の気持ちや、自他の命を大切に生活しようとする意欲をもたせる。 【自己理解・コミュニケーション】																										
事後	授業の様子やワークシートへの子どもの記述等、保護者にも知らせる。 朝の会、帰りの会等で友達を大事にした好ましい言動を紹介していく。																											
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点 【体育】 保健「育ちゆくわたし」で、生命誕生の仕組みを学習する。 【道徳】 資料「パンダの命を救え」を基に、生命の尊さを感じ取り大切な生命を守ろうとする気持ちをもつ。																												

## 授業の実際

### 課題把握の段階

新生児の誕生のころの資料から、命について関心をもつ

担任が自分の赤ちゃんの写真を提示しました。写真をじっくり見ること、和やかな授業の雰囲気を作ると共に、本時の学習の見通しを立てました。



### 課題追究の段階

(1) 保健学習を振り返り、命の誕生の仕組みを想起する

保健の学習で使用した受精の瞬間の写真や卵子の大きさなどの資料を示し、受精によって命が誕生することを想起しました。

(2) 命のつながりについて考える

導入で示した赤ちゃんが誕生するまでの家系を資料で示しました。今の自分たちの命は、「永遠の命のバトン」で受け継がれてきたものであることを押さえました。



(3) 命についてのイメージマップを書く

今ある命を支えているものを考えるために、命についてのイメージマップを書きました。子どもたちは、命は多くの人やもののおかげで営まれていることに気づき、命や人生の貴重さを自分なりに考えました。

(4) 自分のライフステージについて、夢や希望を思い描く

家を建てるにも旅行に出かけるにも計画や設計図づくりが大切で

あることを伝え、自分の命(人生)を有意義に生きるための「人生設計図」づくりに取り組みさせました。このシートには、自分の写真と年齢が書いてあり、将来の就職や計画、夢などが自由に書き込めるようになっています。子どもたちは、熱心に活動に取り組み、発表の場面でも意欲的に自分の「構想」を紹介していました。

### まとめの段階

命について担任の話聞く

板書をもとに本時の学習を振り返り、命の尊さを確認させました。自分の命も、友達の命も大事にしながら毎日の学校生活を頑張っていくことを話し、授業を終えました。

## 授業実践を終えて

小学校におけるキャリア教育で重要な要素の一つが、夢や希望を育むことです。そのための指導のポイントは、自他の命を尊重し合う心や態度を育てることです。本実践では、保健の「生命の誕生」の学習を基に、子どもの発達段階に応じた具体的な資料提示により、命の重みを考えさせました。その上に立って、「人生設計図」づくりという活動を行い、小学校4年生なりに自分の人生について見つめてみる機会を設けました。将来の夢の職業を語る子どもたちの表情はどの子ども生き生きとしていました。本時の活動は、日常生活において友達を大事にする気持ちを育てたり、学習の目的意識を高めたりする上でも有効なものになると考えられます。

【本時の授業について紹介した学級通信】



# 「命」ってすごい!

～ 学活で「命のつながり」を考えました ～



4年生の学校生活も残すところ、あと1日となりました。この一年間の子どもたちのがんばりと成長ぶりは、本当に素晴らしいものでしたので、明日の修了式もきっと一年間の締めくりにふさわしい立派な式になるものと思っております。

さて、昨日、「命」について考える授業を行いました。4年生は「1/2成人」(10歳です)とも言われ、大人に向かう分岐点となる学年です。4年生のゴールを迎えるこの時期に、命について改めて見つめ直し、命の尊さに気付くとともに、新しい学年やこれからの人生を夢や希望をもってがんばっていくとする気持ちを育てることを目的として、この授業を計画しました。

授業のポイントは、次のように3つありました。

一人一人の命は天文学的な確率の上で誕生したとしても貴重で、大切なものであることに気付くこと  
一人一人の命は、多くの人たちに支えられていることを知り、周りの人たちへの感謝の気持ちやみんなの命を大切にしようと思う気持ちをもつこと  
貴重な自分の命 = 人生を自由に思い描き、夢や希望をもつこと



始めに、以前に勉強した保健の学習を振り返りながら、命の誕生の仕組みについて考えました。1つの卵子にたどりつく精子は、およそ3億。その卵子と精子の運命的な出会いが無かったら今の自分の存在は無いと言うことや、「もしかしたら男の子が女の子に、女の子が男の子になっていたかも...」という話に、子どもたちは改めて驚きの声をあげ、生命誕生の神秘さに子どもたちなりの「感動」を覚えたようでした。

次に、我が家の娘誕生までの家系図を紹介し、赤ちゃんが生まれるまでの「命のつながり」について考えました。「赤ちゃんにはお父さんとお母さんがいて、そのお父さんやお母さんにはさらにお父さんとお母さんがいて、またまたそのお父さんやお母さんにはお父さんとお母さんがいて...」と命のつながりは無限です。永遠に近い命のバトンリレーに、またまた命の神秘や重みを感じていた子どもたちでした。

このかけがえのない命は、決して自分一人の力だけで営まれているではありません。「みんなの命を支えているのは何かな?」という問いに対し、子どもたちは家族や友達、地域の人たちを挙げました。「栄養」と答えた子もいましたが、栄養のもの食べ物を提供している人たちもいます。命は先祖様からの命のバトンで引き継がれてきただけでなく、今現在も多くの人たちの関わりの中で互いに支え、支えられて営まれているんですね。

命の尊さ、言い換えるなら人生の貴重さを自分なりに感じた子どもたちに、次に自分の将来を考えてもらいました。「サッカー選手になりたい!」「宇宙飛行士になりたい!」「二十歳になったら赤ちゃんを産みたい...」等々、子どもたちの夢は広がります。自分の将来を考える子どもたちの目は、本当にキラキラ輝いていたように見えました。

明日の修了式をもって、子どもたちは4年生を「卒業」します。4月からはよいよ高学年の仲間入りです。この授業で学んだ自分の命も友達も大切に思う心をもち、自分の夢や希望をもって5年生もがんばってほしいです。



「人生設計図」づくりに取り組み子どもたち。シートに写真が貼ってあり、「自分の人生」という意識をもって、主体的に活動しました。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 職業の種類や役割を考えさせ働くことへの興味・関心を高めた授業

～ 第5学年 「どんな仕事があるかな? 『ご飯&Wカップ編』」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 社会科の学習を発展させ、「ごはん」を切り口に、職業と生活とのかかわりを考えさせます。
- Point 2 職業には多くの種類があること、どの仕事も大切な役割を為していることに気付かせます。
- Point 3 学校の学習が職業にどのようにかわるか考えさせ、学校生活への意欲を高めます。

1. 題材名 「どんな仕事があるかな? 『ご飯&Wカップ編』」 〔学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕				
2. 目標 食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事やサッカーのワールドカップに関連した仕事を調べるとおし、仕事や職業には様々なかかわりや役割があることに気付く。				
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<b>キャリア教育のポイント</b> ひとつの事象には、多くの仕事がかかわっており、それぞれ大切な役割があることに気付かせる。職業には幅広い種類があることに気付かせ、働くことや職業への興味をもたせる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【将来設計力】: 働くことや仕事に対する興味や関心をもつ。 【職業理解力】: 一つの事象に関連して多くの仕事や職業があることに気付かせ、職業への興味をもつ。 【役割認識力】: どの仕事も、それぞれに大切な役割を果たしていることに気付く。				
4. 展開案				
事前	本時で用いる資料として、運動会の仕事に関するVTR、ご飯の実物、サッカーワールドカップ関連の資料(VTR、写真)を準備しておく。 本時は社会科の「米作り」(農家の仕事)の学習の発展である。稲作に関する仕事の様子を押さえておく。			
本時	課題把握	学習活動 1 運動会のVTRを視聴し、仕事に「着目」した学習であることを知る。 2 「ご飯」の実物から社会科の学習内容を想起し、本時の課題を立てる。 食卓にご飯届くまでにどんな仕事があるだろう。	資料等 運動会のビデオ ご飯の実物	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・運動会のビデオから、「仕事」や「働く」という視点から運動会を振り返らせる。 【将来設計】 ・ご飯の実物を提示し、学習への興味を高める。社会科で学習した農家の仕事の様子を想起させながら本時の課題につなげる。 【職業理解】
	課題追究	3 ウェビングの要領で、米作りの仕事から食卓にご飯が届くまでの過程にある仕事を書き出す。 4 完成したウェビングマップを見て、仕事や職業について話し合う。 ・「仕事」と「職業」の意味 ・ご飯に関連した職業の多さ ・それぞれの仕事の役割 ・諺「職業に貴賤なし」 5 サッカーワールドカップを題材に、それに関連した仕事調べを行い、職業にはいろいろな関連や種類があることを知る。また、それらの仕事と、今の学校での学習との関連を考える。	田んぼからご飯までのスライド ワールドカップ関連の記事	・ウェビングの手法で、職業の関連を具体的に考えさせる。完成したウェビングマップを基に、職業の種類の多さや、どの仕事も大切な役割を果たしていることなどの意味を押さえる。 【職業理解・役割認識】 ・身近な話題を基に、職業調べを行い、職業への関心を深めさせる。 【職業理解・将来設計】 ・ワールドカップに関連する全ての仕事、今の学校での学習と関係することに気付かせ、日常の学習を大切にしようとする意欲をもたせる。 【将来設計】
まとめ	7 本時の学習を振り返り、わかったことや考えたことをシートに書く。			
事後	8 次の活動について知る。 ・「お気に入りの仕事調べをしよう」 授業の様子や個々の子どもたちの感想を学級通信等で知らせ、家庭でも自分に興味ある出来事や職業への興味をもたせるよう促す。			

#### 指導のポイントと工夫

##### 職業と生活のかかわりを気付かせる指導

食卓に「ごはん」が届くまでにどのような仕事があるか挙げさせ、農家の仕事以外にも、輸送や包装、調理にかかわる仕事など、多くの職種があり、どれも欠かせない仕事であることに気付かせます。

##### 職業の種類と役割を考えさせる指導

「ごはんが届くまで」の例に加え、子どもたちに関心の高い「サッカーワールドカップ」に関する職業のウェビングマップ作りの活動を行います。サッカーチームを支える用具係「ホペイロ」という仕事を紹介しながら、職業の種類と役割を考えさせていきます。

##### 職業と学校生活の関連を考えさせる指導

「ワールドカップ」に関連した仕事マップを見て、「サッカー選手体育」「通訳 英語」「マスコミ 国語」など、学校での授業がどんな職業に関係するか子どもたちなりに考えさせることをとおし、毎日の学校生活や授業の大切さを気付かせていきます。日々の学校生活を充実させようとする意欲を高めていきます。

#### 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【社会】 「米作りのさかんな地域」で、米作りの仕事の様子や働く人々の工夫や苦労を調べる。

## 授業の実際

### 課題把握の段階

(1) 運動会の様子を振り返り、「仕事」に着目する

運動会での「仕事」の場面を編集した資料



本時は、運動会の直後に行った授業で、その時の係活動や準備の仕事など、「働く」場面を編集した資料を導入資料として提示しました。運動会が一人一人の仕事や働きで成功したことを押さえた上で、本時では仕事に着目した学習を行っていくことを知らせました。

(2) 茶碗一杯の「ごはん」から課題を設定する

茶碗に盛りつけたご飯の実物を提示し、「このご飯の中にどんな『仕事』があるか」発問しました。5年生の社会科の学習で「米作り」を学んでいる子どもたちは、すぐに「農業」と答えました。社会科の学習を想起した子どもたちを評価しながら、「今、教室のこの場に、ご飯が届けられるまでにあった仕事は、農業だけ？」と重ねて問い、本時の学習課題「食卓にご飯が届けられるまでにどんな仕事があるだろう。」を設定しました。

### 課題追究の段階

(1) ウェビングの要領で、米作りの仕事から食卓にご飯が届くまでの仕事を書き出す

黒板中央に茶碗に盛られたごはんを板書し、このご飯が教室に届くまでに関連した仕事を考えさせました。始めは、社会科の学習の復習として「米づくり」そのものにかかわる仕事を出させます。次に、それらの仕事に関連する仕事（例えば、「田植え」「田植機」「田植機を作る工場」「燃料を作る仕事」...）を次々に考えさせ、ウェビングの要領で黒板に書き出していきました。始めは、社会科の「米」から出発しましたが、家庭でご飯を炊く仕事やごはんに必要な水を提供する仕事、米を輸送する運輸の仕事、トラックを製造する自動車工場の仕事、米を売る販売店の仕事...、等々、黒板には様々な分野での仕事のつながりが示されました。

(2) ウェビングマップから仕事や職業について考える

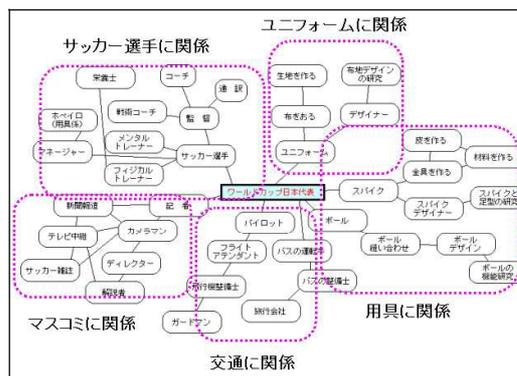
板書された「ごはんのウェビングマップ」を見た子どもたちに、気付いたことを問うと、「たくさんの仕事があってびっくり!」「どの仕事も、つながっている」等の発言がありました。そこで、「どの仕事が一番大切?」と発問すると、「どの仕事もごはんを食べるためには必要!」と仕事や職業の役割について気付かせることができました。

(3) サッカーワールドカップに関連した「仕事」マップをつくる

「ごはんのウェビングマップ」の要領で、サッカーのワールドカップに関連した仕事も考えさせました。ここでも、ごはん同様に、仕事や職業の多様さ、役割の大切さを気付かせることができました。

(4) 仕事と学校での学習の関連を考える

サッカーワールドカップに関連した仕事を右の様に、大体の分野ごとにまとめ、それぞれの仕事につくために大切となる学校の学習(授業)について考えさせました。この発問で、体育以外にも家庭科(ユニフォーム製作、栄養管理など)や英語(通訳)、国語(アナウンス実況など)など、学校でのどの授業もワールドカップにつながるものであることを気付かせることができました。



## 授業実践を終えて

教科学習の発展として提示した「ごはん」は、社会科で学習した農業の学習を基に仕事のつながりを考えさせることができ、とても有効な資料でした。ウェビングの手法は、仕事や職業の多様さやつながり、それぞれの仕事の役割が視覚的にもよくとらえられ、効果的でした。さらに、ワールドカップという一見すると子どもたちからかけ離れた「仕事」も、日常の学校での授業とのかかわりが大きいことに気付かせることができたことは、学校生活に対する子どもたちの意欲を高めることにつながりました。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 自らの夢を考えさせ日々の学校生活への意欲の向上を図った授業

～ 第5学年 「お気に入りの仕事調べ」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 将来の職業を考えさせることをとおし、自分の生き方を見つめさせる場を設けます。
- Point 2 職業人に必要な資質を身に付けるために、毎日の学校生活の充実が大切であることに気付かせます。
- Point 3 心のノートや「松井・イチロー」の資料を用い、将来への夢を育みます。

1. 題材名 「お気に入りの仕事を調べてみよう」 (5年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)				
2. 目標 自分の興味のある仕事について調べ、将来の職業生活についての関心を広げるとともに、日々の学校生活に向かう意欲的な態度を育てる。				
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<b>キャリア教育のポイント</b> 将来、自分が就きたい仕事を考えさせることで、子どもたちの職業に対する興味や関心を広げる。日々の学校生活での様々な学習と将来の職業生活とのつながりに気付かせ、毎日の学校生活への意欲を高める。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【自己理解力】: 自分自身の長所や興味について考え、自己の生き方への関心をもつ。 【職業理解力】: 関心のある職業に就くために必要な能力や要素を考えることができる。 【将来設計力】: 日々の学習が将来の職業生活につながることに気付く。 【課題解決力】: 学習の意義を知り、学校生活に対する一層の意欲をもつ。				
4. 展開案				
事前	「自分の将来の仕事」を考える学習を行うことを予告しておき、憧れの仕事や興味あるテーマについて考えておくよう指示しておく。 「仕事に必要な5つの力」(求められる人材)、「松井&イチローのすごさ」の資料を準備しておく。			
本時	課題把握	1 「どんな仕事があるかな?『ご飯&ワールドカップ編』」の学習を想起する。 2 各自の将来の憧れの職業を紹介し合う。 3 心のノートの「夢の詩」を読み、本時の課題を立てる。 <b>夢の仕事につくためにはどうすればよいか考えよう。</b>	資料等 ワールドカップに関する仕事(スライド) 心のノート(P16)	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・たくさんの仕事があること、どれも大切な役割をもった仕事であることを想起させるとともに、一人一人の子の憧れや夢を互いに尊重し合うようにする。 【自己理解】 ・夢や憧れの実現のための努力の大切さを確認し、課題設定につなげる。 【職業理解】
	課題追究	3 自分が選んだ憧れの仕事について、必要となる力や資質を考える。	ワークシート	・その仕事の特性を考えさせながら、必要となる資質を考えさせる。また、その資質を身に付けさせる場を具体的に考えさせ、夢の実現に向けた過程を子どもたちなりにもたせる。 【自己理解・職業理解・将来設計】
		4 職業に必要な能力を身に付ける場を考える。		
		5 資料から、「職業人・社会人」として必要な力を知る。また、それらの力の大切さを具体的にとらえる。 ・誠実さ・協調性・礼儀・自主性等	「求められる人材」(スライド)	・専門的な能力や資質だけでなく、基本的な生活習慣や日々の学習が重要となることを具体的にとらえさせる。 【職業理解・将来設計・課題解決】
	まとめ	6 松井選手、イチロー選手の事例をとおし、日々の学校生活での学習が、夢や憧れの実現につながるものであることを知る。	松井・イチローの写真とエピソード	
		7 本時の学習を振り返り、わかったこととこれからの生活でがんばっていききたいことをシートに書く。		・日々の学習や生活の大切さを確認し、目標や意欲をもって今後の学校生に取り組むよう促す。 【自己理解・将来設計・課題解決】
	事後	8 心のノートの夢の詩を読み、本時の学習を終える。	心のノート(P16)	
	心のノート「夢に届くまでのステップがある」のページを記述する。 学習後の感想や今後の抱負等を掲示や通信等で紹介し合う。			
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点				
【道徳】 資料「メジャーリーガー・イチロー」を読み、目標に向かって努力することのすばらしさに気付く。				

#### 指導のポイントと工夫

**自分の生き方を見つめさせる場の設定**  
自分の好きなことや得意なこと、将来の憧れの職業等を考えさせることにより、自分自身の将来や生き方について、関心を高めさせていく場にします。

**学校生活への意欲の向上を図る指導**  
ジョブカフェ岩手から出された「求められる人材」の内容を取り上げ、挨拶や協調性、礼儀等の大切さを具体的に考えさせます。また、これらの資質は日々の生活で学んでいくことであることに気付かせ、学校生活への意欲の向上を図ります。

**将来への夢を育む指導**  
子どもたちに身近な松井選手やイチロー選手のエピソードを紹介し、また、心のノートの「夢の詩」を音読させたり、感想を話し合わせたりしながら、夢をもつことの大切さ、楽しさを伝えていきます。事後の指導では、本時の学習を振り返らせながら、心のノート「夢に届くまでのステップがある」を記述させます。

## 授業の実際

### 課題把握の段階

(1)前時「どんな仕事があるかな」の学習内容を想起する

「ウェビングマップごはん編」「ウェビングマップワールドカップ編」の資料をプレゼンテーションのスライドで提示し、前時の学習内容を想起させました。そこで押さえたことは、「仕事や職業の種類はたくさんあること、どの仕事も大切な役割があること」の2点です。

(2)自分の将来の憧れの職業を紹介し合う

高学年の子どもには、自分の将来について語ることに恥ずかしさを覚える子もいることに配慮し、始めに教師の側から、子どもたちのなりたい職業を話しました。教室の雰囲気柔らかくなった後で、子どもたちに憧れの職業を紹介してもらいました。子どもたちの発言を受け止め、どの仕事もすばらしい仕事であることや夢をもつことの楽しさを話しました。

(3)心のノート「夢の詩」を読み、本時の学習課題を立てる

高学年用の心のノートに掲載されている「夢の詩」を全員で音読させ、夢に届くまで「一步一步の努力」が大切であることを確認させました。そして、「努力」とは、何をどのようにがんばればよいのか問題意識を持たせ、本時の課題「夢の仕事につくためには、どうしたらよいか考えよう。」を設定させました。

夢に届くまでのプランがある  
あなたにどんな目標がありますか  
あなたはどんな夢をもっていますか  
夢はくじけずにはなれぬあなたをばねばなりません  
夢はあなたの心に勇気をあたえます  
大きな夢も 小さな夢も  
その届くまでは それぞれの道があります  
夢に向かい  
一步一步努力することが  
あなたの生きる喜びを生み出します。

### 課題追究の段階

(1)その仕事に必要な能力や資質を考える

右のワークシートを用い、自分がなりたい仕事に必要な能力や資質を考えさせました。始めに、「パイロット」を例にして、パイロットに必要なこと（飛行機操縦の免許、英語、コンピュータ操作、...等）シートの書き方を説明した上で、子どもたち個々に考えさせました。

学級活動（「お気に入りの仕事調べ」）ワークシート

☆ 夢の仕事につくためにはどうしたらよいか？ 5年

なりたいなあ…

この仕事で大切な力は？  
この仕事に必要なことは？

どこで学ぶの？  
どこで身につけるの？

今日の学習を振り返りましょう（わかったこと・考えたこと・これからがんばりたいこと）

(2)必要な能力や資質をどこで身に付けるのか考える

(1)で考えた能力や資質を勉強したり、身に付けたりする場がどこなのか考えさせました。例えば、「英語は、中学校や高等学校、大学」、「飛行機の免許は、専門の学校」などです。わからないところは、無理に記入しなくてもよいことにしました。

(3)職場で必要とされている人について知る



(1)・(2)は、自分が選んだ仕事について考える活動でしたが、社会人として、職業人としてどの仕事についても大切な要素として子どもたちに提示したのが、「ジョブカフェ岩手」の資料を基に作成した、「職場ではこんな人物を求めています！」の資料です。これらの要素がなぜ大切なのか、具体的な職業を例に考えさせました。例えば、看護師

さんとの連携(チームワーク)がうまくとれないお医者さんの治療はどうなるか、監督の指示が聞けない野球選手はどうなるかなどです。(ジョブカフェ岩手ホームページ <http://www.jobcafe-i.jp/index.html>)

(4)仕事と学校での学習の関連を考える

(3)の「力」はどこで身に付けるか、改めて問いました。英語や飛行機などの専門的な力とは異なり、これらの要素は、普段の学校生活から身に付けていかなければならないものであることに気付かせました。

## 授業実践を終えて

将来の職業について考えさせるとき、ともすると専門的な能力や知識に目が行きがちですが、小学校キャリア教育ではそうした専門性よりも、まずはそれらの基盤となる社会人として必要な資質や態度を十分に培いたいものです。本実践では、子どもたち個々の夢から学習が出発しましたが、日々の学校生活の大切さを学級全体で確認し、これからの学校生活への意欲を高めることができました。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 『フリーター問題』から将来の職業生活への関心を高めた授業 ～ 第6学年 「『フリーター』って何？」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 「フリーター」についての知識を広げ、職業への関心や理解を深めさせます。
- Point 2 いろいろなことに積極的に挑戦し、自分のやりたいことを見つけていくことの大切さを伝えます。
- Point 3 グラフや統計等、資料を適切に読み取ったり、活用したりする力を高めます。

1. 題材名	『『フリーター』って何？』 〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕
2. 目標	フリーター問題について調べることとおし、いろいろな仕事についての興味をもち、自分の将来の職業生活についての関心を高める。
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力	<p><b>キャリア教育のポイント</b> 将来の職業選択の際の一つの資料として「フリーター」に関する情報を提供し、フリーターの問題に気付かせながら、自己の生き方を考えさせるきっかけとする。 グラフや統計等の資料を適切に読み取る力を育てる場とする。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【職業理解力】：職業には様々な種類があることに気付いたり、「フリーター」に関する知識を広げたりしながら、仕事についての理解を深める。 【将来設計力】：将来の自分の職業生活について、夢や憧れの気持ちを膨らませることができる。 【情報活用力】：辞書を活用したり、統計資料や読み物資料を読み取ったりしながら、フリーターについて正しい情報を得る。</p>

#### 指導のポイントと工夫

「フリーター」の理解  
船橋情報ビジネス専門学校からのフリーソフトの資料や「フリーターがわかる本！」等のデータを小学生にもわかるよう加工し、クイズ形式で提示していきます。フリーターとは何か、賃金や雇用の問題、「生きがい」の問題等を重点的に取り上げ、小学生なりの理解を図ります。

やりたいことを見つけることの大切さの指導  
フリーターの一番の問題点が、「やりたいことが見つからない」ことであることを知らせます。「やりたいことを」見つける」ために、小学生では、いろいろなことにチャレンジして、自分の好きなことを見つけたり、幅広い力を付けたりしていくことが大切であることを伝えます。

資料活用・選択の力を高める指導  
標題や目盛りを読む、わかったことを発表させるなど、グラフや試料等の基本的な読み方を子どもたちの実態に感じながら、丁寧に指導していきます。

4. 展開案	校内の教職員から、子どものころの憧れの職業についてインタビューし、クイズを作成しておく。フリーターに関する資料を収集し、6年生の児童が理解しやすいよう加工しておく。		
事前 課題把握 本時 課題追 究 まとめ	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 自分が知っている職業や興味ある職業について発表し合う。	先生方の憧れの職業当てクイズ	・子どもたちから出された職業はどれも大事に扱う。 【職業理解・将来設計】
	2 「先生方のなりたがった職業当てクイズ」を行い、本時の学習についての興味・関心を高める。	フリーターの数	・クイズをとおして、本時の学習に対する和やかな雰囲気を作るとともに、いろいろな職業があることに気付かせたい。 【職業理解・将来設計】
	3 「フリーター」の数の推移をグラフで示し、本時の学習課題を設定する。 「フリーター」について考えよう。		・「フリーター」の数が増大していることをグラフから読み取らせ、フリーターについての関心をもたせる。 【職業理解・情報活用】
	4 「フリーター」について知っていることや言葉からイメージすることを発表し合う。	辞書	・子どもたちから出された発言事項を板書で整理する。「よくわからない」という声も認め、以後の展開で生かす。 【職業理解】
	5 「フリーター」の意味を辞書で調べる。 定職に就かずアルバイトで生計を立てている人	フリーターの声	・辞書を活用させ「フリーター」「定職」「アルバイト」等の用語を調べさせ、フリーターの意味をとらえさせる。 【職業理解・情報活用】
	6 「フリーターの声」や文書資料から、フリーターが増えてきたわけをとらえる。	定職従事者とフリーターとの雇用条件の差	・フリーター増加の理由は様々挙げられるが、本時では、雇用上の理由と本人の意志（やりたいことが見つからない）の2点を取り上げる。 【職業理解・情報活用】
	7 生涯賃金や保険制度、税金面、働くことへの意識等、フリーターがかかえる問題点を知る。		・賃金等の問題に加え、自分のやりたいことが見つからないという意識の問題を取り上げ、安易に「フリーター」を選択することがないように配慮する。 【職業理解・将来設計・情報活用】
	8 フリーターについてどのように考えるか、意見を交換し合う。		・単純にフリーターを否定することはしない。いろいろな力を伸ばしていくことの大切さを知らせ、今後の生活についての意欲をもたせる。 【将来設計】
9 教師の話や聞き、いろいろなことに興味を抱きチャレンジする気持ちをもつことが大切であることを知る。			
事後	本時で将来の職業生活への興味・関心を高めさせた上で、次の学級活動での「未来の自分史作り」の学習を行う。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点
- 【学級活動】 「未来の自分史作り」で、夢や希望を膨らませながら将来の人生設計について考える。  
【社会】 「憲法と私たちの暮らし」において、基本的人権としての職業選択の自由や納税の義務について調べる。

## 授業の実際

### 課題把握の段階

#### (1) 自分の興味ある職業を発表し合う

知っている職業や自分が興味をもっている職業について、自由に発表させました。プロスポーツ選手や看護師等、子どもたちは思い思いに発言しました。現時点で将来の仕事を考えている子は、学級の3割程度でしたが、改めて自分の職業に目を向けさせる機会になりました。

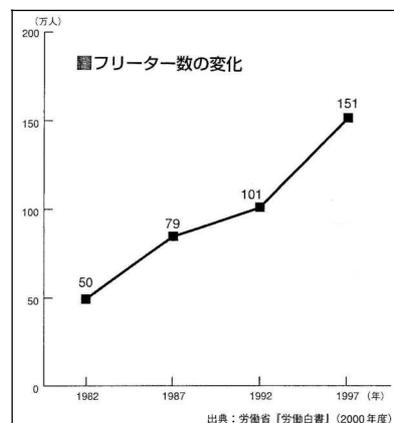
#### (2) 先生方が子どもの時になりたがった職業についてクイズで答える

先生方の個人名が書かれたカードと職業名が書かれたカードの2種類を示し、子どものときに先生方がなりたがった職業をクイズにして出題しました。校長先生や教頭先生はじめ、子どもたちに身近な存在である先生方の憧れの職業を考えさせる活動は、大変盛り上がりました。子どもたちは、先生方の性格や特徴から答えを予想し、意外な答えに驚いたり、納得して正解を聞いたりする姿が見られました。また、先生方も子どものころにはいろいろな夢を描いたことに気付くことができました。

(1)と(2)の活動で、和やかな雰囲気の中で、職業について考えるという本時の方向性をつかませることができました。

#### (3) 「フリーターの数」の推移のグラフから学習課題を立てる

右のグラフを提示しました。はじめに標題を隠し、どんな仕事をしている人の数のグラフか予想させた上で、グラフを公表しました。資料から気付いたことを問い、「フリーター」の数がどんどん増えていることを確認させました。「フリーター」についての子どもたちの「名前は聞いたことがあるけど、よくわからない」という反応を受け、「フリーターについて考えよう。」という本時の学習課題を設定しました。



### 課題追究の段階

#### (1) 「フリーター」のイメージを話し合う

はじめ、自由に「フリーター」のイメージを発表させました。子どもたちからは、3タイプの発言が出されました。「好きなことができてうらやましい」「何となく、カッコいい感じ」という発言のような肯定的なイメージ(2人)、「プラプラしている人」に代表される否定的なイメージ(3人)そして残りほとんどの子の「よくわからない」というものです。

#### (2) 「フリーター」の定義を押さえる

6年生の子どもにもイメージできるように、「フリーターとは、決まった仕事に就かないで、アルバイトで給料をもらっている人」と説明しました。

#### (3) フリーターが増加しているわけを知る

フリーターが増加しているわけを2点に絞って、子どもたちに説明しました。1点が、働きたくても働けないという雇用上の理由で、もう1点が、本人の意志に関係する「やりたいことが見つからない」というものです。「自分が原因になっているのはどちらの理由？」と問い、後者の「とりあえずフリーターにでも…」という、自分のやりたい仕事が見つけれず、安易な気持ちでフリーターを選択したタイプの理由に着目させました。

#### (4) 「船橋情報ビジネス専門学校」作成のフリーソフトからフリーターがかかえる問題点に気付く

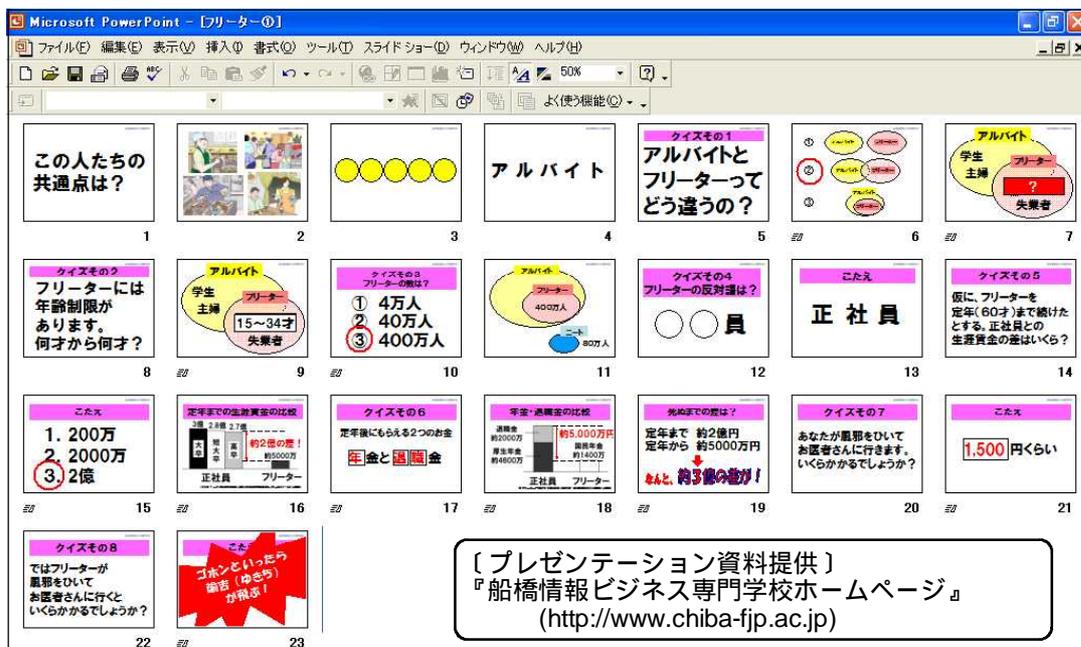
フリーターの現状や問題点をとらえさせるために、次のページのような船橋情報ビジネス専門学校が作成したフリーのプレゼンテーションソフトを使用しました。これは、「フリーター・ニートになる前に読む本」(鳥居徹也著、三笠書房)の中で紹介されているもので、キャリア教育に携わる先生方対象に作成されたソフトです。

このソフトには、次のような特徴があります。

同校のホームページから、フリーにダウンロードできます。  
 アニメーションや効果音の加工も設定されており、そのままプレゼンテーション(パワーポイント)として活用できます。  
 使い方に応じてシートを選択したり、加工したりすることができます。  
 クイズ形式の提示になっています。



クイズ形式のプレゼンテーション構成になっており、子どもたちも楽しみながらフリーターについての理解を深めることができました。特に、フリーターと正社員の生涯賃金の差や医療関係の待遇の差などには、特に驚いていました。



シートを見せた後、改めてフリーターについてどう思うか問うと、「フリーターは大変!」「やっぱりなりたくない!」という声が聞かれました。他に、「はじめは好きなことをやって、途中からフリーターを辞めればよい」といった子どもがいました。この発言を取り上げて、フリーター期間が長ければ長いほど正社員への雇用率が低くなるということを補説しました。「とりあえずフリーターをやって、後から好きなことをやりたい」という考えは、実際には実現が困難であるということを伝え、自分のやりたいことを見つけることの大切さを押さえました。

**まとめの段階**

担任の話から豊かな将来を歩むためのアドバイスを聞く

導入時に自分のなりたい職業を発表させたことに触れながら、豊かな将来を生きるためには、自分の好きな仕事に打ち込むことが大切であることを伝えました。そして、自分のやりたい職業を見つけるためには、今の学校生活でいろいろなことにチャレンジしながら、自分の好きなことを見つけていくことが大事であることを話しました。食べ物でも、いろいろな料理を食べてみることで、自分の好きな味や料理が見つかることを例にあげ、学校での全部の勉強の中から得意なことを見つたり、伸ばしたりしていくとよいという話をして授業を終えました。

〔子どもたちの振り返りの感想から〕

- ・フリーターになると、正社員とは3億円もの差があることにとってもおどろきました。何よりもフリーターは、自分の人生が楽しくないなと思いました。ぼくは、自分の好きな仕事で楽しく仕事して、豊かな人生を送りたいなと思いました。
- ・自分が好きなことを見つけるためにアルバイトをしている人は仕方がないと思ったけれど、ただフリーターをやっている人は、減ってほしいと思いました。私はフリーターではなく、ちゃんとした仕事につきたいです。
- ・正社員とフリーターは、すごい差がありました。私は今は自分になりたいものではなくて、そんなことを考えもしなかったけれど、今日の勉強で早めに自分の夢を見つけようと思いました。いろいろなことに全力で取り組んで、好きなことをみつきたいです。

**授業実践を終えて**

キャリア教育の推進が求められる要因の一つである「フリーターやニートの問題」を、小学校6年生なりに考えさせた実践です。将来「フリーターにでも」と安易な進路を選択することがないように、小学校段階で押さえさせたいこととして、「フリーターの現状や問題を知らせる、いろいろなことにチャレンジして自分が好きなことを見つけさせるようにする」の2点を中心に授業しました。子どもたちの振り返りの作文を読むと、フリーターの現実的な問題（経済面、雇用面）をとらえた記述や、これからの学校生活を前向きに送ろうとする意欲的な記述が見られ、授業の目的は達成できたと思います。本時で用いた船橋情報ビジネス専門学校のフリーソフトは、小学校6年生にも十分に理解できる内容であり、大変効果的でした。フリーター問題を考えさせることをとおし、自分の将来の職業に目を向けさせたり、これからの学校生活への目的意識を持たせたりすることができ、有意義な実践でした。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

中学校との連携を図って、希望や目標をもって生きる態度の形成を図った授業  
～ 第6学年 「もうすぐ中学生」 ～

### 本実践のポイント

- Point 1 進路にかかわる諸資料を適切に活用できる力を培います
- Point 2 中学進学を控えた子どもたちの夢や希望を育み、目標をもって生活しようとする意欲を培います
- Point 3 系統的な進路指導を図るために、中学校との連携を図ります

1. 題材名 「もうすぐ中学生」 〔6年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕			
2. 目 標 中学校生活に対する不安や悩みを解消し、新しい生活に向けた期待や希望を膨らせるとともに、中学進学に向け目標をもって生活しようとする意欲を高めることができる。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 資料を適切に活用して課題を解決させたり、進路について自己の考えを深めさせたりする。 中学生生活における期待や希望を膨らませ、目標をもって生活する態度を培う。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【自己理解力】：中学進学や中学校生活に関する問題等について主体的に考える。 【将来設計力】：中学校生活への期待や希望を膨らませる。 【情報活用力】：グラフやインタビュー等の資料から問題を見つけたり、解決したりする 【意思決定力】：中学進学に向け、目標をもって生活しようとする意欲をもつ。			
4. 展開案			
事前	事前に進学にかかわる児童の意識調査を行い、中学校生活に対する児童の不安や悩み、実態等をとらえ、資料化しておく。 中学校との連携を図り、児童の中学校生活への抵抗感を取り除いたり、希望を膨らませたりすることができる資料を準備しておく。(VTRや中学生の作品等)		
本 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 中学校生活に対する意識調査の資料を見て、気付いたことを話し合う。	中学校生活への意識(アンケート結果)	・グラフから、級友のほとんどが中学生生活についての不安や悩みを抱えていることに気付かせ、問題の共通化を図る。 【自己理解】
	2 本時の課題をとらえる。 中学校の生活の様子を調べよう。		・時間割の内容以外にも、小学校との違いを知っている子には発表させる。 【自己理解】
	3 中学校の時間割表を見て、小学校との違いを調べる。 ・教科の名称、数、種類の違い ・時程の違い ・クラブ活動の有無 ・教科担任制 等	中学校の時間割表	・時間割調べをしての感想を問い、中学校への一人一人の子の関心を高めさせたい。 【自己理解・情報活用】 ・卒業生(中学生)には、事前に行った中学校生活へのアンケート結果をもとに話をさせ、不安や悩みを解消させる手だてとするとともに、中学校生活の楽しさやすばらしさについても触れさせていく。 【情報活用・将来設計・意思決定】
	4 中学生の話や作品等を見たりしながら、中学校生活の実際の様子についてのイメージをもつ。	中学生の声(VTR)中学生の作品等 中学校教師の声(VTR)	・部活動の成果等を具体的に示し、中学生生活への憧れの気持ちを育む。 【情報活用・将来設計・意思決定】
	5 中学校教員の話や聞き、中学進学に向けた準備として、必要なことを聞く。		・中学教師の話では、中学生生活につながる生活の視点を中心に話してもらおう。 【情報活用・将来設計・意思決定】
	6 中学進学に向け、今後の生活における自己の目標を立てる。	目標カード	・それぞれの決意を表明させ、実践への意欲化を図る。 【将来設計・意思決定】 ・ワークシートに本時の感想を記述させることにより、子どもたちに本時の学習の価値を実感させるとともに、教師の指導の成果をとらえる資料とする。 【将来設計・意思決定】
	7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。	ワークシート	・教師の体験談を紹介し、中学生生活への意欲を高める。 【将来設計・意思決定】
8 小学校生活の締めくくりにあたって、小学校生活について教師の話や聞き。	担任の話		
事後	各自が立てた生活の目標を教室に掲示し、目標の実践化を図る。 授業の様子や個々の子どもたちの感想等、学級通信等で知らせ、中学校に向けた意識を家庭との連携の上で図るようにする。 子どもたち個々の取り組みの様子を観察し、適宜賞揚したり、指導したりする。 感想を記述したワークシートに教師からの励ましの言葉を記す。		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点			
【国語】 詩「生きる」を読み、自分の将来の生き方を考える。 【道徳】 資料「自分への手紙」で、自分の長所や短所を見つめながら、将来について考える。 【総合的な学習の時間】 「ぼく・私の未来」の学習で、自分の将来を考える場をもつ。 【日常生活】 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちもち、清掃活動や係活動に取り組む。			

### 指導のポイントと工夫

資料を活用する力の育成  
指示や発問を明確にしたり、メモをとらせたりしながら、グラフの読み取りやインタビューの話の聞き取りを適切に行かせます。また、進路についての関心や問題意識をもたせるようにします。

夢や希望、意欲の醸成  
先輩である中学生の作品を紹介したり、アドバイスを聞かせたりしながら中学校生活に対する不安や悩みの解消を図ります。さらに、中学校生活のすばらしさに触れさせながら、新しい生活への期待を抱かせるとともに、自分自身の現在の生活態度についても見つめ直させ、目標をもって学習や生活に取り組ませるようにします。

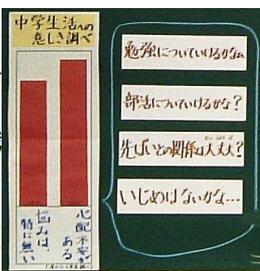
中学校との連携  
本時での小中の連携の視点は、次の2点です。  
・子どもたちにとって身近な先輩の中学生の作品やアドバイス、中学校教師の話等を資料として用います  
・本時の授業を終えての中学校への子どもたち個々の思いを中学校教師に伝え、情報の共有化を図り、中学校入学後の指導に生かしていきます。

## 授業の実際

### 課題把握の段階

中学校生活に対する意識調査の結果から本時の課題を立てる

事前に、中学校生活についての意識について、子どもたちからアンケート調査した結果をグラフで提示しました。



課題把握の場面で使用したグラフとアンケート結果。中学進学を自分たち自身の問題としてとらえさせました。

グラフから気付いたことやわかったことを話し合わせながら、中学校に対する不安や心配を感じている子が学級の中に多くいることを全体で確かめ、本時の課題『中学校の生活の様子を調べよう』を設定しました。

### 課題追究の段階

#### (1) 中学校の時間割から小学校との違いを調べる

子どもたちの進学先である中学校の協力を得て、中学1年生の実際の時間割をいただき、子どもたちに提示しました。この時間割を使い、小学校との違いを見つけていきました。「英語」や「選択」など、新しく発見した授業に、子どもたちは興味を抱くことができました。

#### (2) 先輩の話や作品から中学校の生活の様子を調べる

時間割で発見した「美術」の時間に作成した先輩の実際の作品を中学校からお借りし、紹介しました。レタリングや静物画などすばらしい作品の数々に触れ、子どもたちから「すごいなあ...」「上手だなあ...」という声を聞くことができました。

「先輩からの話」では、事前に子どもたちが感じていた「勉強や部活」の問題を中心にインタビューしたものをVTRで提示しました。小学校の時からなじみであった先輩の話は、不安や悩みの解消と中学校生活への期待を膨らませるのに効果的でした。中学校では、自分の努力だけでたくさんの可能性を広げられることを感じ取ることができました。

#### (3) 中学校教師の話から中学進学に備える心構えを聞く

小学校卒業後に中学校で子どもたちを迎える中学校教師から、中学進学に備えたアドバイスをVTRで視聴しました。小学校段階での学習をきちんと身に

# With Your Smile

～ 花巻市立湯口小学校 第6学年 学級通信 H18.3.3(金) ～

## 夢期寺希望 やる気が湧いてきたよ 中学校生活

～ 学級通信で「中学校生活について調べました」～



小学校生活も本当に残りわずかとなりました。子どもたちは、今まさに最後のゴールテープに向かって、ラストスパートで学習、生活に取り組んでいるところです。

さて、先日学級活動の時間に、「中学校生活の様子を調べよう！」という授業を行いました。この授業は、間もなく小学校を卒業する子どもたちが、来たる中学校生活に向けて夢や期待をふくらませ、新しい生活への意欲を高めることを目標として行った授業です。授業の柱は、下のよう大きく3つありました。

#### 時間割調べで

新しく始まる教科や授業時間の違い、部活

の登場など、小学校とは異なることをたくさん見つけながら、中学校生活への興味を高めていきました。

また、実際に先輩が描いた美術作品を見ると、「すごい!」「上手～」という声があがり、中学生への憧れの気持ちや「自分もあんな絵が描けるようになるかな」と期待する気持ちももつことができたようです。

先輩や中学校の先生の話(VTR)では、子どもたちが一番不安に感じていた勉強や部活のこと、いじめ問題などについて聞きました。勉強、部活については、「自分のやる気さえあれば大丈夫!」「自分が何をやりたいか、目標をきちんと決めて挑戦すること」「大変なことも多いけど、自分が頑張った分、結果もついてくる」...等々のお話を聞きました。また、学級内の問題については、「友達関係が大切」「クラスみんなで話し合って解決できる」「クラスの団結を今から大切に!」などのアドバイスをもらいました。VTRから、子どもたちは抱えていた悩みや不安を解消するとともに、自分の努力次第で充実した中学校生活を送られることを知り、改めて「がんばるぞ!」という意を強くしたようでした。

VTRの最後に、中学校の先生から小学校卒業までになんかしてほしいことを話していただきました。その話の中に、「小学校の勉強をきちんと終えること、そして、お手伝いや仕事、挨拶など当たり前のこと、普通のことをきちんとできるようにしておくこと」ということがありました。

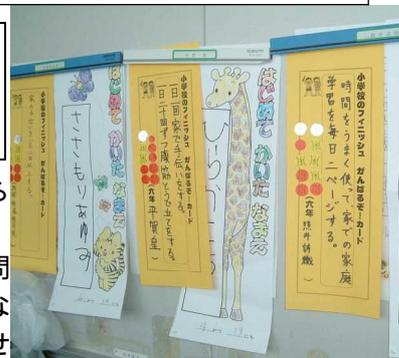
そこで、卒業式までに自分ががんばる目標を、一人一人決めました。「お手伝いをしっかりがんばる!」「今までの復習を一人勉強で毎日2ページやる!」など、子どもたちによって立てた目標はいろいろですが、小学校生活のゴールを迎えるに当たり、自分ががんばると決めたことを意識して一日一日の生活を送っていくことがとても大切です。子どもたちのがんばりを応援し、有終の美につなげていきたいと思えます。

さあ ゴールめざして みんなでファイト!



「勉強や部活についていけるかなと心配だったけれど、努力すれば大丈夫、自分のやる気だと、勇気づけられることがいっぱいだったので、心配が心配でなくなりました。」(Uくん)  
 「先輩達からのアドバイスがとても参考になりました。不安が一気に消えました。小学校生活の残りを無駄にしないようにがんばりたいです。」(Kくん)  
 「中学校では勉強や部活で努力しただけ力がつくということがわかり、やっぱり中学校はやる気が必要なんだなあと思いました。」(Yくん)  
 「勉強や部活が不安だったけど、努力すればついていけそうなので、少し安心しました。卒業まで、できることをしっかりしていこうと思いました。」(Sさん)

本時の学習の様子を保護者に紹介した学級通信。子どもたちが書いた感想には、中学校への不安が解消されたことや今後の生活に対して意欲を高めたことが表現されています。



小学校生活の過ごし方で、自分が特に頑張っていたことをカードに書き、教室に掲示しました。子どもたちが目標の達成状況を毎日自分で振り返り、その評価結果をシールで表しました。

つけること、自分のことはきちんと自分でできるようになること、挨拶や礼儀など当たり前のことを当たり前にできるようになることが話され、子どもたちに現在の自分の生活を振り返らせるのに効果的でした。

(4) 今後の生活における自己の目標を立てる

本時の学習を振り返らせながら、卒業までの学校生活で努力していきたい目標を個々の子どもたちにワークシートに書かせました。手伝いや学習、体力作りなど、子どもたちは自分の生活を見つめながら自分なりの目標を立てていました。



手にしている写真は、小学校卒業時の担任です。カセットテープでは、卒業時に学級で録音していた「将来の夢」の肉声が収録されています。

まとめの段階

小学校生活の締めくくりの過ごし方について担任の話を書く

授業のまとめとして、担任自身の小学校卒業時の体験談を話しました。当時、夢に描いていたことを写真やカセットテープで紹介しながら、夢や目標をもって生活することの大切さと日々の生活の心構えを話し、授業を終えました。

【授業の実際の板書】

小学校卒業、そして中学進学に備えた生活態度のポイント



時間割調べや先輩の話、中学校教師の話からわかったこと

子どもたちの興味や意欲を高めた先輩中学生の作品

授業実践を終えて

キャリア教育の推進に当たっては、子どもたちの発達段階に応じた系統的な指導が求められますが、とりわけ小学校から中学校の円滑な接続を図った指導が大事になります。本実践は、小学校卒業の13日前に行った授業です。小学校生活の締めくくりをどのように過ごすか子どもたちなりに自らの生活について考えさせたり、中学校進学やそれに続く人生への意欲を高めさせたりしていく上で、有意義な授業となりました。

本実践では、授業で扱う中心資料として、インタビューや作品の提供などで中学校の協力を得ました。先輩の中学生の体験談や作品紹介、中学校教師のアドバイスなどは、子どもたちにとって身近で具体的なものでした。実際の進学先からの資料提供は大変効果的で、子どもたちの不安や悩みの解消、そして期待や希望の醸成につながったととらえます。

さらに、授業の計画の説明、実施報告等、中学校の担当者と協議の場を設けたことは、小学校、中学校それぞれの情報の共有化を図ることができ、双方の指導に貴重な資料を得ることができました。中学校では、小学校から入学してくる子どもたちの思いを事前に把握することができ、入学時の適応指導に生かすことができるものととらえます。

# キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

## そうじについての話し合い活動と「二宮金次郎」で勤労観を培う授業

～ 第4学年 「そうじの仕方を見直そう」 ～

### 本実践のポイント

- Point 1 学校のシンボル像「二宮金次郎」の教えの意味を知らせ、働くことの大切さを考えさせます。
- Point 2 自分たちの清掃活動を見つめさせ、そうじの大切さやよりよいそうじの仕方を考えさせます。
- Point 3 自分の考えを話したり、目的に応じて話し合ったりするコミュニケーション力を培います。

1. 題材名 「そうじの仕方を見直そう」 (4年 学級活動(1): 学級や学校の生活の向上に関すること)																																			
2. 目標 そうじの意義や役割を果たすことの大切さに気付き、よりよい清掃活動の在り方を考えたり、進んで仕事に取り組もうとする意欲を高めたりする。																																			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力																																			
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 清掃活動について取り上げ、働くことの意義や気持ちよさ、役割を果たすことの大切さを考えさせる場とする。 集団の場でも自分の考えをしっかりとち、表現できる力を育てる場とする。また、話し合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話し合い活動に主体的に取り組む。 【役割認識力】: 清掃活動の意義や役割を果たすことの大切さに気付く。 【職業理解力】: 働くことの楽しさを知り、進んで清掃活動に取り組もうとする意欲をもつ。 【課題解決力】: これまでの清掃活動の問題点に気付き、課題を克服するための手立てを考え、実践できる。</p>																																			
4. 展開案																																			
事前	清掃や働くことへの価値に気付かせる資料として、二宮金次郎に関する資料を準備しておく。今の清掃活動の現状について見直すアンケートを実施し、資料化しておく。 係担当の子どもたちには、話し合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかり行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話し合いカード」を学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「今の清掃活動には、どんな問題があるか」「問題を改善するためにはどんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりと述べておく。																																		
話し合い活動(本時)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>話し合いの順序</th> <th>児童の活動</th> <th>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</th> <th>資料等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 はじめの言葉</td> <td>・係が開会宣言をする。</td> <td>・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】</td> <td rowspan="2">話し合いカード</td> </tr> <tr> <td>2 係の紹介</td> <td>・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。 ・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。 ・担任の話聞き、現状のそうじの問題点を考える。</td> <td>・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】</td> </tr> <tr> <td>3 議題の確認 「そうじパワーアップ作戦」を立てよう。</td> <td>・校舎内に二宮金次郎像が設置してあることの意味を知り、働くことやそうじの意義を考える。</td> <td>・二宮金次郎の資料を基に、働くことの意義やそうじの大切さを具体的に指導する。 【職業理解・役割認識】</td> <td rowspan="2">アンケート結果 VTR 二宮金次郎の写真</td> </tr> <tr> <td>4 先生から 今のそうじの問題点 二宮金次郎の話 (働くことの意義)</td> <td>・話し合いの柱に沿い、そうじについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">今のそうじの問題点 これからの取り組み</div></td> <td>・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】</td> </tr> <tr> <td>5 話し合い 今のそうじには、どんな問題があるか よりよいそうじができるための対策</td> <td>・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。 ・本時の話し合いについて担任の話聞き。</td> <td>・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】</td> <td>振り返りカード</td> </tr> <tr> <td>6 まとめ</td> <td>・係が開会宣言をする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 先生から</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8 終わりの言葉</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。 ・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。 ・担任の話聞き、現状のそうじの問題点を考える。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】	3 議題の確認 「そうじパワーアップ作戦」を立てよう。	・校舎内に二宮金次郎像が設置してあることの意味を知り、働くことやそうじの意義を考える。	・二宮金次郎の資料を基に、働くことの意義やそうじの大切さを具体的に指導する。 【職業理解・役割認識】	アンケート結果 VTR 二宮金次郎の写真	4 先生から 今のそうじの問題点 二宮金次郎の話 (働くことの意義)	・話し合いの柱に沿い、そうじについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">今のそうじの問題点 これからの取り組み</div>	・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】	5 話し合い 今のそうじには、どんな問題があるか よりよいそうじができるための対策	・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。 ・本時の話し合いについて担任の話聞き。	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】	振り返りカード	6 まとめ	・係が開会宣言をする			7 先生から				8 終わりの言葉			
話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等																																
1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード																																
2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。 ・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。 ・担任の話聞き、現状のそうじの問題点を考える。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】																																	
3 議題の確認 「そうじパワーアップ作戦」を立てよう。	・校舎内に二宮金次郎像が設置してあることの意味を知り、働くことやそうじの意義を考える。	・二宮金次郎の資料を基に、働くことの意義やそうじの大切さを具体的に指導する。 【職業理解・役割認識】	アンケート結果 VTR 二宮金次郎の写真																																
4 先生から 今のそうじの問題点 二宮金次郎の話 (働くことの意義)	・話し合いの柱に沿い、そうじについて話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">今のそうじの問題点 これからの取り組み</div>	・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】																																	
5 話し合い 今のそうじには、どんな問題があるか よりよいそうじができるための対策	・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。 ・本時の話し合いについて担任の話聞き。	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】	振り返りカード																																
6 まとめ	・係が開会宣言をする																																		
7 先生から																																			
8 終わりの言葉																																			
事後	「そうじパワーアップカード」を作り、一定期間、そうじへの取り組み状況をシール等でチェックさせ、実践化を促す。 子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。																																		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点																																			
【道徳】 資料「神戸のふっことは、ぼくらの手で」を読み、働くことの大切さや、進んで社会のために役に立とうとする心情を培う。																																			

### 指導のポイントと工夫

「二宮金次郎」の教材化  
話し合い活動の「先生から」の項で、「いつも見ているけど、よくわからない」という二宮金次郎を取り上げます。  
金次郎の生き方や業績を紹介し、「よく学び、よく働く」姿が手本であることを知らせ、働くことの意義について考えさせるきっかけにします。

そうじの意義に気付かせ、  
勤労意欲を高める指導  
これまでのそうじの実態についてのアンケート結果を示し、そうじの問題点に気付かせます。なぜそうじが必要か、どんなところが問題か考えさせながら、具体的な改善策を立てさせていきます。

コミュニケーション力を  
育む指導  
議長や書記等、話し合いの進行にかかわる役割がある子どもには、事前の準備(仕事のポイント)を入念にさせておきます。  
話し合いの場面では、一人一人が自分の意見を持ち、積極的に考えを話せるように、「話し合いのめあて」を設定したり、「話し合いカード」を用いたりしながら、集団の場でも自分の考えを表現できる力を育てます。

## 授業の実際

### 事前の準備・活動

#### (1) そうじについてのアンケートをとる

そうじの必要性についての考えと、自分たちのそうじの様子についてのアンケートを行い、簡単な資料にまとめておきました。

#### (2) 二宮金次郎に関する資料を準備する

働くことやそうじの意義についてとらえさせる資料として、学校の正門前に設置されてある二宮金次郎像に関する資料（写真、「金次郎の教え」）を作成しました。

#### (3) 話し合い活動の準備をする

子どもたちが目的意識をもって学級会に臨むように、「話し合いカード」「そうじパワーアップ作戦シート」を準備し、議題、話し合いのめあて、自分なりの考えをカードに記入させました。

そうじについてのアンケート

4年

1 今のそうじは、しっかりできていると思いますか

ア とてもよくできている  
イ だいたいできている  
ウ すこしできていないところがある  
エ しっかりできていない

2 できていないところ（問題があるところ）はどんなところだと思いますか

3 そうじは大切だと思いますか

ア とても大切だと思う  
イ どちらかというと大切だと思う  
ウ どちらかというと大切だとは思わない  
エ 大切だとは思わない

4 もっとよいそうじするために、どんなことをがんばればよいでしょうか

4年生 そうじパワーアップ作戦シート

4年

1 今日の学級会で話し合うこと（めあて）

2 話し合いのめあて

3 自分の考えをきこう  
今のそうじでどんなところが問題？ そうじをパワーアップするためには？

4 話し合いで決まったこと

5 学級会をふりがえろう  
〔これからのそうじについて思ったこと〕  
〔話し合いのめあてについて〕

### 話し合い活動の実際

#### (1) 「先生から」の話を聞き清掃活動の意義と現状の問題点をとらえる



そうじに関するアンケートでは、そうじの必要性や大切さを認める考えが100%でありながら、現状のそうじに問題があると回答した子どもたちが94%でした。この結果から、自分たちのそうじについて課題や改善の必要性があることを、子どもたちにとらえさせることができました。



アンケート結果に次いで、二宮金次郎の写真とその「教え」の資料を提示しました。二宮金次郎について、子どもたちは、「どんなことをした人か」「どうして、像になって学校の正面に設置してあるか」わかっていませんでしたが、教師の説明で「よく働き、よく学ぶ」「みんなのためにつくす」といった金次郎の姿が、全校のモデルになるものであること知りました。そして、学校の中で「よく働き、みんなのためにつくす」場面がそうじであることを確認し、話し合いに対する意欲を高めさせました。

#### (2) 今のそうじの問題点と改善策を話し合う

話し合いの柱は、「今のそうじでどんな問題点があるか」「その問題をどう改善してそうじをパワーアップさせるか」の2点でした。事前に、話し合いカードに自分の考えを書かせておいたため、積極的に発言する姿見られました。また、話し合いを進行する議長や書記等の子どもも、自分の役割を適切に果たすことができました。話し合いにより、「分担が決まらずもめごとになる、自分の仕事がきちんと果たされていない、時間が守られていない...」等の問題が確認され、その対策として、「そうじのめあてをしっかりと立てる」「めあてを全員で達成できたら、『時間貯金』として、みんなで遊ぶ場を設ける」などの取り組みが決まりました。



### 実践活動の様子

学級会の後、話し合ったことをそうじの場で班毎に実践し、そうじの改善が図られました。



## 授業実践を終えて

二宮金次郎の「よく学び、よく働く」という教えとは、キャリア教育の目的とも重なるものです。学校のシンボルとも言える金次郎を教材化することで、働くことの意義を考えさせたり、自らの生活を改善させようとしてきたりする意欲をもたせたりすることができました。また、学級会という場で、自分の考えを進んで話したり、テーマに基づいて話し合ったりするという、コミュニケーションの力も養うことができました。

## キャリア教育の視点を位置付けた学級活動の授業実践

### 「係活動マニフェスト」で、役割意識や働くことの楽しさに気付かせる授業 ～ 第5学年 「係活動を見直そう」 ～

#### 本実践のポイント

- Point 1 学級集団の中での、自分の役割や仕事を責任をもって果たそうとする態度を育てます。
- Point 2 友達と力を合わせて働く楽しさや大切さに気付かせます。
- Point 3 新しい活動のアイデアを考えたり、企画したりする力を育てます。

1. 題材名 「係活動を見直そう」 (5年 学級活動(1): 学級や学校の生活の向上に関すること)			
2. 目標 学級生活の向上のために果たす係活動の大切さを理解し、よりよい係活動に向けて、活動内容を工夫したり、仕事に取り組む意欲を高めたりする。			
3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 学級生活を営む上で、係活動が大切な役割をもつことに気付かせ、自己の仕事に対する責任感を高めさせる。 係活動の改善に向けて、進んでアイデアを出したり、友達と協力して活動したりすることができるようにする。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話し合い活動やグループでの相談などに主体的に取り組む。 【役割認識力】: 学級生活を支えるための係活動の役割に気付き、自分の仕事の大切さをとらえる。 【職業理解力】: 友達と協力して働くことやアイデアを生かして活動することの楽しさを知り、進んで係活動に取り組もうとする。 【課題解決力】: これまでの係活動の問題点を見つけ、活動の仕方や内容などの工夫ができる。			
4. 展開案			
事前 話し合い活動(本時)	今の係活動の現状について振り返るアンケートを実施し、資料化しておく。 係担当の子どもたちには、話し合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話し合いカード」を学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「今の係活動には、どんな問題があるか」「問題を改善するためにはどんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりと持たせておく。		
	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】
	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】
	3 議題の確認 係活動パワーアップ計画を立てよう!	・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。	・係活動の必要性を問い、その役割の大切さを確認させる。 【職業理解・役割認識】
	4 先生から係活動の意義 係アンケートの結果発表	・担任の話聞き、係活動の大切さを確認する。 ・係アンケートの結果を見て、本時の活動の方向性をもつ。	・係アンケートで、互いの係の活動状況をチェックさせ、その結果を公表することで問題点に気付かせる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】
	5 話し合い 係活動の問題点を出し合う。 係グループ毎に係活動改善の取り組みを話し合い、「係パワーアップマニフェスト」に書く。 係毎に「マニフェスト」を紹介し合う。	・現状の問題点を出し合いながら、係活動の改善の視点をとらえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">活動の態度 ・みんなが働く 活動の内容 ・よりみんなのために ・より楽しく 等</div> ・各係のマニフェストを聞き合い、よりよい活動に向け意見を交換する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。	・各グループの話し合いの状況を参観し、建設的な意見やアイデア等を紹介していく。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】
	6 まとめ	・話し合いの結果を「マニフェスト」に表現させることで、実践化に向けた意欲化を図る。 【コミュニケーション・職業理解・役割認識】	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の係活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】
	7 先生から	・係が閉会宣言をする	
8 終わりの言葉			
事後	「係マニフェスト」を掲示し、互いの活動状況をチェックし合う。 子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。		
5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点 【道徳】 資料「よみがえれ日本海」を読み、勤労の意義を理解し、人や社会に奉仕する喜びを知る。			

#### 指導のポイントと工夫

##### 役割や仕事に対する責任感を高める指導

チェックシートを用い、これまでの各係の活動状況を相互評価させます。各係を「会社」に例え、それぞれの会社の状況を採点化し、結果を公表します。自分や係の仕事への取り組み状況を客観的に振り返らせることで、係活動を改善しようとする意欲をもたせま

##### 協力して働く楽しさや大切さに気付かせる指導

各係毎にグループでの話し合いの場を設けていきます。集団で話し合うことで、意見やアイデアの広がりを実感させます。また、多人数で力を合わせることでダイナミックな活動の企画ができることに気付かせていきます。

##### 創造力、企画力を高める活動

これまでの自分たちの活動の問題点を振り返らせながら、「係活動マニフェスト」作りに取り組みさせます。グループの話し合いの様子を観察しながら、適宜教師もアドバイスを与え、これまでの活動にとらわれない新しいアイデアや活動を考えさせていきます。

## 授業の実際

### 事前の準備・活動

(1) 各系の活動状況を採点シートでチェックし合う

今の各系の仕事の様子について、右のような採点シートで互いにチェックし合いました。

(2) 話し合い活動の準備をする

子どもたちが目的意識をもって学級会に臨むように、「話し合いカード」「係活動パワーアップがんばるぞシート」を準備し、議題、話し合いのめあて、自分なりの考えをカードに記入させました。特に、係活動の必要性、今の係活動の問題点、係活動を活性化する方法の3点について、どの子も自分の考えをもって話し合いに臨ませるようにしました。

今の各系の活動を会社に例えて採点してみよう！

とてもよく活動している文句なしの、すばらしい「会社」だと思う	5点
だいたい、よく活動している会社だと思う	4点
普通の会社かな	3点
あまりよく活動していない会社だと思う	2点
問題が多い会社だと思う	1点

〔採点シート〕「公平な目で見て、自分の考えで採点しよう」

班名	係名	得点	一言コメント(得点の理由)
1班	給食会社	4	ハアランフックのくぼりが仕事をきんやさないから。
2班	運動会社	3	よがかがでない。
3班	保健会社	3	健康でのよいかけがでない。
4班	学習会社 字自云社	3	新学習の時言っている人がしゃべりたしている。
5班	礼儀会社	4	ミスがやらないから。
6班	環境会社	2	仕事をちゃんと進められる。

係活動パワーアップがんばるぞシート

5年

- 今日の学級会で話し合うこと(きだい)  
係活動のパワーアップ計画をたてよう。
- 話し合いのめあて  
進んで自分の考えを発表しよう。
- 自分の考えをまとめよう  
係活動が、仕事をさぼる人がいる。(他の班) ちゃんと進んで自分の考えを発表しよう。  
今の係活動の問題点は？ もっと楽しく、もっとみんなのためにやるには？  
もっと楽しく、もっとみんなのためにやるには？  
みんなが協力しよう。
- 係の話し合いで決まったこと  
係パワーアップmanifesto(「私たちは変わります!」)パワーアップ宣言  
会社社名を新しく決めるよう! オールマイティレコーション  
会社社の目標を決めよう! 委員会に決める。  
自分たちの会社の仕事(役割)と分類  
レクサントとて、レクサント。  
オクス→月・金、レクサント→月・日、オクス→レクサントの反省と決
- 学級会をふりかえろう  
【これらの係活動について思ったこと】  
あまり、発言はできなかったが、たけいどの班も発言した。発言が記入してよかった。  
【話し合いのめあてについて】  
○ △

### 話し合い活動の実際

(1) 係活動の意義をとらえる

「先生から」の項で、係活動の必要性について問いかけました。話し合いを通じ、係活動が自分たちの生活を豊かにするために必要であることを確認させました。

(2) 係アンケート(係活動採点シート)の集計結果を見て本時の活動の方向性をもつ

各自がそれぞれの係について採点したシートを教師が集計し、一覧表にして子どもたちに公表しました。自分たちの係がどのような評価を受けているか、子どもたちは真剣に教師の発表を聞きました。この結果から、自分たちの係活動をもっと活性化させようとする意欲を引き出すことができました。

(3) 係グループ毎に係活動改善の取り組みを話し合い、「係パワーアップmanifesto」用紙に書く



係活動を改善させる方法として、「manifesto作り」に取り組むことを教師から提示しました。「manifesto」の意味を簡単に説明し、改善の視点として、「係を会社にして会社の名前も付ける、今までの反省を仕事に生かす、学級がもっとよくなる新しい企画を考える」の3点についてグループで話し合わせました。教師のアドバイスを得ながら、どの班も意欲的に話し合う姿が見られました。話し合いの結果を、「係パワーアップmanifesto」に書かせました。

(4) 各系の「係パワーアップmanifesto」を紹介し合う

各係が考えたmanifestoを全体の場で、発表させました。給食係がその日の献立のポイントを栄養士の先生から聞いてお知らせするなど、これまで行われていなかった企画が多数発表され、それぞれの係の新たな活動に期待する表情が見られました。



給食 係パワーアップmanifesto

会社名 パワーアップレコーション

【会社の目標】  
ふざけないでちゃんと仕事をしなさい。

【PR!...がんばること・新たな取り組み】  
☆歯ブラシがなくても必要です!  
☆こんだてのおおめいさんと栄養士さんに聞いてくる。

ぼくたち、私たちの会社は、「おしゃんなのために」おもしろく活動し、「パワーアップ」すること宣言します!

### 授業実践を終えて

学級中の「係活動」に視点を当てることで、係が自分たちの生活に深くかかわっていることや、集団生活を支える仕事の役割についてとらえさせることができました。また、係活動を「会社経営」に例えることで、友達とアイデアを出しながら新しい企画を考える楽しさも味わわせることができました。さらに、「話し合いカード」を用いた意見交流やグループ内での話し合い等の場を設けることで、自分の考えを話したり、友達の考えを聞いたりしながらものごとの解決を図るコミュニケーション力を育成することができた実践でした。

## キャリア教育の視点を位置付けた学校行事「大運動会」の指導実践

事前指導から事後指導まで、運動会への一連の取り組みの中で展開するキャリア教育

### 本実践のポイント

代表的な学校行事「大運動会」の中には、キャリア教育の視点が豊富に含まれます。運動会本番前の事前指導から事後の指導までの運動会にかかわる一連の取り組みの中で、キャリア発達(進路発達)の育成を図ります。

- Point 1 運動会を通じて期待されるキャリア発達の要素を明確にします。
- Point 2 「行事をとおして育てる」という、行事指導の原点に立ち返った指導をします。
- Point 3 育てたい力に視点を当てた事前指導、事後指導を重視します。

運動会指導におけるキャリア教育展開案		指導学年	全学年	
		指導の場	学級活動・学校行事等	
1. 目標				
望ましい集団行動の仕方や協力して活動することの大切さを学ぶとともに、目標に向かって努力したり、進んで責任を果たそうとしたりする態度身に付ける。				
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力				
<b>キャリア教育のポイント</b>				
運動会に臨むめあて作りや振り返りの活動を重視し、一連の過程を指導の場ととらえる。将来の適切な職業生活や社会生活を営む上で必要となる、挨拶や集団行動の大切さを理解させる。目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりする態度を養う。				
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>				
【コミュニケーション力】：運動会を成功させるための話合いの活動に進んで参加し、自分の考えや意見を表現できる。また、場に応じた適切な挨拶をすることができる。				
【役割認識力】：運動会を成功させるために、様々な役割があることに気づき、自らも進んで自分の責任を果たそうと努力することができる。				
【職業理解力】：働くことや役割を果たすことの喜びを感じることができる。				
【課題解決力】：運動会を成功させるためのきまりやルールを守る。また、目標の実現を願い、具体的な取り組みをすることができる。				
【意思決定力】：運動会の成功や自己の向上をめざし、自分なりの目標を立てることができる。				
3. 指導計画				
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点		
事前	学級活動等	1 運動会の意義(どんな力をつける行事か)を話し合う。	・これまでの経験や校長先生の話などから、運動会はいろいろな力を高める場であることに気づかせ、運動会について一人一人に願いをもたせる。 【コミュニケーション・意思決定】	
		2 運動会についての願いをもつ。		
活動時	練習時・帰りの会	3 運動会での自分の役割や仕事を確かめる。	・カードを用い自己の役割や仕事を明らかにし、運動会でのめあてや努力事項をもたせる。 【役割認識・意思決定】	
		4 運動会の目標やがんばることを決め、運動会に向けての意欲をもつ。		
		1 何をどのように頑張るか、具体的なめあてを立てる。		・練習開始時に、挨拶をしっかりとすることやめあてを意識して取り組むことを確認する。 【コミュニケーション・課題解決】
		2 めあてを意識しながら、活動に取り組む。		
3 「運動会がんばりカード」を基に、めあての達成状況を自己評価する。	・カードに自己の練習態度を記入させることをとし、活動状況を自己評価させ、翌日の活動にめあてをもって臨ませるようになる。 【課題解決・意思決定】			
4 自己の取り組みを反省したり、友達のがんばりを紹介し合ったりしながら、翌日の練習のめあてを立てる。				
事後	運動会当日	1 カードを基に、運動会のめあてを確認し、頑張ることを決める。	・めあてをもって本番の活動に臨めるよう、朝の会で一人一人の役割や頑張ることを確認させる。 【意思決定・役割認識】	
		2 めあてを基に、自分の仕事や役割を果たしたり、競技や応援に取り組んだりする。		
		3 運動会の様子について、担任の話聞きながら、自己の取り組みの様子を簡単に振り返る。		・子どもたちの活動の様子を記録し、振り返りの資料とする。 【役割認識・職業理解・課題解決】
事後	学級活動	1 カードを基に、めあての達成状況や自己の取り組み態度について反省する。	・教師の側から子どもたちの頑張りの様子を具体的に伝え、自分たちの成長を実感させる。 【課題解決・役割認識・職業理解】	
		2 働くことや役割を果たすことの意義を話し合う。		
		3 運動会を通じて学んだことや成長できたことをおさえる。		・自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】
4. 評価の視点と方法				
集団行動のルールや自己の役割を果たすことの大切さを理解できたか。 〔・振り返りの作文の記述状況 ・教師間の情報交換 ・振り返りの活動における発言〕 目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりすることができたか。 〔・めあてカードの取り組み状況 ・活動状況の観察 ・担当教師間の情報交換〕				

### 指導のポイントと工夫

運動会で培うキャリア発達の要素

次の5点が指導のポイントになります。

- ・挨拶をしっかりとる
- ・集団の約束を守る
- ・目標に向かい努力する
- ・仕事を着実にやり遂げる
- ・行事を支える役割に気づくこれらの力をどこで、どのように育てるか明確に押さえて指導します。

行事を通して育てる!

行事の形の上だけの「出来栄え」ではなく、その活動でどんな力を育てたいかという視点を大事にします。子どもたちの行事への取り組み過程を的確に見取り、適切な指導や評価を行います。また、子どもたち自身にも運動会の目標を立てさせ、自己評価させながら活動に臨ませます。

事前、事後指導の重視

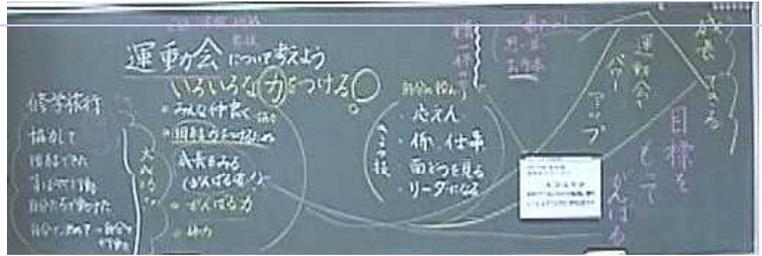
運動会の意義を押さえさせ、自分なりの目標をもたせる事前指導を行います。そして運動会の一連の取り組みを終えた後、自己の取り組み態度と成長を振り返らせる事後指導を行います。運動会を通じ、どんな力がついたか、どんなこと学んだか子どもたち自身が実感できるようにします。

## 活動の実際(6年生)

### 事前の学級活動

#### (1)運動会の意義をとらえる

学級活動で、「なぜ運動会があるのか？」ということ子どもたちに改めて考えさせました。6年生の子どもたちは、あまり意識せず過去5年間の運動会を経験してきましたが、この問いにはとまどいを示しました。そこで、活動の中に「校長先生の話」を位置付け、学校行事の中での運動会の意義を話していただきました。この校長先生の話に基づき、運動会がたくさんのことを学び、成長できる場であること、そしてその頑張りの場は、競技だけでなく係や応援、仕事などたくさんの場があることを押さえさせました。



#### (2)運動会での役割を確かめ、自分の目標を決める

運動会を成功させるためには、自分の頑張る場がわかり、そして、自分の目標をしっかり決めることが大切であることを押さえ、「運動会がんばりカード」に自分の仕事、役割、めあて(目標)を記入させました。自分が頑張りたいことを具体的に3つ決めさせ、運動会の取り組み期間中、毎日自己評価させるように表に記入させました。「がんばること」の内容は、単なる競技の目標ではなく、自分の仕事や役割にかかわるもの、運動会練習の態度等を中心に決めさせました。

～大運動会でパワーアップ!～

## 運動会がんばりカード

6年

- みんなで決めた大運動会のめあて  
一人ひとりが100パーセントの力を出しきり  
いっしょけんめいがんばろう。
- 運動会を成功させるための自分の仕事・役わり  
うしろ側をのぞいてお手本になる。  
しんぱん隊をしっかりする。
- 自分のめあて(がんばること!)  
(1)練習のとき  
田舎のおどりの時4年にしっかり教えて、自分もしーがりおどる。  
(2)運動会本番のとき  
一生懸命自分の役目をはたす。全力で取り組む。全力で走る。  
一生懸命自分の役目をはたす。全力で取り組む。全力で走る。

4 運動会練習ふりかえりチェック (ばっちりシール、だいたい○、もう少し△)

	22日	23日	24日	25日	26日	29日	30日	31日	1日	2日	本番!
がんばること	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
自分の仕事・役わり	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
めあて(目標)	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

- 運動会本番をふりかえって  
①めあてをふりかえって  
全部の種目、係活動、なんでも100%の力を出しきり、  
いっしょけんめいがんばった!  
②運動会で学んだこと・パワーアップできたこと  
結果が悪くても、いっしょけんめい取り組みは「最後は楽しくできる事。人でもいなければなら大変だから力を合わせれば成功できること」  
③これからもっとがんばりたいこと  
みんなと力を合わせ、どんなことでも100%の力を出しきる。しんぱん隊、取り組む!
- 先生から  
結果も中味が大事。これを頑張ったとは、すばらしいですね!!  
この考え方をしつければ、どんなことにも前向きにぶつかっていきましょう。  
とてもいいと頑張った運動会になりました!!

### 運動会準備期間の取り組みの段階

#### (1)「がんばりカード」でめあての達成状況を自己評価しながら運動会練習に取り組む

「がんばりカード」を廊下に掲示し、毎日の帰りの会でシールを使って自己評価させました。ここでの反省を翌日の練習に生かしていくようにさせました。



#### (2)運動会準備の仕事で自分の役割を果たす

運動会前日の準備では、それぞれの係活動の準備や会場設営に、全員で取り組ませました。各係担当の先生の話をよく聞き、真剣に活動に取り組む姿が見られました。準備活動終了後は、これまでの取り組み態度を評価するとともに、当日のめあてを確認させました。



### 運動会当日の活動

事前に決めた目標に向かって力を発揮する

当日の朝の会で、それぞれの運動会の役割や目標を確認させ、子どもたちの意欲を高めて校庭に送り出しました。

本番での子どもたちは、自分の役割を真剣に、全力で果たしていました。

運動会を終えた後の子どもたちの表情には、運動会の成功に全力を出した満足感がうかがえました。



### 運動会終了後の学級活動

- (1)運動会の振り返りビデオを見て運動会の取り組み状況を振り返る  
係活動に取り組む場面を中心に編集したビデオを視聴させ、運動会での自分や友達の頑張りを発表させました。
- (2)運動会を支えた係の働きを考える  
「もし係が頑張らなかったらどうなったか?」ということ子どもたちに考えさせました。子どもたちは、係活動無しには運動会が成功できなかったことを話し、役割の大切さを気付くことができました。また、みんなのために一生懸命に働いてどんな気持ちになったかを発表させることで、その気持ちのよさを引き出すことができました。
- (3)運動会で成長できたことや学んだことをまとめる  
「がんばりカード」の「運動会で学んだこと・パワーアップできたこと」の欄に、各自書かせ、発表させました。子どもたちの発表を基に、役割や責任を果たすことの大切さや喜び、めあてに向かって努力することのすばらしさをとらえさせました。

### 授業実践を終えて

キャリア教育の視点を位置付けた運動会指導について、校内（花巻市立湯口小学校）の先生方を対象にしたアンケートに寄せられた声を紹介します。

これまで、勝敗や順位に傾きがちな子どもの視点が、係活動を中心とした「協力する」「責任を果たす」といった方向に行ったことが大きい。6年生の子どもたちの、全体を見ようとする意識やリーダーとしての自覚が高まった。「運動会を成功させるために」という視点から、この行事が実に多くのキャリア教育と関わっていることを実感できた。運動会は、キャリア教育を展開する上で、とてもよい機会であったと思う。  
(高学年担任)

運動会で付けた力が、子ども達の将来に生きるということを意識しながら指導することができた。  
(中学年担任)

運動会の意味や何を育てるのかを自分の中で明確にもつことができ、子どもたちに何を育てるのかという視点がはっきりした。今までは、終わったら何も残らなかった。  
(低学年担任)

一人一人が力を発揮すれば、成果が必ず出るということに小さな2年生でも気づくことができた。驚きである。やはり、キャリア教育のたまもの...と思いました。  
(低学年担任)

「みんなとがんばるのだ、みんなで作り上げるのだ」という意識を常にもたせ、時々反省させることでめあてを守ろうとする意識を高めさせた。目的と指導が一貫し、子どもたちに「自分が伸びた」という満足感を味わわせることができた。  
(高学年担任)

「キャリア教育の視点を位置付けた運動会指導」とは、運動会への一連の取り組みを通じ、キャリア発達の育成をめざしたものです。指導に当たった先生方のアンケートにあるように、事前指導から事後指導までの過程で、子どもたちに多くのことを学ばせ、成長させることができました。これまではともすると「行事を何とか終えるのに精一杯!」ということもありましたが、運動会にキャリア教育の視点を位置付けたことにより、育てたい力が明確になり、結果よりも過程を重視した「行事を通して育てる」指導が実現できました。

行事を終えた後の子どもたちの声にも、勝負事の結果から離れ、自分の仕事をやり遂げた満足感や目標を達成した喜びが表れていました。

運動会後に子どもたちが「学んだこと」として挙げた、「協力すれば何でもできる」「(競技の)結果は悪くても、一生懸命に取り組めば楽しくできる」「自分の責任感や役目の重大さ」等の事柄は小学校のキャリア教育での重要な要素であり、運動会はキャリア教育を展開する上でとても有効な行事であると言えます。



## キャリア教育の視点を位置付けた日常的な活動の指導実践

### 「日直当番の仕事」&「朝の会・帰りの会」で展開するキャリア教育

#### 本実践のポイント

- Point 1 全員が経験する日直の仕事で、役割を責任をもって果たす態度やコミュニケーション力を育てます。
- Point 2 向上心もち、目標を意識した生活を送ろうとする態度を培います。
- Point 3 基本的な生活習慣を身に付けさせる場とします。
- Point 4 係活動活性化の場として、各係の計画に基づいた自主的な活動を支援します。
- Point 5 自他の生き方への関心を高めるプログラムを工夫します。

#### 指導のポイントと工夫

責任感やコミュニケーション力を育てる日直指導  
輪番制で全員が日直を経験します。仕事内容を明確にし、仕事の達成状況を具体的に評価します。集団の場でも物怖じせず挨拶したり、会の進行をしたりすることができるように、日常的な指導を心がけます。

目標を意識した学校生活を送ろうとする態度の育成  
「朝の会」では一日のめあての設定の場を設け、帰りの会でその達成状況を振り返らせます。また、「先生から」の話題で、目標を意識化する話やその取り組みの様子について評価する話をします。

基本的な生活習慣を身に付けさせる指導  
日直や友達、先生の話をしっかり聞いたり、翌日の予定をきちんとメモしたりするなどの基本的な生活習慣を着実に身に付けさせます。

係活動の活性化  
各係の日常的な活動や広報活動等の場を確保します。

「生き方」への関心を高めるプログラム  
将来の夢や今、関心のあることなどについて話す「スピーチ」の場を、設けたり、先生自身の夢や希望に関する話を聞かせたりします。

日直当番の指導におけるキャリア教育の展開		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・休み時間・放課後等
1. 目標			
大きな声で挨拶したり、当番の仕事をやり遂げたりしながら、責任感をもって役割を果たすことができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。 集団の場でも物怖じせず挨拶や会の進行ができる力を育てる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：堂々と挨拶したり、大きな声で会の進行をしたりすることができる。 【職業理解力】：当番の仕事に進んで取り組み、働くことの楽しさを感じることができる。 【情報活用力】：教師からの聞き取り等の活動で、情報を適切に得ることができる。 【課題解決力】：学級の問題をとらえ、適切なめあてを設定することができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
当番活動	一日のめあてを決め、黒板に書く。 一日の予定を確認し、黒板に書く。 授業開始と終わりの挨拶をする。 教室内の整理整頓、戸締まりをする。 一日の生活を反省し、記録する。	・日直の仕事の内容やめあての立て方、予定の聞き方等、事前に指導しておく。 【情報活用・課題解決・職業理解】 ・スムーズな進行や挨拶ができるよう、モデルを示すとともに放課後等に練習や準備の時間をとる。 【コミュニケーション・職業理解】	
朝の会進行	朝の挨拶をする。 会の進行をする。 一日の予定とめあてを知らせる。	・仕事が着実に達成できたか、子ども自身がチェックできるカード等を準備する。 【職業理解】	
帰りの会進行	一日の反省をまとめる。 帰りの挨拶をする。	・観察や日誌への記録等から仕事への取り組み状況を把握し、望ましい活動態度を賞賛するなど適切に評価する。 【職業理解】	

朝の会・帰りの会におけるキャリア教育の展開		指導学年	全学年
		指導の場	朝の会・帰りの会
1. 目標			
自らの生活を向上させようとする意欲をもち、目標を意識した学校生活を送ることができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 自分たちの生活を見つめさせ、生活を向上させるための目標を設定させる。 会のプログラムに自己PRや夢を語る場を設け、自他の生き方に対する関心を高める。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：挨拶、発言、自己PRなどの場で、生き生きと自分の気持ちや考えを表現できる。 【自己理解力】：「1分間スピーチ」で、自分の得意なことや興味あることを表現できる。 【職業理解力】：「係から」のコーナーで、係の連絡や広報活動に意欲的に取り組むことができる。 【情報活用力】：要点をとらえて話を聞いたり、必要なことを適切にメモしたりする。 【課題解決力】：めあてを意識し、目標をもった生活を送ろうとする。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
朝の会	挨拶、歌に気持ちよく取り組む。 一日のめあてを確認し、自分ががんばることを決める。 1分間スピーチで、友達の発表(好きなこと・将来の夢等)を聞き、感想を交流し合う。 係からのコーナーで、各係の活動成果を交流し合う。 担任の話聞く。 ・一日の生活に関する話 ・将来の夢や希望に関する話等 めあてについて反省する。	・スピーチのテーマは事前に指示し、内容を考えさせたり、表現を工夫させたりする。発表を基に感想を交流し合わせるにより、互いの夢や生き方を尊重し合う気持ちを育む。 【コミュニケーション・自己理解】 ・係活動では、創造的な活動等を広めていく。 【コミュニケーション・職業理解】	
帰りの会	一日の生活でのよかった点、改善したい点等振り返り、発表し合う。 翌日の連絡事項をメモする。 担任の話聞き、翌日のめあてをもち、つ。	・担任の話は、一日の生活意欲を高める話や将来への夢や希望を広げる話など、子どもたちの向上心を高める内容を準備する。担任自身の夢を語ったり、具体資料を準備したりする。 【課題解決】 ・話す、聞く、メモを取るなど、基本的な学習習慣をしっかりと身に付けさせるよう、継続した指導を行う。 【コミュニケーション・情報活用】	

## 活動の実際

### 日直当番の指導における進路発達の育成

当番の役割を着実に果たす

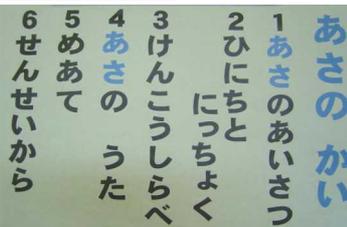
日直は、全員の輪番制で、男女二人組で仕事します。一日のめあてを立て、黒板に書いたり、朝の会、帰りの会を進行したりするなどの役割に取り組みます。役割を着実に果たす責任感や集団の場でも物怖じせずに挨拶したり、会を進めたりするコミュニケーション力を育てる場とします。



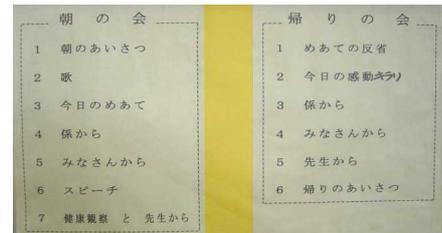
### 朝の会・帰りの会のプログラム内容における進路発達の育成

(1) 基本的な生活習慣をしっかりと身に付ける

毎日の学校生活は、朝の挨拶で始まり、帰りの挨拶で終わります。気持ちを込めたしっかりとした挨拶を身に付けさせることは、基本的な生活習慣の第一歩です。また、先生や友達の話の正しい姿勢で聞き取らせることも、日常の朝の会や帰りの会で大事にしている指導事項です。



1年生の朝の会プログラム



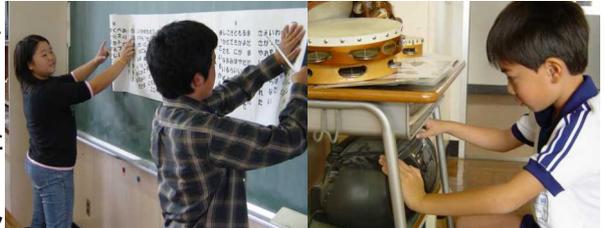
6年生の朝の会・帰りの会プログラム

(2) 一日のめあてを立て、目標をもった生活を送る

前日までの生活を振り返らせながら、自分やクラスの目標に向かって意欲的な生活を送らせるために、朝の会で一日のめあてを具体的に立たせます。帰りの会では、自己評価や「先生から」の話で、めあての達成状況を確認させ、日々自分を向上させようとする姿勢を育てます。昨日より今日、今日より明日の生活をよりよくしていこうとする向上心をもたせることが、学校生活の充実とともに、将来の自分の生き方を大事にしていこうとする態度の育成にもつながります。

(3) 自分の気持ちや考えをしっかりと表現する

健康調べや全員が自分の健康状況を自己申告する活動です。自分の状態を、返事と言葉で表現させます。これも、自分の気持ちや考えをしっかりと表現するコミュニケーション力を育てる基本です。



(4) 学級生活の向上のために自分の仕事を果たす

日頃の仕事の成果を発表したり、日常的な活動を行ったりする場が、係からのコーナー（「みなさんから」）です。自分の仕事が学級生活の維持のために大切な役割を果たしていることを自覚させたり、自分の仕事を責任をもって果たしたりする態度を育てる場になります。

(5) スピーチで「自分らしさ」を表現する

自分の興味のあることや最近の出来事、将来の夢など、1分間のスピーチに取り組みさせています。輪番制で、事前に原稿を書かせ、発表の練習もさせた上で、本番のスピーチをさせます。「自分らしさ」を発揮させるコミュニケーション力を育てる活動であるとともに、他者の個性を理解させたり、将来の夢や希望を育んだりする場でもあります。

(6) 「先生から」の話はキャリア教育の大事なポイント

「先生から」の話では、目標を意識した生活を送ろうとする意欲を高めたり、一日の子どもたちの生活について評価したりする他、時に先生自身も自分の家族のことや子どもの頃の夢などを語ります。先生からの話は、キャリア教育の大事なポイントの一つになります。



一日の「めあて」を確認し、目標をもった生活を意識させます。時に、先生も人間性を大いに発揮し、自分の趣味や家族のこと、子どものころの思い出や夢、なりたかった仕事などを語ります。

## 実践のまとめ

どこの学級でも、毎日行われる「朝の会・帰りの会」ですが、その活動やプログラムにはキャリア教育の大事な要素がたくさん含まれています。それぞれの活動にどんな教育的な意味があるのかを明確に押さえ、それに基づいた適切な評価を担当が行っていくことで、キャリア教育の推進とともに学校生活の一層の充実が図られます。

## キャリア教育の視点を位置付けた日常的な活動の指導実践

### 「たてわり班自由遊び」で展開するキャリア教育

#### 本実践のポイント

- Point 1 集団をまとめる統率力やみんなが楽しめる遊びを考える企画力を培います。(6年生)
- Point 2 集団行動のルールをきちんと守り、みんなと楽しく活動しようとする態度を育てます。
- Point 3 異学年集団で活動することの楽しさを味わわせます。

#### 指導のポイントと工夫

##### 統率力、企画力を育てる指導

6年生の役割を確認させ、最上級生としての自覚をもたせます。「遊び企画書」を作らせ、みんなが楽しめる活動内容を具体的に計画させます。また、「遊びコンテスト」を開くことを知らせ、リーダーとしての責任感と活動意欲を高めます。

##### ルールを守り楽しく活動しようとする態度を育てる指導

各学年、学級において、事前にリーダーの指示の聞き方や集団行動の約束事をしっかり確認させ、めあてをもって活動に臨ませます。活動後は、子ども自身の自己評価と教師からの評価を行い、活動を振り返らせます。

##### 異学年で活動することの楽しさを味わわせる指導

スキンシップが図られる活動内容を工夫させます。また、遊びの場面だけでなく、「たてわり清掃」や「たてわり給食」、集団下校等の活動を行い、日常的に異学年間で心の交流を図られる場を設けていきます。

#### 縦割り班自由あそびにおけるキャリア教育の展開

指導学年	全学年
指導の場	学級活動・縦割り集会・休み時間

#### 1. 目標

班内での自分の立場を理解し、協力し合いながら楽しく遊ぶことができる。

#### 2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

##### キャリア教育のポイント

異学年集団での活動をとおり、約束を守ってみんなと仲良くしようとする態度やリーダーシップ、フォロアを身に付けさせる。

遊びを企画したり、集団をまとめたりする力を育てる。(6年生)

##### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】: 班の約束を守り、みんなと仲良くすることができる。

【役割認識力】: リーダー、フォロアそれぞれの役割を理解し、一生懸命に自分の仕事を果たすことができる。

【課題解決力】: みんなで楽しく遊ぶための企画や約束を考えることができる。

#### 3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点

##### 進路発達にかかわる主な活動(例)

学級活動	縦割り班遊びの意義や約束を話し合う。
縦割り集会	縦割り班毎に、自己紹介をする。 班のめあてや約束を決める。
縦割り班遊び	班毎に縦割り班遊びに取り組む。 班ごとに活動の反省をし、より楽しく遊ぶための方法を話し合う。 活動の様子について、担当の先生の話聞く。

##### 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点

- ・6年生は事前に「遊び企画書」を考えておく。計画の状況を見取り、アドバイスや励ましを与える。企画書をもとに、よりよい遊び方を話し合わせる。【課題解決】
- ・各学年に応じた役割を具体的に指導する。活動の運営は6年生のリーダーに委ね、教師は活動状況を観察しながら、必要に応じ、指導支援する。【課題解決・役割認識】
- ・「縦割り班遊びコンテスト」とし、活動意欲を喚起する。【コミュニケーション・役割認識・課題解決】
- ・各班、各学年の取り組み態度を具体的に評価する。【役割認識・課題解決】

### 活動の実際(6年生)

#### 事前の活動準備の様子

##### (1) リーダーとしての役割を確認する

これまで行われてきた「たてわり遊び」を振り返らせながら、6年生にはどんな役割があるか考えさせ、リーダーとして下級生をまとめていく役割があることを押さえさせました。そして、たてわり遊びを成功させるために、しっかりと計画づくりが大切であることを確認させました。



(2)リーダーが遊びを企画する

<small>(たてわり班自由遊び企画書)</small> 担当リーダー：	
班名	
めあて	
きまり	
活動の流れ	集合 はじめの会(めあてやきまり、遊び方の確認など) 自由遊び( : ~ : ) まとめの会(リーダーから、班員から)
遊びの計画	(リーダーの仕事メモ)
(反省)	
(先生から)	

左のような「たてわりあそび企画書」を用意し、リーダーにそれぞれのたてわり班の遊びの計画書を作成させました。企画書に盛り込んだ内容は、次のとおりです。

各班の活動のめあて  
 活動のきまり  
 活動の流れ(プログラム、時間)  
 遊びの内容  
 リーダとしての仕事メモ



企画書の作成の仕方について説明する際に、どこの班が上手に遊べたかを「たてわり班遊びコンテスト」で評価することを伝えました。評価のポイントは、「全員が楽しく遊んでいるか、勝手な行動をしないでまとまっているか、遊びの工夫があるか」の3点です。リーダーの6年生は、コンテストでそれぞれの班の活動の様子がチェックされることに責任の大きさを感、どこの班も真剣に計画づくりに取り組む姿が見られました。

遊びの内容については、子どもたちのこれまでの経験が限られていることから、教室に集団遊びの本を準備したり、教師がアドバイスをしたりするなどの支援を行いました。また、計画は、当日の状況で変わってくることも伝え、その場に応じて対応することの大切さも話しました。

当日のたてわり遊びの様子

(1)めあてときまりの確認

メンバー集合の後、6年生リーダーが、事前に決めた遊びのめあてときまりを下級生に伝えました。その後、自分たちが計画した遊びの説明を行いました。



(2)たてわり遊びの実際

事前に計画した遊びを中心に活動し、どこの班もまとまりながら楽しく遊んでいました。ただ、今回の活動が、学校外の神社の敷地であったこと、時間が予定よりも多く余ったこと、低学年の子どもたちから「あきた～」という声が聞かれたりしたことなど、計画どおりに行かないところも多くありました。それでも、リーダーが下級生の声を生かしながら、臨機応変に活動を進めていました。



(3)活動の反省



めあて、きまりをきちんと守って楽しく遊べたか、各班毎に反省の時間をとりました。リーダーがチェック項目に従い、班員全員の声を聞きながら反省を進めました。

〔事後のリーダーの子どもたちの感想から〕  
 ぼくは、たてわり班の活動で、みんなをまとめる力がついたと思います。遊びのときは、「どこに集まって」とか言って、みんなをまとめることができました。  
 反省のときに、「もう一度やりたいですか?」と聞いたら、みんなが「やりたいっ!」と言ってくれたのでよかったです。1年生や2年生に説明したり、一緒に活動したりするのが大変だったので、後期はスムーズにできるようにがんばります!

実践のまとめ

「たてわり遊びコンテストを行う」と伝えたときのリーダー(6年生)の子どもたちの表情には、「これは、しっかりやらないと...!」という真剣さと緊張感が感じられました。計画づくりや当日の活動では、リーダーとしての自覚をもって下級生をまとめようとする態度が伺えました。活動後の子どもたちの感想を読むと、集団をまとめる責任の大きさと大変さを感じながらも、自分たちで活動を企画し、実行する楽しさも感じる事ができたようです。キャリア教育の大切な要素である、「責任感をもって役割を果たす力」「ものごとを企画・計画する力」「集団を動かす力」を6年生リーダー全員に培うことができました。また、下級生も、「リーダーの指示を聞く」「集団行動のルールを守る」「みんなと仲良く接する」といった点から、進路発達の育成を図ることができました。

## 「『生き方』を学ぶキャリア教育の展開」の作成にかかわって参考にした資料

### 【参考Webページ】

- 岩手県教育委員会学校教育室(2006),『キャリア教育について』  
<http://www2.iwate-ed.jp/sed/eresch/carrer.html>
- 岩手県立総合教育センター(2005・2006),『教育研究データベース(小学校キャリア教育)』  
<http://www.iwate-ed.jp/db/db1/index.html>
- ジョブカフェ岩手(2006),『ホームページ』  
<http://www.jobcafe-i.jp/index.html>
- 三村隆男(2005),『小学生から養う勤労観』,『教育ルネサンス』  
<http://www.yomiuri.co.jp/kyoiku/renai/20051202us41.htm>
- 船橋情報ビジネス専門学校(2006),『ホームページ』  
<http://www.chiba-fjp.ac.jp>

### 【参考文献】

- 池上彰監修・こどもくらぶ著(2003),『キャリア教育に役立つたくさんの仕事 たくさんの未来』  
全10巻,小峰書店
- 井上裕吉編著(1997),『学級を「場」とする進路の指導 「生きる力」を育てる』,明治図書
- 大久保幸夫(2004),『仕事のための12の基礎力』,日経BP社
- 神奈川県立総合教育センター(2005),『キャリア教育推進ハンドブック』,神奈川県立総合教育センター
- 京都教育大学附属京都小学校・京都中学校(2005),『特色ある学校作り「新学校構想」』
- 京都教育大学附属京都小学校・京都中学校(2006),『これならできるキャリア教育』,明治図書
- 児島邦宏・三村隆男編(2006),『小学校・キャリア教育のカリキュラムと展開案』,明治図書
- 児玉光雄(2004),『松井秀喜・イチローに学ぶ プロフェッショナル・シンキング』,二見書房
- こどもくらぶ編(2005),『だれにもわかるキャリア教育のテーマ50』,学事出版
- 斎藤孝(2001),『「できる人」はどこがちがうのか』,ちくま新書
- 仙崎武・池場望・宮崎冴子(1999),『21世紀のキャリア開発』,文化書房博文社
- 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子(1991),『進路指導論』,福村出版
- 鳥居徹也(2005),『フリーター・ニートになる前に読む本』,三笠書房
- 内藤勇次編著(1997),『夢と希望を育てる生き方の教育』,学事出版
- 日本進路指導協会(2005・2006),『進路指導第78巻～第79巻』,(財)日本進路指導協会発行
- 沼津市立原東小学校・三村隆男(2005),『キャリア教育が小学校を変える』,実業之日本社
- 花巻市立湯口小学校(2005・2006),『学校経営概要』
- ひらたつまびらか・鶴田麻也美著(2006),『小学校キャリア教育と授業プログラム』,日本標準
- 福地守作(1995),『キャリア教育の理論と実践』,玉川大学出版部
- フリーター研究会編(2001),『フリーターがわかる本!』,数研出版
- 古田足日(1970),『ロボット・カミィ』,福音館書店
- 三村隆男(2004),『キャリア教育入門 その理論と実践のために』,実業之日本社
- 三村隆男編著(2004),『はじめる小学校キャリア教育』,実業之日本社
- 三村隆男編著(2006),『キャリア教育と道徳教育で学校を変える!』,実業之日本社
- 宮川八岐・有村久春編(1999),『小学校学習指導要領Q&A～解説と展開～』,教育出版
- 悠木そのま(2004),『みんなのキャリアデザイン なりたい自分になるために』,文芸社

# 「生き方」を学ぶ キャリア教育の展開

～キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン～



学級活動で...  
行事・委員会・クラブ活動で...  
そうじや給食、係の活動で...



特別活動を中心としたキャリア教育展開案集

## はじめに

『『生き方』を学ぶキャリア教育の展開』では、小学校におけるキャリア教育の実践の手引きとして「キャリア教育の視点を位置付けた特別活動の指導プラン」を掲載しました。『『生き方』を学ぶキャリア教育の展開』で示したキャリア教育の授業づくりについての基本的な考え方を基に、特別活動で展開するキャリア教育の展開例を指導案集としてまとめたものです。内容は、学級活動、学校行事、児童会活動、クラブ活動そして清掃活動や係活動など日常的な活動の指導計画案です。

小学校におけるキャリア教育では、「現行の教育課程をキャリア（進路）発達育成の視点から見直し、教育活動全体を通じて推進すること」が最も大切であると言われています。この考え方の基本に立ち本書に掲載した指導計画案も、「その活動で育成すべきキャリア発達の視点を明確にする、バランスのよいキャリア発達を図るために、従来の活動を見直し、指導法を改善したり、新たな活動を設けたりする」ことの2点に留意し立案しました。

本書では、特別活動を中心としたキャリア教育の指導プランを示してありますが、教科や総合的な学習の時間等でキャリア教育の授業づくりに取り組む際にも、掲載した指導計画案は参考になるものと思います。

## もくじ

<b>I キャリア教育の視点を位置付けた学級活動指導計</b>	(1)
<b>1 学級活動年問題材一覧</b>	(2)
<b>2 キャリア教育の視点を位置付けた学年別学級活動指導計画</b>	(4)
(1) 第1学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(4)
(2) 第2学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(14)
(3) 第3学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(23)
(4) 第4学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(31)
(5) 第5学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(40)
(6) 第6学年学級活動指導計画(年問題材一覧・指導展開例)	(49)
<b>II キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の指導計画案</b>	(68)
<b>1 キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の年問題材一覧</b>	(69)
<b>2 学校行事等におけるキャリア教育指導計画案</b>	(70)
(1) 学校行事におけるキャリア教育指導計画案集	(70)
(2) 児童会活動・クラブ活動・日常活動におけるキャリア教育指導計画案集	(80)

# 学級活動指導計画集



# 1 学級活動年間題材一覧

## 〔学級活動題材一覧（第1学年～第3学年）〕

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題 材 名		
	第1学年	第2学年	第3学年
4月	<b>名しこうかんをしよう</b>	2年生になって	<b>3年生になって</b>
月	みんなで楽しく遊ぼう	楽しい学級にしよう	学級目標を決めよう
	<b>元気にあいさつしよう</b>	係を決めよう	学級組織を決めよう
	<b>学校のやくそくを知ろう</b>	安全な登下校を考えよう	安全な登下校を考えよう
	そうじのしかたを知ろう	図書館のきまりを知ろう	<b>みんなと仲良しになろう</b>
月	運動会のめあてを決めよう	運動会のめあてを決めよう	運動会のめあてを決めよう
	給食のやくそくを知ろう	<b>1年生さんと遊ぼう</b>	<b>気持ちのよい言葉づかい</b>
	手洗い名人になろう	体をきれいにしよう	
	ろう下を上手に歩こう	係のしごとをがんばろう	運動会を振り返ろう
月	歯みがきの仕方を知ろう	歯みがきの仕方を知ろう	歯をきれいにみがこう
	プールの使い方を知ろう		ろうか歩行を見直そう
			係活動をもりあげよう
7月	お楽しみ会をしよう	お楽しみ会をしよう	学級集会の計画を立てよう
	夏休みのめあてを決めよう	夏休みのめあてを決めよう	学級集会をしよう
8月			夏休みの計画を立てよう
	ぼくの夏・わたしの夏	<b>夏休み作品発表会を開こう</b>	2学期の目標を決めよう
	2学期の目標を決めよう	2学期の目標を決めよう	学級組織を決めよう
	係を決めよう	係を決めよう	
9月	<b>ゲーム大会をしよう</b>	上手にそうじしよう	そうじを見直そう
	係の仕事をがんばろう	ゲーム大会をしよう	学習発表会を成功させよう
	<b>自分でできること</b>	<b>教えて!あなたのこと、友達のこと</b>	<b>食事の大切さを知ろう</b>
	学習発表会のめあてを決めよう	学習発表会のめあてを決めよう	
10月	学習発表会を振り返ろう	学習発表会を振り返ろう	学習発表会を振り返ろう
	マラソン大会のめあてを決めよう	<b>せいとん名人になろう</b>	家庭学習をがんばろう
	すごいな見つけをしよう	<b>なりたいな・なりたいな</b>	目を大切にしよう
11月	<b>図書館に行ってみよう</b>	読書会をひらこう	<b>スポーツ大会をしよう</b>
	安全な遊び方を考えよう	忘れ物をなくそう	進んで読書しよう
	うがい名人・手洗い名人		かぜとインフルエンザ(換気)
12月	おたのしみ会をしよう	おたのしみ会の計画を立てよう	学級集会の計画を立てよう
	冬休みのめあてをきめよう	おたのしみ会をしよう	学級集会をしよう
		冬休みのめあてをきめよう	冬休みの計画を立てよう
1月	<b>ぼく・わたしの冬休み</b>	ぼく・わたしの冬休み	3学期のめあてを立てよう
	3学期のめあてを立てよう	3学期のめあてを立てよう	<b>先生方の仕事調べに挑戦!</b>
		<b>見つめてみよう、自分の仕事</b>	
2月	<b>6年生さん、ありがとう</b>	<b>ありがとうあつめをしよう</b>	6年生を送る会を成功させよう
	男の子と女の子	6年生に感謝の気持ちを表そう	<b>男女の協力</b>
		<b>おへそってなあに?</b>	感謝の気持ちでそうじしよう
3月	<b>もうすぐ2年生</b>	もうすぐ3年生	もうすぐ4年生
	春休みの過ごし方	春休みの過ごし方	春休みの過ごし方

は指導要領の内容(1)「学級や学校生活の充実と向上に関する事」、は同(2)「日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関する事」です。

# 〔学級活動題材一覧(第4学年～第6学年)〕

		題 材 名		
月		第4学年	第5学年	第6学年
4月		4年生の自覚	友達増やそう	最高学年の役割
		学級目標を決めよう	学級目標を決めよう	学級目標を決めよう
		学級組織を決めよう	学級組織を決めよう	学級組織を決めよう
		安全な登下校を考えよう	安全な登下校を考えよう	安全な登下校を考えよう
5月		くらしの約束を見直そう	あいさつを活発にしよう	修学旅行を成功させよう
		運動会を成功させよう	運動会を成功させよう	修学旅行を振り返ろう
		体の清潔について考えよう	どんな仕事があるかな?『ご飯&ワカップ編』	そうじ名人になろう
			お気に入りの仕事を調べてみよう	運動会を成功させよう
6月		運動会を振り返ろう	運動会を振り返ろう	運動会を振り返ろう
		虫歯を予防しよう	古代むら体験学習を成功させよう	歯の健康について考えよう
			「働く」って何?	自分のよさを見つけよう
			古代むら体験学習を振り返ろう	
7月		お楽しみ会を計画しよう	学級集会の計画を立てよう	学級集会の計画を立てよう
		お楽しみ会をしよう	学級集会をしよう	学級集会をしよう
		夏休みの計画を立てよう	充実した夏休みに!	充実した夏休みに!
8月		2学期の目標を決めよう	2学期の目標を決めよう	2学期の目標を決めよう
		学級組織を決めよう	学級組織を決めよう	学級組織を決めよう
9月		何でも自慢大会を開こう	委員会の組織をつくろう	たばこと健康
		地域の働く人から学ぼう	学習発表会を成功させよう	係活動を見直そう
		学習発表会を成功させよう	見つけよう、友達のよさ	学習発表会を成功させよう
		バランスのとれた食事をしよう		
10月		学習発表会を振り返ろう	学習発表会を振り返ろう	学習発表会を振り返ろう
		市内音楽発表会を成功させよう	係活動を見直そう	「フリーター」って、何?
			近視を予防しよう	未来の「自分史」を作ろう!
11月		そうじの仕方を見直そう	金管バンドを引き継ごう	家庭学習パワーアップ作戦
		読書の輪を広げよう	読書パワーアップ作戦	読書は心の栄養
		忘れ物を無くそう	かぜとインフルエンザ(睡眠)	卒業に向けて
12月		学級集会の計画を立てよう	学級集会の計画を立てよう	学級集会の計画を立てよう
		学級集会をしよう	学級集会をしよう	学級集会をしよう
		冬休みの計画を立てよう	充実した冬休みに!	充実した冬休みに!
1月		3学期のめあてを立てよう	3学期のめあてを立てよう	小学校生活最後の過ごし方
		1/2成人式をしよう	委員会の組織をつくろう	言葉について考えよう
2月		6年生を送る会を成功させよう	6年生を送る会を成功させよう	もうすぐ中学生
		命のつながり	情報とくらしについて考えよう	感謝の気持ちを伝えよう
		わたしのよいところ		命の誕生について考えよう
3月		もうすぐ5年生	もうすぐ6年生	学級お別れ会をしよう
		春休みの過ごし方	春休みの過ごし方	6年間の成長を振り返ろう

は指導要領の内容(1)「学級や学校生活の充実と向上に関する事」、  
適応及び健康や安全に関する事」です。

は同(2)「日常の生活や学習への

# 2 キャリア教育の視点を位置付けた学年別学級活動指導計画

## (1) 第1学年学級活動指導計画

### 第1学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力						指導案・関連計画掲載ページ
				自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	意思決定力	
4月	名しこうかんをしよう	(2)	自分の好きなことを紹介し合い、自他の理解を深め、よりよい人間関係を築こうとする。							5
	みんなで楽しく遊ぼう	(1)	ルールを守って遊びながら、友達を増やすことができる。							25
	元気にあいさつしよう	(2)	場に応じた挨拶の仕方を知り、実生活で実践しようとする気持ちをもつ。							6
	学校のやくそくを知ろう	(2)	集団生活におけるくらしの約束を理解し、進んで守ろうとする。							7
5月	そうじのしかたを知ろう	(2)	そうじの意義や方法を知り、進んで自分の仕事を果たそうとする。							36/53
	運動会のめあてを決めよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。							72
	給食のやくそくを知ろう	(2)	基本的な配膳の仕方や給食時のマナーを知り、進んで実践しようとする。							87
	手洗い名人になろう	(2)	手洗いの必要性と正しい手洗いの方法を理解し、進んで実践しようとする。							
6月	ろう下を上手に歩こう	(1)	ろう下歩行の問題点を見つけ、正しい歩行の仕方を話し合い、実践しようとする。							
	歯みがきの仕方を知ろう	(2)	正しい歯磨きの仕方を知り、学んだことを実生活に進んで生かそうとする。							54
	プールの使い方を知ろう	(2)	プールの使い方や学習の進め方を知り、水泳学習に意欲的に取り組もうとする。							
7月	お楽しみ会をしよう	(1)	集会の企画と運営をとおり、1学期の互いの頑張りを認め合うことができる。							32/33
	夏休みのめあてを決めよう	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。							56
8月	ぼくの夏・わたしの夏	(2)	それぞれの夏休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。							16
	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。							57
	係を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な係と自分の仕事を決め、活動意欲をもつ。							47
9月	ゲーム大会をしよう	(1)	ゲーム大会の企画や運営を通じ、自己の役割を果たしたり、良好な人間関係を築いたりする。							8
	係の仕事をがんばろう	(1)	よりよい学級生活のために係の仕事を見直したり、新しい活動を工夫したりする。							47
	自分でできること	(2)	自己の生活態度を見つめ、自分のことは自分でやり遂げようとする気持ちをもつ。							9
	学習発表会のめあてを決めよう	(1)	初めての学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。							76
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。							76
	マラソン大会のめあてを決めよう	(1)	マラソン大会を成功させるための取組を話し合い、自分のめあてを決めることができる。							
	すごいな見つけをしよう	(2)	周りの人たちの様子に関心をもち、他者のよさやがんばりに気付き、尊敬の気持ちをもつ。							17
11月	図書館に行ってみよう	(2)	たくさんの本に触れ、読書への関心を深めたり、図書館利用の意欲を高めたりする。							10
	安全な遊び方を考えよう	(1)	安全意識をもち、室内での遊びのルールを話し合い、実践しようとする。							
	うがい名人・手洗い名人	(2)	うがいや手洗いの効果を知り、実生活で実践しようとする意欲をもつ。							
12月	おたのしみ会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。							32/33
	冬休みのめあてをきめよう	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。							63
1月	ぼく・わたしの冬休み	(2)	それぞれの冬休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。							11
	3学期のめあてを立てよう	(2)	2学期や冬休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、3学期の学校生活への意欲をもつ。							57
2月	6年生さん、ありがとう	(1)	6年生を送る会の準備や表現活動に進んで取り組み、6年生への感謝の気持ちを表現できる。							12
	男の子と女の子	(2)	男女双方の違いを認め合いながら、互いの存在を大事にしようとする気持ちをもつ。							30
3月	もうすぐ2年生	(2)	一年間の成長を振り返りながら、新しい学年に向けた期待を膨らませる。							13
	春休みの過ごし方	(2)	新しい学期を迎える上での春休みの意義を知り、規則正しい生活を送ろうとする気持ちをもつ。							

# 第1学年学級活動指導展開例

1. 題材名 「名しこうかんをしよう」  
〔1年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成〕
2. 目 標

自分の好きなことを紹介し合い、自他の理解を深め、よりよい人間関係を築こうとする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
名刺作りをとおり、自分の好きなことや得意なことを考え、自分自身を見つめさせる場とする。名刺交換を行うことで、自己を表現する力や誰とでも仲良く接しようとする態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】: 名刺交換で適切な挨拶や自己表現ができる。また、他者との温かな関係を築くことができる。  
【自己理解力】: 自分自身の好きなことや得意なことを絵に表したり、他者に伝えたりすることができる。  
【将来設計力】: 自分や友達を大切にしながら、楽しい学校生活を送ろうとする気持ちをもつ。

4. 展開案

事前	<p>事前に活動内容を知らせ、自分の好きなことを考えさせたり、名刺交換の活動への意欲をもたせたりしておく。 他者へのかかわりに抵抗を感じる子や特別に配慮が必要な子について把握しておく。 入学当初の1年生にも簡単に作れる名刺用紙を準備する。交換した名刺をファイルする台紙も準備しておく。</p>			
本時	課題把握	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 教師の話から本時は、新しい友達や先生ともっと仲良くなるための時間であることを知る。 2 「名刺交換」の意味を知り、本時の活動内容をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めいしこうかんをして、みんなともっとなかよくなるう。</div>	資料等 名刺の実物	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい友達や先生、クラスとの出会いの喜びを伝えるとともに、楽しい学校生活を送るために行う活動であることを知らせる。 【コミュニケーション】</li> <li>・教師の見本の名刺を基に、作り方を説明する。名刺は自分を紹介する大切なものであることを知らせ、丁寧に作業させる。 【コミュニケーション・自己理解】</li> <li>・挨拶の仕方、自分の紹介の仕方、名刺の扱い方等、デモンストレーションを示しながら、しっかり練習させる。 【コミュニケーション・自己理解】</li> <li>・堂々と自分を表現することの大切さを話し、自信をもって活動に取り組むようにさせたい。活動に消極的な子には、教師が寄り添い、活動を支援する。 【コミュニケーション・自己理解】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 各自、名刺作りをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を書く</li> <li>・自分が好きな物を絵で書く</li> </ul> </div> <p>4 名刺交換の仕方を知り、練習する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>目と目を合わせておじぎをする 自分の名前と好きな物を紹介する 「よろしくお願ひします」の挨拶をする 「仲良くしましうね」の握手をする</p> </div> <p>5 名刺交換をする。</p>	教師の見本の名刺  名刺用紙	
	まとめ	<p>6 名刺交換をしての感想を発表し合う。</p> <p>7 今後の学校生活に期待する担任の話を聞く。 ・これからも、みんな仲良く！</p>	ワークシート 担任の話	
	事後	<p>休み時間に、担任外の先生方との名刺交換の場も設け、他者とのかかわりを広げる。名刺は多めにストックさせ、校外学習、学校探検等、いろいろな場で活用させていく。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【国語】 単元「どうぞよろしく」の学習で、自分の名前や挨拶がしっかり言える。  
【生活】 「あくしゅ大きくせん」で、進んで先生方に挨拶することができる。  
【道徳】 資料「たのしいがっこう」を基に、楽しい学校生活を送ろうとする気持ちをもつ。

# 1. 題材名 「元気にあいさつしよう」

(1年 学級活動(2) 日常の生活や学習への適応・基本的な生活習慣の形成・望ましい人間関係の育成)

## 2. 目標

場に応じた挨拶の仕方を知り、実生活で実践しようとする気持ちをもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

場に応じた挨拶の仕方を知らせる。

挨拶の大切さに気付かせ、日常の生活で実践しようとする意欲や態度を育てる。

### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】：場に応じた挨拶の仕方がわかる。

【課題解決力】：進んで挨拶を行い、気持ちのよい生活を送ろうとする気持ちをもつ。

【意思決定力】：学習したことを実生活で進んで実践しようとする意欲をもつ。

## 4. 展開案

事前	上級生の生活の様子をモデルに、いろいろな場での挨拶の場面をVTRに撮影しておく。 児童会の生活目標の取り組みとして、執行部から1年生の挨拶の様子をインタビューしておく。		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
本 時	1 児童会の生活目標、「あいさつをがんばろう」について、自分たちの生活を振り返る。 ・よいところ ・もうすこしのところ	児童会のインタビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶について、自分たちで生活を見直させたり、他者(児童会執行部)からの評価を取り入れたりしながら、問題点に気付かせる。 【課題解決】</li> <li>気持ちのよい生活やみんなと仲良しになるために挨拶が大切であることを伝え、課題意識をもたせる。 【課題解決】</li> </ul>
	2 児童会執行部の1年生の挨拶についてのインタビューを聞き、本時の学習課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">あいさつめいじんになろう。</div>		
	3 場に応じた挨拶の言葉を考える。 ----- ・朝、就寝時 ・登下校時 ・日中 ・お礼 ・お詫び ・授業	生活場面のイラスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな生活場面のイラストを用いながら、場に応じた挨拶の言葉を押さえる。 【コミュニケーション】</li> <li>ビデオから、気持ちのよい挨拶のためには、言葉だけでなく態度や動作、姿勢が大切であることに気付かせる。 【コミュニケーション】</li> </ul>
	4 上級生の「挨拶モデルビデオ」を用い、気持ちのよい挨拶の仕方や態度について知る。 ----- ・元気な声 ・目を見て ・おじぎ	挨拶モデルビデオ	
	5 グループ毎に、役割演技をしながら、気持ちのよい挨拶の仕方を練習する。	役割演技	<ul style="list-style-type: none"> <li>班毎に生活場面を選ばせながら、自分たちで役割を決めさせ、練習させる。班毎に練習の成果を発表させながら、実践化に向けた意欲を高める 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】</li> </ul>
	6 グループで練習したことを発表し合う。		
	7 本時の活動を振り返り、感想を発表する。	心のノート	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶は大人になっても(社会に出ても)とても大切なものであることを伝え、学習したことを生かした挨拶や気持ちのよい生活を心がけるよう話す。 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】</li> </ul>
	8 今後の学校生活への期待や、心のノートの取り組み方等の担任の話聞く。		
事後	心のノート(P34~P35)を活用させ、学習したことの実践化を図る。 場に応じた挨拶の言葉を教室に掲示し、日常的な挨拶の指導を行う。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「あかるいあいさつ」や心のノート(P32~P33)を基に、気持ちのよい挨拶について考え、実践する。

【生活】 学校内外の「たんけんかつどう」の学習で、校内の先生方にきちんとした挨拶ができる。

【日常活動】 授業や課外時間等で、場に応じた挨拶をする。

1. 題材名 「学校のやくそくを知ろう」

〔1年 学級活動(2) 日常の生活や学習への適応・基本的な生活習慣の形成・健康で安全な生活態度の形成〕

2. 目 標

集団生活におけるくらしの約束を理解し、進んで守ろうとする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

集団生活を営む上でのきまりの大切さを理解させる。  
規範意識を高め、約束を守りながら集団生活を送ろうとする態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【コミュニケーション力】：きまりを守りながら誰とでも仲良くしようとする気持ちをもつ。
- 【課題解決力】：学校生活での基本的な約束事やきまりの大切さがわかる。
- 【意思決定力】：学習したことを実生活で進んで実践しようとする意欲をもつ。

4. 展開案

事前	「ロボットカミー」の絵本を準備する。 子どもたちの学校生活の様子を観察し、よく守られていないきまりを把握しておく。(教師に言われなくてもチャイム席が守られているか、等の実態を調べ、把握しておく。)		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	1 学校にはどんな約束やきまりがあるか発表し合う。  2 たくさんのきまりの中で生活していることについての感想を発表し合いながら、本時の学習課題をとらえる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">きまりがあるわけをかんがえよう。</div>		・たくさんのきまりがあることへの子どもたちの自由な感想を引き出しながら、課題設定につなげる。きまりに対する否定的な意見も把握しておき、今後の展開に生かす。  <div style="text-align: right;">【課題解決】</div>
本時	3 きまりのない生活を想像し、発表し合う。  4 絵本「ロボットカミー」の前半部(きまりを守らず勝手に行動するカミー)を読み、その感想を発表し合いながら、きまりの大切さを考える。  5 きまりを守った行動ができていないか、自分たちの生活を振り返る。 自分たちで気付かない場合は教師からの話や資料を基に生活を振り返る ・あまり守られていないきまり ・遊びや生活の中で困っていること  6 自分たちの生活の改善点を考える。  7 絵本「ロボットカミー」の後半部を読み、きまりを守って生活することの気持ちよさを感じる。	絵本「ロボットカミー」     チャイム席が守れない人数や休み時間の遊具を巡るトラブル(例)    絵本「ロボットカミー」	・きまりのない生活を具体的に考えさせる。約束を守れずに困る「カミー」の気持ちを共感的にとらえさせる。 <div style="text-align: right;">【課題解決】</div> ・自由で楽しい学校生活のために、きまりが大切であること、どのきまりも必要のあるものであることを具体的な教師の補説を交え、しっかり押さえる。 <div style="text-align: right;">【コミュニケーション・課題解決】</div> ・自分たちの生活を客観視できない場合、教師の側から事例や資料を提供し、問題に気付かせていく。 <div style="text-align: right;">【コミュニケーション・課題解決・意思決定】</div> ・自分たちの生活をよりよいものにしていこうとする気持ちをもたせ、具体的な取り組みを考えさせる。 <div style="text-align: right;">【コミュニケーション・課題解決・意思決定】</div>
まとめ	8 本時の活動を振り返り、考えたことやこれからがんばりたいことを発表する。 9 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。	チェックシート	・チェックシートを用いることを知らせ、きまりを意識した生活を心がけさせる。 <div style="text-align: right;">【コミュニケーション・意思決定】</div>
事後	重点的に取り組みたい項目(チャイム席や遊具の使い方等)について、チェックシートを作成し、一定期間の自己評価による取り組みを行う。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【道徳】 資料「みんなのこうえん」を基に、約束やきまりを守って生活しようとする気持ちをもつ。
- 【生活】 「みんなであそぼう」の学習で、約束を守り、友達と楽しく活動することができる。

1. 題材名 「ゲーム大会をしよう」  
〔1年 学級活動(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること〕

2. 目 標

ゲーム大会の企画や運営を通じ、学級生活の向上のために自己の役割を果たしたり、良好な人間関係を築いたりする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
会の企画や運営に携わらせ、役割を果たすことの楽しさや大切さに気付かせる。  
ゲームを通じて他者とのかかわりをもたせ、人間関係を深めさせる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：ルールを守りながら、みんなとゲームを楽しむことができる。  
【役割認識力】：ゲーム大会での自分の役割を理解し、責任を果たすことができる。  
【職業理解力】：ゲームを企画したり、進行したりすることの楽しさを感じることができる。

4. 展開案

事前	<p>事前の話合いの決定事項に基づき、各係の仕事や準備を行わせる。 〔事前の学級会の内容〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の司会で学級会を行う。</li> <li>・「みんなが仲良くなるための提案」として、教師の側から子どもたちにゲーム大会を提示する。</li> <li>・ゲーム大会の目的と約束を話し合う。</li> <li>・ゲーム大会の係を決める。</li> <li>・ゲームの内容と進行は、「ゲーム係」と担任で行うことを確認する。</li> </ul> <p>ゲーム大会のめあてを教室に掲示しておき、活動の目的意識を明確にもたせておく。 ゲームを進める担当係が進行を戸惑わないよう、ゲームの内容や進め方等の事前の指導を教師が入念に行い、しっかり練習させた上で、集会の当日を迎えさせる。</p>			
集会活動（本時）	集会の内容と順序(例)	活動内容	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
	1 はじめの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会が自己紹介する。</li> <li>・係が、開会の挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にし、準備や練習をしっかりとさせる。</li> </ul>	めあてやきまりの掲示
	2 めあてときまりの確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会の目的と約束を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コミュニケーション・役割認識】</li> </ul>	
	3 先生から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任の話聞き、活動のめあてをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてを意識させること、全員の協力でゲーム大会を成功させること、それぞれの役割を果たすこと、等について話し、集会に臨む意識作りをする。</li> </ul>	
	4 ゲーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム係を中心に、集団ゲームを楽しむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コミュニケーション・役割認識】</li> <li>・ゲーム係の主体的な活動を大事にし、必要に応じて教師が支援する。</li> </ul>	
	5 感想発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会のめあてを振り返りながら、本時の活動の感想を発表をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【役割認識】</li> <li>・自分の言葉でしっかりと自分の感想や意見が言えるようにする。</li> </ul>	
	6 先生から	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各係の仕事の様子、本時の活動の様子等についての担任の話聞く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コミュニケーション】</li> <li>・役割を果たすことの大切さや協力して物事に取り組むことのすばらしさを話す。</li> </ul>	
	7 歌	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで歌を歌い、これからもよりよいクラスを作っていこうとする気持ちをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【コミュニケーション・役割認識・職業理解】</li> </ul>	
	8 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・係が、閉会の挨拶をする</li> </ul>		
事後	<p>集団活動に取り組むことの楽しさや役割を果たすことの大切さに視点を当てた学級通信を作成し、保護者にも活動の様子や趣旨を伝える。 各係で自分の役割をしっかりと果たすことの大切さを、日常的に指導する。</p>			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 班内で協力し合いながら、そうじや係などの班活動に取り組む。また、学級内での自分の役割を責任をもって果たす。

1. 題材名 「自分でできること」

〔1年 学級活動(2)基本的な生活習慣の形成・希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

自己の生活態度を見つめ、自分のことは自分でやり遂げようとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

基本的な生活習慣を身に付けさせ、身の回りのことは自分で解決できる力を育てる。  
自分自身の生活を見つめさせ、問題点を見つめさせたり、改善点を考えさせたりしながら、自分の生活を向上させようとする意欲や態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【自己理解力】: 自分の生活態度を見つめ、課題点や改善点を考えることができる。
- 【役割認識力】: 自分の生活を支えたり、応援したりしている人の存在に気付く。
- 【課題解決力】: できるだけ自分のことは自分でやり遂げようとする気持ちをもち、実践できる。

4. 展開案

事前	事前に保護者に授業内容を知らせ、授業後の家庭での実践事項について協力を依頼しておく。 家庭で取り組む「チャレンジカード」「賞状(合格証)」を作成しておく。		
本 時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 自分の生活を振り返り、家族や周りの人に手伝ってもらったり、代わりにしてもらったりしていることを考える。</p> <p>2 生活の中に、もっと自分でもできることがあることに気づき、学習課題を立てる。</p> <p>じぶんのちからでがんばりたいことをきめよう。</p>	<p>資料等</p> <p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちから出されたことを板書に書き出すことで、自分たちの生活を支える人々の存在に気付かせ、感謝の気持ちをもたせる。 【自己理解・役割認識】</li> <li>・このままの生活でよいか問い、自分ができることは自分で行おうとする気持ちを引き出し、課題設定につなげる。 【自己理解・課題解決】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 家庭の中で、自分の力でできることを考える。</p> <p>4 自分の力で頑張りたい項目を考え、取り組みカード(チャレンジカード)に書く。 (例)・朝、自分の力で起きる ・親に言われる前に、明日の準備をする ・食器の片付けを自分でする ・洗濯物の片付けを自分でする</p> <p>5 各自の頑張りたいことを紹介し合う。</p> <p>6 家庭での取り組み方の説明を聞く。 お家の人に自分ががんばることを教える(「がんばるぞ!宣言」をする) 自分のがんばりを見てもらい、できたらシールをもらう シールが10枚たまったら「合格証」をもらえる</p>	<p>チャレンジカード</p> <p>シール合格証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活を見つめさせ、自分の力でできそうなことを考えさせる。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・努力項目は、各家庭や個人によって異なる。一人一人に問いかけながら、具体的な取り組みが可能な目標を設定させる。子どもによっては、複数の目標設定も認める。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・家庭での取り組み方を具体的に指導する。 【課題解決】</li> <li>・お家の人からしっかり評価してもらうこと、「合格証」で自分が成長できること等を話し、活動の意欲付けを図る。 【自己理解・課題解決】</li> </ul>
	まとめ	<p>7 本時の活動の感想やこれからの取り組みの意気込みを発表し合う。</p> <p>8 担任の話聞き、実践への意欲をもつ。</p>	
事後	<p>授業の内容を学級通信で家庭に知らせ、家庭での子どもたちの取り組みへの協力を依頼する。 〔家庭に協力していただくこと〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが決めた、家庭での「自分の力でがんばりたいこと」の内容を知る。</li> <li>・毎日、子どもたちの取り組みを保護者がチェックし、達成できたらシールを貼る。</li> <li>・取り組みは2週間程度とし、最後に保護者から子どもたちへの励ましのコメントを寄せていただく。</li> <li>・各家庭での子どもたちの様子について、連絡帳等で教えていただく。</li> </ul> <p>自分のめあてを決めてがんばった取り組みを評価する場を設ける。取り組みカードの達成状況に応じて「合格証」などの賞状を与える。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【道徳】 資料「しまのおさるたち」を読み、他人に頼らず、自分でできることは自分でやることの大切さを知る。
- 【生活・学級活動】 単元「もうすぐ2年生」で、自分の成長を振り返り、自分ができるようになったことを発表する。

# 1. 題材名 「図書館に行ってみよう」

〔1年 学級活動(2)学校図書館の利用〕

## 2. 目標

たくさんの本に触れ、読書への関心を深めたり、図書館利用の意欲を高めたりする。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

多くの本に触れさせることで、自己の興味や関心を広げさせたり、深めさせたりする。  
図書館には多くの本があることを知らせるとともに、図書館利用の仕方を身に付けさせる。

### 進路発達にかかわる諸能力

【自己理解力】: 多くの本に触れ、自分の興味を広げたり、深めたりする。  
【情報活用力】: 図書館には多くの本があることに気付くとともに、図書館利用の仕方を知る。

## 4. 展開案

事前	生活科「がっこうたんけん」の学習で、図書館の存在を知らせ、図書館利用への興味を高めておく。 朝読書や読み聞かせの活動を大切にし、読書に親しませる場を多く設けておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	<b>課題把握</b> 1 自分の好きな本や友達に紹介したい本を発表し合う。 2 本をたくさん読める場所（図書館）への関心をもち、本時の活動内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">としょかんのつかいかたをおぼえよう。</div>		・学級文庫を充実させたり、家庭から好きな本を持参させたりしながら、日常から読書に親しむ環境作りに留意しておく。 【自己理解】 ・自分の好きな本を紹介させる場を設け、自分自身の興味を考えさせる場にする。 【自己理解】
本時	<b>課題追究</b> 3 図書館はどんなところが確認し、図書館への移動の仕方、館内での約束を話し合う。 ・図書館は、本を読んだり、勉強したりする所 ・静かに！ 4 図書館に移動し、自分の好きな本を自由に探し、読書に親しむ。	図書館利用カード	・教師の側から一方的に図書館のルールを指導するのではなく、図書館は学習の場であることを押さえ、どんな約束が必要か、子どもたち自身に考えさせる。 【情報活用】 ・自由にたくさん本を手にとって触れさせ、図書館のよさを感じ取らせる。 【自己理解・情報活用】
	5 教師の説明を聞き、図書館利用の仕方を知る。 ・カードの記入の仕方 ・本の借り方 ・本の扱い方 ・返却の仕方 6 図書館利用の仕方に則り、教室や家で読む本を探し、借りる。		・指導事項として、教師がしっかり説明する。 【情報活用】 ・実際に本を借りさせ、利用の仕方を覚えさせる。 【情報活用】
まとめ	7 「図書館探検」の感想を発表し合う。 8 担任の話聞き、読書や図書館利用への意欲をもつ。		・カードでの取り組みを話し、今後の積極的な図書館利用を促す。 【自己理解・情報活用】
事後	1年間に読む読書冊数の目標をもたせ、読書カードや「読書がんばり表」などで、図書館利用への意欲付けを図る。 意欲的に読書に取り組んでいる子を紹介する場を設ける。 朝の会等で、「私のお気に入りの本」を紹介するコーナーを設ける。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【日常活動】 朝の会のスピーチコーナーで、お気に入りの本の紹介や最近読んだ本の感想等を発表する。  
 【生活】 単元「がっこうたんけん」の活動で図書館の様子を観察し、図書館への興味をもつ。  
 【国語】 「ほんとともだちになろう」の学習で、読書への関心をもつ。

1. 題材名 「ぼく・わたしの冬休み」

〔1年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成〕

2. 目 標

それぞれの冬休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

各自が冬休みの取り組みの様子を発表する場を設け、集団の場でも、堂々と表現できる力を育てる。  
冬休みの生活を振り返らせることをとおし、自他の頑張りや成長を自覚させる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：冬休みの思い出や頑張ったこと、作品紹介を堂々と発表できる。  
【自己理解力】：冬休みの自己の頑張りを見つめ、新学期への意欲を高める。

4. 展開案

事前	冬休みの「さくひんはっぴょうかい」を開くことを事前に知らせ、自分が発表したいことを考えさせておく。 黒板に発表会のタイトルやプログラム（進め方）を教師が書いておく。 作品紹介カードを用意しておく。		
本 時	課題把握	<b>学習活動</b> 1 教師の話聞き、発表会に向けた意欲をもつ。 2 発表会のめあてを確認する。 「ふゆやすみさくひんはっぴょうかい」で、ともだちのがんばりをたくさんみつけよう。	<b>資料等</b>  <b>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</b> ・発表会で頑張ること（自分の発表をしっかりとる、友達の頑張りを見つける）を具体的に伝え、活動のめあてをもたせる。 【コミュニケーション】
	課題追究	3 教師のモデルと説明から発表の仕方を知り、各自発表練習をする。 (1) 作品紹介カードを書く (2) 作品紹介カードを基に発表練習をする 正しい姿勢でお辞儀をする 何を作ったか話す がんばったこと、くふうしたことを話す 作ってみての自分の感想 作品PRをする	<b>作品紹介カード</b>  <b>発表の仕方</b> ・発表練習をしっかりと行わせる。発表のめあてをもたせ、ペア練習や互いに発表の仕方をアドバイスし合う場を設けながら、堂々と発表できるようにする。（教師も適宜、アドバイスや励ましを与えていく） 【コミュニケーション・自己理解】
	まとめ	4 冬休み作品発表会を開く。 (1) 作品発表をする (2) 友達の作品や発表のよいところを発表し合う  5 作品発表会を振り返り、感想を発表し合う。 6 担任の話聞き、互いの頑張りや認め合う気持ちや3学期の生活への意欲をもつ。	<b>ワークシート</b> <b>担任の話</b> ・望ましい発表態度（適切な声、堂々とした態度、手振りや身振りを使った発表、表情等）を賞揚していく。 【コミュニケーション】  ・友達の発表の内容、発表の仕方でのよいところを発言できるよう、めあてをもたせた発表を聞かせる。 【コミュニケーション・自己理解】
	事後	作品紹介カードに教師からのコメントを書き添え、教室等に作品掲示をする。 発表会の様子を学級通信等で家庭に知らせる。 【自己理解】	

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【図工】 いろいろな作品紹介で、自分の工夫したところや頑張ったことを発表できる。  
 【学級活動】 3学期の生活に対する意欲をもち、具体的な目標を設定することができる。  
 【日常活動】 「帰りの会」の場等で、友達のよさを見つけ、発表できる。

1. 題材名 「 6 年生さん、ありがとう 」  
〔 1 年 学級活動(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること 〕

2. 目 標

6 年生を送る会の準備や表現活動に進んで取り組み、6 年生への感謝の気持ちを表現できる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

自分たちの学校生活を支えた 6 年生の働きに気付かせ、感謝の気持ちをもたせる。  
6 年生への感謝の表現を成功させるための自分の役割を自覚させ、進んでその役割を果たそうとする態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：6 年生への感謝の気持ちを表現活動で表すことができる。

【役割認識力】：自分たちの学校生活を支えた 6 年生の働きに気付く。

4. 展開案

事前	入学式や縦割り活動等、6 年生にお世話してもらったシーンをVTR編集したものや、写真等の資料を準備しておく。 道徳の時間に資料「ありがとう・6 年生」を用いた授業を行い、お世話になった人に感謝しようとする気持ちを育てておく。			
		学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
本時	課題把握	1 道徳の「ありがとう・6 年生」の授業を想起する。	入学式や登下校時、縦割り活動等のVTR、写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ありがとう・6 年生」のようなことが自分たちにも無いか問い、これまでの学校生活を振り返らせる。 【役割認識】</li> <li>・どのような場で、誰に、どんなお世話になったか具体的に話させる。教師の側からも、6 年生が 1 年生のお世話をしている場面を写真やビデオで見せ、6 年生の働きの大きさを実感させる。 【役割認識】</li> <li>・自分たちの学校生活は、6 年生にたくさん支えられていたことに気付かせ、感謝の気持ちをもたせる。 【役割認識】</li> </ul>
		2 これまでの学校生活を振り返り、どんなところで 6 年生にお世話になったか考え、発表し合う。		
3 自分たちの生活を支えた 6 年生についての各自の思いを発表し合う。				
4 6 年生の働きに感謝する気持ちを持ち、今後の活動のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6 年生さんにありがとうのきもちをとどけよう。</div>				
本時	課題追究	5 感謝の気持ちの伝え方にどんな方法があるか考えを出し合いながら、教師の提案を基に 1 年生の取り組み（表現すること）を決める。 (表現例) ・感謝のお手紙 ・歌の贈り物 ・呼びかけ、劇 等	手紙用紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現する内容は教師が原案をもちながらも、できるだけ子どもたちの声を反映させながら決定していくようにする。 【コミュニケーション】</li> </ul>
		6 6 年生を送る会での自分の役割と頑張ることを確認する。		
本時	まとめ	7 感謝の気持ちをもちながら、表現活動に取り組む。	手紙用紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が何を、どう頑張るか自分の役割と明確な目標をもたせる。 【コミュニケーション】</li> <li>・今後の活動(練習等)に向けた意欲付けを図る。 【コミュニケーション】</li> </ul>
		8 教師の話聞き、6 年生を送る会に向けての意欲をもつ。		
事後	「6 年生を送る会」に向けて、子どもたちがそれぞれの役割をしっかりと果たせるよう、個に応じた指導や支援をする。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「ありがとう・6 年生」を基に、自分たちが多くの人に支えられていることに気づき、お世話になっている人に感謝する気持ちをもつ。  
【児童会活動】 「6 年生を送る会」で、6 年生への感謝の気持ちを表現する。

# 1. 題材名 「もうすぐ2年生」

(1年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)

## 2. 目 標

1年間の成長を振り返りながら、新しい学年に向けた期待を膨らませる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

1年間の歩みを振り返らせ、自他の成長や頑張りを認め合う場を設ける。  
自分自身の成長に自信をもたせるとともに、新しい学年に向けた意欲を膨らませる。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【自己理解力】：1年間の学校生活で、できるようになったことや成長したことを表現し、自己の成長を実感できる。  
【役割認識力】：学校生活を支えるための係や仕事の大切さを理解する。  
【意思決定力】：2年生に向けた期待と今後の目標をもつことができる。

## 4. 展開案

事前	<p>事前に保護者に授業内容を知らせ、子どもたちの成長や今後の生活への期待（これからがんばってほしいこと）を手紙に書いていただくよう、依頼しておく。 入学当初の様子や学習発表会、研究授業等、子どもたちの成長が見える節目の場面の様子のビデオや写真を資料として編集しておく。 入学当初からの伸長の伸びを計算しておく。 学級活動「自分でできること」で取り組んだカードや合格証を教室に掲示しておく。</p>		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	<p>1 入学式のVTRを視聴し、感想を発表し合う。</p> <p>2 入学当初から3月までの、学級全員の身長の伸びの合計を知らせ、身体的な成長に気付く。</p> <p>3 身体的な成長以外に、できるようになったことや成長したことを考え、本時のめあてをもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>1ねんかんでできるようになったことをかんがえよう。</p> </div>	<p>入学式のビデオ</p> <p>学級全員の身長の伸びの和 (紙テープ)</p>	<p>・現在と入学当時の姿を比べさせ、自他の変容に関心をもたせる。 【自己理解】</p> <p>・学級全員の身長の伸びをテープ図で示し、身体的な成長を実感させるとともに、それ以外の成長点に目を向けさせ、課題設定する。 【自己理解】</p> <p>・視聴の前に、成長点を見つけるという目的を指示する。 【自己理解】</p>
	<p>4 1年間の歩みをビデオや写真(スライドショー)で振り返る。</p> <p>5 自分やクラスの成長点(できるようになったこと・がんばったこと)を考え、短冊用紙に書く。 ・自分の成長 ・クラスの成長</p> <p>6 短冊用紙を黒板に掲示し、それぞれの成長点を発表し合う。</p> <p>7 黒板の短冊用紙を見て、自他やクラスの成長の様子をとらえる。</p>	<p>写真、ビデオ(PC等)</p> <p>短冊用紙</p>	<p>・成長点を見つけられないでいる子には、教師がその子の頑張りを具体的に教えたり、教室内の掲示物等に目を向けさせたりするよう助言する。 【自己理解・役割認識】</p> <p>・互いの協力、それぞれの仕事の頑張りがあって学級生活を送られたことを話し、役割を果たすことの大切さを押さえる。 【役割認識】</p> <p>・黒板に掲示した短冊の数から、自分や友達、クラス全体の成長を量的にもとらえさせる。 【自己理解・役割認識】</p>
まとめ	<p>8 保護者からの手紙を読み、自分自身の成長に自信をもつとともに、2年生への意欲を膨らませる。</p> <p>9 担任のまとめの話を聞く。</p>	<p>保護者からの手紙</p>	<p>・保護者の手紙や教師からの話で、1年間の成長への自信と満足感、2年生への期待感をもたせる。 【自己理解・役割認識・意思決定】</p>
事後	<p>感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、これからの生活でも自分や友達を大事にした学校生活を送るよう励ます。 授業の様子を学級通信で伝え、家庭でもこれからの生活や将来の夢等の話題を提供していく。 「よいところ見つけ」の活動を帰りの会でも継続し、互いのよさを大事にしようとする態度を継続して指導する。</p>		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【学級活動】 「自分でできること」で、身の回りのことは自分でやろうとする気持ちをもつ。  
【生活】 「もうすぐ2年生～あたらしい1年生をむかえよう～」で、新入生を迎える活動に意欲的に取り組むことができる。

# (2) 第2学年学級活動指導計画

## 第2学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力							指導案・関連計画 掲載ページ
				コミュニケーション力	自己管理能力	役割認識力	職業理解力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力	
4月	2年生になって	(2)	進級の喜びを感じ、新しい学校生活に向けた期待を膨らませることができる。								24
	楽しい学級にしよう	(1)	新しいクラスへの願いを話し合い、学級の目標を決めることができる。								42
	係を決めよう	(1)	よりよい学級生活を送るために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。								5
5月	図書館のきまりを知ろう	(2)	図書館の活用の仕方や約束を知り、進んで図書館を利用しようとする。								10
	運動会のめあてを決めよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								72
	1年生さんと遊ぼう	(2)	1年生と楽しく遊ぶための遊びの内容やルールを考え、話し合うことができる。								15
	体をきれいにしよう	(2)	健康に関心をもち、体の清潔に保つ方法を知り、実生活で実践しようとする。								
6月	係のしごとをがんばろう	(1)	係活動の様子を振り返り、よりよい活動をめざして内容や方法を工夫できる。								47
	歯みがきの仕方を知ろう	(2)	正しい歯磨きの仕方を知り、学んだことを実生活に進んで生かそうとする。								54
7月	お楽しみ会をしよう	(1)	集会の企画と運営をとおり、1学期の互いの頑張りを認め合うことができる。								32/33
	夏休みのめあてを決めよう	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								56
8月	夏休み作品発表会を開こう	(2)	それぞれの夏休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。								16
	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。								57
	係を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な係と自分の仕事を決め、活動意欲をもつ。								47
9月	上手にそうじしよう	(1)	より上手なそうじの仕方を知り、働くことの喜びを感じながら、実践しようとする。								36/53
	ゲーム大会をしよう	(1)	学級生活の向上のために、ゲーム大会を企画したり、運営したりすることができる。								28
	教えて！あなたのこと、友達のこと	(2)	自分の好きなことやよさを考えたり、友達のよさを見つけたりして、自他を大事にする気持ちをもつ。								17
	学習発表会のめあてを決めよう	(1)	学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								76
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。								76
	せいとん名人になろう	(2)	自分自身の生活を向上させようとする気持ちをもち、整理整頓に気をつける。								18
	なりたいな・なりたいな	(2)	自分の憧れの仕事を発表し合い、将来の夢や希望を膨らませることができる。								19
11月	読書会をひらこう	(2)	本の交換をしたり、感想を交流し合ったりして、読書に対する意識を高める。								62
	忘れ物をなくそう	(2)	忘れ物について考え、学習に向かう心構えや基本的な学習姿勢を身に付ける。								37
12月	おたのしみ会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	おたのしみ会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	冬休みのめあてをきめよう	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								63
1月	ぼくの冬・わたしの冬	(2)	それぞれの冬休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。								11
	3学期のめあてを立てよう	(2)	2学期や冬休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、3学期の学校生活への意欲をもつ。								57
	見つめてみよう、自分の仕事	(2)	学級内の自分の役割や仕事を見つめ、責任をもって仕事に取り組もうとする気持ちをもつ。								20
2月	ありがとうあつめをしよう	(2)	生活を支える多くの人々の優しさや努力を知り、自らの集団のために働こうとする気持ちをもつ。								21
	6年生に感謝の気持ちを表そう	(1)	6年生への感謝の気持ちをもち、会を成功させるための取組について話し合うことができる。								12
	おへそってなあに？	(2)	へその役割を調べることをとおし、母子のつながりを感じ、命の尊さを知る。								22
3月	もうすぐ3年生	(1)	一年間の成長を振り返りながら、新しい生活に向けた期待と目標をもつ。								13
	春休みの過ごし方	(2)	新しい学期を迎える上での春休みの意義を知り、規則正しい生活を送ろうとする気持ちをもつ。								

## 第2学年学級活動指導展開例

### 1. 題材名 「1年生さんと遊ぼう」

〔2年 学級活動(2)望ましい人間関係の育成・希望や目標をもって生きる態度の形成〕

### 2. 目標

進んで1年生のお世話に取り組みようとする気持ちを持ち、1年生と楽しく遊ぶための遊びの内容やルールを考え、話し合うことができる。

### 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

上学年としての自覚や進んで他者にかかわろうとする気持ちを育む。

「1年生と仲良くなる」という目的に向かって、友達と協力しながら遊びを企画したり、下学年への接し方を考えたりするするという経験をさせる。

#### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】: 1年生にやさしく接しようとする気持ちを持ち、友達と協力しながら話し合いに参加することができる。

【役割認識力】: 自分の役割を適切に果たし、1年生をお世話したり、遊ばせたりする活動に主体的に取り組むことができる。

【意思決定力】: 遊びの内容やルールを進んで考え、自分の意見を積極的に出すことができる。

### 4. 展開案

事前	1年担任との連絡を取り、1年生と合同で遊ぶ場を設けておく。 両学年とも4人程度の班を作り、グループ(8名程度)で活動することとし、事前に班編制しておく。 活動は、1年生の教室への迎えから始まり、教室に送り届けるところまでとする。		
本時	課題把握	学習活動 1 上学年に進級した喜び、1年生が入学したことへの思いを発表し合う。 2 「1年生と仲良くするための合同遊びをする」という、教師の提案について、考えを発表し合い、本時の活動内容を知る。 1年生さんがよろこぶような、ごうどうあそびの計画を立てよう。	資料等 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・進級時に書いた2年生の目標等を紹介しながら、上学年に進級した喜びややる気を引き出したい。 【コミュニケーション】 ・「1年生のお兄さん、お姉さん」という上学年としての意識をもたせる。教師の提案への賛成意見をまとめながら、課題の設定につなげる。 【コミュニケーション・役割認識】
	課題追究	3 教師の説明を聞き、遊び方の大体のイメージをもつ。 ・グループ同士での遊び 4 合同遊びに必要な役割や話し合いが必要なことを出し合う。 例 〔必要な役割〕 ・お手紙を書く(全員) ・教室に迎えに行く人 ・遊びを説明する人 ・約束を説明する人 ・教室まで送る人 〔話し合うこと〕 ・どんな遊びをするか ・どんな約束が必要か ・役割の分担 5 グループ毎に話し合ったことを紹介し合う。	あそび計画カード ・「1年生が喜ぶ・楽しむ」ために、どんなことが必要か問いながら、必要な役割や話し合いのテーマを明らかにしていく。どの役割も大切なものであることを確認させる。 【コミュニケーション・役割認識・意思決定】 ・各グループの話し合いの様子を把握し、必要に応じてアドバイスを与えていく。 【コミュニケーション・役割認識・意思決定】
	まとめ	6 本時の活動を振り返り、感想を発表し合う。 7 担任の話聞き、合同遊びへの意欲を高める。	・遊びの当日までに、実際に練習させたり、計画の見直しをさせたりすることも伝える。 【コミュニケーション・役割認識・意思決定】
事後	班毎に1年生へのお誘いの手紙を書かせ、教室に届ける。 合同遊びの当日までに、立てた計画に沿って活動の練習に取り組みさせる。各グループの様子を教師がチェックし、アドバイスしたり、活動の応援をしたりする。		

### 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「こころのにじ」を基に、友達と仲良くし、助け合おうとする気持ちをもつ。

1. 題材名 「夏休み作品発表会を開こう」

(2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成)

2. 目 標

それぞれの夏休みの成果を交流し合い、他者理解を深め、よりよい人間関係を築く。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
各自が夏休みの取り組みの様子を発表する場を設け、集団の場でも、堂々と表現できる力を育てる。また、発表会の進行等にかかわる役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。  
夏休みの生活を振り返らせることをとおし、自他の頑張りや成長を自覚させる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：夏休みの思い出や頑張ったこと、作品紹介を堂々と発表できる。  
【役割認識力】：発表会の運営にかかわる役割を責任をもって果たす。  
【自己理解力】：夏休みの自己の頑張りを振り返り、2学期への意欲を高める。

4. 展開案

事前	<p>「夏休み作品発表会」を開くことを事前に知らせ、自分が発表したいことを考えさせておく。また、聞き手をひきつける発表の工夫を考えさせておく(小道具、実物の準備等)。 発表会にかかわる役割を事前に決めさせ、必要な準備をさせておく。 (司会、黒板係、開閉会の挨拶担当、発表補助スタッフ) 作品紹介カードを用意しておく。</p>		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	<p>1 教師の話聞き、発表会に向けた意欲をもつ。 2 各自発表の準備をする。 (1)作品紹介カードを書く (2)表現の仕方を工夫しながら、各自発表練習をする。 3 発表会のめあてと役割を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>「夏休み作品発表会」で、友達の作品のよいところをたくさんみつけよう。</p> </div>	作品紹介カード	<p>・発表会で頑張ること(自分の発表をしっかりとる、友達のよさを見つけ進んで発表する、係の子は役割をしっかりと果たす)を具体的に伝え、活動のめあてをもたせる。 【コミュニケーション・役割認識・自己理解】</p> <p>・「大きな声」「堂々とした態度」に気を付けさせる。また、その子なりの持ち味が発揮できるよう、発表や表現の仕方を工夫させる。 【コミュニケーション】</p>
本時	<p>4 担当の係(司会)の進行で、「夏休み作品発表会」を開く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【プログラム例】 はじめの言葉 学級委員挨拶 作品発表 感想発表 ・友達の発表のよかったところ ・自分が気に入った作品 先生から 終わりの言葉</p> </div>		<p>・会の進行、運営は係に委ね、役割をしっかりと果たさせる。 【役割認識】</p> <p>・工夫しながら表現している子、大きな声で堂々と発表している子など、望ましい姿勢を大いに評価し、そのよさを広める。 【コミュニケーション・自己理解】</p> <p>・友達のよさを進んで見つけさせる。互いの頑張り認め合う、温かな雰囲気大事にする。 【コミュニケーション・自己理解】</p> <p>・発表会の役割を適切に果たした係の働きを賞揚する。 【役割認識】</p>
まとめ	<p>5 作品発表会の感想を書く。 6 担任のまとめの話を聞く。</p>	ワークシート	<p>・夏休みの頑張りや成果を2学期につなげるよう話す。 【自己理解】</p>
事後	<p>作品紹介カードに教師からのコメントを書き添え、教室等に作品掲示をする。 発表会の様子を学級通信等で家庭に知らせる。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【図工】 いろいろな作品紹介で、自分の工夫したところや頑張ったことを発表できる。  
【学級活動】 2学期の生活に対する意欲をもち、具体的な目標を設定することができる。  
【日常活動】 「帰りの会」の場等で、友達のよさを見つけ、発表できる。

1. 題材名 「**教えて！あなたのこと・友達のこと**」  
〔2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成〕

2. 目 標

自分の好きなことやよさを考えたり、友達のよいところを見つけたりする活動をとおり、自他の存在を大切にしようとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
自分の好きなことや得意なこと、将来の夢等を考えさせ、自分自身を見つめさせるとともに、将来の生き方への関心を膨らませる。  
「よいところ見つけ」の活動を取り入れ、他者の目から自分自身のよさに気付かせるとともに、自他の存在を大切にしようとする気持ちや態度を育む。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：仲間作りゲームや友達のよさ見つけなどの活動に取り組み、他者との温かな関係を築くことができる。  
【自己理解力】：自分自身の好きなことや得意なこと、将来の夢を進んで表現できる。また、他者からの「よいところメッセージ」から、自分のよさに気付く。  
【将来設計力】：自分を大切にしようとする気持ちもち、将来の夢やこれからの生き方への関心を膨らませることができる。

4. 展開案

事前	事前に保護者に授業内容を知らせ、子どもたちのよさを手紙に書いていただくよう、依頼しておく。 担任からも、一人一人の子の「よいところメッセージ」を書いて準備しておく。			
本 時	課題把握	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 簡単な「仲間作りゲーム」を行い、学習の雰囲気作りをする。 ・「アドジャン」 ・「リズム手合わせ」 ・「ほめあいゲーム」 ・「肩もみ」</p> <p>2 教師の自己紹介クイズを解きながら本時の活動内容を知る。 おしえてみんなのこと！ ～「しょうかいカード」を作ろう！～</p>	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	課題追究	<p>3 「しょうかいカード」を書き、隣り同士見せ合い、他己紹介形式で発表し合う。</p> <p>4 「しょうかいカード」の内容(自分のよさ)と記入のための活動方法(よいところ見つけ)を知る。</p>	しょうかいカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者とのかわりが深められる活動を取り入れ、協力し合いながら活動しているペアを紹介する。友達のよさに目を向ける布石の活動とする。 【コミュニケーション】</li> <li>・カードの項目に沿って自由に記述させることで、自分自身について見つめさせたり、考えさせたりする場とする。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】</li> </ul>
		<p>5 「よいところ見つけ」の活動を行う。隣り同士で、メッセージカードを書き、交換し合う。班の中で交換し合う。</p> <p>6 教師や家の人書いた「メッセージカード」を読む。</p> <p>7 「しょうかいカード」を記入する。</p>	しょうかいカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者のよさに気付くことの価値を話し、活動の意義付けをする。周りの人から肯定的な評価を受けることへの気持ちよさを十分に感得させたい。 【自己理解・将来設計】</li> <li>・活動の様子を把握し、カードが書けない子には、助言を与える。 【コミュニケーション】</li> </ul>
		<p>8 本時の活動を振り返り、感想を書く。</p> <p>9 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。</p>	教師と家の人からのメッセージカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メッセージカードはじっくりと読ませ、自己肯定感をもたせる場にする。 【自己理解・将来設計】</li> <li>・誰にもよさがあり、互いを大事にし合うことの大切さを伝える。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】</li> </ul>
	まとめ		ワークシート	
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、これからの生活でも自分や友達を大事にした学校生活を送るよう励ます。 授業の様子を学級通信で伝え、家庭でもこれからの生活や将来の夢等の話題を提供していく。 「よいところ見つけ」の活動を帰りの会でも継続し、互いのよさを大事にしようとする態度を継続して指導する。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「ひろったビスケット」で、友達を大切にしようとする心情をもつ。

1. 題材名 「せいとん名人になろう」

〔2年 学級活動(2)基本的な生活習慣の形成〕

2. 目標

自分自身の生活を向上させようとする気持ちをもち、整理整頓に気をつけたくらししようとする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

身の回りのことは自分でやろうとする気持ちや態度を養う。

自分自身の生活を見つめさせ、よりよい自分をめざして努力しようとする気持ちや態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【自己理解力】：自分自身の生活を見つめ、問題点をとらえるとともに、問題を改善し、よりよい生活をめざそうとする気持ちをもつ。

【課題解決力】：整理整頓の仕方がわかる。また、日常生活で、整理整頓に気をつけたくらしをしようとする。

4. 展開案

事前	子どもたちの整理整頓に関する問題状況がわかる資料（写真・ビデオ・整理整頓点検表等）を準備しておく。 「せいりせいとんがんばりカード」を作成しておく。			
本時	課題把握	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 「整理整頓点検」の結果や問題のある写真等の資料から、整理整頓に関する問題状況をとらえる。</p> <p>2 本時の課題をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">せいりせいとん名人になる方法を考えよう。</div>	<p>資料等</p> <p>整理整頓点検結果</p> <p>乱れた教室や机の写真等</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な資料を提示し、気付いたことを発表させながら自分たちの生活の問題点を見つけさせ、課題設定する。 【自己理解】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 チェック表を使い、自分の身の回りを振り返り、整理整頓ができていないところ（問題点）を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ランドセルの中</li> <li>・机、ロッカーの中</li> <li>・家での自分の机</li> </ul> <p>4 整理整頓の乱れから生じる問題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すっきりしない気持ち</li> <li>・忘れ物 ・衛生面の問題</li> </ul> <p>5 自分や教室内の整理整頓を行い、きれいに片付けた後の気持ちを発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちがよい ・やる気が出る</li> </ul> <p>6 教師の話から、整理整頓のポイントを知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>（例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割をきちんと揃える</li> <li>・出したところに戻す</li> <li>・後でやらないで、すぐにやる！</li> </ul> </div> <p>7 これからの生活でがんばることや取り組むことを決め、「せいりせいとんがんばりカード」に書く。</p>	せいりせいとんがんばりカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チェック表には、不要なものが入っていないか、あるべき所にきちんとあるか、きれいに整頓されているか、の3点を中心に具体的に調べさせる。 【自己理解】</li> <li>・整理整頓の乱れは学習にも影響があること、将来社会に出ても困ることが多いこと等を補説し、問題意識を高めさせる。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・きれいに片付けた後の気持ちよさ大事にする。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・これからの生活でがんばりたいこと（取り組み）を決めさせ、カードに書かせる。カードは毎日点検できる様式にする。 【自己理解・課題解決】</li> </ul>
	まとめ	<p>8 本時の活動を振り返り、感想を発表する。</p> <p>9 担任の話から今後の取り組み方を確認し、実践化への意欲をもつ。</p>		
事後	授業の様子を学級通信で家庭に知らせる。家庭での整理整頓の取り組みのチェックを保護者に依頼する。 教室内の整理整頓について、係活動等で点検しながら、「決めたこと」の実践化を図る。 整理整頓の取り組み状況を教師も定期的に観察し、努力している子や改善が見られる点等を評価していく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【生活】 「できるようになったよ」の学習で、自分の成長したところをとらえる。

【学級活動】 学期はじめの目標作りや学期末の振り返りで、自分自身の生活を見直す。

1. 題材名 「なりたいな、なりたいな」

(2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の形成)

2. 目 標

自分の憧れの仕事を発表し合い、将来の夢や希望を膨らませることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

将来の自分の仕事を自由に考えさせたり、発表させたりすることとおし、夢や希望を膨らませながら自分自身の生き方への関心をもたせる。

集団の場でも自分の思いや考えを堂々と発表できる表現力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：自分の憧れの仕事を堂々と発表したり、友達の発表をしっかり聞いたりすることができる。

【自己理解力】：自分自身の将来の姿に関心もち、憧れの仕事を考えることができる。

【将来設計力】：自分の将来の夢や希望を膨らませることができる。

4. 展開案

事前	事前に授業の内容を知らせておき、自分の憧れの職業を考えておくように話しておく。 「心のノート」の「あなたのことをおしえてね」のページの1年生のときの記述を振り返らせたり、2年生になっての考えを書かせたりしておく。 担任が幼少の時の写真や絵、作文等の「自分の夢を語る」資料を準備しておく。			
		学習活動	資料等	
本 時	課題把握	1 担任の幼少のころの夢の話を読み、感想を発表し合う。	担任の幼少のころの作品や写真	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・担任の子どもころの様子や夢を紹介することで、明るく楽しい雰囲気を作るとともに、活動の意欲付けを図る。 【自己理解・将来設計】
		2 本時の活動内容を知る。 「なりたいな、なりたいな」 ～みんなのゆめ、大はっぴょう会を開こう～		
	課題追究	3 発表会の進め方を知る。 自分の夢や憧れの仕事を、絵と文で「なりたいなカード」に表現する。 一人一人、発表する。	なりたいなカード	・自由に自分の夢を思い描く時間であることを伝え、楽しい気分で活動に取り組みせるようにする。 【自己理解・将来設計】
		4 「なりたいなカード」を書く。		・ダイナミックな発想や楽しい表現を大いに認め、紹介していく。 【自己理解・将来設計】
	5 将来の夢や憧れの仕事を発表し合う。 【発表会のめあて】 笑顔で発表しよう！ みんなに聞こえる元気な声で発表しよう！ 友達の発表で、「すてきななあ」「いいなあ」と思ったことを見つけよう。 夢がかなうように、拍手と笑顔で応援しよう！	発表会のめあて	・発表する側、聞く側のめあてをしっかりと持ちこたせる。発表の前に、各自、練習の時間をとる。 【コミュニケーション】 ・友達の発表から「すてきななあ」と感じたことを発表させながら、お互いの夢や憧れを応援したり、尊重したりする気持ちをもたせる。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】	
まとめ	6 本時の活動を振り返り、感想を発表し合う。	ワークシート	・夢をもつことの楽しさ、夢に向かって頑張っていこうとする気持ち、互いを大事にした生活等について話す。 【自己理解・将来設計】	
	7 今後の学校生活や将来の夢についての担任の話を書く。	担任の話		
事後	子どもたちが書いた「なりたいな」作品集を教室に掲示し、お互いの夢を大切にしよう教室の環境を作る。 子どもたちの発表の様子をVTRで収録し、懇談会や学年末の振り返りの活動等で活用する。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【図工】 自分の将来の姿や夢を想像し、平面作品で表現する。

【道徳】 心のノート「あなたのことをおしえてね」(P9)で、自分を見つめ将来の夢を考える。

1. 題材名 「見つめてみよう、自分の仕事」  
〔2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・基本的な生活習慣の形成〕

2. 目 標

学級の中での自分の役割や仕事を見つめ、責任をもって仕事に取り組もうとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
学級内の集団生活における様々な役割を理解させる。  
学級内での自分の役割を責任をもって果たそうとする意欲や態度を育てる。また、集団のために役割を果たしたり、働いたりすることの喜びを味わわせる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【役割認識力】: 学級内の集団生活は、様々な役割の上に成り立っていることに気付く。  
【職業理解力】: 力一杯働いたり、みんなのために仕事をしたりすることの気持ちよさを感じる。  
【課題解決力】: 学級生活の向上や自分自身の成長を願う気持ちをもち、進んで仕事に取り組んだり、役割を果たしたりする。

4. 展開案

事前	生活科の「家族の仕事」の授業を行っておき、家族にはそれぞれ役割があり、様々な仕事を行っていることを押さえておく。 道徳の時間に「サバンナの子ども」を読み、家族のために働く喜びや大切さを考える学習をしておく。			
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
	課題把握	1 生活科の「家族の仕事」や道徳「サバンナの子ども」の授業を想起する。 ・ 家族の役割 ・ 家庭の中での仕事  2 本時は、学級の中での仕事について考える学習であることを知り、課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">学級の中の自分の仕事について考えよう。</div>	「家族の仕事」、「サバンナの子ども」の関連資料	・ 家族一人一人の役割や仕事の大切さを想起させる。また、家族の役に立って働いたときの気持ちのよさを具体的に紹介させる。  【役割認識・職業理解】  ・ 学級目標（「よく働くクラス」など）にかかわらず、本時がクラスの一層の成長を図るための時間であることを確認させる。  【役割認識・課題解決】
	課題追究	3 生活を見つめ、学級の中でどんな「仕事」の場面があるか出し合う。 ・ そうじ ・ 給食当番 ・ 日直の仕事 ・ 係の活動  4 それぞれの仕事の必要性や役割の大切さを確認する。  5 自分の仕事への取り組み態度をチェックカードで振り返り、問題点や改善点を考える。  6 「仕事パワーアップカード」に、これから頑張っていきたいことを書く。	仕事チェックカード  仕事パワーアップカード	・ どの仕事も学級生活のために大切な役割があることを押さえる。  【役割認識】  ・ チェック項目（仕事への取り組み方、活動の内容等）を具体的に設定し、客観的に自分の仕事を見つめ直させる。  【役割認識・課題解決】  ・ よりよい仕事ができるようにするためにはどうするか、建設的なアイデアも盛り込ませたい。パワーアップカードは、毎日の自己評価が可能な形式にする。  【役割認識・職業理解・課題解決】
	まとめ	7 本時の活動を振り返り、感想を発表する。 8 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。		
	事後	「仕事パワーアップカード」を基に、「仕事パワーアップ週間」を設定し、シールを用いた自己評価活動を行う。（めあてどおりの仕事ができたらシールを貼る） 「仕事パワーアップ週間」の取り組みを振り返り、互いの頑張りを評価し合う。一生懸命に働くことによって得られる充実感、満足感を味わわせる。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【生活】 「家族の仕事」で、家族のそれぞれの役割や仕事の様子を調べる。  
【道徳】 資料「かきかたのじかんのこと」を基に、勉強や仕事をしっかり行うことの大切さを考える。また、資料「サバンナの子ども」を読み、家の手伝いなど、家族の役に立つ喜びを知る。

1. 題材名 「ありがとうあつめをしよう」

〔2年 学級活動(2)望ましい人間関係の形成・希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

生活を支える多くの人々の優しさや努力に気付き、感謝の気持ちをもつとともに、自らも進んで役割を果たしたり、友達に親切にしようとしたりする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

身近な「ありがとうあつめ」の活動をとおり、他者への関心をもたせるとともに、集団生活は様々な人の役割や働きの上に成り立っていることに気付かせる。  
 集団生活における自らの役割を自覚させ、進んで役割を果たしたり、他者のために働こうとする気持ちを育む。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【コミュニケーション力】: 「ありがとうあつめ」で、他者の働きやよさを見つけ、感謝の気持ちを表現できる。
- 【役割認識力】: 学校や学級の生活は、多くの人の役割や働きで支えられていることに気付く。また、集団の中で自分の役割を自覚できる。
- 【職業理解力】: 役割を果たすことの充実感や働くことの気持ちよさを感じ、進んで仕事に取り組もうとする意欲をもつ。

4. 展開案

事前	「ありがとうあつめ」カードを印刷、準備しておく。(本時の活動以外にも日常的に使えるよう、多めに印刷する) 生活科の「家族の仕事」の学習で、自分の周りで働く人々の様子に関心を高めておく。 事前に本時の活動内容を知らせておき、他者への関心を高めておく。			
本時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 生活科「家族の仕事」の学習内容を想起する。 ・自分を支える家族の様子や働き</p> <p>2 学校の中での、自分の生活を支えている人々の存在に関心をもち、本時の学習課題を設定する。                  学校の中の「ありがとう」をたくさん見つけよう。</p>	<p>資料等</p> <p>「家族の仕事」で作成した作品や資料等</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <p>・自分を支える家族の役割や働きを想起させ、学校の中ではどのような「ありがとう」があるか問い、課題設定につなげる。                  【役割認識】</p>
	課題追究	<p>3 教師の説明を聞き、「ありがとうあつめ」の活動の仕方を知る。                  「ありがとうカード」を書く。                  【書くこと】                  ・相手の名前 ・したこと、見たこと                  ・自分の気持ち ・お礼の言葉                  ・自分の名前                  「ありがとうカード」を手渡す。                  始めに、隣の人、班のメンバー全員に書く。それ以降は順次、学級内、学級外へと活動を広げていく。</p> <p>4 「ありがとうカード」を書く。</p> <p>5 誰にどんな内容を書いたか、紹介し合う。</p> <p>6 「ありがとうカード」を交換したり、届けたりする。</p>	<p>ありがとうカード</p>	<p>・カードには、感謝の気持ちを伝えたい事実と、自分の考えや気持ちを表現させる。                  【コミュニケーション・役割認識】</p> <p>・活動の様子を把握し、カードが書けない子には、教師が具体例を挙げるなど助言を与える。                  【コミュニケーション】</p> <p>・カードに書いた内容を板書に表し、自分たちの生活は、たくさんの人の働きに支えられていることに気付かせる。                  【コミュニケーション・役割認識】</p>
	まとめ	<p>7 カードをもらったときの気持ちを発表し合う。</p> <p>8 これから自分がかんばっていききたいことをワークシートに書く。</p> <p>9 今後の学校生活に期待する担任の話を書く。本時の活動を振り返り、感想を書く。</p>	<p>ワークシート</p>	<p>・友達から感謝の気持ちを送られたときの気持ちよさを十分に引き出し、今後の活動意欲の喚起につなげる。                  【役割認識・職業理解】</p> <p>・どこの場でどのような仕事をがんばるか、具体的な活動の見通しをもたせる。                  【コミュニケーション・役割認識・職業理解】</p>
事後	ワークシートに教師からのコメントを記し、これからの生活でも自分の仕事を責任をもってやり遂げようとする気持ちをもたせたり、友達を大事にした学校生活を送るよう励ましたりする。 「ありがとう見つけ」の活動を帰りの会でも継続し、互いのよさを大事にしようとする態度を継続して指導する。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【生活】 「家族の仕事」で、自分の生活を支えるための家族の働きの様子や役割を調べる。
- 【児童会活動】 「6年生を送る会」で、これまでの6年生の働きを知り、6年生への感謝の気持ちを表現する。

1. 題材名 「おへそってなあに？」

〔2年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成・心身ともに健康で安全な生活態度の形成〕

2. 目 標

「おへそ」について調べることとおし、母子のつながりを感じ、命の尊さを知る。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

へそについて調べさせ、出生の頃の母子のつながりや両親の願いを知らせ、自らの命の尊さに気付かせる。  
 父母からインタビューしたり、養護教諭の話を通じて適切に聞き取ったりするなど、資料収集や情報活用力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【自己理解力】：自分自身の出生の頃の様子に関心を持ち、自らの命がたくさん人の愛情につつまれて誕生した、貴重なものであることを知る。
- 【将来設計力】：命の尊さを感じ、自分の将来の夢やこれからの生き方への関心を膨らませることができる。
- 【情報活用力】：インタビューで必要な情報を得たり、養護教諭の話や写真等の資料を適切に読み取ったりしながら、出生の頃の様子について調べることができる。

4. 展開案 (Team Teaching: T1 = 学級担任・T2 = 養護教諭)

事前	「へその緒」の実物を準備する。 保護者に授業の内容を知らせ、インタビューへの協力や資料提供等の依頼をしておく。 養護教諭との連携(T.Tでの授業)を図り、本時の授業プランの検討を協議しておく。 (本時の授業は、途中に家庭での調べ活動を入れ、前後半の2分割授業とする)		
本 時 課 題 追 究	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 へその緒の実物から、へそについて知っていることや不思議に感じていることを発表し合い、本時の活動内容についての興味や関心をもつ。	へその緒	・実物資料を見せ、感じたことや知っていることを自由に発表させながら、へそについての疑問をもたせ、学習の方向付けを図る。  【情報活用】
	2 本時の学習課題を立てる。 おへそはどうしてあるのだろう。		
	3 へそがあるわけを考え、自由に発表し合う。	ワークシート	・課題について、自分なりの考え(予想)をもたせ、発表させる。  【情報活用】
	4 「おへその疑問」を家庭でのインタビューで解決してくることを知る。	インタビューシート	・何を、どのようにインタビューするか、シートを基に具体的な計画を立てさせる。  【自己理解・将来設計・情報活用】
	【家庭でのインタビュー活動】 ・自分のへその緒を見せてもらう ・へその緒が何か聞く ・へその役割を聞く ・生まれた頃の様子やエピソードを聞く	インタビューシート	・保護者にも活動内容を知らせ、協力を依頼しておく。誕生の頃の様子やエピソード等も話していただき、子どもを思う親の愛情を語っていただく項も設ける。  【自己理解・将来設計・情報活用】
	5 家庭でのインタビューでわかったことを発表し合う。	インタビューシート	【自己理解・将来設計・情報活用】
	6 T2の話からへその役割を知る。	絵図、写真等	・なぜ、へその緒を大事にとっているのか考えさせ、命の尊さに気付かせる。  【自己理解・将来設計】
まとめ			・誰の命もこの世に一つだけの貴重なものであること、たくさんの愛情につつまれて誕生したものであること等を伝え、自らの命や人生を大切に生きようとする心を育む話をする。  【自己理解・将来設計】
事後	家庭でのインタビューや授業の様子を、相互に情報交換し合い、学級通信等で知らせる。家庭でも、命の尊さについて話題にさせていただく。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【道徳】 資料「ぴよちゃんとひまわり」を基に、一つの世代から次の世代へと生命が受けつがれていることに気付き、生命の大切さについて深く考える。
- 【生活】 生命を大切にしようとする気持ちを持ち、植物や生き物のお世話をする。

# (3) 第3学年学級活動指導計画

## 第3学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力							指導案・関連計画掲載ページ
				自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力	
4月	3年生になって	(2)	進級の喜びを感じ、新しい学校生活に向けた期待を膨らませることができる。								24
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級像を話し合い、その実現に向け、学級目標を決めることができる。								42
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。								52
5月	みんなと仲良しになろう	(1)	誰とでも仲良くできるクラスを作るための取組を考え、話し合うことができる。								25
	運動会のめあてを決めよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								72
	気持ちのよい言葉づかい	(2)	言葉づかいと気持ちの関係を考え、正しい言葉づかいをしようとする。								26
6月	運動会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、運動会の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。								72
	歯をきれいにみがこう	(2)	正しい歯磨きの仕方を知り、学んだことを実生活に進んで生かそうとする。								54
	ろうか歩行を見直そう	(1)	廊下歩行の現状を振り返り、安全な廊下歩行の仕方を考え、実践しようとする。								
	係活動をもりあげよう	(1)	係活動の現状を振り返り、学級生活を充実化する活動内容を企画し、実践できる。								47
7月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	夏休みの計画を立てよう	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								56
8月	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもち。								57
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
9月	そうじを見直そう	(1)	日常の清掃活動を振り返り、よりよいそうじの在り方を考え、実践しようとする。								36/53
	学習発表会を成功させよう	(1)	学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								76
	食事の大切さを知ろう	(2)	食事の大切さを知り、3食をきちんと摂ろうとする意欲と健康への関心をもつ。								27
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。								76
	家庭学習をがんばろう	(2)	家庭学習の意義を知り、より充実した家庭学習の在り方を考え、実践しようとする。								61
	目を大切にしよう	(2)	目の健康を保持する生活の仕方を知り、実践化への意欲をもち。								48
11月	スポーツ大会をしよう	(1)	学級生活の向上を願い、スポーツ大会を企画したり、運営したりすることができる。								28
	進んで読書しよう	(2)	自分の読書生活を振り返り、充実した読書の仕方を考え、実践しようとする。								62
	かぜとインフルエンザ（換気）	(2)	換気の大切さを知り、実践しようとする。								
12月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	冬休みの計画を立てよう	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								63
1月	3学期のめあてを立てよう	(2)	2学期や冬休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、3学期の学校生活への意欲をもち。								57
	先生方の仕事調べに挑戦！	(2)	学校生活を支えるために、多くの人たちがいろいろな仕事を行っていることに気付く。								29
2月	6年生を送る会を成功させよう	(1)	6年生への感謝の気持ちをもち、会を成功させるための取組について話し合うことができる。								12
	男女の協力	(2)	男女の特性を生かして協力し合うことの大切さを知り、互いを大事にしようとする。								30
	感謝の気持ちでそうじしよう	(1)	校舎への感謝の気持ちの表現として、よりよいそうじの仕方を考えることができる。								36/53
3月	もうすぐ4年生	(1)	一年間の成長を振り返りながら、新しい生活に向けた期待と目標をもつ。								13
	春休みの過ごし方	(2)	新しい学期を迎える上での春休みの意義を知り、規則正しい生活を送ろうとする気持ちをもつ。								

## 第3学年学級活動指導展開例

1. 題材名 「3年生になって」  
〔3年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目標

進級の喜びを感じ、新しい学校生活に向けた期待を膨らませるとともに、1年間の目標をもつことができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

進級の喜びを実感させるとともに、1年間の学校生活への期待や意欲を膨らませる。  
各自に具体的な目標をもたせ、その達成方法を考えさせる。

### 進路発達にかかわる諸能力

【課題解決力】：新学年の目標を決め、その実現のための具体的な取り組みを考え、実践意欲をもつ。  
【意思決定力】：新しい学年への期待を高め、1年間の目標を立てることができる。

4. 展開案

事前	<p>始業式当日の黒板に、新しい学年に期待する担任からのメッセージを記し、子どもたちの意欲を高める環境作りを行っておく。 新学年のスタートの一日は、1年間の目標を決める大切な日であることを伝え、目的意識をもたせて、始業式に臨ませる。(始業式でどんな話があったか、自分はどんな気持ちになったか、教室に戻ってから言えるように指示しておく)</p>			
本時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 始業式での校長先生の話振り返る。 ・どんなお話だったか ・話を聞いて、自分はどんな気持ちをもったか</p> <p>2 新学年に期待する担任の話聞き、本時の活動内容を知る。 ・3年生の概要(低学年との違い) ・充実した一年、たくさんの成長が得られる一年に ・目標をもって生活することの大切さ りっぱな3年生になるために、自分の目標をしっかりと決めよう。</p>	資料等 始業式の校長先生の話	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>式での話の内容を自分の言葉で表現させることにより、学年が一つ進級したことへの喜びと自覚を実感させる。 【意思決定】</li> <li>低学年とは異なる新しい学習や新しい役割が始まること、努力次第で大きな成長が得られること等を伝え、新学年への期待感と意欲を膨らませる。 【意思決定】</li> <li>目標をもって日々の生活を送ることの大切さを話し、課題設定につなげる。 【課題解決・意思決定】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 3年生の決意を作文に書く。 ・どのような一年にしたいか ・どんな自分になりたいか ・がんばりたいこと</p> <p>4 一年間の目標と、その実現のために取り組みたいことを「決意カード」に書く。</p> <p>5 各自の決意を発表し合う。</p>	作文用紙 決意カード	<ul style="list-style-type: none"> <li>新学年への期待、なりたい自分のイメージ化、具体的な目標設定等を作文で表現させる。 【課題解決・意思決定】</li> <li>決意カードには、目標実現のための具体的な取り組みも書かせる。子どもたちの記述状況を把握し、一年間の目標にふさわしいものになるよう対話したり、助言したりする。 【課題解決・意思決定】</li> </ul>
	まとめ	<p>6 本時の学習を振り返り、感想を発表し合う。</p> <p>7 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人、全体の場で決意を宣言させることで、互いの目標を認め合わせ、学級全員で一年間をがんばっていかうとする気持ちを高める。 【課題解決・意思決定】</li> </ul>
	事後	<p>各自の決意カードを教室に掲示し、常に目標を意識した生活を心がけさせる。 決意カードは、シール等で日々の具体的なチェック(自己評価)ができるようにする。 各自の決意を学級通信で家庭にも知らせ、目標の実践化を促す。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「好きなことだから」を読み、自分でやろうと決めたことは、粘り強く最後までやり遂げようとする気持ちをもつ。  
【国語】 進級の喜びを感じながら、とびらの詩「わかば」を読む。

1. 題材名 「みんなと仲良しになろう」  
 (3年 学級活動(1)学級や学校の生活の充実と向上に関すること)
2. 目 標

誰とでも仲良くできるクラスを作るための取り組みを考え、話し合うことができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 自己の考えをしっかりと表現できる力を養い、目的に応じた話し合いができるようにする。  
 集団の一員としての自覚を高め、よりよい学級生活を願う気持ちをもたせるとともに、生活を向上させるための取り組みを構想する力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【コミュニケーション力】**: 誰とでも仲良くできるクラスの実現を願い、自分の考えを進んで発表することができる。  
**【課題解決力】**: みんなと仲良くできる遊び方を考え、意見を出すことができる。  
**【意思決定力】**: みんなと仲良くしようとする願いをもち、話し合ったことを実践しようとする意欲をもつ。  
**【役割認識力】**: 学級会の進行に関する各係の仕事を着実に果たすことができる。

4. 展開案

事前	遊びや友達関係について、子どもたちが問題意識をもてるようVTRを撮影したり、遊びの様子や友達関係等についてのアンケートを実施したりして、資料を準備しておく。 アンケートの質問項目(例) ・学級目標「みんななかよく」ができていないか ・休み時間が楽しいか ・休み時間に遊ぶ友達が決まっているか ・よいところを言える友達がクラスに何人いるか 係担当の子どもたちには、話し合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話し合いカード」を学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「今の学級の遊びにはどんな問題があるか」「みんながもっと仲良くなるために、どんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりと持たせておく。			
話し合い活動(本時)	<b>話し合いの順序</b> 1 はじめの言葉 2 係の紹介 3 議題の確認 もっとみんながなかよになれる遊び方を考えよう。 4 先生から 業間休みの様子(VTR) 遊びや友達に関するアンケート 5 話し合い 今の遊びには、どんな問題があるか もっとみんなが仲良くなれる遊び方 6 まとめ 7 先生から 8 終わりの言葉	<b>児童の活動</b> ・係が開会宣言をする。 ・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。 ・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。 ・担任の話やVTR、アンケート結果などから、現状の遊びの問題点を考える。 ・学級目標を振り返り、「もっとみんなが仲良くなる」「もっと楽しいクラスをつくる」ための話し合いであることに気付く。 ・話し合いの柱に沿い、遊びについて話し合う。 ・みんなで遊ぶ日や遊ぶ内容、遊び方などを話し合わせる。 ・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。 ・本時の話し合いについて担任の話を聞く。 ・係が開会宣言をする	<b>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</b> ・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】 ・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・意思決定】 ・VTRやアンケート結果などの資料を基に、現状の問題点(友達が固定化している、「誰とでも仲良く」ができていない等)に気付かせ、話し合いの目的を明確にさせる。 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】 ・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】 ・学級会の各係の取り組み態度や話し合いの内容の評価、決まったことの実践を促す意欲付け等を観点に話す。 【役割認識・課題解決・意思決定】	資料等 話し合いカード 遊びの様子(VTR) アンケート結果 学級目標 話し合いカード
事後	決定事項を実践させる。帰りの会、学級会等の場で、取り組み状況を振り返らせる。子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【日常活動】** みんなで決めた遊び方を実践する。  
**【道徳】** 資料「フラフープを下ろそう」を読み、みんなで協力し合って楽しい学級をつくらうとする心をもつ。  
**【国語】** 詩「わたしと小鳥とすずと」を読み、誰にでもよさがあり、みんなを大切にしようとする気持ちをもつ。

# 1. 題材名 「気持ちのよい言葉づかい」

〔3年 学級活動(2)望ましい人間関係の育成〕

## 2. 目標

日常生活を振り返りながら、言葉づかいと気持ちとの関係を考え、言葉づかいを大事にした生活を送ろうとする気持ちをもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

言葉づかいが人間関係に与える影響の大きさに気付かせ、適切な言葉づかいをしようとする態度を養う。

思いやりの気持ちをもって他者に接しようとする態度を培い、よりよい人間関係の構築を図る。

### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】：言葉づかいによって温かな気持ちになったり、気分を害したりすることに気付き、言葉づかいが人間関係に与える影響について知る。

【課題解決力】：自分やクラスの言葉づかいに関する問題点に気付き、主体的に問題の改善に取り組み、よりよい言葉づかいをしようとする。

【意思決定力】：言葉づかいの問題点について考える話し合いに積極的に取り組み、よりよい言葉づかいをしようとする気持ちをもつ。

## 4. 展開案

事前	学級内の言語環境についての実態を把握し、よい言葉づかい、悪い言葉づかい双方の具体例を記録しておく。 自分やクラスの言葉づかいについてのアンケート調査を行い資料化しておく。			
	アンケートの質問項目(例) ・自分は正しい言葉づかいができていないか ・クラスの良い言葉づかいに問題はないか ・うれしい気持ち、元気な気持ちになる言葉 ・嫌な気持ちになる言葉			
本時	課題把握	学習活動 1 言葉づかいについてのアンケート結果(学級内の言葉づかいの問題の有無)を見て、気付いたことを話し合う。 ・問題があると感じている人が多い 2 本時の学習課題を立てる。 クラスの言葉づかいには、どんな問題があるか考えよう。	資料等 言葉づかいのアンケート結果	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・事前に実施したアンケートの結果を読み取らせ、言葉づかいに問題があることに気付かせ、課題設定につなげる。 【課題解決】 ・よりよいクラスに近づけるための時間であることを補説する。 【課題解決】
	課題追究	3 クラスでの言葉づかいで、どんな問題があるか話し合う。 ・呼び捨て ・乱暴な言葉 ・嫌な気持ちになる言葉		・自分たちの生活の様子を振り返らせながら、他人の言葉によって生じた自分の気持ちを具体的に発表させる。 【コミュニケーション・課題解決】 ・具体的な事例を板書で整理しながら、言葉によって、気持ちや人間関係に大きな影響が生じることに気付かせる。社会に出て、言葉づかいがとても大切になることを教師が補説する。 【コミュニケーション・課題解決】
		4 嫌な気持ちになる言葉、元気づけられたり、うれしい気持ちになったりする言葉、双方の例を出し合う。		・自分自身の言葉づかいについて振り返らせ、改善の視点を明らかにする。 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】
	まとめ	5 これからの生活で、改善したい言葉づかいについて話し合う。 ・呼び捨てをやめる ・気持ちが温かくなる言葉を使う ・相手の気持ちを考えて話す 6 言葉をテーマにした標語作りをして、作品を発表し合う。	標語用紙	・標語づくりをとおり、言葉づかいへの関心をもたせる。 【コミュニケーション・課題解決・意思決定】
事後	7 本時の学習を振り返り、考えたことや今後の生活で心がけていきたいことをワークシートに書き、発表し合う。	ワークシート		
子どもたちが作った標語作品を教室に掲示する。また、学級通信で授業の内容を知らせ、よりよい言語環境を作っていくよう啓蒙する。 帰りの会等で、友達から元気づけられた言葉等を紹介するコーナーを設ける。				

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「しつれいおばさん」を基に、相手を思いやる気持ちや礼儀の大切さを知る。

# 1. 題材名 「食事の大切さを知らう」

(3年 学級活動(2)健康で安全な生活態度の形成・学校給食と望ましい食習慣の形成)

## 2. 目標

食事の大切さを知り、3食をきちんと摂ることができるようにするとともに、自己の健康への関心をもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 充実した生活を送るために3食のバランスよい摂取が大切であることに気付かせるとともに、自己の健康への意識を高めさせる。  
 食事に関する諸資料を適切に読み取ったり、養護教諭の話の要点をとらえたりするなどの、情報活用の力を培う。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【情報活用力】**: 食事に関する諸資料から問題点を見つけたり、養護教諭の話から食事の大切さをとらえたりすることができる。  
**【課題解決力】**: 自らの健康に対する関心を高め、食事の大切さを知り、3食をきちんと摂ろうとする気持ちをもつ。

## 4. 展開案 (Team Teaching: T1 = 学級担任・T2 = 栄養士)

事前	食事に関する実態調査の結果をまとめ、グラフ化しておく。 校長先生に食事についての話をさせていただきよう、依頼しておく。 栄養士との連携(T.Tでの授業)を図り、本時の授業プランの検討を協議しておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	課題把握 1 食事に関する実態調査の結果を見て、気付いたことを話し合う。 ・朝食の欠食がある ・好き嫌いがある 2 校長先生の話(「必ず朝食を摂る」)を想起しながら、本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分の食事の仕方を見直そう。</div>	食事に関するアンケート結果	・アンケート結果から、食事に関する問題点があることに気付かせる。 【情報活用・課題解決】  ・食事に関する校長先生の話から、「なぜそれほど朝食が大切なのか」問い、課題設定につなげる。 【課題解決】
	課題追究 3 なぜ朝食が大切か、理由を考える。 4 資料から朝食の大切さや欠食することの問題点に気付く。 (1) T2の話(資料)から、栄養面から学習や生活リズムに与える朝食の影響を知る。 (2) 問題行動発生と朝食の摂取状況の因果関係の資料から、朝食を欠く危険性(精神面の影響)に気付く。 5 自分の食生活や生活リズムを見直し、改善点を考える。 ・睡眠、起床時間 ・ゲーム、テレビ等の時間	ワークシート  朝食の影響に関する資料(写真、グラフ等)	・自分なりの考えをしっかりとらせることで、食事に対する問題意識を高める。 【課題解決】  ・諸資料から、朝食の大切さを具体的に読み取らせる。充実した学校生活や豊かな将来の実現のためにも、毎日の食事が大切であることを実感させる。 【情報活用・課題解決】  ・食生活の乱れは、生活全般の問題とかかわっていることを知らせ、自分の生活態度を振り返らせながら問題点を考えさせるようにする。 【課題解決】
	まとめ 6 本時の学習でわかったことや、これからの生活で気をつけていきたいことをワークシートに書き、発表し合う。 7 T1、T2の話から、自らの豊かな学校生活や将来のために、しっかりと生活を送ろうとする気持ちをもつ。	ワークシート	・自分の健康を守り、豊かな人生を送ることができるよう、食生活に気をつけたくらしを送るよう促す。 【課題解決】
事後	食事に関する資料や授業の内容等を家庭に知らせ、家庭内での食生活にも気を配らせ、学習事項の実践化を図る。 給食係等の活動で、毎日の給食を好き嫌い無く食べる広報活動(ポスター作りや呼びかけ等)に取り組ませる。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【日常生活】** 給食を好き嫌い無く、残さず食べる。

1. 題材名 「スポーツ大会をしよう」  
〔3年 学級活動(1)学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目 標

学級生活の向上を願いながら、スポーツ大会を企画したり、運営したりすることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

自分の考えをもち、適切に表現できる力を培う場とする。また、学級生活の向上という目的に応じた話合いができるようにする。  
スポーツ大会の企画や運営にかかわる話合いをとoshi、様々な役割の大切さやルール必要性に気付かせる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：話合いの目的を理解しながら、自分の考えを進んで表現できる。  
【役割認識力】：スポーツ大会の成功のために、様々な役割が必要なことやルールが大切であることなどに気付くことができる。

4. 展開案

事前	話合いの内容を事前に知らせ、計画委員会を中心に原案を立てさせておく。 係担当の子どもたちには、話合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「なぜスポーツ大会を行うのか(目的)」、そのために「どんなこと(内容)」を「どのように行うか(方法・分担)」、自分の考えをしっかりとらせておく。			
話し合い活動(本時)	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声がけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード
	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・役割認識】	
	3 議題の確認 「スポーツ大会」の計画を立てよう。	・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。	・学級目標に着目させ、クラスのまとまりをさらに強め、よりよい学級にするための話し合いであることを知らせる。 【コミュニケーション】	学級目標
	4 先生から スポーツ大会を行うことの意義	・担任の話聞き、学級のこれまでの歩みや成長点を振り返り、スポーツ大会の意義を確認する。	・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話し合いをさせたい。常に「スポーツ大会の目的」に沿わせながら考えさせるよう導く。 【コミュニケーション・役割認識】	振り返りカード
	5 話し合い 「スポーツ大会」の目的 どんなことを行うか(内容) ルール 準備、役割分担	・話し合いの柱に沿い、お楽しみ会の計画を立てる。 なぜ行うのか どんな内容がよいか ルールやきまり 必要な準備や役割	・スポーツ大会を成立させるために必要な係や約束等を考えさせたり、ものごとを企画したりする力を育てる。 【役割認識】	
	6 まとめ	・話し合いによって決まったことを確認する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話す。 【コミュニケーション・役割認識】	
	7 先生から	・本時の話し合いについて担任の話聞き。		
8 終わりの言葉	・係が閉会宣言をする			
事後	話し合いでの決定事項に基づき、スポーツ大会に向けた準備に取り組ませる。各係や役割の取り組み状況を把握し、賞揚したり、助言を与えたりしながら子どもたちの自主的な活動を支援していく。 スポーツ大会の成功に向けた各係の取り組みの様子を帰りの会、通信等で知らせ、全員でスポーツ大会を成功させようとする意欲を高めていく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「なかよしポスト」を基に、先生や友達に親しみ、よりよい学級を作っていこうとする心情をもつ。

# 1. 題材名 「先生方の仕事調べに挑戦」

(3年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)

## 2. 目 標

多くの人たちの仕事の上に学校生活が成り立っていることに気付き、学校生活を支える人々への感謝の気持ちをもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 自分たちの学校生活は多くの人たちの仕事で支えられていることに気付かせ、役割の大切さをとらえさせたり、働く人々への感謝の気持ちをもたせたりする。  
 「先生方の仕事調べ」を行い、働く人の姿に直接触れ合う場を設けるとともに、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
 【コミュニケーション力】：礼儀ある態度で挨拶したり、インタビュー活動に取り組んだりする。  
 【役割認識力】：学校生活は、多くの先生方の仕事の上に成り立っていることに気付く。  
 【職業理解力】：働く人の姿から、仕事の喜びや役割を考えたりする。  
 【情報活用力】：インタビュー活動で、必要な情報を得ることができる。

## 4. 展開案

事前	事前に校内の先生方に学習内容を知らせ、インタビュー活動への協力を依頼しておく。 効率よくインタビュー活動ができるよう、ワークシートやグループ分け等の準備を行っておく。		
本 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	課題把握	職員の写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生方の仕事の様子について、知っていることを発表させながら、先生方の仕事の多様性に気付かせ、本時の学習への意欲付けと方向付けを図る。 【職業理解】</li> <li>本時は、担任外の先生について調べさせる。「インタビューシート」を用い、約束事や方法を具体的に指導し、グループ毎に役割を分担させたり、インタビューの練習をさせる。 【情報活用・コミュニケーション】</li> </ul>
	課題追究	インタビューシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の様子を観察し、適宜指導したり、賞揚したりする。 【情報活用・コミュニケーション】</li> <li>どの先生の仕事も、自分たちの学校生活を支える大事なものであることに気付かせる。 【役割認識・職業理解】</li> <li>「充実した学校生活を送ってほしい」という先生方の願いに気付かせるとともに、自分自身の学校生活に向かう気持ちを振り返らせる。 【役割認識・コミュニケーション】</li> </ul>
	まとめ	調査用紙	
		先生方の願い (VTR)	
		ワークシート	
		担任の話	
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、充実した学校生活を送ろうとする意欲を高める。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【総合的な学習の時間】 「湯口のお店屋さん今昔」で、インタビューや電話のかけ方の練習をする。  
 【日常活動】 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持をもち、毎日の学習や清掃活動や係活動に取り組む。

1. 題材名 「男女の協力」  
〔3年 学級活動(2)望ましい人間関係の育成〕

2. 目標

男女それぞれの特性を生かして協力し合うことの大切さを知り、お互いを大事にした生活を送ろうとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
男女の特性を考えさせるために、家庭や社会での男女(父母)の仕事の様子を観察させ、働く人の姿に触れさせる機会とする。  
男女相互のよさや役割の違い、協力することの大切さなどに気付かせ、互いを大事にした生活を送ろうとする気持ちを育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】: 男女それぞれのよさを認め合い、みんなと仲良く接しようとする気持ちをもつ。  
【役割認識力】: 男女、それぞれによさや役割があり、互いの協力が大切であることに気付く。  
【職業理解力】: 家庭内で働く父母の様子やいろいろな職場での働く人々の様子に関心をもつ。

4. 展開案

事前	<p>事前に本時の活動内容を知らせ、家庭や社会での男女(父母)の仕事の様子を観察させておく。 (事前に調べてくること)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での、男女(お父さん、お母さん)の仕事の内容</li> <li>・いろいろな仕事での男女の働き、男の人が多く働いている仕事、女の人が多く働いている仕事</li> </ul> <p>クラス内の男女間の関係(男女間のトラブルの有無やグループ化、協力の具合等)を把握しておく。</p>		
本時	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 クラス内の男子、女子、双方の印象や、男女間の協力や関係等について話し合いながら、本時の課題をとらえる。 ・仲違いした例 等</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">男女のちがいやそれぞれのよいところを見つけよう。</div> <p>3 男女の違いについて話し合う。 ・身体的な違い ・性格的な違い ・役割の違い 等</p> <p>4 家庭や地域で観察してきたことを基に、男女の仕事の様子を発表し合う。 (1)家庭でのお父さん、お母さんの仕事 (2)地域で見つけた仕事の様子</p> <p>5 観察した男女の仕事の様子から、それぞれのよさや役割について考える。</p> <p>6 学級の中での男女の役割や、これから頑張っていきたいことを話し合う。</p>	<p>資料等</p> <p>事前観察シート</p> <p>ワークシート</p> <p>担任の話</p>	<p style="text-align: center;">進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男女それぞれについて感じていることを、和やかな雰囲気の中で自由に話させながら、学習の方向付けをする。 【コミュニケーション】</li> <li>・身体的な違いについては簡単に扱い、役割や仕事の違い等に注目した発言を取り上げ、広げていく。 【コミュニケーション・役割認識】</li> <li>・子どもたちが観察した結果を板書で男女別に整理する。それぞれの仕事を比べさせながら、大体的特徴をとらえさせたい。仕事や役割は、男女で明確に限定されるものではないことに留意する。 【コミュニケーション・役割認識・職業理解】</li> <li>・家庭や社会の中での役割には違いがあり、どれも大切であること、互いの協力の上に成り立っていることを子どもたちなりに感じ取らせる。 【コミュニケーション・役割認識・職業理解】</li> <li>・本時の学習を学級や家庭での生活に生かすよう、目標をもたせる。 【コミュニケーション・役割認識】</li> </ul>
まとめ	<p>7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。</p> <p>8 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。</p>		
事後	<p>感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、みんなと協力し合いながら楽しい学校生活を送ろうとする意欲を高める。 帰りの会等で互いのよいところを発表し合わせたり、男女で協力してものごとに取り組んだ例を紹介したりする。 授業の内容を学級通信等で家庭に知らせる。今後も、家庭での家族の仕事に着目させ、自分も家族の一員としての役割を果たそうとする気持ちをもたせる。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「大きなテーブル」を基に、家族の一員として明るく楽しい家庭を作ろうとする気持ちをもつ。

# (4) 第4学年学級活動指導計画

## 第4学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力							指導案・関連計画掲載ページ
				コミュニケーション能力	自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	
4月	4年生の自覚	(2)	進級の喜びを感じ、新しい学校生活に向けた期待を膨らませることができる。								24
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級像を話し合い、その実現に向け、学級目標を決めることができる。								42
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。								52
5月	くらしの約束を見直そう	(1)	生活の様子を振り返り、きまりの大切さを感じながら、よりよい生活を送ろうとする。								
	運動会を成功させよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								72
	体の清潔について考えよう	(2)	体の清潔と健康とのかかわりを調べ、体を清潔に保つ方法を実践できる。								
6月	運動会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、運動会の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。								72
	虫歯を予防しよう	(2)	虫歯を予防するための生活や歯磨きの仕方を知り、実践化への意欲をもつ。								54
7月	お楽しみ会を計画しよう	(1)	学級生活の向上を願い、お楽しみ会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	お楽しみ会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	夏休みの計画を立てよう	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								56
8月	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。								57
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
9月	何でも自慢大会を開こう	(2)	得意なことを紹介し合い、自他の個性の違いや互いのよさを理解し、よりよい人間関係を築く。								34
	地域の働く人から学ぼう	(2)	地域の様々な仕事に取り組む人たちの話を聞き、働くことの意義や大切さを考える。								35
	学習発表会を成功させよう	(1)	小学校最後の学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								76
	バランスのとれた食事をしよう	(2)	適切な食生活の在り方を調べ、バランスよく食事しようとする意欲をもつ。								27
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。								76
	市内音楽発表会を成功させよう	(1)	学校代表としての意欲をもち、発表会を成功させるための取組を考えることができる。								
11月	そうじの仕方を見直そう	(1)	そうじの意義や役割を果たすことの大切さに気付き、進んで仕事に取り組もうとする。								36
	読書の輪を広げよう	(2)	好きな本を紹介し合いながら、読書の楽しみを共有し合い、読書への一層の意欲をもつ。								62
	忘れ物を無くそう	(2)	忘れ物の問題点と原因を話し合い、忘れ物を無くす方法を考え、実践できる。								37
12月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	冬休みの計画を立てよう	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								63
1月	3学期のめあてを立てよう	(2)	2学期や冬休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、3学期の学校生活への意欲をもつ。								57
	1/2成人式をしよう	(2)	これまでの自分の成長の過程をとらえるとともに、今後の人生への希望を膨らませる。								38
2月	6年生を送る会を成功させよう	(1)	6年生への感謝の気持ちをもち、会を成功させるための取り組みについて話し合うことができる。								12
	命のつながり	(2)	様々な人々とのかかわりや愛育の中で命が育まれてきたことを知り、命を大事にする気持ちをもつ。								39
	わたしのよいところ	(2)	自分自身のよさについて考えることをとおし、自己理解を深め、興味や関心をさらに広げようとする。								55
3月	もうすぐ5年生	(1)	一年間の成長を振り返りながら、新しい生活に向けた期待と目標をもつ。								13
	春休みの過ごし方	(2)	新しい学期を迎える上での春休みの意義を知り、規則正しい生活を送ろうとする気持ちをもつ。								

# 第4学年学級活動指導展開例

1. 題材名 「お楽しみ会を計画しよう」  
〔4年 学級活動(1)：学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目標

学級生活の向上を願いながら、お楽しみ会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
「お楽しみ会」のめあてや内容、役割等を話し合わせることをとおし、集会を企画したり、行事を運営したりする力を育てる。  
集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話合い活動に主体的に取り組む。  
【役割認識力】：集会を成功させるために必要な役割を考えることができる。

4. 展開案

事前	話合いの内容を事前に知らせ、計画委員会を中心に原案を立てさせておく。 4月からこれまでの学級の歩みや成長がわかる掲示や資料を準備しておく。 係担当の子どもたちには、話合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかり行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「なぜお楽しみ会をやるのか(目的)」、そのために「どんなこと(内容)」を「どのように行うか(方法・分担)」、自分の考えをしっかりと持たせておく。			
話合い活動(本時)	<p style="text-align: center;"><b>話合いの順序</b></p> <p>1 はじめの言葉</p> <p>2 係の紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「学級お楽しみ会」の計画を立てよう。</div> <p>4 先生からこれまでのクラスの成長点と集会を行うことの意義</p> <p>5 話合い「お楽しみ会」の目的 どんなことを行うか(内容) 役割の分担</p> <p>6 まとめ</p> <p>7 先生から</p> <p>8 終わりの言葉</p>	<p style="text-align: center;"><b>児童の活動</b></p> <p>・係が開会宣言をする。</p> <p>・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。</p> <p>・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。</p> <p>・担任の話を聞き、学級のこれまでの歩みや成長点を振り返り、集会の意義を確認する。</p> <p>・話合いの柱に沿い、お楽しみ会の計画を立てる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 なぜ行うのか                  どんな内容がよいか                  必要な準備や役割             </div> <p>・話合いによって決まったことを確認する。</p> <p>・本時の活動の振り返りをカードに書く。</p> <p>・本時の話合いについて担任の話を聞く。</p> <p>・係が開会宣言をする</p>	<p style="text-align: center;"><b>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</b></p> <p>・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】</p> <p>・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話合いに参加させる。 【コミュニケーション・役割認識】</p> <p>・教室内の掲示資料やビデオ、クラスの歩みについてのアンケート等を資料として提示し、クラスへの所属感を高め、集会の意義を確認させる。 【コミュニケーション】</p> <p>・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話合いをさせたい。常に「集会の目的」に沿わせながら考えさせるよう導く。 【コミュニケーション・役割認識】</p> <p>・全員で集会を作り上げていくという方向性を大事にし、それぞれの役割に対する責任感をもたせる。 【役割認識】</p> <p>・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話す。 【コミュニケーション・役割認識】</p>	資料等
事後	話合いでの決定事項に基づき、集会に向けた準備に取り組みさせる。各係や役割の取り組み状況を把握し、賞揚したり、助言を与えたりしながら子どもたちの自主的な活動を支援していく。 集会の成功に向けた各係の取り組みの様子を帰りの会、通信等で知らせ、全員で集会を成功させようとする意欲を高めていく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「いじめられて」を読み、友情や信頼について考えさせ、よりよい学級作りをめざそうとする気持ちをもたせる。

# 1. 題材名 「学級お楽しみ会をしよう」

〔4年 学級活動(1)：学級や学校の生活の向上に関すること〕

## 2. 目 標

集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

前時の話合いで決めた役割を実行させることで、役割を果たすことの意義や満足感を味わわせる。友達のよさに気付かせたり、よりよい人間関係を築かせたりする場とする。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】：目的意識をもって集会に参加し、級友との触れ合いを深めたり、友達のよさに気付いたりする。また、集会の感想を自分の言葉で表現できる。
- 【役割認識力】：自分の役割を着実に果たすとともに、責任を果たすことの大切さや充実感を感じることができる。

## 4. 展開案

事前	事前の話合いの決定事項に基づき、各係の仕事や準備を行わせる。 集会のめあてを教室に掲示しておき、活動の目的意識を明確にもたせておく。		
集会活動（本時）	集会の内容と順序(例)	活動内容	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 司会の挨拶	・ 司会が自己紹介する。	・ 各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。事前の準備や練習を大事にさせる。
	2 はじめの言葉	・ 係が、開会の挨拶をする。	・ 各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。事前の準備や練習を大事にさせる。
	3 めあてときまりの確認	・ 集会の目的と約束を確認する。	【コミュニケーション・役割認識】 ・ めあてを意識させること、全員の協力で集会を成功させること、それぞれの役割を果たすこと、等について話し、集会に臨む意識作りをする。
	4 先生から	・ これまでの取り組みの様子や集会の意義についての担任の話聞き、活動のめあてをもつ。	【コミュニケーション・役割認識】
	5 各班の表現	・ 班ごとに準備、練習してきた表現を発表する。	・ 班毎に協力し合い表現しようとする態度を評価する。お互いのよさを認め合う温かな雰囲気作りを努める。
	6 ゲーム	・ 進行係を中心に、集団ゲームを楽しむ。	【コミュニケーション・役割認識】 ・ 進行係のゲームは集団で楽しめる内容になるよう、事前に助言しておく。また、進行の仕方等も練習させ、十分な準備をさせた上で当日を迎えさせる。
	7 感想発表	・ 集会のめあてを振り返りながら、本時の活動の感想を発表をする。	【役割認識】
	8 先生から	・ 各係の仕事の様子、各班の取り組み、本時の活動の様子等についての担任の話聞き、集会への取り組みを振り返る。	・ 自分の言葉でしっかりと自分の感想や意見が言えるようにする。 【コミュニケーション】
	9 歌	・ 学級の歌を歌い、これからもよりよいクラスを作っていこうとする気持ちをもつ。	・ 役割を果たすことの大切さや協力して物事に取り組むことのすばらしさを話す。 【コミュニケーション・役割認識】
10 終わりの言葉	・ 係が閉会の挨拶をする	・ 話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【コミュニケーション・役割認識】	
事後	集会の様子をVTRで撮影し、保護者参観日等で紹介する。 通信で集会の様子を知らせる。それぞれの役割を果たしながら、協力して集会を作り上げていくことの大切さを、具体的な子どもたちの姿を基に記事にして伝える。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 班内で協力し合いながら、そうじや係などの班活動に取り組む。また、学級内での自分の役割を責任をもって果たす。

# 1. 題材名 「何でも自慢大会を開こう」

〔4年 学級活動(2)望ましい人間関係の育成・希望や目標をもって生きる態度の形成〕

## 2. 目 標

自分の得意なことや自慢したいことを紹介し合い、自他の個性や互いのよさを認め合い、よりよい人間関係を築く。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 自分の得意なことや自慢したいことを他者に表現する場を設けることにより、自分自身への理解を深めさせる。  
 発表会を通じ、個性は人によって異なることや友達のよいところに気付かせ、誰とでも仲良く接しようとする気持ちや態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【コミュニケーション力】**: 自分の得意なことや自慢したいことを発表できる。また、発表から、友達のよいところや感心したところを見つけることができる。  
**【自己理解力】**: 得意なことや自慢したいことを考え、表現することで、自分自身への理解を深め、自分を大切にしようとする気持ちをもつ。  
**【将来設計力】**: 互いのよさを認め合い、将来への夢や希望を膨らませる。

## 4. 展開案

事前	道徳資料「日本一の料理人」の学習で、自分の夢の実現について考えさせる。また、心のノート(7P)を記入させ、自分自身について考えさせる時間を設けておく。 事前に活動の意義や内容を知らせ、自分の得意なことや紹介したいことを考えておくよう指示しておく。		
本時	課題把握	学習活動 1 道徳の時間や心のノート(7P)に書いたことを想起させる。 ・人はそれぞれ個性が異なること ・誰もがよいところがある 2 本時の活動内容と目的を知る。 「何でも自慢大会」を開いて、みんなのことをもっと知って、もっと仲良くなろう！	資料等 心のノート 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・学級目標(「みんな仲良く」等)にかかわらせながら、よりよい学級作りにつなげる活動(自他をよく知る 学級のまとまりをよくする)として、本活動の意義を知らせる。 【コミュニケーション・自己理解】 ・一人一人を認め合う受容的な雰囲気作りを大切にする。 【コミュニケーション・自己理解】
	課題追究	3 教師の説明から、「何でも自慢大会」の進め方を知り、活動の見通しをもつ。 (「何でも自慢大会」の進め方)としておきの自分の「自慢ネタ」を考える。 1コマ漫画で、自分の自慢を表現する。 発表原稿を書いて、各自表現練習をする。 発表会を開く。	担任の発表資料 「自慢ポスター」用紙 ・「自慢」の内容は、自分のこと、自分にかかわる家族や周りの人のこととするが、ジャンルは特に設けない。思いつかない子には、個別に教師が助言を与える。 【コミュニケーション・自己理解】 ・教師が「自慢ポスター」の見本作品を示し、楽しく自分の紹介が伝わるよう、イラストや発表原稿を工夫させる。 【コミュニケーション】 ・明るく温かな雰囲気でも活動を進めさせる。どの子の発表も大事にし、それぞれのよさを見つけさせるようにする。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】
	まとめ	4 自分自身を見つめ、紹介したい「自慢ネタ」を考える。 5 紹介したいことを1コマ漫画で表現する。 6 発表の準備、練習をする。 7 各自、自分の「自慢」を発表する。	・感想の交流、担任のまとめの話等で、誰にも個性がありよさがあること、みんなを大事にした生活を送っていくことの大切さ、すばらしさに気付かせる。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】
事後	各自が作成した「自慢ポスター」を、自己理解や自己尊重の資料として教室に掲示する。 発表会の様子を学級通信や懇談会等で、保護者に知らせる。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【道徳】** 資料「日本一の料理人」を読み、自分の将来の夢や希望について考える。  
**【日常活動】** 友達の「よいところ」見つけを行い、帰りの会等で発表し合う。

1. 題材名 「地域の働く人から学ぼう」  
〔4年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目標

地域の様々な仕事に取り組む人たちの話を聞き、働くことの意義や大切さを考えることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

<b>キャリア教育のポイント</b>
社会科の学習を進展させ、地域でいろいろな仕事に取り組んでいる人たちの働く様子や仕事について、関心をもたせる。 「地域の仕事調べ」を行い、働く人の姿に直接触れ合う場を設けるとともに、挨拶や礼儀、基本的なインタビューの仕方を学ばせる。
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>
【コミュニケーション力】：礼儀ある態度で挨拶したり、インタビュー活動に取り組んだりする。 【役割認識力】：地域の社会生活は、多くの人たちの様々な仕事の上に成り立っていることに気付く。 【職業理解力】：働く人の姿から、仕事の喜びや役割を考えたりする。 【情報活用力】：インタビュー活動で必要な情報を得、仕事について考えることができる。

4. 展開案

事前	子どもたちの身近な所で働く地域（学校に隣接した地域）の人たちに学習内容を知らせ、インタビュー活動への協力を依頼しておく。（子どもたちにかかわりの深い職業を選択する） 効率よくインタビュー活動ができるよう、ワークシートやグループ分け等の準備を行っておく。		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	1 心のノート（P74）を基に、「大人はなぜ働くか」考える。 2 社会科の地域の人々の仕事（農家、商店の仕事等）の学習を想起する。 2 地域で働く人たちの写真から、本時は「地域の人たちの仕事」について考える学習であることを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">                     地域の人たちの仕事の様子を調べよう。                 </div>	心のノート 社会科の地域の人々の学習の関連資料 地域で働くいろいろな人の写真	・なぜ働くか問い、問題意識をもたせる。 <div style="text-align: right;">【職業理解】</div> ・農家や商店で働く人々は、たくさんの苦労や工夫を重ねながら仕事に取り組んでいたことを想起させる。地域で働く人たちの職業の多様性に気付かせ、ながら本時の学習への意欲付けと方向付けを図る。 <div style="text-align: right;">【情報活用・職業理解・役割認識】</div>
本時	3 「地域で働く人々の仕事調べ」の方法を知り、インタビューの仕方を練習する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     〔調べること〕                      どんな仕事をしているか                      仕事で大変なことは何か                      仕事でうれしいことは何か                      〔インタビューの仕方〕                      挨拶をする。                      活動の目的を話し、インタビューの了解を得る。                      インタビューをする。                      感想を述べ、お礼の挨拶をする。                 </div> 4 グループ毎にインタビュー活動に取り組む。 5 各グループのインタビュー結果を比べ合い、わかったことや気付いたことを話し合う。 ・仕事には、いろいろな種類がある。 ・どの仕事も、自分たちの生活のために大切で ・どの仕事にも、お金を得ること以外に喜びがある	インタビューシート 地域で働く人たちの話 ・警察官 ・工事の人 ・お店の人 ・郵便局の人 等	・調べる目的と方法を明確に指導する。挨拶や約束事、インタビューの仕方、お礼の仕方等を具体的に指導し、グループ毎に実際に練習させる。 <div style="text-align: right;">【情報活用・コミュニケーション】</div> ・活動の様子を観察し、適宜指導したり、賞揚したりする。 <div style="text-align: right;">【情報活用・コミュニケーション】</div> ・各グループが調べた結果を比べさせ、職業の多様性、働くことの喜びや意義等に気付かせたい。 <div style="text-align: right;">【役割認識・職業理解・情報活用】</div> ・「人の役に立つ」ことの喜びを重点的に取り上げ、家庭や学校生活で自分が働ける場がどこか、具体的に考えさせる。
まとめ	6 本時の学習を振り返り、「働くこと」について自分の考えをまとめる。 7 学級や学校で自分が力を出して働く場を考える。	心のノート	<div style="text-align: right;">【役割認識・職業理解】</div>
事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、充実した学校生活を送ろうとする意欲を高める。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【社会】	「商店で働く人の仕事」「農家の仕事」等の学習で、働く人々の苦労や工夫を調べる。
【道徳】	資料「神戸のふっこうは、ほくらの手で」の学習で、働くことの大切さを考える。

# 1. 題材名 「そうじの仕方を見直そう」

〔4年 学級活動(1)：学級や学校の生活の向上に関すること〕

## 2. 目 標

そうじの意義や役割を果たすことの大切さに気付き、よりよい清掃活動の在り方を考えたり、進んで仕事に取り組もうとする意欲を高めたりする。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

清掃活動について取り上げ、働くことの意義や気持ちよさ、役割を果たすことの大切さを考えさせる場とする。

集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。

### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】：自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話合い活動に主体的に取り組む。

【役割認識力】：清掃活動の意義や役割を果たすことの大切さに気付く。

【職業理解力】：働くことの楽しさを知り、進んで清掃活動に取り組もうとする意欲をもつ。

【課題解決力】：これまでの清掃活動の問題点に気付き、課題を克服するための手立てを考え、実践できる。

## 4. 展開案

事前	<p>清掃や働くことへの価値に気付かせる資料として、二宮金次郎に関する資料を準備しておく。今の清掃活動の現状について見直すアンケートを実施し、資料化しておく。</p> <p>係担当の子どもたちには、話合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。</p> <p>「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「今の清掃活動には、どんな問題があるか」「問題を改善するためにはどんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりと持たせておく。</p>			
話合い活動(本時)	<p>話合いの順序</p> <p>1 はじめの言葉</p> <p>2 係の紹介</p> <p>3 議題の確認</p> <p>「そうじパワーアップ作戦」を立てよう。</p> <p>4 先生から 今のそうじの問題点 二宮金治郎の話 (働くことの意義)</p> <p>5 話合い 今のそうじには、 どんな問題があるか よりよいそうじ ができるための 対策</p> <p>6 まとめ</p> <p>7 先生から</p> <p>8 終わりの言葉</p>	<p>児童の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・係が開会宣言をする。</li> <li>・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。</li> <li>・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。</li> <li>・担任の話聞き、現状のそうじの問題点を考える。</li> <li>・校舎内に二宮金次郎像が設置してあることの意味を知り、働くことやそうじの意義を考える。</li> <li>・話合いの柱に沿い、そうじについて話し合う。</li> </ul> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今のそうじの問題点 これからの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話合いによって決まったことを確認する。</li> <li>・本時の活動の振り返りをカードに書く。</li> <li>・本時の話合いについて担任の話聞く。</li> <li>・係が開会宣言をする</li> </ul>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】</li> <li>・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】</li> <li>・二宮金次郎の資料を基に、働くことの意義やそうじの大切さを具体的に指導する。 【職業理解・役割認識】</li> <li>・それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話合いをさせたい。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】</li> <li>・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の清掃活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】</li> </ul>	<p>資料等</p> <p>話合いカード</p> <p>アンケート結果 VTR 二宮金次郎の写真</p> <p>振り返りカード</p>
事後	<p>「そうじパワーアップカード」を作り、一定期間、そうじへの取り組み状況をシール等でチェックさせ、実践化を促す。</p> <p>子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。</p>			

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読み、働くことの大切さや、進んで社会のために役に立とうとする心情を培う。

# 1. 題材名 「忘れ物を無くそう」

〔4年 学級活動(2)基本的な生活習慣の形成〕

## 2. 目 標

忘れ物の問題点と原因を話し合い、忘れ物を無くす方法を考え、実践できる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

学習に関する自分の取り組み態度を振り返らせ、問題点を改善し、自分自身を向上させようとする意欲や態度を培う。  
問題点を改善するための具体的な方法を考えたり、実践したりする力を育てる。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【情報活用力】: グラフやインタビュー資料から、「忘れ物」の問題点をとらえることができる。
- 【課題解決力】: 「忘れ物」の原因と具体的な対策を考えることができる。
- 【意思決定力】: 自分自身の向上を願い、学習態度の改善に向け具体的な取り組みをすることができる。

## 4. 展開案

事前	忘れ物に関する実態調査を行い、グラフ化しておく。 ジョブカフェ岩手の資料「職業人に望まれる資質」の中から、忘れ物に関する資料を準備しておく。		
本 時	課題把握	学習活動	資料等
	1 学級の「忘れ物グラフ」を見て気付いたことを話し合う。 ・忘れ物が多い 2 学校生活上、忘れ物をする事でどんな問題点があるか考える。 ・勉強に不便 ・周りに迷惑 3 資料「職業人に望まれる資質」から社会生活でも忘れ物が大きな問題となることを具体的にとらえ、本時の学習課題をとらえる。 ・忘れ物をするお医者さんは？ ・バットを忘れる松井選手は？ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">忘れ物を無くす方法を考えよう</div>	忘れ物に関するアンケート結果のグラフ  職業人に望まれる資質	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・グラフを的確に読み取らせ、忘れ物が学級全体の大きな問題になっていることに気付かせる。 <div style="text-align: right;">【情報活用】</div> ・社会では、一番に誠実さと信頼性が求められることを知らせ、頼まれた仕事や役割の仕事を確実に行うためにも忘れ物を無くす努力が大切であることを押さえる。 <div style="text-align: right;">【情報活用・職業理解】</div>
	課題追究	4 自分の生活態度を見直し、忘れ物の原因を考える。 ・話の聞き方 ・メモの習慣 ・メモの取り方（書き方） ・机や周辺の整理整頓 ・家庭での時間設定（時間割を揃える時間） 5 教師の助言や「忘れ物ゼロ名人」の意見を参考にしながら、忘れ物の減少や生活態度、学習態度の改善のための取り組みを考え、カードに書く。 6 各自が考えた取り組みを発表し合う。	ワークシート  メモ、写真、姿勢、机上等に問題がある実例写真等  忘れ物名人のアドバイス 見本となるメモや姿勢等の資料
	まとめ	7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。 8 今後の学校生活に期待する担任の話聞く。	ワークシート  担任の話
事後	学習内容を通信等で家庭に知らせ、子どもたちの取り組みへの支援を依頼する。 メモの取り方を工夫したり、忘れ物の改善に取り組んだりしている例を随時紹介していく。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 帰りの会で、翌日の連絡事項を確実にメモする。また、身の回りの整理整頓に気をつけたくらしをする。

# 1. 題材名 「1/2成人式をしよう」

〔4年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

## 2. 目 標

これまでの自分の成長の過程をとらえ、周囲の人々への感謝の気持ちをもちながら、今後の人生への、希望を膨らませることができる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

出生から現時点までの自分の歩みを振り返らせ、多くの成長が得られたことを実感させる。自分の成長を支えた人々の存在に気付かせるとともに、自分自身を大切にしながら、今後の人生も希望をもって歩もうとする気持ちを育てる。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】: 「1/2成人式」で自分自身が成長したことや、今後の夢や目標を堂々と表現することができる。
- 【自己理解力】: これまでの自分の歩みを振り返り、多くの成長が得られたことを実感できる。
- 【役割認識力】: 自分自身の成長は、多くの人々の愛情と支えで得られたものであることに気付く。
- 【将来設計力】: 自分の人生を大切にしようとする気持ちを持ち、将来の夢や希望を膨らませることができる。

## 4. 展開案(2時間扱い)

事前	活動内容を保護者に知らせておき、写真の提供やインタビューの協力、子どもに当てた手紙の執筆等を依頼しておく。「1/2成人式」当日は、保護者にも来校の案内をする。 「1/2成人の証」を一人一人に作成しておく。			
本時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 「1/2成人式」の意味について話し合う。</p> <p>2 これまでの自分の成長を簡単に振り返らせ、節目の年齢として「1/2成人式」を行うことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">                     これまでのみんなの成長を、1/2成人式でお祝いしよう。                 </div>	資料等	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「成人」「式」の意味を考えさせ、10歳が節目の年齢であることや生まれてからこれまでに、たくさんの成長があったことに気付かせ、活動の意義付けをする。 【自己理解・役割認識】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 「1/2成人式」の内容と活動の方向性を知る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                     【「1/2成人式」の内容】                      「『1/2成人』の主張」をする                      自分が成長したこと                      周りの人たちに伝えたいこと                      将来の夢                 </div> <p>4 「1/2成人」までの自分の歩みを「自分年表」年表にまとめる。 ・様子 ・できるようになったこと</p> <p>5 「『1/2成人』の主張」の原稿を書き、発表の練習をする。</p> <p>6 「1/2成人式」を開く</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     【「1/2成人式」プログラム】                      始めの言葉                      お家の方々へ                      「1/2成人」の主張                      歌                      お家の方々から                      先生から                 </div>	<p>「自分年表」</p> <p>「1/2成人の主張」の発表原稿</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちのこれまでの成長の証として、一人一人表現する場を設けることを知らせる。 【コミュニケーション・自己理解・役割認識】</li> <li>・出生時、3歳頃、保育園、幼稚園、小学校入学時の5つの時期に分け、保護者への聞き取り等を基にさせながら、自分の当時の様子をまとめさせる。自分たちの成長には家族や、多くの人の支えがあったことに気付かせる。 【役割認識・自己理解・将来設計】</li> <li>・挨拶や発表の態度等、「成人式」に相応しい堂々とした表現ができるように、子どもたちへの励ましや働きかけをする。 【コミュニケーション・自己理解・役割認識】</li> <li>・誰もが家庭や多くの人たちの愛情に包まれたたくさんの成長を遂げてきたことを押さえさせたい。 【コミュニケーション・自己理解・役割認識】</li> <li>・子どもたちの姿を賞揚しながら、今後の一層の頑張りを引き出す話で活動をまとめる。 【将来設計・自己理解・役割認識】</li> </ul>
まとめ	<p>7 「1/2成人式」を行っての感想を書く。</p> <p>8 今後の一層の成長に期待する担任の話聞く。</p>	ワークシート	担任の話	【将来設計・自己理解・役割認識】
事後	活動の様子を学級通信で家庭に知らせる。子どもたちそれぞれの「主張」を教室に掲示し、今後も自他を大事にした学級生活を送ろうとする気持ちをもたせる。 感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、今後も充実した学校生活や人生を送ろうとする意欲を高める。			

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「グレンよ、走れ」を読み、目標に向かって努力しようとする気持ちをもつ。

1. 題材名 「命のつながり」

(4年 学級活動(2): 希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成・心身ともに健康で安全な生活態度の形成)

2. 目標

様々な人々とのかかわりや愛情の中で自分の命が育まれてきたことを知り、命を大事にする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

<b>キャリア教育のポイント</b>	命の尊さに気付かせ、自らの人生をよりよく生きようとする意欲を育てる。 自分のライフステージを自由に描かせ、将来への夢や希望を育む。
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>	【コミュニケーション力】: 他者のよさや個性を認めようとする気持ちを持ち、よりよい人間関係作りに努めようとする。 【自己理解力】: 自分の命は多くの人々の愛情に包まれて育まれてきたことに気付く。 【将来設計力】: 人生はかけがえの無い貴重なものであることに気付き、自らの将来について夢や希望を主体的に描くことができる。 【意思決定力】: 命について主体的に考え、自他の命を大事にしようとする気持を高める。

4. 展開案

事前	体育の保健「育ちゆくわたし」(体の発育の仕方・大人の体への変化・心の変化)の学習において、自らの体や心の成長に対する関心や理解を高めておく。 命に対する関心をもたせる資料として、命の誕生にかかわる具体的(新生児の出生のころの様子・受精卵の大きさ等)な資料を準備しておく。			
本時	課題把握	学習活動 1 新生児の誕生のころの資料から、命について関心を持ち、本時の学習の見通しをもつ。 2 「命」から連想することを自由に話し合いながら、本時の課題をとらえる。 命はどのようにつながっているのだろうか。	資料等 新生児誕生のころの写真、録音等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・出生時の泣き声や足形、写真などを提示し命の誕生について関心をもたせ、本時は命について考えていくことを知らせる。【自己理解・意思決定】 ・和やかな雰囲気の中で、命についての思いを自由に話させるが、何よりも大事なテーマであることを話し、真剣に考えていくよう伝える。【自己理解・意思決定】
	課題追究	3 保健学習を想起し、命の誕生について確かめる。 4 自分の命のつながりを考える。 ・自分 父母 祖父母 ... ・「命のバトン」	受精に関する図 新しい命の大きさ(紙) 家系図	・「精子・卵子・受精・へその尾」等の言葉を確認させる。紙に示した「命の大きさ」の資料を提示し、出生の神秘さや命に対する尊厳な思いを抱かせたい。【自己理解】 ・自分の誕生までの過程を、家系図を基に考えさせ、一人でも命のバトンが途絶えたら今の自分が無いことに気付かせる。【自己理解】 ・今生きていることの喜びを改めて見つめ直させ、「命のバトン」の意義をとらえさせる。【自己理解】 ・命のバトン以外に、多くの人のかかわりや自然等、多くのものに支えられていることに気付かせる。【自己理解・コミュニケーション】
	まとめ	5 命を支えるイメージマップを書き、命を支える多くのかかわりに気付く。 6 自分のライフステージについて、夢や希望を自由に思い描く。	イメージマップシート 世代表ワークシート	・命には始まりとともに終わりがあることも確認させ、有意義な人生のためには「人生設計図」(ライフステージ)を描くことが大切であることを知らせる。【自己理解・将来設計】 ・一人一人の思い(夢や希望、憧れ)を尊重し、自由に考えさせる。【将来設計】 ・家族への感謝の気持ちや、自他の命を大切に生活しようとする意欲をもたせる。【自己理解・コミュニケーション】
	事後	7 本時の学習を振り返り、命について考えたことをまとめる。 8 命についての教師の話聞く。		
事後	授業の様子やワークシートへの子どもの記述等、保護者にも知らせる。 朝の会、帰りの会等で友達を大事にした好ましい言動を紹介していく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【体育】	保健「育ちゆくわたし」で、生命誕生の仕組みを学習する。
【道徳】	資料「パンダの命を救え」を基に、生命の尊さを感じ取り大切な生命を守ろうとする気持ちをもつ。

# (5) 第5学年学級活動指導計画

## 第5学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい										指導案・関連計画掲載ページ			
			自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力	進路発達にかかわる能力	進路発達にかかわる能力	進路発達にかかわる能力		進路発達にかかわる能力		
4月	友達増やそう	(2)	互いの自己紹介をとおし、進んで他者と関わったり、友達を増やしたりする。													41
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級像を話し合い、その実現に向け、学級目標を決めることができる。													42
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。													43
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。													52
5月	あいさつを活発にしよう	(1)	気持ちのよいくらしを送るためのよりよい挨拶の仕方を考えることができる。													6
	運動会を成功させよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。													72
	どんな仕事があるかな? 『ご飯&カツ編』	(2)	食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事を知り、職業に対する興味をもつ。													44
	お気に入りの仕事を調べてみよう	(2)	興味をもった仕事について調べ、将来の職業生活についての関心を広げる。													45
6月	運動会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、運動会の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。													72
	古代むら体験学習を成功させよう	(1)	古代むら体験学習を成功させるための目標や方法を話し合うことができる。													75
	「働く」って何?	(2)	働くことの意味を考え、働くことによって得られる喜びに気付く。													46
	古代むら体験学習を振り返ろう	(1)	古代むら体験学習を通じて得た成果や課題を、今後の生活に生かそうとする。													75
7月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。													32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。													33
	充実した夏休みに!	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。													56
8月	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。													57
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。													43
9月	委員会の組織をつくろう	(1)	委員会の大切さを知り、意欲的に組織を決めたり、活動内容を考えたりする。													43
	学習発表会を成功させよう	(1)	学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。													76
	見つけよう、友達のよさ	(2)	人にはそれぞれ個性やよさがあることに気付き、誰とでも仲良くしようとする。													17
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。													76
	係活動を見直そう	(1)	係活動の大切さを理解し、活動内容を工夫したり、仕事に取り組む意欲を高めたりする。													47
	近視を予防しよう	(2)	姿勢や照明等が視力に及ぼす影響を知り、目の健康を保持するための実践意欲をもつ。													48
11月	金管バンドを引き継ごう	(1)	6年生への尊敬の気持ちと学校を代表するリーダーとしての意識をもち、活動意欲を高める。													
	読書パワーアップ作戦	(2)	読書の価値を知り、よりよい読書生活の在り方を考え、実践意欲をもつ。													62
	かぜとインフルエンザ(睡眠)	(2)	睡眠の大切さを知り、健康を保持するためのよりよい生活態度について考えることができる。													
12月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。													32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。													33
	充実した冬休みに!	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。													63
1月	3学期のめあてを立てよう	(2)	2学期や冬休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、3学期の学校生活への意欲をもつ。													57
	委員会の組織をつくろう	(1)	委員会の大切さを知り、意欲的に組織を決めたり、活動内容を考えたりする。													43
2月	6年生を送る会を成功させよう	(1)	6年生への感謝の気持ちをもち、会を成功させるための取り組みについて話し合うことができる。													12
	情報とくらしについて考えよう	(2)	情報とくらしのかかわりを調べ、適切な情報の扱い方について知る。													
3月	もうすぐ6年生	(1)	一年間の成長を振り返りながら、新しい生活に向けた期待と目標をもつ。													13
	春休みの過ごし方	(2)	新しい学期を迎える上での春休みの意義を知り、規則正しい生活を送ろうとする気持ちをもつ。													

## 第5学年学級活動指導展開例

### 1. 題材名 「友達増やそう」

〔5年 学級活動(2)望ましい人間関係の育成・心身ともに健康で安全な生活態度の形成〕

### 2. 目 標

互いの自己紹介や仲間作りゲームをとおり、進んで他者とかかわったり、友達を増やしたりしながら、新しい学級生活への意欲や期待を膨らませる。

### 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

自分自身を見つめさせ、好きなことや得意なことを、他者に表現できるようにさせる。  
進んで他者とかかわり、よりよい人間関係を築こうとする態度を培う。

#### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】：級友としての意識をもち、進んで他者とかかわることができる。  
【自己理解力】：自分自身を見つめ、好きなことや得意なことを他者に表現できる。

### 4. 展開案

事前	自己紹介カードのシートを用意しておく。 事前に活動内容を子どもたちに知らせ、自己紹介の内容等、考えさせておく。また、シートに使用する個人写真も準備させておく。 進級当初（始業式当日）の新しい学級に対する子どもたちの願い（作文）を集約しておく。			
		学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
本時	課題把握	1 始業式に書いた作文「新しい学級への願い」の集約結果を知る。 2 新しい友達を作り、クラスの団結を深める時間であることを知り、学習の方向性をつかむ。 みんなのことを知って、友達を増やそう。	みんなの願い	・「みんな仲良く」「楽しいクラス」「いじめのないクラス」等の願いが、学級共通の願いであることを知らせ、課題設定する。 【コミュニケーション・自己理解】
	課題追究	3 自己紹介カードを作る。 ・写真 ・好きなこと、得意なこと ・5年生でがんばりたいこと ・自己PR ・学級や友達へのメッセージ	自己紹介カード	・自分自身を見つめさせ、自分の個性を考えさせる場とする。新学期への期待や抱負等も表現させる。 【自己理解】
	まとめ	4 カードを使いながら、一人一人自己紹介スピーチをし、感想を交流し合う。 5 仲間作りゲームをする。 ・「人間バスケット」 （フルーツバスケットの応用） ・「天下泰平」ゲーム （ハンカチ落としの応用） ・「かぐや姫」ゲーム （姫、使者、笹に分かれる集団ゲーム）		・お互いを理解するための活動であることを確認させ、温かな雰囲気を作る。一人一人に発表の機会を設けることで、表現力を培う場にする。 【コミュニケーション・自己理解】
事後	6 本時の活動を振り返り、感想を発表し合う。 7 今後の学級生活について、担任の話聞く。 授業の様子や個々の子どもたちの感想を学級通信等で知らせ、家庭でも自分に興味ある出来事や職業への興味をもたせるよう促す。			

### 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「命」を読み、自他の生命の大切さを考える。

1. 題材名 「学級目標を決めよう」  
〔5年 学級活動(1):学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目 標

一人一人が学級の成員としての自覚と理想の学級像をもち、よりよい学級生活を願いながら、主体的に学級目標作りに取り組むことができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。  
よりよい学校生活を願う気持ちをもたせ、目標をもって行動することの意義に気付かせる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】: 自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、学級目標作り主体的に取り組む。  
【役割認識力】: 話合い活動における自分の役割を理解し、事前の準備や当日の運営において、意欲的に責任を果たそうとする。  
【意思決定力】: 学級目標についての話合いを通じ、よりよいクラスを作っていこうとする願いを高め、目標実現に向けた一層の実践意欲をもつ。

4. 展開案

事前	<p>始業式や学級活動の授業等で、高学年としての自覚や新学期に向かう意欲を高めておく。新学期への抱負を作文に書かせ、内容をまとめておく。 計画委員会を組織し、議題、話合いのめあて、話合いの内容、役割分担を決める。 「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「どのような学級にしたいか」「どのような目標がよいか」の2点について、自分の考えをしっかりとさせておく。</p>			
話し合い活動(本時)	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
1	はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声がけを大事にする。	話し合いカード
2	係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	【コミュニケーション・役割認識】	
3	議題の確認	・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。	・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話合いに参加させる。	始業式の作文
4	先生から	・担任の話聞き、学級目標について積極的に話し合おうとする気持ちと、話合いの視点をもつ。	【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
5	話し合い	・話合いの柱に沿い、学級目標について話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">自分が願うクラスの姿 どんな目標がよいか ・スローガン ・具体目標</div>	・クラス替えをした新しい仲間とのスタートであることや高学年の大切さ等について話し、目標作りに向けた意欲を高める。 【意思決定・役割認識】	
6	まとめ	・話合いによって決まったことを確認する。	・新しいクラスへの子どもたちの願いを示しながら、よりよい学級集団をつくらうとする気持ちを大事にした、建設的な話合いになるよう助言する。 【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
7	先生から	・本時の活動の振り返りをカードに書く。	・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話す。	振り返りカード
8	終わりの言葉	・本時の話合いについて担任の話聞く。	・係が閉会宣言をする 【意思決定・役割認識】	
事後	<p>話し合い(学級会)の様子を学級通信にまとめ、話し合い活動を振り返らせながら、今後の話し合いや学級生活に向けた意欲を高める。 決まった学級目標を掲示し、日々、目標を意識した生活を心がけさせる。教師も、常に学級目標に立ち返らせながら、子どもたちの学級生活の様子について評価していく。</p>			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【始業式】 5年生に進級した喜びを感じるとともに、高学年としての自覚をもつ。  
【学級活動】 「友達増やそう」の活動をとおり、自他を大切にしながらよりよい学級集団をつくっていかうとする気持ちをもつ。

1. 題材名 「学級組織を決めよう」  
〔5年 学級活動(1)：学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目 標

学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
学級生活の向上のために必要な役割を考えさせたり、自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てたりする。  
集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：学級生活に必要な組織を考え、進んで自分の考えを表現できる。  
【役割認識力】：話合い活動における自分の役割を理解し、事前の準備や当日の運営において、意欲的に責任を果たそうとする。また、学級組織の大切さを理解し、進んで自分の役割を果たそうとする。  
【意思決定力】：話合いの場に進んで参加し、自分の仕事に対する責任感や活動意欲を高める。

4. 展開案

事前	計画委員会を組織し、議題、話合いのめあて、話合いの内容、役割分担を決める。 「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「どのような役割(係)が必要か」、自分の考えをしっかりと持たせておく。			
話し合い活動(本時)	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
1	はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード  名前カード  係用ポスター用紙  振り返りカード
2	係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。		
3	議題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">学級組織を決めよう。</div>	・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。	・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話合いに参加させる。 【コミュニケーション・役割認識・意思決定】	
4	先生から	・担任の話聞き、学級組織について積極的に話し合おうとする気持ちと、話合いの視点をもつ。	・学級生活を営む上での組織の大切さを考えさせる場を設ける。集団生活を支えるために様々な仕事があることを確認させ、話合いの視点をもたせる。 【役割認識】	
2	話し合い(全体) 組織・係(グループ) 仕事の内容 役割決め	どんな役割(組織)が必要か どのような仕事をするか 自分の仕事	・振り返りカードには、決まった自分の役割と、仕事に取り組む上でのめあてを書かせ、活動意欲を高める。 【役割認識・意思決定】	
6	まとめ	・本時の活動の振り返りをカードに書く。	・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話す。 【役割認識・意思決定】	
7	先生から	・本時の活動について担任の話聞く。		
8	終わりの言葉	・係が閉会宣言をする		
事後	決定した学級組織を教室に掲示し、誰がどのような役割があるか明示しておく。 係ポスターを掲示する。帰りの会等で、各係や組織の活動内容をお互いに評価させ、計画したことの実践化を促す。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【学級活動】 「係活動を見直そう」の活動をとおり、自分たちが立てた係の計画の実行状況を振り返り、よりよい係活動について考える。  
【道徳】 資料「取り返しがつかない一日」を読み、役割を果たすことの大切さを知る。  
【日常活動】 話合ったことを基に、決定した組織の仕事に取り組む。

1. 題材名 「どんな仕事があるかな? 『ご飯&Wカップ編』」

(学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)

2. 目 標

食卓にご飯が届くまでの過程にある様々な仕事やサッカーのワールドカップに関連した仕事を調べることをとおし、仕事や職業には様々なかわりや役割があることに気付く。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

ひとつの事象には、多くの仕事がかかわっており、それぞれ大切な役割があることに気付かせる。職業には幅広い種類があることに気付かせ、働くことや職業への興味をもたせる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【将来設計力】: 働くことや仕事に対する興味や関心をもつ。

【職業理解力】: 一つの事象に関連して多くの仕事や職業があることに気付き、職業への興味をもつ。

【役割認識力】: どの仕事も、それぞれに大切な役割を果たしていることに気付く。

4. 展開案

事前	本時で用いる資料として、運動会の仕事に関するVTR、ご飯の実物、サッカーワールドカップ関連の資料(VTR、写真)を準備しておく。 本時は社会科の「米作り」(農家の仕事)の学習の発展である。稲作に関する仕事の様子を押さえておく。			
本時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 運動会のVTRを視聴し、仕事に「着目」した学習であることを知る。</p> <p>2 「ご飯」の実物から社会科の学習内容を想起し、本時の課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <p>食卓にご飯届くまでにどんな仕事があるだろう。</p> </div>	<p>資料等</p> <p>運動会のビデオ</p> <p>ご飯の実物</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会のビデオから、「仕事」や「働く」という視点から運動会を振り返らせる。 【将来設計】</li> <li>・ご飯の実物を提示し、学習への興味を高める。社会科で学習した農家の仕事の様子を想起させながら本時の課題につなげる。 【職業理解】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 ウェビングの要領で、米作りの仕事から食卓にご飯が届くまでの過程にある仕事を書き出す。</p> <p>4 完成したウェビングマップを見て、仕事や職業について話し合う。 ・「仕事」と「職業」の意味 ・ご飯に関連した職業の多さ ・それぞれの仕事の役割 ・諺「職業に貴賤なし」</p> <p>5 サッカーワールドカップを題材に、それに関連した仕事調べを行い、職業にはいろいろな関連や種類があることを知る。また、それらの仕事と、今の学校での学習との関連を考える。</p>	<p>田んぼからご飯までのスライド</p> <p>ワールドカップ関連の記事</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェビングの手法で、職業の関連を具体的に考えさせる。完成したウェビングマップを基に、職業の種類の多さや、どの仕事も大切な役割を果たしていることなどの意味を押さえる。 【職業理解・役割認識】</li> <li>・身近な話題を基に、職業調べを行い、職業への関心を深めさせる。 【職業理解・将来設計】</li> <li>・ワールドカップに関連する全ての仕事、今の学校での学習と関係することに気付かせ、日常の学習を大切にしようとする意欲をもたせる。 【将来設計】</li> </ul>
	まとめ	<p>6 本時の学習を振り返り、わかったことや考えたことをシートに書く。</p> <p>7 次時の活動について知る。 ・「お気に入りの仕事調べをしよう」</p>		
	事後	授業の様子や個々の子どもたちの感想を学級通信等で知らせ、家庭でも自分に興味ある出来事や職業への興味をもたせるよう促す。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【社会】 「米作りのさかんな地域」で、米作りの仕事の様子や働く人々の工夫や苦勞を調べる。

# 1. 題材名 「お気に入りの仕事を調べてみよう」

(5年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成)

## 2. 目 標

自分の興味のある仕事について調べ、将来の職業生活についての関心を広げるとともに、日々の学校生活に向かう意欲的な態度を育てる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

将来、自分が就きたい仕事を考えさせることで、子どもたちの職業に対する興味や関心を広げる。日々の学校生活での様々な学習と将来の職業生活とのつながりに気付かせ、毎日の学校生活への意欲を高める。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【自己理解力】：自分自身の長所や興味について考え、自己の生き方への関心をもつ。
- 【職業理解力】：関心のある職業に就くために必要な能力や要素を考えることができる。
- 【将来設計力】：日々の学習が将来の職業生活につながることに気付く。
- 【課題解決力】：学習の意義を知り、学校生活に対する一層の意欲をもつ。

## 4. 展開案

事前	「自分の将来の仕事」を考える学習を行うことを予告しておき、憧れの仕事や興味あるテーマについて考えておくよう指示しておく。 「仕事に必要な5つの力」(求められる人材)、「松井&イチローのすごさ」の資料を準備しておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	1 「どんな仕事があるかな?『ご飯&ワールドカップ編』」の学習を想起する。 2 各自の将来の憧れの職業を紹介し合う。 3 心のノートの「夢の詩」を読み、本時の課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">夢の仕事につくためにはどうすればよいか考えよう。</div>	ワールドカップに関する仕事(スライド)  心のノート(P16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの仕事があること、どれも大切な役割をもった仕事であることを想起させるとともに、一人一人の子の憧れや夢を互いに尊重し合うようにする。 【自己理解】</li> <li>・夢や憧れの実現のための努力の大切さを確認し、課題設定につなげる。 【職業理解】</li> </ul>
課題追究	4 自分が選んだ憧れの仕事について、必要となる力や資質を考える。 5 職業に必要な能力を身に付ける場を考える。 6 資料から、「職業人・社会人」として必要な力を知る。また、それらの力の大切さを具体的にとらえる。 ・誠実さ・協調性・礼儀・自主性等 7 松井選手、イチロー選手の事例をとおり、日々の学校生活での学習が、夢や憧れの実現につながるものであることを知る。	ワークシート  「求められる人材」(スライド)  松井・イチローの写真とエピソード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その仕事の特性を考えさせながら、必要となる資質を考えさせる。また、その資質を身に付けさせる場を具体的に考えさせ、夢の実現に向けた過程を子どもたちになりにもたせる。 【自己理解・職業理解・将来設計】</li> <li>・専門的な能力や資質だけでなく、基本的な生活習慣や日々の学習が重要となることを具体的にとらえさせる。 【職業理解・将来設計・課題解決】</li> </ul>
まとめ	8 本時の学習を振り返り、わかったこととこれからの生活でがんばっていきたいことをシートに書く。 9 心のノートの夢の詩を読み、本時の学習を終える。	心のノート(P16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の学習や生活の大切さを確認し、目標や意欲をもって今後の学校生に取り組むよう促す。 【自己理解・将来設計・課題解決】</li> </ul>
事後	心のノート「夢に届くまでのステップがある」のページを記述する。 学習後の感想や今後の抱負等を掲示や通信等で紹介し合う。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「メジャーリーガー・イチロー」を読み、目標に向かって努力することのすばらしさに気付く。

1. 題材名 「『働く』って何？」

(5年 学級活動(2) 日常生活や学習への適応・希望や目標をもって生きる態度の形成)

2. 目 標

「働くこと」には、収入を得ること以外に、役割を果たしたり、自分の力を発揮したりすることなどによって得られる喜びがあることに気付く。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

働くことには、単に収入を得ることだけでなく、自己実現を可能にするという意味があることをいろいろな職種に就いている人たちの話等から気付かせる。

いろいろな職種に就いている人たちの姿に触れさせることで、職業や働くことへの関心を高める。

**進路発達にかかわる諸能力**

【役割認識力】：社会生活は、多くの職種や人々の働きによって支えられていることに気付く。

【職業理解力】：働くことには、役割を果たしたり、自己の力を発揮したりすることによって得られる喜びがあることを知る。

【将来設計力】：職業に就くことの意味や自分の将来の職業について考えることができる。

4. 展開案

事前	「何のために働いているか」という質問に回答した職業に従事している人のVTRを資料として準備しておく。			
	報酬ではなく、生きがいややりがいを求め、地域でボランティア活動に取り組んでいる人にゲストティーチャー(GT)として、来校を依頼しておく。			
本時	課題把握	<p>学習活動</p> <p>1 いくつかの職種に就いて働いている人の様子をVTRで視聴し、気付いたことを話し合う。</p> <p>2 働く人の姿に着目し、本時の学習課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">大人はどうして働くのか考えよう。</div>	<p>資料等</p> <p>働く人の様子(VTR)</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRに加え、家の人の仕事なども発表させながら、身の回りにはいろいろな職業があることに気付かせる。 【役割認識・職業理解】</li> <li>・「大人はなぜ働くか」を問い、問題意識をもたせる。 【役割認識・職業理解】</li> <li>・働くことの意味を子どもたちなりに考えさせる。 【役割認識・職業理解】</li> </ul>
	課題追究	<p>3 大人が働く理由を自分なりに考え、発表し合う。 (予想される反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金のため ・家族のため</li> <li>・自分の楽しみのため</li> <li>・社会に役立つため</li> </ul> <p>4 大人が働く理由を知る。</p> <p>(1)「収入を得る」ことの意味を考え、くらしをささえる</p> <p>(2)働く人の話から、収入以外の働く理由を知る。</p> <p>人の役に立つ喜び 自分の好きなことに取り組む楽しさ 自分力を発揮できる満足感</p> <p>(3)地域でボランティア活動に取り組む人の話を聞き、収入以外の働くことの喜びを知る。</p>	<p>ワークシート</p> <p>働く人の声(VTR)</p> <p>ボランティアの人の話(GT)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入に関する予想を取り上げ、「なぜお金が必要か」問う。具体的な生活場面を想定させながら、働くことには、収入によってくらしを支える目的があることを押さえる。 【役割認識・職業理解・将来設計】</li> <li>・インタビューから、収入以外の目的に気付かせる。 【役割認識・職業理解・将来設計】</li> <li>・無報酬でボランティア活動に取り組む人の話から、自分の力を生かしたり、他者のために力を発揮したりすることで得られる喜びに触れさせる。 【役割認識・職業理解・将来設計】</li> <li>・学校生活の場面でも、清掃活動等で働く喜びが得られる場が多くあることを伝え、「よく学び、よく働く」学校生活をめざすよう促し、学習を終える。 【役割認識・職業理解・将来設計】</li> </ul>
	まとめ	<p>5 本時の活動を振り返り、働くことや職業について感じたことを書く。</p> <p>6 今後の学校生活に期待する担任の話を書く。</p>	<p>ワークシート</p> <p>担任の話</p>	
	事後	感想を記述したワークシートに教師からのコメントを記し、これからの学校生活でも自分の仕事や役割をしっかりと果たすよう励ましていく。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【社会】 産業に従事する人々の学習で、働く人の努力や苦勞、喜びを調べる。  
【道徳】 資料「まごころのボランティア活動」を読み、公共のために尽くすことの価値を考える。

1. 題材名 「係活動を見直そう」

〔5年 学級活動(1): 学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目標

学級生活の向上のために果たす係活動の大切さを理解し、よりよい係活動に向けて、活動内容を工夫したり、仕事に取り組む意欲を高めたりする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

学級生活を営む上で、係活動が大切な役割をもつことに気付かせ、自己の仕事に対する責任感を高めさせる。  
係活動の改善に向けて、進んでアイデアを出したり、友達と協力して活動したりすることができるようにする。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【コミュニケーション力】: 自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、話し合い活動やグループでの相談などに主体的に取り組む。
- 【役割認識力】: 学級生活を支えるための係活動の役割に気づき、自分の仕事の大切さをとらえる。
- 【職業理解力】: 友達と協力して働くことやアイデアを生かして活動することの楽しさを知り、進んで係活動に取り組もうとする。
- 【課題解決力】: これまでの係活動の問題点を見つけ、活動の仕方や内容などの工夫ができる。

4. 展開案

事前	今の係活動の現状について振り返るアンケートを実施し、資料化しておく。 係担当の子どもたちには、話し合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話し合いカード」を学級全員に配付し、話し合いの内容を知らせるとともに、「今の係活動には、どんな問題があるか」「問題を改善するためにはどんな方法があるか」の2点について、自分の考えをしっかりとらせておく。			
話し合い活動(本時)	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
1	はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード
2	係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話し合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子も主体的に話し合いに参加させる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】	
3	議題の確認 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">係活動パワーアップ計画を立てよう!</div>	・本時の議題、話し合いのめあて、話し合いの進め方を確認する。	・係活動の必要性を問い、その役割の大切さを確認させる。 【職業理解・役割認識】	アンケート結果
4	先生から係活動の意義 係アンケートの結果発表	・担任の話を聞き、係活動の大切さを確認する。 ・係アンケートの結果を見て、本時の活動の方向性をもつ。	・係アンケートで、互いの係の活動状況をチェックさせ、その結果を公表することで問題点に気付かせる。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】	
5	話し合い係活動の問題点を出し合う。 係グループ毎に係活動改善の取り組みを話し合い、「係パワーアップmanifest」に書く。 係毎に「manifest」を紹介し合う。	・現状の問題点を出し合いながら、係活動の改善の視点をとらえる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">活動の態度 ・みんなが働く 活動の内容 ・よりみんなのために ・より楽しく 等</div>	・各グループの話し合いの状況を参観し、建設的な意見やアイデア等を紹介していく。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】	係パワーアップmanifest
6	まとめ	・各係のmanifestを聞き合い、よりよい活動に向け意見を交換する。 ・本時の活動の振り返りをカードに書く。	・話し合いの結果を「manifest」に表現させることで、実践化に向けた意欲化を図る。 【コミュニケーション・職業理解・役割認識】	振り返りカード
7	先生から	・本時の活動について担任の話を聞く。	・話し合いの内容、話し合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話し、今後の係活動への意欲化を図る。 【職業理解・役割認識】	
8	終わりの言葉	・係が開会宣言をする		
事後	「係manifest」を掲示し、互いの活動状況をチェックし合う。 子どもたちの活動の様子を観察し、改善された点や努力している点を評価していく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「よみがえれ日本海」を読み、勤労の意義を理解し、人や社会に奉仕する喜びを知る。

# 1. 題材名 「近視を予防しよう」

〔5年 学級活動(2)：基本的な生活習慣の形成・健康で安全な生活態度の形成〕

## 2. 目 標

姿勢や照明等が視力に及ぼす影響を知り、目の健康を保持するための実践意欲をもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

健康が生涯の財産であり、自らの命や健康を守ることの大切さに気付かせる。  
自らの健康に関する資料や情報を適切に読み取ったり、活用したりする力を育てる。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【情報活用力】：G Tの話や写真、グラフ等の資料を適切に読み取り、目の健康に関する問題を見つけたり、目の健康保持の方法を理解したりする。  
【課題解決力】：自らの健康に対する関心を高め、目の健康を守るための方法を知り、学んだことを実生活で進んで生かそうとする。

## 4. 展開案 (Team Teaching: T1 = 学級担任・T2 = 養護教諭)

事前	視力検査の結果をまとめ、過年度からの視力の推移(平均値)をグラフ化しておく。 養護教諭との連携(T.Tでの授業)を図り、本時の授業プランの検討を協議しておく。		
本 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 視力の推移のグラフを見て、気付いたことを話し合う。	視力の推移のグラフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度との比較から、視力が低下傾向にあることを読み取らせる。 【情報活用・課題解決】</li> <li>・自らの夢の実現には健康が欠かせないものであることや、目が他に代え難い機能をもっていることを押さえさせ、自分の問題として本時の学習をとらえさせるようにする。 【情報活用・課題解決】</li> </ul>
	2 視力が低下して起こる問題点を話し合う。		
	3 視力の大切さを確認し、本時の学習課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">近視を防ぐにはどうしたらよいだろうか。</div>		
4 近視の原因を予想する。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の生活態度を振り返らせながら、問題点を考えさせるようにする。 【情報活用】</li> </ul>	
5 T2の話(資料・実験)から、近視の原因を知る。 (1)照明や明るさによる影響 ・暗闇でテレビを視聴する子どもの写真と目(瞳孔)の様子の写真 ・隣同士での明るさと瞳孔の変化の実験 (2)姿勢による影響	照明による目の影響(写真) 瞳孔変化の実験 問題ある姿勢の写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭が写真等の具体的な資料を基に、明るさや姿勢等が目に与える影響を説明する。 【情報活用・課題解決】</li> </ul>	
6 T2の話から、近視を防ぐ生活の仕方を知る。 ・照明について(教室・部屋) ・テレビの視聴やゲームの時間の視聴時間 ・正しい姿勢		<ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間のゲームやテレビ視聴が与える問題を子ども自身に考えさせる。 【情報活用・課題解決】</li> </ul>	
7 本時の学習で感じたことや、これからの日常生活で努力することをワークシートに書き、発表し合う。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・充実した人生を送るためにも健康を守ることが大切であることや、自分の体は自分で守っていく必要があることを伝える。 【課題解決】</li> </ul>	
8 T1、T2から、自らの健康は自分で守ろうとする気持ちをもつ。			
事後	2週間程度の「姿勢チェックカード」による取り組み期間を設け、学習事項の実践化や習慣化を促す。 授業の様子や子どもたちが書いたワークシートの内容等を学級通信等で知らせ、家庭でも目の健康に気を付けたくらしをするよう伝える。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【体育】 保健領域「病気の予防」において、自らの健康は自分で守ろうとする意識をもつ。  
【日常生活】 照明等の教室環境や姿勢等に気を付けたくらしをする。

# (6) 第6学年学級活動指導計画

## 第6学年学級活動年間題材一覧

ゴシック反転表示は、指導案掲載題材です。ゴシック網掛け表示の題材は、類似内容及び関連活動の指導案が掲載されています。

月	題材名	指導要領の内容	指導のねらい	進路発達にかかわる能力							指導案・関連計画掲載ページ
				自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力	
4月	最高学年の役割	(2)	最高学年としての役割を知り、その責任を果たそうとする意欲とリーダーとしての自覚をもつ。								50
	学級目標を決めよう	(1)	一人一人が理想とする学級像を話し合い、その実現に向け、学級目標を決めることができる。								51
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
	安全な登下校を考えよう	(2)	安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。								52
5月	修学旅行を成功させよう	(1)	修学旅行の目的を明らかにし、目的実現のための目標や約束を決めることができる。								73
	修学旅行を振り返ろう	(1)	目標や約束の達成状況を振り返り、旅行の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。								73
	そうじ名人になろう	(2)	そうじの仕方を振り返り、よりよいそうじの仕方を知るとともに、働くことへの一層の意欲をもつ。								53
	運動会を成功させよう	(1)	運動会の成功に向けての意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								72
6月	運動会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、運動会の成果と課題を今後の生活に生かそうとする。								72
	歯の健康について考えよう	(2)	日常の歯磨きの様子を振り返り、正しい歯磨きの仕方を知り、実践に生かそうとする。								54
	自分のよさを見つけよう	(2)	よいところ見つけの種をとおり、自分のよさに気付くとともに、他者との温かな人間関係を築く。								55
7月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	充実した夏休みに！	(2)	夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								56
8月	2学期の目標を決めよう	(2)	1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。								57
	学級組織を決めよう	(1)	学級生活の向上のために必要な組織と自分の役割を決め、活動意欲をもつ。								43
9月	たばこ健康	(2)	喫煙が健康に及ぼす影響を知り、自らの健康や人生を大事にしようとする気持ちをもつ。								58
	係活動を見直そう	(1)	係活動の現状を見直し、よりよい学級生活を送るための係活動の仕方について話し合うことができる。								47
	学習発表会を成功させよう	(1)	小学校最後の学習発表会の成功に向けて意欲をもち、学級や個人の目標を立てることができる。								76
10月	学習発表会を振り返ろう	(1)	目標の達成状況を振り返り、学習発表会の成果を生かし、今後の生活のめあてをもつ。								76
	「フリーター」って何？	(2)	フリーター問題を調べ、自分の将来の職業生活についての関心を高める。								59
	未来の「自分史」を作ろう	(2)	夢や憧れをもって、自らの将来設計について考えることができる。								60
11月	家庭学習パワーアップ作戦	(2)	家庭学習の意義やよりよい学習方法を考え、自らの向上に向けて、家庭学習への意欲をもつ。								61
	読書は心の栄養	(2)	感動した本を紹介し合ったり、読書の価値を話し合ったりしながら、読書への親しみを広げる。								62
	卒業に向けて	(1)	「卒業」の意義を知り、小学校のまとめとしての学校生活の過ごし方を考え、卒業までの見通しをもつ。								
12月	学級集会の計画を立てよう	(1)	学級集会の意義を明らかにしながら、集会の目標や内容、役割等について話し合うことができる。								32
	学級集会をしよう	(1)	集会の目標に基づき、役割や約束を着実に果たしながら、学級の結びつきを強めることができる。								33
	充実した冬休みに！	(2)	冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、具体的な目標や計画を立てることができる。								63
1月	小学校生活最後の過ごし方	(1)	小学校生活最後の過ごし方を考え、3学期に向かって意欲をもち、具体的な目標を立てることができる。								57
	言葉について考えよう	(2)	言語環境を振り返り、よりよい言葉づかいについて考えることができる。								64
2月	もうすぐ中学生	(2)	中学校生活に対する不安や悩みを解消し、新しい生活に向けた期待や希望をもつ。								65
	感謝の気持ちを伝えよう	(1)	小学校生活を支えてくれた人々の存在に気づき、お世話になってきた人々への感謝の気持ちを表現できる。								12
	命の誕生について考えよう	(2)	命の誕生の様子や家族の心情等を調べ、自他の命を尊重しようとする心をもつ。								66
3月	学級お別れ会をしよう	(1)	集会をとおして、お互いの成長やがんばりを認め合い、自他のよさに気付くことができる。								32/33
	6年間の成長を振り返ろう	(2)	自分や友達の成長を自覚し、新しい生活や将来に向けて夢や希望を膨らませることができる。								67

# 第6学年学級活動指導展開例

1. 題材名 「最高学年の役割」  
〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕
2. 目 標

最高学年としての役割を知り、その責任を果たそうとする意欲とリーダーとしての自覚をもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

小学校最終学年のスタートに当たり、自らの学校生活をよりよいものにしていこうとする意欲を高め、目標をもって生活を心がけさせる。

最上級生としての自分の役割を理解させ、様々な活動に取り組む意欲を高める。

### 進路発達にかかわる諸能力

【役割認識力】：6年生の仕事や役割を考え、最高学年としての責任の大きさに気付く。

【意思決定力】：最高学年としての自覚を高め、自己の具体的な努力目標を立て、リーダーとしての活動に進んで取り組もうとする意欲をもつ。

## 4. 展開案

事前	「6年生への期待の声」として、VTRの収録やゲストティーチャーへの協力依頼を行っておく。進級時の子どもたちの様子がわかる資料(日記等)を収集しておき、本時の展開に位置付ける。本時の授業内容を事前に知らせておき、学習の構えをもって授業に臨ませるようにする。			
本時	課題把握	学習活動 1 6年生に進級した今の気持ちを発表し合う。 2 「6年生とは学校の である」の中に入る言葉を予想する。 3 本時の課題を設定する。 「6年生とは学校の顔である」とはどんな意味か考えよう。	資料等 紙板書	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・進級した気持ちを自由に話し合わせたり、の中に入る言葉を予想させたりしながら、本時の学習の方向性(6年生としての在り方を考える)を示す。 【役割認識】 ・「6年生とは学校の顔である」を板書で示し、文の意味を問いながら課題設定につなげる。
	課題追究	4 「学校の顔」の意味について自分なりに考え、ワークシートに書く。 5 6年生としての仕事や役割について考える。 (1)知っている6年生の仕事を発表し合う。 (2)VTR資料やインタビュー活動等から、6年生に対する期待や願いについて気付く。 (3)最高学年に期待する担任の願いを聞く。	ワークシート 6年生に期待すること(VTRやゲストティーチャー)	【役割認識】 ・自分なりの考えを記述させることにより、課題について子どもたち個々が主体的に考えられるようにする。 【意思決定】 ・これまでの学校生活を振り返らせながら、6年生がどのような場で、どのような仕事をしているか発表させ板書する。 【情報活用・意思決定】 ・下級生や教職員の「6年生に期待する声」をVTRで示したり、校長先生の話を直接聞かせたりしながら、最高学年としての期待に気付かせたい。
	まとめ	6 6年生として自分の頑張りたい目標をもつ。 7 教師の話聞き、今後の活動の見通しをもつ。	目標カード	【役割認識・意思決定】 ・VTRを視聴した感想等を子どもたちから引き出ししながら、担任としての学級作りや6年生に期待する思いを伝える。 【役割認識・意思決定】 ・最高学年としての役割を自覚させながら、リーダーとして自分なりにがんばっていきたい目標を決めさせ、カードに書かせる。 【役割認識・意思決定】
事後	子どもたちが立てた目標を教室に掲示し、活動の意欲化を図る。シール等を用いながら、目標に応じた活動状況を自己評価させる。子どもたちの活動状況をチェックしながら、適宜指導したり賞揚したりする。			

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【児童会活動：1年生を迎える会】 最高学年としての自覚をもって、会の企画や運営、1年生のお世話に取り組む。
- 【児童会活動：児童総会・委員会】 組織作りや活動計画の立案の際に、進んで意見を出したり、主体的に活動したりする。
- 【クラブ活動】 組織作りや活動計画の立案、クラブの運営にリーダー性を発揮して取り組む。

1. 題材名 「学級目標を決めよう」  
〔6年 学級活動(1):学級や学校の生活の向上に関すること〕

2. 目 標

一人一人が学級の成員としての自覚と理想の学級像をもち、よりよい学級生活を願いながら、主体的に学級目標作りに取り組むことができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
集団の場でも自分の考えをしっかりと持ち、表現できる力を育てる場とする。また、話合いの運営にかかわる自己の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。  
よりよい学校生活を願う気持ちをもたせ、目標をもって行動することの意義に気付かせる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：自己の考えを進んで発表したり、友達の意見を取り入れたりしながら、学級目標作り主体的に取り組む。  
【役割認識力】：話合い活動における自分の役割を理解し、事前の準備や当日の運営において、意欲的に責任を果たそうとする。  
【意思決定力】：学級目標について話合いを通じ、よりよいクラスを作っていこうとする願いを高め、目標実現に向けた一層の実践意欲をもつ。

4. 展開案

事前	<p>始業式や学級活動(「最高学年の役割」)の授業等で、最上級生としての意欲とリーダーとしての自覚を高めておく。 計画委員会を組織し、議題、話合いのめあて、話合いの内容、役割分担を決める。 係担当の子どもたちには、話合い活動を円滑に進めるために、事前の準備をしっかりと行うよう話すとともに、その取り組み状況を把握し適宜指導する。 「話合いカード」を学級全員に配付し、話合いの内容を知らせるとともに、「どのような学級にしたいか」「どのような目標がよいか」の2点について、自分の考えをしっかりと持たせておく。</p>			
話し合い活動(本時)	話し合いの順序	児童の活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	資料等
	1 はじめの言葉	・係が開会宣言をする。	・各係の子どもが自信をもって自分の役割に取り組めるように、事前の教師の声かけを大事にする。 【コミュニケーション・役割認識】	話し合いカード          振り返りカード
	2 係の紹介	・各係が自己紹介において、自分の役割と目標を話す。	・話合いカードを用い、本時の活動への意欲と見通しをもたせ、どの子ども主体的に話合いに参加させる。 【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
	3 議題の確認 「最高の顔」になれるよう、学級目標を決めよう。	・本時の議題、話合いのめあて、話合いの進め方を確認する。	・最高学年として役割や小学校生活最後の一年であること等について触れ、目標作りに向けた意欲を高める。 【意思決定・役割認識】	
	4 先生から	・担任の話を聞き、学級目標について積極的に話し合おうとする気持ちと、話合いの視点をもつ。	・話合いの目的(「最高の顔」=最高のクラス)を常に意識させ、それぞれの考えのよさに着目させながら、建設的な話合いをさせたい。 【コミュニケーション・意思決定・役割認識】	
	5 話し合い	・話合いの柱に沿い、学級目標について話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自分が願うクラスの姿 どんな目標がよいか ・スローガン ・具体目標</div>	・話合いの内容、話合い活動への取り組み態度、係の働きの様子、今後の活動への意欲付け等を視点に話す。 【意思決定・役割認識】	
	6 まとめ	・話し合いによって決まったことを確認する。		
	7 先生から	・本時の活動の振り返りをカードに書く。		
	8 終わりの言葉	・係が閉会宣言をする		
事後	<p>話し合い(学級会)の様子を学級通信にまとめ、話し合い活動を振り返らせながら、今後の話し合いや学級生活に向けた意欲を高める。 決まった学級目標を掲示し、日々、目標を意識した生活に心がけさせる。教師も、常に学級目標に立ち返らせながら、子どもたちの学級生活の様子について評価していく。</p>			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【学級活動】 題材「最高学年の自覚」において最高学年に進級した喜びを感じるとともに、最上級生としての自覚をもつ。  
【国語】 巻頭の詩「創造」を読み、今後の生活についての意欲や夢を膨らませる。

1. 題材名 「安全な登下校を考えよう」

〔6年 学級活動(2)：健康で安全な生活態度の形成〕

2. 目 標

安全な登下校の仕方を知るとともに、自らの安全を主体的に守ろうとする意識をもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

将来の夢や希望は命があってこそ実現できるものであることに気付かせ、自らの命を大切にしようとする気持ちや態度を育てる。

命にかかわる諸資料を効果的に活用できる力を育てる場とする。

**進路発達にかかわる諸能力**

【自己理解力】：命の尊さに気付き、自らの安全を主体的に守ろうとする気持ちをもつ。

【情報活用力】：諸資料から事故の危険性を読み取り、安全な登下校の仕方を理解する。

【課題解決力】：危険マップ作りの活動等から登下校時の危険性を知り、進んでルールを守り、安全な行動をとることができる。

4. 展開案 4. 展開案

事前	学区内の事故や事件、子どもの安全にかかわる資料等を収集しておく。 登下校時を含め、学校での子どもの安全を願う保護者の気持ちを手紙に書いていただくよう、事前に家庭からの協力を得る。			
本 時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
	課題把握	事故や事件に関する写真、新聞記事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事や写真等の安全にかかわる資料を提示し、感想を話し合わせる。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・登下校時の危険性の大きさに気付かせながら、本時の学習課題を立てる。 【自己理解・情報活用・課題解決】</li> </ul>	
	1 身近に見たり、経験したりした登下校中の事故や事件について話し合う。 2 登下校時の事故や事件に関する資料を提示し、感想を話し合いながら、本時の学習課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">安全な登下校の仕方を知ろう。</div>			
	本 時 追 究	3 学区内の「危険マップ作り」の活動を行い、登下校時の危険性を知る。 ・学区の地図を基に、交通事故にかかわる危険箇所を調べる ・不審者等の「声かけ事案」	学区内の地図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験を基に、学区内にはどのような危険性があるかを子どもたち自身に考えさせ、地図に表現していく。 【情報活用・課題解決】</li> </ul>
	追 究	4 登下校時の安全を守る方法について知る。 ・交通ルールの遵守 ・危険回避行動 ・下学年への模範、指導		<ul style="list-style-type: none"> <li>・最高学年としての役割についても考えさせたい。 【自己理解・情報活用・課題解決】</li> </ul>
	追 究	5 命の尊さを考え、自らの安全を守ろうとする意識を高める。 (1)自分の夢や希望について考えながら命の価値に気付く (2)手紙から子どもの命を常に気づかう保護者の願いを知り、命のもつ意味の大きさに気付く	保護者からの手紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や希望の実現は命があってこそ実現されるものであることに気付かせたい。 【自己理解・課題解決】</li> <li>・手紙から自分の命は、多くの人々の愛情で育まれていることをとらえ、自らの命を大事にしようとする気持ちをもつ。 【自己理解・情報活用・課題解決】</li> </ul>
	ま と め	6 自らの登下校の仕方を振り返り、今後の生活で気を付けていきたいことや努力したいことをワークシートに書く。 7 教師の話聞き、実践に向けた意識を高める。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の学習を振り返らせ、感じたことや今後の生活で実践していきたいことをまとめさせる。 【自己理解・課題解決】</li> </ul>
事後	安全指導部担当や保護者と連携を取りながら、登下校時の様子を観察し、適宜評価する。 学習の様子を学級通信等で保護者にも知らせ、家庭との連携の上で、学習事項の実践化を図る。 交通安全教室で、具体的な安全指導を行う。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【道徳】 資料「ラッシュアワーの惨劇」を基に、自他の生命を尊重しようとする気持ちを深める。

【学校行事】 正しい交通安全の仕方を知り、自らの身を守る安全意識を高める。

1. 題材名 「そうじ名人になろう」

〔6年 学級活動(2)：基本的生活習慣の形成、その他の内容(勤労に関する指導)〕

2. 目標

そうじの仕方を振り返り、よりよいそうじの仕方を知るとともに、働くことへの一層の意欲をもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 働くことの意義や喜びを感じさせる場とする。  
 学校生活を支える自分の役割を理解させ、勤労意欲を高める。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【役割認識力】**：健康的な学校生活を維持するためのそうじの意義や、自己の役割を果たして働くことの大切さに気付く。  
**【職業理解力】**：校舎内の清掃活動にかかわらせ、地域社会の健康的な暮らしを支えている職業について関心をもつ。  
**【課題解決力】**：学級生活を向上させるために、進んで清掃活動に取り組もうとする。

4. 展開案

事前	日常の清掃活動の様子をVTRに収録しておく。 そうじに関する子どもたちの意識調査を行い、グラフ化しておく。			
本 時 追 究	課題把握	学習活動	資料等	
	課題把握	1 日常の清掃活動の様子をVTRで振り返り、問題点に気付く。  2 そうじに関するアンケート結果のグラフを見て気付いたことを話し合い、本時の学習課題を立てる。  学校一の「そうじ名人」をめざして、そうじパワーアップ作戦を立てよう。	そうじの様子 のVTR  そうじに関する意識調査結果	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・VTRやアンケート結果の資料から、これまでの清掃活動における問題として、技術的な問題と勤労意欲にかかわる問題の2点をとらえさせる。 【課題解決】 ・最高学年の責任とそうじにかかわる現状とを見つめ直させ、最上級生としての役割を確かめさせ、本時の課題設定につなげる。 【役割認識・課題解決】
		3 そうじの意義について考える。 (1)そうじが必要な理由を各自考え、意見を交流し合う。  (2)清掃にかかわる業務についている人たちについて、知っていることを発表し合い、働く人たちの気持ちについて考える。  (3)野球用具を大事にする「イチロー選手」の姿から、自分たちの校舎を大事にするための意義を考える。	清掃ボランティアの話(文)  イチロー選手の写真と文章資料	・アンケート結果を基に、そうじの必要性について改めて考える場とする。衛生的な理由だけでなく、「働くことによる気持ちよさ」について視点を当てていく。 【役割認識・職業理解・課題解決】 ・生活科や社会科の学習を想起させ、家の人たちや市の清掃事業で働く人々、地域のボランティアの方々の存在に気付かせる。ボランティアの方々の話から、地域のために働くことの喜びに気付かせる。 【役割認識・職業理解・課題解決】
	課題追究	4 グループ毎により上手にそうじを行う方法として、「そうじパワーアップ作戦」を立てる。	めあてカード	・イチロー選手の姿から、気持ちよい学校生活を送るために自分たちの学びの場を大切にしようとする気持ちをもたせたい。 【役割認識・職業理解・課題解決】
	まとめ	5 本時の学習を振り返り、考えたことや今後の生活で頑張っていきたいことをワークシートに書く。	ワークシート	・今までのそうじの現状を振り返らせながら、よりよいそうじを行うための方法について話し合わせる。 【役割認識・職業理解・課題解決】
	まとめ	6 6年生のそうじに期待する校長先生の話聞き、実践化への意欲をもつ。	校長先生の話	・個々に今後の目標を持たせ、自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちをもたせる。 【役割認識・課題解決】
事後	グループで立てた目標を掲示し、清掃活動での実践化を図る。 清掃時の子どもたちの様子を観察し、望ましい取り組み姿勢を評価する。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【道徳】** 資料「よみがえれ日本海」を基に、勤労の意義を理解し、人や社会に奉仕する喜びを知る。  
**【学校行事】** 運動会への取り組みにおいて、全校のために働くことの価値について考える。

1. 題材名 「歯の健康について考えよう」  
〔6年 学級活動(2)：基本的な生活習慣の形成・健康で安全な生活態度の形成〕

2. 目 標

日常の歯磨きの様子を振り返り、正しい歯磨きの仕方を知り実践に生かそうとする。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
充実した人生を送るために、自らの命や健康を守ることが大切であることに気付かせる。  
自らの健康に関する資料や情報を適切に読み取ったり、活用したりする力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【情報活用力】：G Tの話や写真等の資料から歯の健康に関する問題を見つけたり、正しい歯磨きの仕方を理解したりする。  
【課題解決力】：自らの健康に対する関心を高め、歯の健康を守るための方法を知り、実生活で進んで生かそうとする。

4. 展開案 (Team Teaching : T1 = 学級担任・T2 = 養護教諭)

事前	歯科検診の結果から虫歯の罹患率をグラフ化しておく。 養護教諭との連携(T.Tでの授業)を図り、本時の授業プランの検討を協議しておく。 本時の活動で使用する物(コップ・タオル・手鏡・色えんぴつ)を前日までの連絡し、準備しておく。			
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
	課題把握	1 虫歯の罹患率のグラフを見て、気付いたことを話し合う。 2 養護教諭(T2)の「虫歯がもたらす悪影響」の話を読み、感想を話し合う。 3 本時の学習課題を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">虫歯にならないための歯みがきの仕方を知ろう。</div>	虫歯の罹患率グラフ 虫歯の悪影響に関する写真 歯のきれいなスポーツ選手の写真	・歯磨きの習慣が形成されているにもかかわらず、虫歯の罹患率が高いという事実気付かせたい。 【情報活用・課題解決】 ・養護教諭が写真等の具体的な資料を基に、虫歯がもたらす悪影響について、子どもたちに説明する。 【情報活用】
	課題追究	4 カラーテスターを用い、汚れの付着しやすい部位を調べ、気付いたことを話し合う。 5 T2の話から正しいブラッシングの方法を知る。 6 正しいブラッシングを意識しながら、実際に歯磨きを行う。	ワークシート モデル用歯ブラシ	・運動や学習面等にも影響が大きいことに気付かせ、子どもたちが抱く夢や希望の実現にも影響を与えることを知らせ、歯の健康を自分の問題としてとらえさせたい。スポーツ選手の写真等も参考資料として提示する。 【情報活用】 ・汚れの付着しやすい部位を予想させた後に、活動に入る。ワークシートに測定結果を色鉛筆で記入させ、日常の歯磨きの問題点に気付かせたい。 【情報活用・課題解決】
	まとめ	7 本時の学習で感じたことや、これからの日常生活で努力することをワークシートに書き、発表し合う。 8 T1、T2から健康に本時の学習や健康に関する話を聞き、自らの健康は自分で守ろうとする気持ちをもつ	ワークシート	・各自ワークシートに記入させることにより、健康に対する個々の意識を高めさせたり、実践化に向けた意欲を高めたりする。 【情報活用・課題解決】 ・充実した人生を送るためにも健康を守ることが大切であることや、自分の体は自分で守っていく必要があることを伝える。 【課題解決】
事後	2週間程度の歯磨きカードによる取り組み期間を設け、学習事項の実践化や習慣化を促す。 授業の様子や子どもたちが書いたワークシートの内容等を学級通信等で知らせ、実践化に向けた家庭との協力を図る。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【体育】 保健領域「病気の予防」において、自らの健康は自分で守ろうとする意識をもつ。

# 1. 題材名 「自分のよさを見つけよう」

(6年 学級活動(2): 希望や目標をもって生きる態度の形成・望ましい人間関係の育成)

## 2. 目 標

「よいところみつけ」の活動をとおり、自分のよさに関心をもつとともに、他者との温かな人間関係を築こうとする気持ちをもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
互いのよさを見付けさせる活動を通し、自他の存在を尊重し、よりよい人間関係を築こうとする態度を培う。  
自己肯定感を高め、今後の学校生活や将来への夢や希望を膨らませる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】: 他者の「よさみつけ」の活動に進んで取り組み、自他の違いや個性を認める気持ちをもつ。  
【自己理解力】: 自分自身の長所や個性を見つめ、自己を大事にしようとする気持ちをもつ。  
【将来設計力】: 自らの将来の生き方について興味や関心もち、自己の個性や長所を生かした夢や希望を膨らませることができる。

## 4. 展開案

事前	日常から個々の子どもの活躍や頑張りの様子を観察し、ファイル等に記録しておく。 保護者に協力を依頼し、「我が子のよさと願い」について、カードに書いていただく。 金子みすゞの詩「わたしと小鳥とすずと」を板書資料として用意しておく。 事前に、「自分のよさ」をテーマにして考えたことをワークシートに書かせ、記述状況を把握しておく。			
本時	課題把握	<b>学習活動</b> 1 金子みすゞの詩「わたしと小鳥とすずと」を音読し、詩の内容について話し合う。 2 本時の学習目標を設定する。 自分や友達のよいところをたくさん発見しよう!	資料等 「わたしと小鳥とすずと」 学級目標	<b>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</b> ・3年生で学習した詩を音読させ、詩に表現された内容(互いの個性を大事にし合う詩)を想起させる。 【コミュニケーション】 ・本時は、自分のよさや友達のよさを見つけ、よりよい学級作りにつなげていく時間であることを知らせる。他者のよさを見つける目をもつことのすばらしさを話し、活動への意欲化を図る。 【コミュニケーション・自己理解】 ・否定的なことや相手を傷つける内容等は絶対に書かないという指導を徹底する。 【コミュニケーション・自己理解】 ・事前に保護者に依頼していたカードと担任が記入したカードを配付する。「よいところメッセージ」をとおり、自分のよさや周囲の愛情に気付かせる。 【自己理解・将来設計】 ・人によって個性は異なることや、誰もがすばらしいよさがあることを押さえる。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】 ・互いのよさを見つけ合うことによって感じる温かな気持ちや自分を大切に思う気持ちを大切にさせたい。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】 ・学級目標の実現に向かい、互いのよさを大事にしながら頑張っていくことを確認し、本時の学習を終える。 【コミュニケーション・自己理解・将来設計】
	課題追究	3 「よいところみつけ」の活動の方法を知らせる。 カードに書く内容を知らせる。 友達のよいところを見つけて書く。 ・始めに隣どおし書く。 ・次に無作為に選んだ友達について書く(3回) 最後に、自分にカードを戻し、読み合う。 4 保護者や担任が書いた「よいところ」カードを読む。 5 友達や保護者、担任が書いた「自分のよさ」を読み、気付いたことや感想を話し合う。	ワークシート よいところみつけカード よいところカード (担任・保護者) ワークシート	
	まとめ	6 本時の学習を振り返り、「よいところみつけ」を行ってみて、わかったことや感じたことを話し合う。 7 学習内容を想起しながら「わたしと小鳥とすずと」を音読する。	ワークシート	
	事後	本時の学習の内容を家庭にも知らせ、自他の個性を大切にしようとする気持ちを学校、家庭でも作っていく。 帰りの会等でも「よいことみつけ」を行い、互いのよさを大事にする心を育てる。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 「帰りの会」で他者のよさや頑張りを紹介し合う。  
【道徳】 資料「なぜ子どもは学校に行かねばならないのか」を基に、夢や希望を見出し自分を生かしていくことの大切さについての自覚を深める。

1. 題材名 「充実した夏休みに！」

(6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成・健康で安全な生活態度の形成・基本的生活習慣の形成)

2. 目標

小学校最後の夏休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、自己の向上を図るための具体的な目標や計画を立てることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 年度当初に立てた目標の実現状況を振り返らせ、自らの生活について主体的に考えさせる場とする。  
 充実した生活を送ろうとする意欲を高め、その実現のための努力目標を決めたり、具体的な計画を立案したりする力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【課題解決力】**：有意義な夏休みを過ごすために、目標や具体的な取り組み事項を主体的に決めることができる。  
**【意思決定力】**：1学期の反省を基に自己を向上させようとする気持ちをもち、よりよい夏休みを過ごそうとする意欲をもち。

4. 展開案

事前	学期当初に立てた個人の目標の実現状況を振り返るワークシートを事前に配付し、1学期の成果や反省点を子どもたち個々に考えさせておく。 これまでの学級の歩みや成長がわかる具体的な資料(学級通信や写真等)を準備しておく。 夏休みに頑張りたいことや取り組みたいことを事前に考えさせておく。家での手伝いや家庭行事等、計画に必要な事項については、事前に家庭で話し合わせておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 1学期の目標を振り返り、成長した点や努力が必要な点を明らかにする。  2 夏休みのもつ意義について教師の話聞き、本時の学習課題を立てる。  充実した夏休みを過ごすために、しっかりした夏休みの計画を立てよう！	ワークシート  学級の歩みや成長がわかる具体資料	・成長点、努力点について版書で整理する。教師の側からもクラスや子どもたちの成長点を具体的に示し、成長したところや頑張ったところを大いに評価し、認めていく。  【意思決定】 ・教師自身の体験談等を基に、小学校生活最後であること、いろいろなことへの挑戦や成長が期待できる夏休みであることを話し、課題意識を高める。  【意思決定】 ・どのような夏休みを過ごしたいか、一人一人の子にしっかりと考えさせる時間を確保し、1学期の生活で努力が必要な点や、これまでの夏休みにおける課題等を想起させながら目標を立てさせる。  【課題解決・意思決定】 ・家での仕事(手伝い)は、事前に家庭で相談しておくようにさせる。  【課題解決】 ・家庭や地域、子ども会等で、各自の役割を明確にし、役割をしっかり果たそうとする気持ちを大事にする。  【課題解決】 ・自らの生活について主体的に考えさせながら、明確な目標を立てさせる。  【課題解決・意思決定】 ・家庭や地域社会とのかかわりを積極的に設けた計画作りを働きかける。  【課題解決・意思決定】
	3 夏休みの目標と具体的な取り組み事項を考え、夏休みの計画を立てる。 全体目標を立てる 具体的な取り組み事項(目標)を決める ア 学習について 学習時間 学習内容 興味や関心を追究する活動計画 イ 生活について 生活時程 手伝いの内容 ウ 体力作りの取り組み 早起きマラソン等 エ 地域・子ども会活動について 子ども会行事等 行事予定を書く	夏休みの計画表	
	4 各自の目標や頑張りたいことを紹介し合いながら、計画の吟味をする。		
	5 本時の学習を振り返り、夏休みに向けた決意を發表し合う。		
事後	計画表を回収し、計画が不十分な子どもには個別に指導する。教師の一言コメントを書き添え、夏休みに向けた意欲の向上を図る。 個々の目標を学級通信等で紹介し、活動への意欲化を図る。 作成した計画表は家庭にも示し、子どもたちの自主的な計画遂行に向けた支援体制を作る。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【総合的な学習の時間】** 「自由研究に挑戦しよう」の学習で、夏休みの研究テーマを決め、研究計画を立てる。

# 1. 題材名 「2学期の目標を決めよう」

(6年 学級活動(2): 希望や目標をもって生きる態度の形成)

## 2. 目標

1学期や夏休みの生活の反省を基に、具体的な目標を立て、2学期の学校生活への意欲をもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

1学期や夏休みのくらしを振り返らせ、自らを向上させようとする気持ちをもたせる。  
充実した学校生活を送ろうとする意欲を高め、その実現のための努力目標を決めさせる。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【課題解決力】: これまでの生活を振り返りながら、目標や具体的な取り組み事項を主体的に決めることができる。  
【意思決定力】: 1学期や夏休みの反省を基に、さらに自己を向上させようとする気持ちを持ち、よりよい2学期を過ごそうとする意欲をもつ。

## 4. 展開案

事前	2学期の始業式当日は、2学期の重要性や子どもたちへの期待を込めたメッセージを黒板に書いて、子どもたちを迎える。 1学期の反省で用いた振り返りカードと2学期の目標を書くカードを準備しておく。 始業式当日の校長先生の話をもVTR等の記録に撮っておく。また、始業式に出席する前に、式の話をしっかり聞くよう教室で指導しておく。		
本 時 追 究	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
	1 始業式での校長先生の話を取り出しなが ら、2学期の学校生活への見通しと 意欲をもつ。  2 本時の学習課題を立てる。  2学期をしっかり過ごすための目標を決め よう。	始業式での 校長先生 の話	・校長先生の話をも基に、2学期に行われ る行事等を発表させながら2学期の学 校生活に対する意欲を高める。  【意思決定】 ・2学期がクラスも個人も最も成長でき る学期であること、スタートの気持ち 作りが大切であることを伝え、本時の 学習の意義をとらえさせる。
	3 これまでの生活を振り返りながら、 学級として努力が必要なこと、個人と して重点的に2学期に取り組んでいき たいことを考え、ワークシートに書く。	1学期の振 り返りカ ード ワークシ ート	【意思決定】 ・ワークシートへの記述をとおり、学級 全体の様子や個人の生活態度等、一人 一人の子に自分の問題としてしっかりと 見つめ直させる。  【課題解決・意思決定】 ・ワークシートをも基に発表させる。これ までの成長を押さえながら、さらなる 成長に向けて必要となる努力点を考え させる。
	4 2学期に学級全員で取り組んでいき たいことを話し合う。  5 ワークシートへの記述をも基に、自分 自身で努力していききたいこと(2学期 の目標)をカードに書く。 ア 学習態度に関すること イ 生活態度に関すること ウ 係や仕事等に関すること	目標カ ード	【課題解決・意思決定】 ・ア～ウの3つの観点について目標を立 てさせる。目標は、何をどのように取 り組むかが具体的にわかるものである こと、継続した取り組みが可能なもの であることに留意する。目標を決める 際には、6年生としての役割や自覚を 大事にしたい。  【課題解決・意思決定】 ・個別的な取り組みととらえず、学級全 体で頑張っていこうとする雰囲気をも 大事にする。2学期での6年生に期待す る担任の願いを伝え、目標をも実践化を 促し学習を終える。  【意思決定】
まとめ	6 各自の目標を交流し合い、実践化への意欲を高める。		
事後	学級での努力事項や個人の目標は教室に掲示し、シール等を用いながら日々自己評価(チェック)が可能な環境を作る。 教師も子どもたちの活動状況や自己評価の様子をとらえ、適宜賞賛したり、指導したりする。 授業の様子や個々の目標、日々の取り組み状況等を学級通信等で知らせながら、目標の実践化や意欲の持続化を図る。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 家庭学習や係活動、清掃活動等、自分で決めた目標をも実践する。

1. 題材名 「たばこと健康」  
〔6年 学級活動(2)：健康で安全な生活態度の形成〕

2. 目 標

喫煙が及ぼす害悪について知り、自らの健康や人生を大事にしようとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

たばこの害を調べさせることをとおし、自らの人生や健康を大事にしようとする気持ちや態度を育てる。  
資料を効果的に活用する力や自らの意志を明確に表現できる力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【自己理解力】：喫煙の害悪と健康とのかかわりを考え、自らの健康や人生を大事にしようとする気持ちをもつ。  
【情報活用力】：養護教諭の話やデータ資料等から、喫煙が及ぼす害悪を知る。  
【意思決定力】：喫煙が健康に与える影響を正しく理解し、進められてもきっぱりとした意志をもって断ることができる。

4. 展開案 (Team Teaching: T1 = 学級担任・T2 = 養護教諭)

事前	事後指導での家庭との連携を図るため、授業の内容を家庭にも知らせておき、保護者の授業参観も呼びかける。 養護教諭との連携(T.Tでの授業)を図り、本時の授業プランの検討を協議しておく。 喫煙経験のある方(現在、禁煙)に授業における協力を依頼しておく。また、喫煙に関するポスターやVTR等の資料を収集しておく。			
	課題把握	<p style="text-align: center;">学習活動</p> <p>1 喫煙に関するポスターや新聞記事等を見て、気付いたことを話し合う。 ・たばこは健康に影響があるようだ ・20歳未満は禁止になっている ・禁煙が勧められている 等</p> <p>2 本時の学習課題を立てる。 たばこの害について考えよう。</p>	<p>資料等</p> <p>ポスターや新聞記事等</p>	<p>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</p> <p>・マスコミ等で示される喫煙関連の資料には、禁煙を訴えるものが多いことに気付かせる。また、未成年者の喫煙が禁止されている事実もとらえさせながら、本時の課題設定につなげる。 【情報活用】</p>
本時	課題追究	<p>3 「たばこ」についての自分なりのイメージや知っていること等について話し合う。</p> <p>4 喫煙が健康に及ぼす影響を知る。 (1)養護教諭(T2)の話聞く</p> <p>(2)ゲストティーチャー(喫煙経験者)の話聞く</p> <p>5 健康面以外の喫煙の問題について知る。</p> <p>6 ロールプレイングにより、たばこを勧められたときの断り方を考える。</p>	<p>たばこを吸う人の肺の写真 喫煙とガン発生率の関係(グラフ) 受動喫煙の害の話 等 GTの話</p>	<p>・養護教諭が、喫煙と健康との関係について具体的な資料を基に説明し、喫煙が多くての重大な病気との相関関係があること、若年者の影響が大きいこと、やめたくてもやめられにくいこと等をしっかり押さえさせる。 【情報活用】</p> <p>・GTがなぜ禁煙を決めたか知らせることによって、たばこの害悪について具体的にとらえさせたい。 【情報活用】</p> <p>・喫煙は違法行為であること、健康を害する行為は自らの豊かな未来の障壁になることをしっかりと伝えたい。 【自己理解・意思決定】</p> <p>・演技は真剣な気持ちで行わせる。たばこを勧める側の役は、GTが務める。明確な意志をもって断ることの大切さを確認する。 【自己理解・意思決定】</p>
	まとめ	7 本時の学習を振り返り、たばこについての自分の考えを書く。	<p>ロールプレイングワークシート</p>	<p>・喫煙の問題について、自らの人生や健康とのかかわりから考えさせる。喫煙に限らず、しっかりとした善悪の判断力と意志をもって行動することが自分の人生を歩む上で大切となることを伝え、本時の学習を終える。 【自己理解・意思決定】</p>
事後	本時の学習の様子を学級通信等で家庭にも知らせ、喫煙指導に関する家庭との協力を得る。 学習に用いた写真資料等を教室や廊下に掲示し、喫煙に関する理解を継続して図っていく。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【体育】 保健領域「病気の予防」において、健康に対する意識を高め、健康保持の方法を知る。  
【道徳】 資料「わたしの思い」を基に、生命の尊さを考え命を大切に生きていこうとする気持ちをもつ。

1. 題材名 「『フリーター』って何？」

〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

フリーター問題について調べることをとおし、いろいろな仕事についての興味をもち、自分の将来の職業生活についての関心を高める。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

将来の職業選択の際の一つの資料として「フリーター」に関する情報を提供し、フリーターの問題に気付かせながら、自己の生き方を考えさせるきっかけとする。  
グラフや統計等の資料を適切に読み取る力を育てる場とする。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【職業理解力】：職業には様々な種類があることに気付いたり、「フリーター」に関する知識を広げたりしながら、仕事についての理解を深める。
- 【将来設計力】：将来の自分の職業生活について、夢や憧れの気持ちを膨らませることができる。
- 【情報活用力】：辞書を活用したり、統計資料や読み物資料を読み取ったりしながら、フリーターについて正しい情報を得る。

4. 展開案

事前	校内の教職員から、子どもころの憧れの職業についてインタビューし、クイズを作成しておく。フリーターに関する資料を収集し、6年生の児童が理解しやすいよう加工しておく。		
	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	1 自分が知っている職業や興味ある職業について発表し合う。 2 「先生方のなりたがった職業当てクイズ」を行い、本時の学習についての興味・関心を高める。 3 「フリーター」の数の推移をグラフで示し、本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">「フリーター」について考えよう。</div>	先生方の憧れの職業当てクイズ  フリーターの数	・子どもたちから出された職業はどれも大事に扱う。 <div style="text-align: right;">【職業理解・将来設計】</div> ・クイズをとおして、本時の学習に対する和やかな雰囲気を作るとともに、いろいろな職業があることに気付かせたい。 <div style="text-align: right;">【職業理解・将来設計】</div> ・「フリーター」の数が増大していることをグラフから読み取らせ、フリーターについての関心をもたせる。
本時	4 「フリーター」について知っていることや言葉からイメージすることを発表し合う。 5 「フリーター」の意味を辞書で調べる。 「定職に就かずアルバイトで生計を立てている人」	辞書  フリーターの声	・子どもたちから出された発言事項を板書で整理する。「よくわからない」という声も認め、以後の展開で生かす。 <div style="text-align: right;">【職業理解】</div> ・辞書を活用させ「フリーター」「定職」「アルバイト」等の用語を調べさせ、フリーターの意味をとらえさせる。 <div style="text-align: right;">【職業理解・情報活用】</div>
課題追究	6 「フリーターの声」や文書資料から、フリーターが増えてきたわけをとらえる。 7 生涯賃金や保険制度、税金面、働くことへの意識等、フリーターがかかえる問題点を知る。 8 フリーターについてどのように考えるか、意見を交換し合う。	定職従事者とフリーターとの雇用条件の差	・フリーター増加の理由は様々挙げられるが、本時では、雇用上の理由と本人の意志(やりたいことが見つからない)の2点を取り上げる。 <div style="text-align: right;">【職業理解・将来設計・情報活用】</div> ・賃金等の問題に加え、自分のやりたいことが見つからないという意識の問題を取り上げ、安易に「フリーター」を選択することがないように配慮する。 <div style="text-align: right;">【職業理解・将来設計・情報活用】</div>
まとめ	9 教師の話聞き、いろいろなことに興味を抱きチャレンジする気持ちをもつことが大切であることを知る。		・単純にフリーターを否定することはしない。いろいろな力を伸ばしていくことの大切さを知らせ、今後の生活についての意欲をもたせる。 <div style="text-align: right;">【将来設計】</div>
事後	本時で将来の職業生活への興味・関心を高めさせた上で、次の学級活動での「未来の自分史作り」の学習を行う。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【学級活動】 「未来の自分史作り」で、夢や希望を膨らませながら将来の人生設計について考える。  
 【社会】 「憲法と私たちの暮らし」において、基本的人権としての職業選択の自由や納税の義務について調べる。

1. 題材名 「未来の『自分史』を作ろう」

〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目標

夢や憧れをもって、自らの将来設計について考えることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

未来の自分史を思い描かせることにより、自らの将来への夢や希望を育む。  
自らの将来を見据えさせながら、今の生活での努力目標をもたせる場とする。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【自己理解力】：未来の自分史作りをとおり、自分の将来について夢や希望をもって主体的に考えようとする。
- 【職業理解力】：自分の関心のある職業について、興味を広げたり、理解を深めたりする。
- 【将来設計力】：豊かな家庭生活や社会生活を送るために、人間関係の充実や日々の学習が大切であることを知る。
- 【課題解決力】：将来の夢に向かい、人生の節目での見通しや目標を構想しながら、日々の学校生活に意欲的に取り組もうとする。

4. 展開案

事前	「自分史」のワークシートと記入例を作成しておく。 本時の学習内容(自分の将来について考える)を予告しておき、憧れの職業や人生設計について考えておくよう話しておく。 イチロー選手、松井選手の自叙伝をもとに、「夢をもって過ごした少年時代」にかかわる資料を作成しておく。		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	1 イチロー選手の少年時代の夢の作文を読み、感想を話し合う。 2 松井選手の少年時代について話を聞く。 3 イチロー選手や松井選手の例を基に、本時では自分の将来について考えていくことを確認し、本時の学習の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px; width: fit-content;">未来の自分史を作ってみよう。</div>	イチローの少年時代  イチローの写真 松井選手の写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始めに本文のみ読ませ、作者を想像させる。本文にからめながら、イチロー選手についての感想を話させる。 【職業理解】</li> <li>・松井選手とイチロー選手の少年時代について比べさせ、二人とも子どものころから将来の夢をしっかりとっていたことに気付かせる。 【自己理解・職業理解】</li> <li>・「フリーター」の学習を想起させ、自分の将来について考えていくことの大切さを伝えながら、本時の学習課題を設定する。 【自己理解・職業理解】</li> </ul>
課題追究	4 「自分史」の内容を知る。 年齢に応じて、所属する集団(学校・職場等)を書く。 それぞれの年齢で、してみたいこと、しようとしていることを文とイラストで書く。	自分史の参考作品  自分史ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に記述させ、和やかな雰囲気の中で活動させるが、ふざけたり、冷やかしたりすることがないようにすること、自分の人生をしっかりと考えさせることに留意する。 【自己理解・職業理解・将来設計】</li> <li>・一人一人の活動状態を把握し、自分の将来の人生を進んで考えようとする姿を認めていく。 【自己理解・職業理解・将来設計】</li> <li>・それぞれの人生に対する考え方や生き方が違うことに留意させながら、互いのプランについて肯定的に認め合う雰囲気を作る。 【自己理解・職業理解・将来設計】</li> </ul>
まとめ	5 「自分史」作りに取り組む。  6 自分の将来に向かって、これから頑張っていきたいことを考える。 7 作成した「自分史」を交換して見合い、感想を交流し合う。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の将来を考えることによって感じた楽しさや期待感を大事にさせたい。自分の人生を大事にすること、今の生活をしっかりと頑張ることの大切さを話す。 【将来設計】</li> </ul>
事後	作成した作品を掲示したり、通信等で知らせたりしながら、お互いの生き方を尊重し合う気持ちを醸成する。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【国語】 谷川俊太郎の詩「生きる」を読み、将来について夢や希望の気持ちをもつ。
- 【道徳】 資料「天女、再び宇宙へ」を基に、自分のよさに気づきそれを伸ばしていこうとする気持ちをもつ。

# 1. 題材名 「家庭学習パワーアップ作戦」

( 6年 学級活動(2) : 希望や目標を生きる態度の形成・基本的な生活習慣の形成 )

## 2. 目 標

家庭学習の意義やよりよい学習方法を考え、自らの向上に向けて、家庭学習への意欲をもつ。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

向上心と目標をもって学習に取り組む意欲と態度を培う。

家庭学習の充実化をめざし、自らの学習態度を反省させたり、改善の方法を考えさせたりする。

### 進路発達にかかわる諸能力

【自己理解力】：自らの家庭学習の実態を見つめ、課題をとらえるとともに、自己を向上させようとする意欲をもつ。

【課題解決力】：家庭学習を充実化するための具体的な方法を考えることができる。

## 4. 展開案

事前	家庭学習に対するアンケート調査を行っておく。 家庭学習にかかわる問題点を把握しておく。 家庭学習を改善していくためのアドバイスとなる具体的な資料(ノート等)を準備しておく。			
本時	課題把握	<b>学習活動</b> 1 自分の将来の夢や目標を紹介し合い、「勉強すること」の大切さを押さえる。 2 家庭学習の意義を確認する。 3 家庭学習に関するアンケート調査の結果を見て、気付いたことを話し合い、本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">家庭学習をパワーアップする方法を考えよう!</div>	<b>資料等</b> 家庭学習アンケート結果	<b>進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</b> ・授業内容をしっかり定着させたり、自らを高めるために家庭学習の充実が大切であることを再確認する。 【自己理解】 ・アンケートでは、家庭学習の時間、家庭学習の意識、テレビ視聴時間、家庭学習の問題点の有無等を調査項目に盛り込む。家庭学習の大切さを理解しながらも改善の余地があることに気付かせ、課題設定につなげる。 【自己理解】
	課題追究	4 家庭学習チェックシートを基に、現状の家庭学習の問題点を具体的にとらえる。 5 「家庭学習パワーアップ作戦」の目標を立てる。 (1)学級全体の取り組み目標を決める (2)教師の話や友達のアドバイスを基に家庭学習を充実化する方法を考え、各自の具体的な取り組み目標を決める。 6 「家庭学習パワーアップシート」に各自の目標と具体的な取り組み事項を記入する。	家庭学習チェックシート  ノートのモデル例  家庭学習パワーアップシート	・具体的なチェック項目毎に自己の家庭学習の状況を確認させ、自分の家庭学習の現状をしっかりと見つけさせながら問題点を明らかにさせる。 【自己理解・課題解決】 ・家庭学習に対する個々の意欲を高めるために、学級全体で頑張るという意識を持たせる。終了したノートの冊数等、到達チェックが可能となる具体的な目標を設定をさせる。 【自己理解・課題解決】 ・ノートの使い方や計画の立て方等、モデルを示しながら家庭学習改善のためのアドバイスを具体的に与える。 【課題解決】 ・シートは、毎日のチェックが可能となるよう作成する。シートの活用によって、決めたことをしっかりと実践に移すこと、やる気を持続させることをねらう。 【自己理解・課題解決】
	まとめ	7 本時の学習を振り返り、家庭学習について考えたことをワークシートに書く。 8 これから頑張っていきたいことを発表し合う。	ワークシート	・向上心をもって家庭学習に取り組もうとする一人一人の意欲を大事にする。 【自己理解】
	事後	子どもたちが決めた目標は教室に掲示したり、通信等で知らせたりしながら、意欲の持続と実践化を図る。 家庭学習チェックシートに保護者からのコメント記入欄を設け、家庭との連携の上で家庭学習の向上を図る。 子どもたちの取り組み状況を教師が毎日チェックし、適宜必要なコメントを添え評価していく。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【日常活動】 決めたことを毎日の家庭学習で実践する。

【道徳】 資料「なぜ子供は学校に行かねばならないのか」を基に、学ぶことの大切さを知る。

1. 題材名 「読書は心の栄養」  
〔6年 学級活動(2)：学校図書館の利用〕

2. 目 標

感動した本を紹介し合ったり、読書の価値を話し合ったりしながら、読書への親しみを広げる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
読書を通じ、自己の興味や関心を広げさせる場とする。  
読書にかかわる自分の思いや好みを、他者に適切に伝えられる表現力を培う。

**進路発達にかかわる諸能力**  
【コミュニケーション力】：自分のお気に入りの本について、その本の特色や感想をわかりやすく表現することができる。また、他者の発表について自分の感想をしっかりと話したり、交流会での進行役を果たしたりすることができる。  
【将来設計力】：読書への親しみを深め、自己の興味や関心を広げる。

4. 展開案

事前	事前に「読書交流会」を開くことを知らせ、朝学習や家庭学習に本の内容や感想等を紹介カードに書かせておく。 教師もお薦めの本を準備しておく。			
本 時 課 題 追 究	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
	課題把握	1 本時の活動内容を確認し、活動のめあてを立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px auto;">読書交流会で、お薦めの本を交流し合おう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いにお気に入りの本を紹介し合い読書の世界を広げる活動であることを知らせる。 【コミュニケーション・将来設計】</li> <li>・発表者は、自分のセールスポイントがしっかり伝わるよう、わかりやすい発表（声の大きさ・スピード・表情等）に心がけるようにさせる。（活動の前に発表練習の時間を設ける） 【コミュニケーション】</li> <li>・聞く側は、しっかりと自分の感想を話せるよう指示しておく。 【コミュニケーション】</li> <li>・交流会後に、見つけたお気に入りの本を発表し合うことを事前に知らせ、活動意欲を高める。 【コミュニケーション】</li> <li>・教師もグループの活動に加わりながら活動状況を把握し、活動が滞っている班には助言していく。 【コミュニケーション】</li> <li>・紹介した友達の名前、お気に入りを選んだ理由もしっかり話させる。 【コミュニケーション・将来設計】</li> <li>・教師の側からもお気に入りの本を示すことで、読書は生涯通じて楽しめるものであることを知らせ、読書に対する関心を広める。 【将来設計】</li> </ul>	
	課題追	2 活動の進め方を知る 班内で発表し合う ・一人ずつ紹介カードをもとに発表する ・発表後、感想を全員で交流する ・司会は輪番制で、全員が努める 学級全体で紹介カードを交流する ・自分の机の上にカードと本を置く ・席を自由に動き、カードや本を読む ・一言メッセージを添える 交流会で見つけたお気に入りの本を発表する		紹介カード 紹介する本
	課題究	3 読書交流会を開く 班活動（グループ活動） 全体活動		メッセージカード
	課題究	4 発表を基に、興味をもった本について発表し合う。		教師のお薦めの本
	課題究	5 教師の発表を聞く		
まとめ	6 本時の活動の感想をワークシートに書く。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書への関心の高まりがみられる記述等を全体の場で紹介していく。 【将来設計】</li> </ul>	
事後	紹介カードと紹介した本は、学級にコーナーを作り自由に読めるようにしておく。 朝読書等でも、紹介した本を読む時間を設ける。 学級通信等で活動の様子や紹介カード等を知らせ、読書活動の一層の推進を図る。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【国語】 教材文「森へ」や「本は友達」の学習で、読書の楽しさや意義について理解を深める。  
【日常活動】 朝読書や休み時間等で、読書に親しんだり、進んで図書館を活用したりする。

1. 題材名 「 充実した冬休みに！ 」

〔 6年 学級活動(2) : 希望や目標をもって生きる態度の形成・健康で安全な生活態度の形成・基本的生活習慣の形成 〕

2. 目 標

小学校最後の冬休みを有意義に過ごそうとする意欲をもち、自己の向上を図るための具体的な目標や計画を立てることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**  
 学期当初に立てた目標の実現状況を振り返らせ、2学期の自らの生活について主体的に考えさせる場とする。  
 充実した生活を送ろうとする意欲を高め、その実現のための努力目標を決めたり、具体的な計画を立案したりする力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**  
**【課題解決力】**：冬休みは小学校生活のまとめとしての大事な意義があることを知り、有意義な冬休みを過ごすために、目標や具体的な取り組み事項を主体的に決めることができる。  
**【意思決定力】**：これまでの反省を基に自己を向上させようとする気持ちをもち、よりよい冬休みを過ごそうとする意欲をもち。

4. 展開案

事前	学期当初に立てた個人の目標の実現状況を振り返るワークシートを事前に配付し、2学期の成果や反省点を子どもたち個々に考えさせておく。 これまでの学級の歩みや成長がわかる具体的な資料(学級通信や写真等)を準備しておく。 冬休みに頑張りたいことや取り組みたいことを事前に考えさせておく。家での手伝いや家庭行事等、計画に必要な事項については、事前に家庭で話し合わせておく。			
	課題把握	学習活動 1 2学期の目標を振り返り、成長した点や努力が必要な点を明らかにする。 2 冬休みのもつ意義について教師の話聞き、本時の学習課題を立てる。 充実した冬休みを過ごすために、しっかりした冬休みの計画を立てよう！	資料等 ワークシート 学級の歩みや成長がわかる具体資料	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・成長点、努力点について版書で整理する。教師の側からもクラスや子どもたちの成長点を具体的に示し、成長したところや頑張ったところを大いに評価し、認めていく。 【意思決定】 ・小学校生活のまとめとして大切な意義のある休みであること、これまでの復習をしたり、いろいろなことに挑戦したりすることで大きな成長が期待できる休みであることを話し、課題意識を高める。 【意思決定】 ・どのような冬休みを過ごしたいか、一人一人の子にしっかりと考えさせる時間を確保する。 【課題解決・意思決定】 ・2学期の生活で努力が必要な点や、これまでの夏休みにおける課題等を想起させながら目標を立てさせる。 【課題解決・意思決定】 ・家庭や地域、子ども会等で、各自の役割を明確にし、役割をしっかり果たそうとする気持ちを大事にする。 【課題解決】 ・自らの生活について主体的に考えさせながら、明確な目標を立てさせる。また、家庭や地域社会とのかかわりを積極的に設けた計画作りを働きかける。 【課題解決・意思決定】 ・一人一人のやる気を評価し、実践化を促す。 【意思決定】
本時	課題追究	3 冬休みの目標と具体的な取り組み事項を考え、夏休みの計画を立てる。 全体目標を立てる 具体的な取り組み事項(目標)を決める ア 学習について 学習時間 学習内容 興味や関心を追究する活動計画 イ 生活について 生活時程 手伝いの内容 ウ 体力作りの取り組み スキー等 エ 地域・子ども会活動について 子ども会行事等 行事予定を書く 4 各自の目標や頑張りたいことを紹介し合いながら、計画の吟味をする。	冬休みの計画表	
	まとめ	5 本時の学習を振り返り、冬休みに向けた決意を発表し合う。		
事後	計画表を回収し、計画が不十分な子どもには個別に指導する。教師の一言コメントを書き添え、冬休みに向けた意欲の向上を図る。 個々の目標を学級通信等で紹介し、活動への意欲化を図る。 作成した計画表は家庭にも示し、子どもたちの自主的な計画遂行に向けた支援体制を作る。			

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

**【総合的な学習の時間】** 「自由研究に挑戦しよう」の学習で冬休みの研究テーマを決め、研究計画を立てる。

1. 題材名 「言葉について考えよう」

〔 6年 学級活動(2)：望ましい人間関係の育成〕

2. 目 標

自分やクラス全体の言葉の使い方を振り返り、言葉が人間関係作りに与える影響について考えるとともに、よりよい言葉づかいをしようとする気持ちをもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

よりよい人間関係を築く上で、言葉づかいが大切になることを理解させる。

思いやりの気持ちをもって他者に接しようとする態度を培い、よりよい人間関係の構築を図る。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：言葉づかい一つで温かな気持ちになることも、気分を害することもあることに気づき、言葉づかいが人間関係に与える影響について知る。

【課題解決力】：自分やクラスの問題点に関する問題点に気づき、主体的に問題の改善に取り組み、よりよい言葉づかいに関する問題点について話し合いに積極的に取り組み、よりよい言葉づかいをしようとする気持ちを高める。

4. 展開案

事前	学級内の言語環境についての実態を把握し、よい言葉づかい、悪い言葉づかい双方の具体例を記録しておく。					
本時	課題把握	<p>1 学級目標を振り返り、学級内の人間関係に焦点を当て、目標の実現状況を話し合う。</p> <p>2 山田洋次の詩を読み、本時は言葉について考えていくことを知る。</p> <p>「一つの言葉でけんかして、一つの言葉で仲直り 一つの言葉でおじぎして、一つの言葉で泣かされた 一つの言葉はそれぞれに、一つの言葉を持っている」</p> <p>3 よりよい人間関係を作るという学級目標の実現を図るために、どのような言葉づかいをしたらよいか考えていくことを確認し、学習課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">よりよい言葉の使い方を考えよう。</div>	資料等	<p>学級目標</p> <p>山田洋次の詩の紙板書</p>	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	<p>・学級内の雰囲気や友達関係等について視点を当てる。気持ちよく学校生活が送られているかどうか振り返らせ、問題点に気付かせる。</p> <p>【課題解決】</p> <p>・詩を音読させながら、意味のよくわからないところを発表させる。不明な点については、後の学習で確かめていくことを知らせる。詩の内容と子どもたちと実生活をかけ合わせながら、言葉づかいに着目させていく。</p> <p>【課題解決】</p> <p>・言葉づかいによって、誰もがよい気持ちになったり、嫌な気持ちになったりした経験があることを確認し、課題設定につなげる。</p> <p>【コミュニケーション・課題解決】</p> <p>・何でも自由に話せる雰囲気づくりに心がけ、どの子の発言もしっかりと受け止めるようにする。言葉の中身だけでなく、その時の気持ちについても話させる。</p> <p>【コミュニケーション・意思決定】</p> <p>・言葉を発した相手も紹介させ、教師も温かな気持ちで共感しながら、明るい雰囲気の中で「よい言葉の例」を取り上げていく。</p> <p>【コミュニケーション・意思決定】</p> <p>・制限時間内に肯定的な言葉をできるだけ多くかけてあげるゲームである。始めに教師が例を示し、和やかな雰囲気を作る。言葉は心と連動していることに気付かせたい。</p> <p>【コミュニケーション・課題解決・意思決定】</p>
	課題追	<p>4 これまでの生活の中で、言葉によって嫌な気持ちになったり、元気を無くしたりした例を出し合う。</p> <p>5 元気づけられたり、うれしい気持ちになった言葉の例を出し合う。</p> <p>6 山田洋次の詩の意味を考える。</p>				
	探究	<p>7 ゲーム「太陽言葉シャワー」を行い、温かな言葉づかいが明るい雰囲気を作り、よりよい人間関係を築いていくことを知る。</p>				
	まとめ	<p>8 本時の学習を振り返り、これからの生活で心がけていきたいことをワークシートに書く。</p>	ワークシート			
	事後	学級通信で授業の内容を知らせ、よりよい言語環境を作っていくよう啓蒙する。帰りの会等で、友達から元気づけられた言葉等を紹介するコーナーを設ける。				

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【国語】 単元「言葉って、おもしろいな」で言葉を大切にしようとする気持ちをもつ。

【道徳】 資料「ゆず」を基に、相手の立場に立って考え、相手を思いやる気持ちをもつ。

1. 題材名 「もうすぐ中学生」  
〔6年 学級活動(2)希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

中学校生活に対する不安や悩みを解消し、新しい生活に向けた期待や希望を膨らせるとともに、中学進学に向け目標をもって生活しようとする意欲を高めることができる。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

資料を適切に活用して課題を解決させたり、進路について自己の考えを深めさせたりする。  
中学生活における期待や希望を膨らませ、目標をもって生活する態度を培う。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【自己理解力】：中学進学や中学校生活に関する問題等について主体的に考える。
- 【将来設計力】：中学校生活への期待や希望を膨らませる。
- 【情報活用力】：グラフやインタビュー等の資料から問題を見つけたり、解決したりする
- 【意思決定力】：中学進学に向け、目標をもって生活しようとする意欲をもつ。

4. 展開案

事前	<p>事前に進学にかかわる児童の意識調査を行い、中学校生活に対する児童の不安や悩み、実態等をとらえ、資料化しておく。 中学校との連携を図り、児童の中学校生活への抵抗感を取り除いたり、希望を膨らませたりすることができる資料を準備しておく。(VTRや中学生の作品等)</p>		
本時	学習活動	資料等	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
課題把握	<p>1 中学校生活に対する意識調査の資料を見て、気付いたことを話し合う。</p> <p>2 本時の課題をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>中学校の生活の様子を調べよう。</p> </div>	<p>中学校生活への意識 (アンケート結果)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフから、級友のほとんどが中学生活についての不安や悩みを抱えていることに気付かせ、問題の共通化を図る。 【自己理解】</li> <li>・時間割の内容以外にも、小学校との違いを知っている子には発表させる。 【自己理解】</li> </ul>
課題追究	<p>3 中学校の時間割表を見て、小学校との違いを調べる。 ・教科の名称、数、種類の違い ・時程の違い ・クラブ活動の有無 ・教科担任制 等</p> <p>4 中学生の話を読み、作品等を見たりしながら、中学校生活の実際の様子についてのイメージをもつ。</p> <p>5 中学校教員の話を読み、中学進学に向けた準備として、必要なことを聞く。</p> <p>6 中学進学に向け、今後の生活における自己の目標を立てる。</p>	<p>中学校の時間割表</p> <p>中学生の声(VTR) 中学生の作品等 中学教師の声(VTR)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間割調べをしての感想を問い、中学校への一人一人の子の関心を高めさせたい。 【自己理解・情報活用】</li> <li>・卒業生(中学生)には、事前に行った中学校生活へのアンケート結果をもとに話をさせ、不安や悩みを解消させる手だてとするとともに、中学校生活の楽しさややすばらしさについても触れさせていく。 【情報活用・将来設計・意思決定】</li> <li>・部活動の成果等を具体的に示し、中学生活への憧れの気持ちを育む。 【情報活用・将来設計・意思決定】</li> <li>・中学教師の話では、中学生活につながる生活の視点を中心に話してもらおう。 【情報活用・将来設計・意思決定】</li> <li>・それぞれの決意を表明させ、実践への意欲化を図る。 【将来設計・意思決定】</li> <li>・ワークシートに本時の感想を記述させることにより、子どもたちに本時の学習の価値を実感させるとともに、教師の指導の成果をとらえる資料とする。 【将来設計・意思決定】</li> </ul>
まとめ	<p>7 本時の学習を振り返り、考えたことをまとめ、発表し合う。</p> <p>8 小学校生活の締めくくりの過ごし方について教師の話を読み。</p>	<p>ワークシート</p> <p>担任の話</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の体験談を紹介し、中学生活への意欲を高める。 【将来設計・意思決定】</li> </ul>
事後	<p>各自が立てた生活の目標を教室に掲示し、目標の実践化を図る。 授業の様子や個々の子どもたちの感想等、学級通信等で知らせ、中学校に向けた意識を家庭との連携の上で図るようにする。 子どもたち個々の取り組みの様子を観察し、適宜賞揚したり、指導したりする。 感想を記述したワークシートに教師からの励ましの言葉を記す。</p>		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

- 【国語】 詩「生きる」を読み、自分の将来の生き方を考える。
- 【道徳】 資料「自分への手紙」で、自分の長所や短所を見つめながら、将来について考える。
- 【総合的な学習の時間】 「ぼく・私の未来」の学習で、自分の将来を考える場をもつ。
- 【日常活動】 自分の役割を責任をもって果たそうとする気持ちを持ち、清掃活動や係活動に取り組む。

1. 題材名 「命の誕生について考えよう」

〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕

2. 目 標

インタビュー活動や新聞作り等の活動をとおり、命の誕生の様子や家族の心情等を調べ命の尊さに気付くとともに、自他の命を尊重しようとする心をもつ。

3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

命の尊さに気付き、自分の人生を大事にしようとする気持ちを育む。

目的に応じて資料を活用したり、インタビュー活動をしたりしながら、適切に情報を得る力を育てる。

**進路発達にかかわる諸能力**

【コミュニケーション力】：誰の命も尊いものであることを知り、他者の個性や考え方を認める気持ちをもつ。

【自己理解力】：多くの人々の深い愛情を受けて自らの命が育まれてきたことを知り、自分自身の生き方を大事にしようとする気持ちをもつ。

【情報活用力】：自分の命の誕生に関して、必要な情報をインタビューしたり、収集した資料を基に新聞に的確にまとめたりすることができる。

4. 展開案(2時間扱い)

事前	朝の会等の時間で本時の学習内容を事前指導する。その際には、教師の誕生時の写真や体重等の資料を提示しながら、自分の誕生期の頃の様子に関心をもたせる。小学校卒業を間近に控え、人生の節目として、誕生の頃の様子について考えていくことの意義を伝える。			
	事前に家庭でのインタビュー活動を行うこと、調べたことを新聞に表現していくことなどを知らせ、活動の見通しをもたせる。(直接のインタビューが難しい場合は手紙等の形式も用いる。) 授業の概要について家庭にも知らせておき、インタビューの回答等の子どもたちの活動への協力を依頼しておく。			
本時	課題把握	学習活動 1 家庭でのインタビュー結果を紹介し合う。 ・改めて知ったことや驚いたこと 等 2 本時の学習の見通しをもつ。 自分の赤ちゃんの頃の様子を新聞にまとめよう。	資料等 インタビューシート	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点 ・インタビューの状況を把握しておき、取り組みの様子を評価しながら、明るく和やかな雰囲気での学習を進めたい。 【コミュニケーション・自己理解・情報活用】 ・記事の構成は自由とさせるが、自分の誕生の頃の様子を調べてみての感想や命についての考えたことについては、必ず書くよう指示する。イラストや写真の貼り付け等、表現の仕方は自由に工夫させる。 【情報活用】 ・グループ内で新聞を読み合わせ、メッセージカードを用い、感想を交流し合わせる。 【コミュニケーション・自己理解】 ・調べてみてわかったことや感想を交流し合わせながら、一つの命に込められたたくさんの人々の思いに気付かせたい。 【コミュニケーション・自己理解】 ・「命のバトン」を提示し、これまでの学習事項を想起させながら音読させ、命の尊さを感じ取らせる。 【コミュニケーション・自己理解】 ・自分の命も他者の命も、絶対に粗末にしたり、傷つけたりしてはいけないことを伝える。子どもたちの感想を基に、お互いに命を大事にしながら生活していくことを話し、まとめとする。 【コミュニケーション・自己理解】
	課題追究	3 インタビューシートを基に、自分の誕生の頃の様子について、個人新聞に表現する。 (以上、第1時)	新聞用紙	
	まとめ	4 作成した新聞を交換して読み合う。 5 自分の誕生の頃を調べてみて、わかったことや感想を話し合う。 ・多くの人々とのかわり 等 ・たくさんの愛情や願い 等 6 相田みつをの詩「命のバトン」を音読し、命の尊さをとらえる。 7 命についての担任の話を聞く。	詩「命のバトン」	
	事後	8 本時の学習の感想を発表し合う。		

5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【国語】 詩「生きる」を読み、命の尊さや生きることのすばらしさを読み取る。

【道徳】 資料「橋をかける」を基に、悲しみを乗り越え希望をもって生きようとする心をもつ。

【総合的な学習の時間】 「ぼく・私の未来」の学習で、自分の将来を考える場をもつ。

# 1. 題材名 「6年間の成長を振り返ろう」

〔6年 学級活動(2)：希望や目標をもって生きる態度の形成〕

## 2. 目 標

「6年間の成長マップ作り」をとおり、自他の成長を認め、新しい生活や将来に向けての夢や希望を膨らませることができる。

## 3. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

成長マップ作りやインタビュー活動をとおり、小学校生活での自己の成長を実感させるとともに、中学校生活や今後の人生への夢や希望を育む。

自己の成長を支えた周りの人々の存在に気付かせ、感謝の気持ちをもたせる。

### 進路発達にかかわる諸能力

【コミュニケーション力】：これまでの自他の成長を互いに認め合うとともに、今後の生活において共にがんばっていかうとする気持ちをもつ。

【自己理解力】：6年間の歩みを振り返り、自己の成長を自覚するとともに、自信をもって中学校生活に取り組みうとする気持ちをもつ。

【将来設計力】：中学校生活やそれに続く将来に向けて、夢や希望を膨らませることができる。

## 4. 展開案

事前	本時の学習内容(「6年間の成長マップ作り」)を知らせておき、必要となる資料(写真や作品等)を事前に準備させておく。 成長マップ作成用計画シートを配付しておき、本時での活動がスムーズに進むように配慮する。 保護者に学習内容を知らせておき、子どもたちの資料収集等への協力を依頼しておく。		
本時	課題把握	<b>学習活動</b> 1 小学校生活を振り返りながら、卒業を間近に控えた今の気持ちを発表する。 2 入学してからの日数を示し、これまでの歩みに関心をもたせ、本時の学習課題を設定する。 「6年間の成長マップ」を作り、小学校生活のがんばりを振り返ろう。	<b>資料等</b> 入学式の写真、VTR
	課題追究	3 「成長マップ」の作り方を知る。 台紙と7枚のシートを用意する。シートは各学年の「がんばりシート」と「将来の夢シート」の記入で使う。 がんばりシートには、その学年の思い出の行事や頑張った学習、成長したことを書く。また、それぞれの学年でのお家の人等からの一言インタビューを掲載する。 将来の夢シートには、これからがんばりたいことやしてみたいことを書く。 見出し、イラスト、文で表現する。	<b>資料等</b> 成長マップ用シート 各学年の作品、写真資料等
	まとめ	4 各自、成長マップを作る。 5 作成した成長マップを読み合う。 6 成長マップ作りをとおして、気付いたことや感じたことを発表し合う。 ・自分やみんなの成長の様子 ・成長を支えた多くの人々の存在 ・新しい生活に臨む意欲 7 6年間の総決算としての卒業式に臨む気持ちをもつ。	<b>成長マップ</b>
事後	作成した成長マップを掲示し、お互いの成長を認め合う。 授業内容や作品等を父母にも知らせる。		

## 5. 本題材にかかわる他教科等との関連の視点

【国語】 詩「生きる」を読み、命の尊さや生きることのすばらしさを読み取る。

【道徳】 資料「人間はすばらしい」を基に、自分のすばらしさに気付き、その力を伸ばそうとする心をもつ。

【総合的な学習の時間】 「ぼく・私の未来」の学習で、自分の将来を考える場をもつ。

【学校行事】 小学校最後の授業である卒業式において、これまでの成長と感謝、新しい生活に対する希望の気持ち等を表現する。

# 学校行事等指導計画案集

## 学校行事



## 委員会活動



## クラブ活動



## 日常活動

# 1 キャリア教育の視点を位置付けた学校行事等の年間題材一覧

活動・行事・題材	学年	月	活動の主なねらい	進路発達にかかわる能力																	
				自己理解力	役割認識力	職業理解力	将来設計力	情報活用能力	課題解決力	意思決定力											
<b>指導計画案掲載ページ</b>																					
学校行事	1学期始業式 <b>70</b>	全学年	4	進級の喜びを感じ、新学年での学校生活における期待と目標をもつ。																	
	入学式 <b>70/71</b>	1・高	4	新入生の入学を互いに喜び合い、新しい学校生活における夢や希望をもつ。																	
	交通安全教室 <b>71</b>	全学年	4	正しい交通安全の仕方を知り、自らの身を守る安全意識を高める。																	
	運動会練習 <b>72</b>	全学年	5~6	運動会の目標を立て、その実現に向かって努力できる。																	
	運動会 <b>72</b>	全学年	6	集団行動の仕方を学び、目標に向かって努力したり、責任を果たしたりする態度を身に付ける。																	
	修学旅行 <b>73</b>	6	5	社会のルールを学ぶとともに、見聞を広げたり、課題を追究したりする力を高める。																	
	プール清掃 <b>74</b>	4~6	6	進んで働くとする意欲をもち、自分の仕事を着実にやり遂げることができる。																	
	陸上記録会 <b>74</b>	5・6	9	学校の代表としての誇りをもち、目標をもって、応援や競技に力を発揮できる。																	
	古代むら体験学習 <b>75</b>	5	6	集団行動のルールを知るとともに、自己の責任を果たすことの大切さや集団活動の楽しさに気付く。																	
	1学期終業式 <b>75</b>	全学年	7	1学期の学校生活での成長と課題を振り返り、夏休みに向けての目標をもつ。																	
	学習発表会 <b>76</b>	全学年	10	自分のめあてをもって活動に取り組み、創造力や表現力を高める。																	
	2学期終業式( P75) <b>76</b>	全学年	12	1学期の学校生活での成長と課題を振り返り、夏休みに向けての目標をもつ。																	
	3学期始業式( P70) <b>77</b>	全学年	1	これまでの学校生活の反省を生かしながら、新学期に臨む意欲と目標をもつ。																	
	スキー遠足 <b>77</b>	全学年	2	スキーをとおり、集団で活動することの楽しさや、集団行動のルールを知る。																	
	体育館フックス塗り <b>77</b>	6	3	校舎への感謝の気持ちをもち、進んで仕事に取り組み、勤労の喜びを知る。																	
	修了式練習 <b>78</b>	1~5	3	修了式の意義を知り、一年間のまとめとしての態度を考え、練習に参加できる。																	
	修了式 <b>78</b>	1~5	3	一年間の自らの努力と成長に自信をもち、次年度への期待と目標をもつ。																	
	卒業式練習 <b>78</b>	4~6	3	それぞれの学年における卒業式の意義を知り、目標をもって練習に取り組むことができる。																	
卒業式 <b>79</b>	4~6	3	6年生の卒業を互いに喜び合い、それぞれの新しい生活に臨む期待と目標をもつことができる。																		
児童会活動	1年生を迎える <b>80</b>	全学年	4	新入生の入学を全校で喜び、その気持ちをそれぞれの立場で意欲的に表現する。																	
	児童総会 <b>80</b>	3~6	5	学校生活のよりよい充実のために、仕事や役割を考え、進んで話し合う。																	
	ゲーム集会 <b>81</b>	全学年	9	約束を守ったり、役割を果たしたりしながら、集団ゲームを楽しみ、友達を増やす。																	
	長縄跳び大会 <b>81</b>	全学年	2	大会の目標を立て、その実現のために互いに協力しながら努力できる。																	
	6年生を送る会 <b>82</b>	全学年	2	互いに感謝の気持ちを感じ合い、それぞれの学年で協力し合いながらその気持ちを表現できる。																	
委員会活動 <b>82</b>	5・6	通年	所属する委員会や自分の仕事の役割を考え、主体的に活動に取り組むことができる。																		
クラブ	クラブ活動 <b>83</b>	4~6	4~12	自己の興味や関心を広げたり、友達との交流を深めたりすることができる。																	
	クラブ活動見学 <b>83</b>	3	12	自分の興味や関心のあることについて考え、所属クラブを決定できる。																	
日常活動	日直当番 <b>84</b>		通年	大きな声で挨拶したり、仕事を着実にやり遂げたりしながら、責任感をもって役割を果たす。																	
	朝の会・帰りの会 <b>84</b>		通年	自らの生活を向上させようとする意欲をもち、目標を意識した学校生活を送る。																	
	係活動 <b>85</b>		通年	学級生活における仕事の役割を考え、主体的・創造的に活動できる。																	
	全校朝会 <b>85</b>		通年	清新な学習意欲を高めたり、規律ある集団行動や表現力を身に付けたりする。																	
	児童朝会 <b>86</b>	全学年	通年	自己の役割を自覚して集会に臨み、主体的な表現活動ができる。																	
	縦割り班清掃 <b>86</b>		6~7 11~12	班内での自分の役割を理解し、協力し合いながら、意欲的に清掃に取り組む。																	
	縦割り班自由遊び <b>87</b>		通年	班内での自分の立場を理解し、協力し合いながら、楽しく遊ぶことができる。																	
	清掃活動(通常) <b>87</b>		通年	清掃活動の意義を知り、進んで仕事に取り組み、働くことの喜びに気付く。																	
	給食活動 <b>87</b>		通年	当番の仕事を着実に果たしたり、食事をとおして友達との交流を深めたりする。																	

# 2 学校行事等におけるキャリア教育指導計画案

## (1) 学校行事におけるキャリア教育指導計画案集

<b>始業式におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学校行事・朝の会等
<b>1. 目標</b> 新学期がスタートすることの喜びを実感し、新しい学期に臨む期待と意欲を膨らませるとともに、今後の学校生活における目標を立てる。			
<b>2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力</b> <b>キャリア教育のポイント</b> 自らの成長を遂げようとする気持ちを大切に、新学期にける期待や意欲を膨らませる。 目的意識をもって式の中の話や話を聞き、自分の願いや目標をしっかりと表現させる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：目的意識をもって話を聞いたり、新学期にける願いや自分の目標を進んで表現したりすることができる。 【将来設計力】：新しい学期に臨む期待や意欲を膨らませることができる。 【意思決定力】：向上心を持ち、新学期の目標を立てることができる。			
<b>3. 指導計画</b>			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	朝の会等 1 始業式の意義や参加態度について、担任の話や話を聞く。 2 式に臨む心構えをもつ。	・今後の充実した学校生活や将来の成長のためにスタートが大切であることを確認し、自分の目標を立てられるよう、話の聞き方、歌、姿勢について特に指導する。 【コミュニケーション・意思決定・将来設計】	
活動時	始業式 1 校長先生の話や友達の作文発表を聞く。 2 新学期への決意を、歌で表現する。	・式の中の校長先生の話等をメモしておき、事後の指導での目標作りの活動に生かす。 【意思決定・将来設計】 ・子どもたちの話の聞き方、表情、姿勢等を観察し、式後の指導資料にする。 【コミュニケーション・将来設計】	
事後	学級活動等 1 式の中でどのような話があったか確認し、始業式を終えた気持ちを発表し合う。 2 新学期スタートに当たっての担任の話や話を聞く。	・始業式を終えた後の気持ちを作文に書かせることにより、新学期に向かう自己の決意を明確にさせる。 【コミュニケーション・意思決定・将来設計】 ・めあてカードに目標を記入させ、教室に掲示する。 【意思決定】	
<b>4. 評価の視点と方法</b> 新しい学期に臨む期待と意欲を膨らませ、自分の目標をもつことができたか。 (・学級活動、式での態度観察・始業式の作文、日記、めあてカードの記入状況)			

<b>入学式におけるキャリア教育展開案(1年生)</b>		指導学年	1年生
		指導の場	学校行事・学級活動等
<b>1. 目標</b> 入学の喜びを実感し、新しく始まる学校生活における夢や希望を膨らませることができる。			
<b>2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力</b> <b>キャリア教育のポイント</b> 入学は、将来の夢の実現に向けた「はじめの一歩」であることを知らせ、新しい生活への夢や希望を膨らませる。 挨拶や返事、道具の出し入れなど、自分のことは自分でやり遂げようとする意欲や態度を培う。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【将来設計力】：将来の夢を描き、その実現に向けた一歩として、学校生活への期待を膨らませることができる。 【コミュニケーション力】：元気な声で挨拶や返事をしようとする。 【課題解決力】：自分のことは自分で解決しようとする意欲をもつ。			
<b>3. 指導計画</b>			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	学級活動等 1 学校の様子や入学式の意義についての担任の話や話を聞く。 2 挨拶、返事の仕方等の練習をする。 3 入学式で頑張ることを決め、式に臨む心構えをもつ。	・子どもたちの将来の夢を引き出しながら、学校生活への意欲を高める話をする。 【将来設計】 ・挨拶や返事、話の聞き方が入学後の最初の学習であることを知らせ、式の中で頑張るめあてをもたせる。 【コミュニケーション】	
活動時	入学式 1 先生方のお話をしっかりと聞く。 2 元気な声で、挨拶や返事をする。	・子どもたちの話の聞き方、表情、姿勢等を観察し、式後の指導資料にする。 【コミュニケーション・将来設計】	
事後	学級活動等 1 式の様子について、担任の話(評価)を聞く。 2 これから頑張っていきたいことや楽しみなことを発表し合う。 3 これからの学校生活の過ごし方について、担任の話や話を聞く。	・式での頑張りの様子を具体的に評価する。また、これからの夢や期待を自由に発表させながら、今後の学校生活への期待感を膨らませる。 【将来設計】 ・入学後は、できるだけ自分のことは自分でできるように、意欲をもたせる。 【課題解決】	
<b>4. 評価の視点と方法</b> 入学の喜びを実感し、学校生活への期待と意欲を膨らませることができたか。 (・式や学級活動時に発言や態度の観察・保護者との情報交換)			

入学式におけるキャリア教育展開案（高学年）		指導学年	高学年
		指導の場	学校行事・学級活動等
1. 目 標			
新入生の入学を歓迎する気持ちをもち、入学式での自分の役割をしっかり果たそうとする。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 新しい仲間への入学を祝う気持ちを醸成し、やさしく接しようとする態度を培う。 入学式における自分の役割を自覚させ、進んで活動に取り組みさせるようにする。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【役割認識力】</b> ：入学式における自分の役割を理解し、進んで仕事を果たすことができる。 <b>【職業理解力】</b> ：式の準備や1年生のお世話活動など、役割を果たすことや働くことの喜びを実感できる。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	1 自分の入学時の気持ちを想起しながら、式の意義について話し合う。 2 入学式を成功させるための自分の役割や頑張ることを決める。	・1年生を迎える歓迎の気持ちを引き出しながら、式の成功に向けて、どのような役割や頑張ることがあるか明らかにする。 【役割認識】	
活動時	1 清掃活動、装飾、会場設営等、自己の役割に取り組む。 2 1年生を歓迎する気持ちを歌や表現活動で表す。	・子どもたちの活動状況を把握し、役割を果たそうと努力する姿を称揚していく。(式準備) 【役割認識・職業理解】 ・式中での態度を観察し、事後の指導や評価の資料とする。 【役割認識・職業理解】	
事後	1 入学式にかかわる活動の様子について、担任等の話を聞く。 2 活動を振り返り、働くことや役割を果たすことの意義について話し合う。	・子どもたちの意欲的な仕事ぶりを評価する。また、式の成功に向けて働いたことや1年生のお世話に取り組んでみたことなどの感想を話し合わせ、役割を遂げることの満足感を感得させたり、人にかかわる仕事への興味を広げたりする。 【役割認識・職業理解】	
4. 評価の視点と方法			
入学式での自分の役割を自覚し、精一杯活動できたか。また、役割を果たすことや働くことの喜びを実感することができたか。 〔・活動状況の観察 ・振り返りの活動における発言 ・日記〕			

交通安全教室におけるキャリア教育展開案		指導学年	全学年
		指導の場	学校行事・学級活動等
1. 目 標			
講話や模擬体験をとおし、命の尊さに気付くとともに、自らの身を守ろうとする安全意識を高める。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 命の尊さに気付け、自らの生き方を大切にしようとする心と態度を育てる。 必要な情報を収集する力として、資料を適切に読み取る力や要点をとらえた話の聞き方を指導する。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【自己理解力】</b> ：命の尊さに気付き、自らの生き方を大切にしようとする気持ちをもつ。 <b>【情報活用力】</b> ：資料や講話から、交通安全のためのルールや適切な行動の仕方を知る。 <b>【職業理解力】</b> ：交通安全を守るための仕事があることや、その仕事に従事する人たちの喜びや願いに気付く。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	1 交通事故に関する資料から、自己に対する印象や経験を話し合う。 2 教師の話から、交通安全教室の意義や内容をとらえる。 3 活動のめあてをもつ。	・具体的な資料や体験談等から、交通事故が身近な問題であることに気付け、大切な命を守るための活動であることをとらえさせる。 【情報活用・自己理解】 ・何を学び、どのような態度が望ましいか、具体的に指導する。 【情報活用】	
活動時	1 交通安全教室のめあてや意義を確認する。 2 指導者の紹介や講話を聞く。 3 指導者の指示に従い、活動する。 4 交通安全教室をとおして、わかったことや考えたことを発表し合う。	・式中での態度を観察し、事後の指導や評価の資料とする。 【自己理解・情報活用】 ・交通安全にかかわって様々な職業があることに気付けたい。また、それらの人々がどのような願いで仕事に取り組んでいるか扱う。 【職業理解】	
事後	1 めあてを基に活動状況を振り返る。 2 警察官や交通指導員の方々の願いを考えさせ、命についての思いを深める。 3 担任の話聞き、学んだことを実践化しようとする意欲をもつ。	・命を守る仕事に携わる人々についての感想等も問うことで、交通安全は多くの人に関わる問題であることに気付けさせる。また、命にかかわる職業への興味や関心を広げる機会とする。 【自己理解・職業理解】 ・命の貴重さを伝え、学んだことを実生活に生かすよう促す。 【自己理解】	
4. 評価の視点と方法			
命の尊さを感じながら、真剣に活動に取り組んだり、自らの安全を守る方法を理解したりすることができたか。 〔・体験活動の表情及び態度観察 ・振り返りの活動における発言 ・日記やワークシートへの記述状況〕			

# 運動会指導におけるキャリア教育展開案

指導学年 全学年  
指導の場 学級活動・学校行事等

## 1. 目標

望ましい集団行動の仕方や協力して活動することの大切さを学ぶとともに、目標に向かって努力したり、進んで責任を果たそうとしたりする態度身に付ける。

## 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

### キャリア教育のポイント

運動会に臨むめあて作りや振り返りの活動を重視し、一連の過程を指導の場ととらえる。  
将来の適切な職業生活や社会生活を営む上で必要となる、挨拶や集団行動の大切さを理解させる。  
目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりする態度を養う。

### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】: 運動会を成功させるための話し合いの活動に進んで参加し、自分の考えや意見を表現できる。また、場に応じた適切な挨拶をすることができる。
- 【役割認識力】: 運動会を成功させるために、様々な役割があることに気づき、自らも進んで自分の責任を果たそうと努力することができる。
- 【職業理解力】: 働くことや役割を果たすことの喜びを感じることができる。
- 【課題解決力】: 運動会を成功させるためのきまりやルールを守る。また、目標の実現を願い、具体的な取り組みをすることができる。
- 【意思決定力】: 運動会の成功や自己の向上をめざし、自分なりの目標を立てることができる。

## 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	<ol style="list-style-type: none"> <li>運動会の意義(どんな力をつける行事か)を話し合う。</li> <li>運動会についての願いをもつ。</li> <li>運動会での自分の役割や仕事を確かめる。</li> <li>運動会の目標やがんばることを決め、運動会に向けての意欲をもつ。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの経験や校長先生の話などから、運動会はいろいろな力を高める場であることに気付かせ、運動会について一人一人に願いをもたせる。 【コミュニケーション・意思決定】</li> <li>・カードを用い自己の役割や仕事を明らかにし、運動会でのめあてや努力事項をもたせる。 【役割認識・意思決定】</li> </ul>	
活動時	<ol style="list-style-type: none"> <li>何をどのように頑張るか、具体的なめあてを立てる。</li> <li>めあてを意識しながら、活動に取り組む。</li> <li>「運動会がんばりカード」を基に、めあての達成状況を自己評価する。</li> <li>自己の取り組みを反省したり、友達のがんばりを紹介し合ったりしながら、翌日の練習のめあてを立てる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・練習開始時に、挨拶をしっかりとすることやめあてを意識して取り組むことを確認する。 【コミュニケーション・課題解決】</li> <li>・カードに自己の練習態度を記入させることをとおし、活動状況を自己評価させ、翌日の活動にめあてをもって臨ませるようにする。 【課題解決・意思決定】</li> <li>・カードの記述状況や活動時の子どもたちの様子を観察し、適切なアドバイスや賞揚を行う。 【課題解決・意思決定】</li> <li>・互いの頑張りを紹介し合い、目標実現に向かって全員で取り組む雰囲気を作る。 【コミュニケーション・課題解決】</li> </ul>	
	運動会当日	<ol style="list-style-type: none"> <li>カードを基に、運動会のめあてを確認し、頑張ることを決める。</li> <li>めあてを基に、自分の仕事や役割を果たしたり、競技や応援に取り組んだりする。</li> <li>運動会の様子について、担任の話聞きながら、自己の取り組みの様子を簡単に振り返る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてをもって本番の活動に臨めるよう、朝の会で一人一人の役割や頑張ることを確認させる。 【意思決定・役割認識】</li> <li>・子どもたちの活動の様子を記録し、振り返りの資料とする。 【役割認識・職業理解・課題解決】</li> </ul>
事後	学級活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>カードを基に、めあての達成状況や自己の取り組み態度について反省する。</li> <li>働くことや役割を果たすことの意義を話し合う。</li> <li>運動会を通じて学んだことや成長できたことをおさえる。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の側からも子どもたちの頑張りの様子を具体的に伝え、自分たちの成長を実感させる。 【課題解決・役割認識・職業理解】</li> <li>・自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】</li> </ul>

## 4. 評価の視点と方法

集団行動のルールや自己の役割を果たすことの大切さを理解できたか。  
〔・振り返りの作文の記述状況 ・教師間の情報交換 ・振り返りの活動における発言〕  
目標に向かって努力したり、自己の役割を責任をもって果たそうとしたりすることができたか。  
〔・めあてカードの取り組み状況 ・活動状況の観察 ・担当教師間の情報交換〕

1. 目標

多様な人々との触れ合いを通じながら、集団行動や社会のルールを学ぶとともに、見聞を広げたり、課題を追究したりする力を高める。

2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

挨拶や礼儀、集団行動等、社会生活における望ましい態度を指導する。  
 情報をよりよく活用し、課題を解決する力を育てる。  
 社会生活を支える多くの職業や人々の存在や苦勞、願い等に気付かせ、働くことへの興味や関心を広げる。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【コミュニケーション力】：進んで他者とのかわりもち、場に応じた適切な挨拶をしたり、インタビュー活動等に取り組んだりすることができる。
- 【自己理解力】：旅行先で触れ合った人々との出会いを基に、自分自身の生き方について関心をもつ。
- 【役割認識力】：社会生活には様々な役割があることに気付く。また、修学旅行での自らの役割を責任をもって果たす。
- 【職業理解力】：様々な業種の人々との触れ合いを通じ、社会には多様な仕事があることに気付いたり、働くことの意義について考えたりすることができる。
- 【将来設計力】：様々な業種の人々との触れ合いを通じ、職業についての憧れをもつ。
- 【情報活用力】：見学やインタビュー活動で、必要な情報を的確に得ることができる。
- 【課題解決力】：修学旅行における自らの目標を立て、その実現に向かって努力することができる。
- 【意思決定力】：修学旅行にかかわる話合いにおいて、進んで自己の考えを表現できる。

3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	学級活動・総合等 1 修学旅行の意義を話し合う。 (どんな力をつける行事か) 2 主な活動内容を知り、修学旅行を成功させるために必要なことを話し合う。 3 修学旅行のめあて、きまり、役割等を話し合っ決めて。 4 事前の係活動、調べ学習等に取り組む。	・話し合いを通じ、自分たちの力を高めるための行事であることに気付かせ、めあてや役割決めの話合いに進んで参加させる。 【課題解決・意思決定】 ・集団生活を支えるために、どの役割も大切であることに気付かせる。活動状況を把握し、適宜指導する。 【役割認識】 ・テーマや課題意識を明確にさせ、事前学習に取り組ませる。資料の活用の仕方、インタビューの仕方等について、具体的に指導する。 【コミュニケーション・意思決定】
活動時	修学旅行 1 役割分担に従い、自分の仕事に取り組む。 2 めあてやルールを守り、適切な集団行動をとる。 3 課題をもち、見学活動を行う。 ・適切な挨拶をする ・進んでインタビュー活動を行う ・わかったこと等をメモする	・旅行中での集会等で、挨拶や礼儀、見学態度、役割分担への取り組み状況等を把握しておき、集会等の場で適切に評価する。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】 ・様々な業種の人々との触れ合いを大切にさせ、進んでインタビュー活動に取り組ませながら、気付いたことや感じたこと等をメモさせていく。 【情報活用・職業理解・将来設計】
事後	学級活動・総合等 1 めあての達成状況や自己の取り組み態度について反省する。 2 修学旅行でわかったことや学習したこと、感想等をまとめ、発表し合う。 3 修学旅行にかかわって、多くの人々の支えがあったことを確認する。	・旅行中に会った人々から学んだことをまとめさせる。 【課題解決・役割認識・職業理解】 ・自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】 ・社会生活を支える人々の役割やそれぞれのつながりを考えさせる。 【役割認識・職業理解】

4. 評価の視点と方法

集団行動のルールや自己の役割を果たすことの大切さを理解し、実践できたか。  
 [・学級会(めあて作り・振り返り)での話し合いの状況 ・旅行中の態度]  
 進んでインタビュー活動に取り組んだり、見学したりすることができたか。  
 [・事前学習の態度 ・旅行中の見学態度 ・学習ノートの記述状況]  
 多くの人々とのかわりを通じ、社会生活を支える人々や職業の存在に気付くことができたか。  
 [・学習ノートへの記述状況 ・事後学習での作文等での記述状況]

<b>プール清掃におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	4～6年生
		指導の場	学校行事・朝の会・帰りの会
1. 目標			
進んで働こうとする意欲をもち、自分の仕事を着実にやり遂げることができる。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 全力を出して働くことの気持ちよき協力して物事をやり遂げることの充実感を味わわせる。 どの仕事も大切な役割があることや責任を果たすことの大切さに気付かせる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【役割認識力】</b> : 物事をやり遂げるためには、それぞれの責任を果たすことが大切であることに気付く。 <b>【職業理解力】</b> : 自分の役割をやり遂げることや全力で働くことの喜びを感じることができる。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	朝の会 1 プール清掃を行うことを知らせるとともに、なぜ清掃が必要か、なぜ上学年の役割になっているか考える。 2 仕事の役割分担を決める。 3 自分の活動のめあてを立てる。	・学校生活を支える大切な仕事であることに気付かせ、活動意欲を高める。自分の役割やめあてをしっかりとめさせるようにする。 <b>【役割認識・職業理解】</b>	
活動時	プールの清掃 1 始めの挨拶をする。 2 めあての確認をする。 3 自分の仕事に取り組む。	・活動中の態度を観察し、事後の指導や評価の資料とする。 <b>【役割認識・職業理解】</b> ・教師も共に働き、みんなで力を合わせて物事をやり遂げる充実感を味わわせたい。 <b>【職業理解】</b>	
事後	帰りの会 1 めあてを基に活動状況を振り返る。 2 担任の話や聞き、責任を果たすことの大切さや協力して働くことの意味を考える。	・一生懸命に働く姿を賞揚し、働くことの喜びを引き出す。下学年や校長先生等のお礼の言葉を紹介しながら、役割を果たすことの気持ちよさを感得させる。 <b>【役割認識・職業理解】</b> ・プール清掃で学んだことを実生活に生かすよう促す。 <b>【役割認識】</b>	
4. 評価の視点と方法			
働くことの意義を感じ、自己の役割を責任をもって果たすことができたか。 〔・活動時態度観察 ・振り返りの活動における発言 ・日記への記述状況〕			

<b>陸上記録会におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	高学生
		指導の場	学校行事・課外活動の時間等
1. 目標			
学校の代表としての誇りをもち、目標をもって応援や競技に力を発揮できる。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 陸上記録会における各自の目標を明確にもたせ、その実現に向かって努力する心と態度を培う。 継続して物事に取り組むことの価値を伝える。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【課題解決力】</b> : 自ら立てた目標の実現をめざし、努力することができる。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	課外活動 1 賞状やVTR等から、陸上記録会で活躍する先輩の姿に触れる。 2 教師の話や聞き、陸上記録会の意義を知る。 3 陸上記録会への自己のめあてを立ててカードに書く。	・イチロー選手のエピソードを紹介しながら、目標をもって努力を継続することの価値を伝え、陸上記録会に向けた意欲を高める。 <b>【課題解決】</b> ・過去の記録等を参考にさせ、何をどのように頑張るか、具体的なめあてをもちさせる。 <b>【課題解決】</b>	
活動時	練習・大会 1 カードを用い、練習への取り組み態度を毎日自己評価する。 2 大会での自己の役割やめあてを立てる。 3 めあてに基づいて活動する。	・カードへの記述状況や練習態度を観察し、意欲が低下している子には励ましの助言を与える。また、一生懸命な努力を重ねている子は、学級通信等で紹介し、その姿を広めていく。 <b>【課題解決】</b> ・大会でのそれぞれの役割とめあてを明確にもたせる。 <b>【職業理解】</b>	
事後	朝の会等 1 めあてを基に自分の活動状況を振り返り、反省をカードに書く。 2 陸上記録会の取り組みの様子について、教師の話や聞き。 3 陸上記録会の取り組みの成果を学校生活の何に生かすか考える。	・カードへの記述や作文等で陸上記録会の取り組みを通じて得た自己の成長を具体的にとらえさせる。 <b>【課題解決】</b> ・目標をもって努力を継続することの大切さを話し、以後の生活への実践化も図る。 <b>【課題解決】</b>	
4. 評価の視点と方法			
自己の目標に向かって継続した努力をすることができたか。 〔・練習や大会本番での活動状況の観察 ・取り組みカードへの記述状況 ・日記や作文への記述状況〕			

古代むら体験学習におけるキャリア教育	指導学年	5年生
	指導の場	学級活動・学校行事・総合的な学習の時間等

### 1. 目標

自然との触れ合いや集団活動をとおり、集団行動のルールや自己の責任を果たすことの大切さを理解する。

### 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

<p><b>キャリア教育のポイント</b> 挨拶や礼儀、集団行動等、社会生活における望ましい態度を指導する。 一人一人の役割を明確に持たせ、責任をしっかりと果たすことの大切さを体験的に理解させる。 仲間とともに働くことの喜びを味わわせる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：場に応じた適切な挨拶ができる。また、進んで友達にかかわり、協力して活動することができる。 【役割認識力】：古代むら体験学習を成功させようとする意欲をもち、自らの役割を責任をもって果たす。 【職業理解力】：働くことの楽しさを感じながら、進んで自分の仕事に取り組むことができる。 【課題解決力】：古代むら体験学習での自らの目標を立て、その実現に向かって努力することができる。 【意思決定力】：古代むら体験学習の話合い活動に進んで取り組み、自らの努力目標を立てることができる。</p>
---

### 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	学級活動・総合等 1 古代むら体験学習の意義を話し合う。 (どんな力をつける行事か) 2 主な活動内容を知り、古代むら体験学習を成功させるために必要なことを話し合う。 3 古代むら体験学習のめあて、きまり、役割等を話し合っ決めて。 4 事前の係活動に取り組む。	・話合いを通じ、自分たちの力を高めるための行事であることに気付かせ、めあてや役割決めの話合いに進んで参加させる。 【課題解決・意思決定】 ・集団生活を支えるために、どの役割も大切であることに気付かせる。 【役割認識】 ・しおりに記入させながら、自己の役割やめあてを明確にもたせるようにする。 【コミュニケーション・意思決定】
活動時	古代むら体験学習 1 役割分担に従い、自分の仕事に取り組む。 2 めあてやルールを守り、適切な集団行動をとる。 3 仲間と協力して野外炊事やテント設営、清掃活動、キャンプファイヤー等の活動に取り組む。	・挨拶や礼儀、役割分担への取り組み状況、班の協力体制等を把握し、「タベの集い」等の場で適切に指導、評価する。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識・職業理解】 ・教師も子どもたちとともに活動しながら、協力して働いたり活動したりすることの楽しさを実感させたい。 【コミュニケーション・職業理解・役割認識】
事後	学級活動等 1 めあての達成状況や自己の取り組み態度について反省する。 2 古代むら体験学習の活動でわかったことや学習したこと等をまとめ、発表し合う。 3 教師の話聞き、今後の生活へのめあてをもつ。	・自己の取り組み態度を自己評価させるとともに、活動で見つけた友達のよさにも触れさせる。 【課題解決・コミュニケーション】 ・自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】

### 4. 評価の視点と方法

集団行動のルールや自己の役割を果たすことの大切さを理解し、実践できたか。  
 (・学級会(めあて作り・振り返り)での話合いの状況・活動中の態度)  
 進んで友達にかかわり、協力して活動することができたか。  
 (・事前学習の態度・諸活動での取り組み態度・学習ノートの記述状況)

終業式におけるキャリア教育展開案	指導学年	全学年
	指導の場	学校行事・朝の会等

### 1. 目標

本学期の成長と課題を振り返り、今後の生活の向上をめざして意欲や目標をもつことができる。

### 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

<p><b>キャリア教育のポイント</b> 学期当初に立てた目標に立ち返らせ、自己の取り組み状況を具体的に振り返らせる。 自己の生活を向上させようとする意欲をもち、反省に基づいた目標をもたせる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【自己理解力】：生活態度を振り返り、自己の成長点、課題点を具体的にとらえることができる。 【意思決定力】：自らの生活を高めようとする気持ちをもち、今後の生活への意欲や目標をもつことができる。</p>
--

### 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	朝の会 1 終業式の意義や参加態度について、担任の話聞く。 2 式に臨む心構えをもつ。	・学期のしめくくりの大切な式であることを確認し、自己の生活を振り返りながら式に望むよう伝え、話の聞き方、歌、姿勢について特に指導する。 【自己理解・意思決定】
活動時	終業式 1 校長先生の話や友達の作文を聞く。 2 学期のしめくくりの気持ちを歌で表現する。	・式中の校長先生の話等をメモしておき、事後の指導での目標作りの活動に生かす。 【自己理解・意思決定】
事後	学級活動 1 式中の話の内容を確認する。 2 自己の生活態度を振り返る。 3 教師の話聞き、今後の生活への目標をもつ。	・成長点と課題点を明確にした作文を書かせることにより、今後の生活に向かう自己の目標を明確にさせる。教師から子どもたちの成長を具体的に示し、今後の生活への意欲を高める。 【自己理解・意思決定】

### 4. 評価の視点と方法

自己の生活を振り返り、成長点や課題点を見つけ、今後の生活への向上心をもつことができたか。  
 (・学級活動、式中での態度観察・終業式の作文)

# 学習発表会におけるキャリア教育展開案

指導学年	全学年
指導の場	学級活動・学校行事・総合的な学習の時間等

## 1. 目標

仲間と協力してものごとを成し遂げる喜びを感じるとともに、自分のめあてをもって活動に取り組み、想像力や表現力を高めることができる。

## 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

<p><b>キャリア教育のポイント</b></p> <p>学習発表会での自己の役割を明確にさせ、責任を果たすことの大切さを指導する。 表現活動やPR（広報）活動に取り組みさせることにより、地域の人とのかかわりの場を設ける。 具体的な目標を設定させ、その実現に向けて努力する態度を培う。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b></p> <p>【コミュニケーション力】：自分の役割を精一杯表現し、集団活動に意欲的に取り組むことができる。 【役割認識力】：学習発表会を成功させようとする意欲をもち、自らの役割を責任をもって果たす。 【職業理解力】：学習発表会のPR活動を行い、働くことや地域の人と触れ合うことに喜びを感じる。 【課題解決力】：学習発表会での自らの目標を立て、その実現に向かって努力することができる。 【意思決定力】：学習発表会にかかわる話し合い活動に進んで取り組み、自らの努力目標を立てることができる。 【自己理解力】：音楽表現や身体表現等の創作活動に取り組み、自己の興味を広げることができる。</p>
---

## 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習発表会の意義を話し合う。（どんな力をつける行事か）</li> <li>主な活動内容を知り、学習発表会を成功させるために必要なことを話し合う。</li> <li>学習発表会のめあて、きまり、役割等を話し合って決める。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いを通じ、自分たちの力を高めるための行事であることに気付かせ、めあてや役割決め話し合いに進んで参加させる。 【役割認識・課題解決・意思決定】</li> <li>学習発表会の成功のために、どの役割も大切であることに気付かせる。 【役割認識】</li> <li>学習発表会取り組みカードに記入させながら、自己の役割やめあてを明確にもたせるようにする。 【役割認識・コミュニケーション・意思決定】</li> </ul>
活動時	<p>練習時・帰りの会等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>自分で決めめあてを基に、表現練習や係の準備活動等に取り組む。</li> <li>毎日の練習態度を反省し、翌日の練習のめあてを立てる。</li> <li>学習発表会のPRちらしを作り、地域の人たちに広報活動をする。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習開始時に、挨拶をしっかりとすることや、めあてを意識して取り組むことを確認する。 【コミュニケーション・課題解決】</li> <li>カードにめあての達成状況を自己評価させる。カードへの記述状況や練習態度を観察し、適切なアドバイスや指導を行う。 【役割認識・課題解決・意思決定】</li> <li>挨拶や礼儀をしっかりと指導し活動させる。ちらし配りを通じ、地域の一員としての自覚や働くことの楽しさを感じさせる。 【コミュニケーション・職業理解】</li> </ul>
	<p>学習発表会当日</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>取り組みカードを基に、発表会当日のめあてを確認する。</li> <li>めあてを基に、自分の役割や仕事に全力で取り組む。</li> <li>学習発表会の様子について、担任の話を聞きながら、自己の取り組みの様子を簡単に振り返る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>めあてを意識して本番の活動に臨めるよう、朝の会で一人一人の役割や頑張ることを確認させる。 【役割認識・意思決定】</li> <li>子どもたちの活動の様子を記録し、振り返りの資料とする。 【役割認識・役割認識・課題解決】</li> <li>音楽や身体表現等、幅広い表現活動を経験させ、表現の楽しさを味わわせたり、子どもたちの興味を広げさせたりする。 【自己理解】</li> </ul>
事後	<p>学級活動等</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>学習発表会のVTRを視聴しながら、自己の取り組み態度について振り返り、反省する。</li> <li>学習発表会の取り組みを通じ、わかったことや学習したこと等をまとめ、発表し合う。</li> <li>教師の話を聞き、今後の生活へのめあてをもつ。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己の取り組み態度を自己評価させるとともに、活動でつけた友達のよさにも触れさせる。 【課題解決・コミュニケーション】</li> <li>自己の役割を精一杯果たした子どもたちを大いに評価し、働くことや役割を果たすことの楽しさ、大切さをおさえる。 【役割認識・職業理解】</li> <li>協力してものごとをやり遂げることの満足感を次の活動に生かすよう話す。 【意思決定】</li> </ul>

## 4. 評価の視点と方法

自分の役割を自覚し、精一杯表現活動や係の活動に取り組むことができたか。  
〔・学級会での話し合いの状況 ・学習発表会取り組みカードの記述状況 ・活動中の態度〕  
協力してものごとをやり遂げることの満足感を感得することができたか。  
〔・活動中の態度 ・振り返りの活動での作文の記述や発言内容 ・取り組みカードの記述状況〕

スキー遠足におけるキャリア教育展開案		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・学校行事
1. 目 標			
スキー遠足をとおり、集団で活動することの楽しさや集団行動のルールを知る。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 場に応じた挨拶をしたり、社会や集団のルールを守って適切に行動したりする態度を育てる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【コミュニケーション力】</b> : 場に応じて適切な挨拶したり、スキー遠足にかかわる話合いで進んで自分の考えを表現したりする。 <b>【役割認識力】</b> : スキー遠足での自分の役割を責任をもって果たすことができる。 <b>【課題解決力】</b> : バスの中やスキー場でのかまきを守って、適切な集団行動ができる。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	学級活動 1 スキー遠足でのめあてや約束、役割を話し合っ決めて決める。 2 スキー遠足での自分のめあてを決め、取り組みカードに書く。	・集団活動の行事であることを確認し、スキー遠足を成功させるために必要なめあてやきまりを話し合わせる。カードを用い、個々のめあてを具体的にもたせるようにする。 【コミュニケーション・役割認識・課題解決】	
活動時	スキー遠足 1 はじめの会でめあてや約束を確認する。 2 車中レク、スキー実技に取り組む。 3 終わりの会で、めあての振り返りや感想の交流を行う。	・バスの中のマナー指導を徹底する。自分たちの活動を支える人たち(バス・スキー場の方々等)の存在に気付かせ、適切な挨拶ができるよう指導する。 【コミュニケーション・課題解決】 ・レク係、スキーリーダー等、自己の役割を適切に果たすようにさせる。 【役割認識】	
事後	学級活動 1 めあてを基に活動状況を振り返り、スキー遠足についての作文を書く。 2 お世話になった指導員の方々にお礼の手紙を書く。	・教師の話の補説によって、社会生活のルールや挨拶の大切さ、スキー遠足にかかわる多くの人々の存在等に気付かせたい。 【コミュニケーション・課題解決】	
4. 評価の視点と方法			
社会や集団のルールを守って、適切な行動をとることができたか。 〔・活動時態度観察 ・終わりの会での話合いの状況 ・振り返りの作文の記述状況〕			

「体育館ワックス塗り」におけるキャリア教育展開案		指導学年	6年生
		指導の場	朝の会・学校行事
1. 目 標			
進んで働こうとする意欲をもち、自分の仕事を着実にやり遂げることができる。			
2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 全力を出して働くことの気持ちよさや協力して物事をやり遂げることの充実感を味わわせる。 どの仕事も大切な役割があることや責任を果たすことの大切さに気付かせる。 <b>進路発達にかかわる諸能力</b> <b>【役割認識力】</b> : 物事をやり遂げるためには、それぞれの責任を果たすことが大切であることに気付く。 <b>【職業理解力】</b> : 自分の役割をやり遂げることや全力で働くことの喜びを感じることができる。			
3. 指導計画			
指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
事前	朝の会 1 「体育館磨き」を行うことを知らせるとともに、なぜ清掃が必要か、なぜ6年生の役割になっているか考える。 2 仕事の役割分担を決め、自分の活動のめあてをもつ。	・最上級生として学校生活を支える大切な仕事であることに気付かせ、活動意欲を高める。自分の役割やめあてをしっかりとめさせるようにする。 【役割認識・職業理解】	
活動時	体育館磨き 1 始めの挨拶をする。 2 校長先生の話聞く。 3 めあての確認をする。 4 自分の仕事に取り組む。	・校長先生に6年生への期待を話していただき、活動意欲を高める。 【役割認識・職業理解】 ・教師も共に働き、みんなで力を合わせて物事をやり遂げる充実感を味わわせたい。 【職業理解】	
事後	学年集会 1 めあてを基に活動状況を振り返る。 2 担任の話聞き、責任を果たすことの大切さや協力して働くことの意味を考える。	・一生懸命に働く姿を賞揚し、働くことの喜びを引き出す。下学年や校長先生等のお礼の言葉を紹介しながら、役割を果たすことの気持ちよさを感得させる。 【役割認識・職業理解】	
4. 評価の視点と方法			
働くことの意義を感じ、自己の役割を責任をもって果たすことができたか。 〔・活動時態度観察 ・振り返りの活動における発言 ・日記への記述状況〕			

## 修了式におけるキャリア教育展開案

指導学年	1～5学年
指導の場	学校行事・朝の会・学級活動等

### 1. 目標

「修了式」の意味を知り、1年間の自己の成長を自覚するとともに、新しい学年に臨む期待と意欲を膨らませることができる。

### 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

1年間の自己の成長を実感させ、新学年にかける期待や意欲を膨らませる。

目的意識をもって式に臨ませ、一年間の総決算の気持ちと新学年にかける思いをしっかりと表現させる。

#### 進路発達にかかわる諸能力

【自己理解力】：一年間の学校生活を振り返り、成長点や課題点に気付くことができる。

【将来設計力】：自己の成長を実感するとともに、新しい学年に臨む期待や意欲を膨らませることができる。

【意思決定力】：自己の成長や今後の目標を進んで表現できる。

### 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	1 担任の話から「修了式」の意味を知る。 2 一年間の自分の学校生活を振り返り、成長したことを発表し合う。 3 式に臨む望ましい心構えや態度を考える。	・「終了」との意味の違いから、自己の成長の大切な節目の式であることを知らせる。 【自己理解・意思決定】 ・始業式に立てた自分のめあてを基に学校生活を振り返らせ、成長点を具体的に実感させる。 【自己理解・将来設計】
活動時	1 一年間の総決算の気持ちをもって、式練習に取り組む(練習時)。 2 一年間の成長を返事、姿勢、歌等で表現する。 3 校長先生の話、代表の子の作文を聞く。	・式中の校長先生の話等をメモしておき、事後の指導でのまための活動に生かす。 【意思決定・将来設計】 ・子どもたちの話の聞き方、表情、姿勢等を観察し、式後での指導資料にする。 【自己理解・意思決定・将来設計】
事後	1 式中でどのような話があったか確認し、修了式を終えた気持ちを発表し合う。 2 一年間のまとめと新学年への進級にかかわる担任の話聞く。	・修了式を終えた後の感想等を含めながら、一年間の成長や新学年への目標等を作文に表現する。 【自己理解・意思決定・将来設計】 ・子どもたちの一年間の成長を賞揚するとともに、新学年に期待する気持ちを伝える。 【将来設計】

### 4. 評価の視点と方法

新しい学期に臨む期待と意欲を膨らませ、自分の目標をもつことができたか。

〔・学級活動、式中での態度観察 ・始業式の作文、日記、めめあてカードの記入状況〕

## 卒業式におけるキャリア教育展開案(4・5年生)

指導学年	4～5年生
指導の場	学校行事・学級活動等

### 1. 目標

6年生への感謝の気持ちを、式の準備活動や卒業式の表現に表すことができる。

### 2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

卒業式のもつ意義の大きさを知らせ、その成功のために自分の役割を精一杯やり遂げようとする態度を培う。卒業生の姿に触れさせ、自らの学校生活を向上させようとする意欲や目標をもたせる。

#### 進路発達にかかわる諸能力

【将来設計力】：卒業生の姿に憧れの気持ちをもち、今後の生活への夢や希望を膨らませる。

【コミュニケーション力】：卒業式にかかわる話合い活動に進んで取り組むことができる。

【役割認識力】：卒業式には多くの人々の協力や支えがあることに気付き、自分の役割に対する責任感をもつ。

【課題解決力】：卒業式を成功させようとする意欲をもち、準備や表現活動に取り組むことができる。

### 3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	1 これまで学校生活で、6年生にお世話になったことを想起する。 2 卒業式のもつ意義を考える。 3 卒業式を成功させるために、具体的に努力することを出し合う。	・6年生への感謝の気持ちを具体的に引き出し、卒業式の活動に対する意欲を高める。 【コミュニケーション】 ・卒業式を成功させるための具体的な取り組み事項を考えさせ、式に臨むめあてを立てさせる。 【課題解決・役割認識】
活動時	1 具体的なめあてを立てて、練習に取り組む。 2 6年生への感謝の気持ちをもって、清掃活動や式場準備に取り組む。 3 感謝の気持ちを、姿勢、歌、呼びかけ等の表現で表す。	・卒業式の意義を意識させながら、しっかりと役割を果たすよう指導する。 【課題解決・役割認識】 ・卒業式は多くの人々の協力や支えて成り立つことに気付かせる。 【役割認識】 ・活動態度を観察し、適切に評価、指導する。 【課題解決・役割認識】
事後	1 式中の様子について、担任の話(評価)を聞く。 2 6年生の姿から、今後の学校生活に対する目標を発表し合う。	・式での頑張りの様子を具体的に評価する。また、卒業生の姿から、今後の学校生活への具体的な目標をもたせ、新年度への意欲の向上を図る。 【将来設計】

### 4. 評価の視点と方法

卒業の喜びを実感し、学校生活への期待と意欲を膨らませることができたか。

〔・式中や学級活動時に発言や態度の観察 ・保護者との情報交換〕

1. 目標

6年間の成長の喜びを実感し、自らの人生に対する夢や希望を膨らませることができる。

2. 本題材におけるキャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

**キャリア教育のポイント**

6年間の成長を自覚させ、卒業の喜びを実感させるとともに、自らの将来への夢や希望を膨らませる。自らの卒業には、多くの人々の支えがあったことに気付かせ、感謝の気持ちを育む。

**進路発達にかかわる諸能力**

- 【コミュニケーション力】：感謝の気持ちを挨拶や返事で表現できる。
- 【自己理解力】：小学校生活を振り返り、自己の成長を自覚するとともに、新しい生活に向けた意欲を高める。
- 【役割認識力】：自分自身の成長や卒業式の運営に、多くの人々の支えや協力があつたことに気付き、周りの人々への感謝の気持ちをもつ。
- 【将来設計力】：中学校生活や将来の自分の人生について、夢や希望を膨らませることができる。
- 【意思決定力】：卒業式の取り組みについての話し合いに進んでかわかり、卒業式を成功させようとする自己の意欲を高めることができる。

3. 指導計画

指導の場	主な学習活動	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
事前	学級活動 1 卒業式の意義について話し合う。 ・小学校生活最後の「授業」 ・6年間の成長の証の表現の場 ・周囲の人々への感謝の表現 学年集会等 2 卒業式を成功させるために大切なことや必要なことを話し合い、卒業式の取り組みのめあてを決める。 ・返事 ・呼びかけ ・態度 ・歌等	・小学校6年間の学びの集大成の場であることを押さえる。 【役割認識】 ・入学時に書いた「はじめてかいたなまえ」や当時の写真等を示しながら、それぞれの成長を具体的にとらえさせる。 【自己理解】 ・卒業式の意義を押さえた上で、「どんな卒業式をつくりたいか」問い、卒業式に向かう意欲をつくる。 【意思決定】
活動時	練習 1 めあてをもって式練習に取り組む。 ・ 6年間の成長の証と感謝の気持ちを卒業式で表現する。	・式中での態度を観察し、事後の指導や評価の資料とする。また、練習後に反省の時間を設け、めあてを意識させながら式に臨ませる。 【意思決定】 ・堂々とした態度で挨拶や返事ができるよう、指導する。 【コミュニケーション】 ・6年間の学びの成果を全て発揮する場であることを確認し、自信をもって式に臨ませる。 【自己理解・意思決定】
事後	学級活動 1 卒業式の様子について担任の話を聞く。 2 これまでの成長を支えてきた人々の存在について考える。 3 将来の夢や希望について発表し合う。 4 将来の人生についての担任の話を聞く。	・6年間の成長が表現された姿を賞揚する。 【自己理解】 ・自らの成長は多くの人々の支えで実現したことを、具体的な事例を交え、子どもたちに気付かせる。 【役割認識】 ・卒業文集等の企画で、将来の夢について事前に考えさせておく。どの夢も価値高いものであることを補説し、将来への憧れの気持ちを高めるようにする。 【将来設計】 ・教師自身の体験談等を紹介しながら、中学校生活は夢実現の第一歩であることを伝え、新しい生活への期待や目標を抱かせる。 【自己理解・将来設計】

4. 評価の視点と方法

- 卒業の喜びを式で表現することができたか。  
 [・式中の態度観察]  
 自分の将来の人生について、夢や希望を膨らませることができたか。  
 [・学級活動での態度観察(話の聞き方、夢や希望の発表)]



## (2) 児童会活動・クラブ活動・日常活動におけるキャリア教育指導計画案集

<b>1年生を迎える会におけるキャリア教育の展開</b>	指導学年 2年生以上の全学年	指導の場 児童会活動等								
1. 目標										
新入生の入学を全校で喜び、その気持ちをそれぞれの立場で意欲的に表現する。										
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>キャリア教育のポイント</b> 挨拶や歌等の表現活動で、堂々と自分らしさを発揮できる力を育てる。 会の運営における自分の役割を自覚させ、責任感をもってその役を果たそうとする態度を培う。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 友達と共に、歌やゲームなどの活動に生き生きと取り組むことができる。 【役割認識力】: 会における自分の役割を自覚し、責任を果たすことができる。 【自己理解力】: 自分の長所や得意なことを生かして、表現活動に取り組むことができる。</p> </div>										
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%; padding: 5px;">進路発達にかかわる主な活動(例)</th> <th style="width: 85%; padding: 5px;">進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">学年集会</td> <td style="padding: 5px;">1年生を迎える会でのめあてを話し合う。 会の中での役割を決め、練習や準備に取り組む。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">1年生を迎える会</td> <td style="padding: 5px;">自分の役割や学年の表現活動に取り組む。 全校での歌やゲームに取り組み、他学年との交流を深める。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">学年集会等</td> <td style="padding: 5px;">めあての達成状況を話し合う。 活動にかかわる教師の話聞く。</td> </tr> </tbody> </table>			進路発達にかかわる主な活動(例)	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	学年集会	1年生を迎える会でのめあてを話し合う。 会の中での役割を決め、練習や準備に取り組む。	1年生を迎える会	自分の役割や学年の表現活動に取り組む。 全校での歌やゲームに取り組み、他学年との交流を深める。	学年集会等	めあての達成状況を話し合う。 活動にかかわる教師の話聞く。
進路発達にかかわる主な活動(例)	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点									
学年集会	1年生を迎える会でのめあてを話し合う。 会の中での役割を決め、練習や準備に取り組む。									
1年生を迎える会	自分の役割や学年の表現活動に取り組む。 全校での歌やゲームに取り組み、他学年との交流を深める。									
学年集会等	めあての達成状況を話し合う。 活動にかかわる教師の話聞く。									

<b>児童総会におけるキャリア教育展開案</b>	指導学年 3年生～6年生	指導の場 学級活動・児童会活動								
1. 目標										
学校生活をよりよいものにするために、生活のめあてや委員会の活動内容について、主体的に話し合うことができる。										
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力										
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>キャリア教育のポイント</b> 自分の考えをもち、的確に表現できる力を育てる。 学校生活を支える様々な役割に気付き、自らの仕事に対する意欲を高める場とする。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 声量や語尾等に気をつけ、自分の考えを適切に表現することができる。 【役割認識力】: 学校生活を支えていくための、委員会活動の役割を知る。 【課題解決力】: 学校生活をよりよくするためのアイデアを考えることができる。 【意思決定力】: 話し合いの場に進んでかわり、委員会活動等での自分の仕事に対する意欲をもつことができる。</p> </div>										
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%; padding: 5px;">進路発達にかかわる主な活動(例)</th> <th style="width: 85%; padding: 5px;">進路発達を促す指導上の留意点・工夫点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="padding: 5px;">委員会活動</td> <td style="padding: 5px;">これまでの生活や委員会活動を見直し、学校生活を向上させるためのアイデアを出し合う。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">学級活動</td> <td style="padding: 5px;">児童総会資料を読み、質問点や意見を出し合う。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">児童総会</td> <td style="padding: 5px;">児童会執行部、各委員会の提案を聞く。 提案に対する質問や意見を出し合い、学校生活を向上させるための話し合いをする。 自分の仕事や役割を確認し、今後の活動への意欲をもつ。</td> </tr> </tbody> </table>			進路発達にかかわる主な活動(例)	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	委員会活動	これまでの生活や委員会活動を見直し、学校生活を向上させるためのアイデアを出し合う。	学級活動	児童総会資料を読み、質問点や意見を出し合う。	児童総会	児童会執行部、各委員会の提案を聞く。 提案に対する質問や意見を出し合い、学校生活を向上させるための話し合いをする。 自分の仕事や役割を確認し、今後の活動への意欲をもつ。
進路発達にかかわる主な活動(例)	進路発達を促す指導上の留意点・工夫点									
委員会活動	これまでの生活や委員会活動を見直し、学校生活を向上させるためのアイデアを出し合う。									
学級活動	児童総会資料を読み、質問点や意見を出し合う。									
児童総会	児童会執行部、各委員会の提案を聞く。 提案に対する質問や意見を出し合い、学校生活を向上させるための話し合いをする。 自分の仕事や役割を確認し、今後の活動への意欲をもつ。									

<b>ゲーム集会におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	全学年
		指導の場	児童会活動等
1. 目 標			
<p>約束を守ったり、集会でのそれぞれの役割を果たしたりしながら、仲良く集団ゲームを楽しむことができる。</p>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b>          集団ゲームを企画・運営したり、集団をまとめたりする力を育てる。(6年生)          集団活動における約束やゲームのルールを守り、適切な集団行動ができるようにする。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b>  <b>【コミュニケーション力】</b>: 誰とでも仲良くゲームを楽しむことができる。また、集会の感想を進んで話すことができる。  <b>【課題解決力】</b>: 集団行動やゲームの約束を守ることができる。  <b>【役割認識力】</b>: 自覚をもってリーダーとしての活動に取り組んだり、集会の役割を責任をもって果たしたりすることができる。</p>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
6学年集会	ゲーム集会の内容や役割を話し合っ て決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゲーム集会企画書」を準備し、ゲームの内容や運営の企画を具体的に考えさせるようにする。【課題解決・役割認識】</li> <li>・それぞれの学年に応じてめあてをもたせる。下学年は、リーダーやルールに従うことを中心に指導する。【課題解決】</li> <li>・ゲームの内容は、集団でのかかわりがもてるものになるよう、事前に指導しておく。【コミュニケーション】</li> <li>・めあての達成状況や一人一人の役割に対する取り組み態度等、適切に評価する。 【コミュニケーション・課題解決・役割認識】</li> </ul>	
学級活動	ゲーム集会の約束を確認する。		
ゲーム集会	集会のルールやめあてを確認する。 6年生の係の進行で、ゲームを進める。 縦割りグループ毎に、集会の反省をし、感想を発表し合う。 集会について、教師の話聞く。		

<b>長縄跳び大会におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	全学年
		指導の場	児童会活動・休み時間等
1. 目 標			
<p>大会の目標を立て、その実現のために互いに協力し合いながら努力できる。</p>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b>          目標実現に向かい、仲間と力を合わせて努力することの充実感を味わわせる。          大会の運営に関する自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。(6年生)</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b>  <b>【コミュニケーション力】</b>: チームの仲間と応援し合ったり、協力し合ったりしながら、競技に取り組むことができる。  <b>【課題解決力】</b>: チームの目標を決め、その達成に向けて努力することができる。  <b>【役割認識力】</b>: 大会における自分の役割を自覚し、責任をもって仕事に取り組むことができる。</p>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
チーム毎 集会 練習	チーム毎に長縄跳び大会のめあてと 目標を決める。 リーダーを中心に、休み時間での練 習に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを中心に、具体的な目標を立てさせ、その達成のための練習プランを話し合わせる。「練習計画書」を準備する。 【コミュニケーション・課題解決】</li> <li>・練習は休み時間に行う。リーダーを中心とする児童主体の活動にするが、グループの活動状況を把握し、適宜支援する。毎日の練習後に、その日の成績や取り組み態度などを確認する反省会を設けさせる。 【コミュニケーション・課題解決】</li> <li>・進行、挨拶、審判等の役割を明確にし、活動させる。仕事の状況を観察し、適切に評価する。下学年には、大会の運営に6年生を中心とした様々な仕事があることに気付かせる。 【役割認識】</li> </ul>	
長縄跳び 大会	係の進行で大会を進める。  競技、応援に取り組む。  大会の反省をする。		

<b>6年生を送る会におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学年集会・児童会活動等
1. 目 標			
<p>在校生は6年生に、6年生は在校生や教職員へのそれぞれの感謝の気持ちを表現し合い、心の交流を深めるとともに、新しい生活への意欲をもつ。</p>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 自分たちの成長や生活は多くの人たちの働きの上にあることに気付かせ、感謝の気持ちをもちながらよりよい人間関係を築こうとする態度を育てる。 6年生を送る会における自分の役割を理解させ、その成功に向けて全力で取り組もうとする態度を培う。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】：自分を支えてきた人たちの存在に気づき、感謝や尊敬の気持ちをもつ。 【役割認識力】：会における自分の役割を責任をもって果たそうとする。 【意思決定力】：「卒業」を節目に、新たな生活への希望や意欲を膨らませる。</p>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
学年集会	<p>これまでの自分たちの生活や成長に、どのような人たちのかかわりがあったか話し合う。</p> <p>「6年生を送る会」の意義を確かめる。</p> <p>・感謝の気持ちの表現の場 表現の内容や役割を決め、練習に取り組む。</p>	<p>・6年生、在校生共に今まで自分が支えられてきたことを具体的に発表させながら、周りの人たちの働きに気付かせる。 【コミュニケーション・役割認識】</p> <p>・感謝の気持ちを伝え合う会であることを知らせる。一人一人の役割を明確にさせながら、表現活動に取り組ませる。 【コミュニケーション・役割認識】</p>	
6年生を送る会	<p>5年生執行部を中心に会を進行する。それぞれの学年の表現に取り組む。</p> <p>6年生を送る会の感想を発表し合う。</p>	<p>・自分を支えてくれる人々の存在への感謝の気持ちを大事にさせるとともに、これからの自分の人生(生活)をより充実したものにしようとする意欲を高める話して、活動をまとめる。 【意思決定力】</p>	
学級活動	<p>教師の話聞き、これからの生活でのめあてをもつ。</p>		

<b>委員会活動におけるキャリア教育の展開案</b>		指導学年	5～6年生
		指導の場	学級活動・委員会活動等
1. 目 標			
<p>所属する委員会や自分の仕事の役割を考え、主体的に活動に取り組むことができる。</p>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<p><b>キャリア教育のポイント</b> 学校生活における自分の仕事の役割を理解させ、責任感をもって仕事に取り組む態度を育てる。 自分のアイデアを生かして仕事をしたり、みんなのために働いたりすることへの喜びや楽しさを感じさせる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【自己理解力】：自分の好きなことや得意なことを生かしながら活動することができる。 【役割認識力】：学校生活を支えるために、どの仕事も大切な役割があることを知る。 【職業理解力】：仕事に自分なりのアイデアを生かしたり、みんなのために働いたりすることの楽しさを感じることができる。</p>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
委員会の所属決定	<p>学校生活における委員会の役割を話し合う。</p> <p>自分の希望を基に、委員会所属を話し合いで決める。</p> <p>所属委員会で活動内容を話し合う。</p>	<p>・どの仕事も学校生活を支える上で大事な役割を担っていること、その仕事に携わる高学年としての期待を押しやる。 【役割認識】</p> <p>・自分の興味や関心のあること、得意なこと等を生かせる場を考えさせながら、所属を決めさせる。 【自己理解】</p>	
委員会活動	<p>児童総会、校内放送等で活動内容を全校に知らせる。</p> <p>計画に沿って、活動に取り組む。</p> <p>活動の成果や全校にPRしたいことを児童集会、校内放送等で知らせる。</p>	<p>・「活動企画書」(計画書)を作成させる。活動に当たっては、子どもたちの主体性を尊重し、従来の活動にとらわれない創造的なアイデアを引き出していく。 【自己理解・役割認識・職業理解】</p> <p>・活動内容や成果を発表する場を設け、子どもたちの創意工夫を生かした表現活動に取り組ませる。 【自己理解・役割認識・職業理解】</p> <p>・委員会の取り組みにより、改善や向上が図られた学校生活の例を教師側からも紹介し、活動後の満足感を感じさせる。</p>	

<b>クラブ活動におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	4～6年生
		指導の場	クラブ活動
1. 目 標			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自己の興味を広げたり、クラブのメンバー間の交流を深めたりすることができる。</p> </div>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>キャリア教育のポイント</b>          共通のテーマを追究し、自己の興味を広げさせたり、クラブのメンバーとの交流を深めさせたりする。          クラブの企画・運営に主体的に携わらせ、ものごとを計画・実行する力を育てる。(6年生)</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b>  <b>【コミュニケーション力】</b>: 上級生、下級生それぞれの立場を尊重しながら、仲良く活動を楽しむことができる。  <b>【自己理解力】</b>: 集中して活動に取り組み、自分の興味や関心を広げることができる。  <b>【役割認識力】</b>: クラブ運営における自分の役割を自覚し、責任ある行動がとれる。(6年生)</p> </div>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
委員会の所属決定	<p>自分にとって興味や関心のあるテーマは何か考え、クラブ所属を決める。          クラブ活動の内容についてアイデアを出し合い、活動計画を話し合う。計画を基に活動する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・めあてと活動内容の確認</li> <li>・活動</li> <li>・反省</li> </ul> <p>活動の成果を児童集会、クラブ活動見学で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーを中心に活動内容の計画立案や運営に主体的に取り組ませる。教師は活動状況を見守りながら、適宜支援する。(事前にリーダーと担当教師の打合せを行っておく)  <div style="text-align: right;">【コミュニケーション・自己理解・役割認識】</div></li> <li>・活動計画書を作成させる。子どもたちの主体的なアイデアが生かされるよう助言する。  <div style="text-align: right;">【役割認識】</div></li> <li>・発表会等への取り組みでは、子どもたちの創意工夫を引き出すよう努める。  <div style="text-align: right;">【自己理解・役割認識】</div></li> </ul>	
クラブ活動	<p>活動の成果を児童集会、クラブ活動見学で発表する。</p>		

<b>クラブ活動見学におけるキャリア教育展開案</b>		指導学年	3年生
		指導の場	クラブ活動等
1. 目 標			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の興味や関心のあることについて考え、所属クラブを決定できる。</p> </div>			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>キャリア教育のポイント</b>          自分の興味あるテーマや得意なことを考えさせ、自分自身を見つめ直させる場とする。          クラブ選択にかかわる情報を適切に活用できる力を育てる。</p> <p><b>進路発達にかかわる諸能力</b>  <b>【自己理解力】</b>: 自分の好きなことや得意なこと、やってみたいことを考えることができる。  <b>【情報活用力】</b>: クラブ活動見学で、聞いてみたいことを進んで質問したり、メモしたりしながら、クラブ決定に必要な情報を的確に集めることができる。  <b>【意思決定力】</b>: 自分の興味や関心に基づき、所属のクラブを決定できる。</p> </div>			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
学級活動	<p>自分の好きなことや得意なこと、やってみたいことをシートに書き出す。クラブ見学のめあてを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート「自分を知ろう」を活用させ、いろいろな観点から自分の興味や関心を考えさせるようにする。  <div style="text-align: right;">【自己理解】</div></li> </ul>	
クラブ活動見学	<p>各クラブを見学し、質問やメモをしながら、クラブの情報を集める。</p> <p>自分の希望するクラブを決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブ活動の意義を伝え、友達に流されたり、安易な考えでクラブ決定をしたりしないよう指導する。  <div style="text-align: right;">【意思決定】</div></li> <li>・クラブ見学の目的と方法を知らせる。「クラブ探検ノート」を作成し、それぞれのクラブで気付いたことや感じたことを記録させる。  <div style="text-align: right;">【情報活用】</div></li> </ul>	

## 日直当番の指導におけるキャリア教育の展開

指導学年	全学年
指導の場	学級活動・休み時間・放課後等

### 1. 目標

大きな声で挨拶したり、当番の仕事をやり遂げたりしながら、責任感をもって役割を果たすことができる。

### 2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。  
 集団の場でも物怖じせず挨拶や会の進行ができる力を育てる。

#### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】：堂々と挨拶したり、大きな声で会の進行をしたりすることができる。
- 【職業理解力】：当番の仕事に進んで取り組み、働くことの楽しさを感じることができる。
- 【情報活用力】：教師からの聞き取り等の活動で、情報を適切に得ることができる。
- 【課題解決力】：学級の問題をとらえ、適切なめあてを設定することができる。

### 3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点

進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
当番活動	一日のめあてを決め、黒板に書く。 一日の予定を確認し、黒板に書く。 授業開始と終わりの挨拶をする。 教室内の整理整頓、戸締まりをする。 一日の生活を反省し、記録する。	・日直の仕事の内容やめあての立て方、予定の聞き方等、事前に指導しておく。 【情報活用・課題解決・職業理解】
朝の会進行	朝の挨拶をする。	・スムーズな進行や挨拶ができるよう、モデルを示すとともに放課後等に練習や準備の時間をとる。 【コミュニケーション・職業理解】
帰りの会進行	会の進行をため。 一日の予定とめあてを知らせる。 一日の反省をまとめる。 帰りの挨拶をする。	・仕事に着実に達成できたか、子ども自身がチェックできるカード等を準備する。 【職業理解】 ・観察や日誌への記録等から仕事への取り組み状況を把握し、望ましい活動態度を賞揚するなど適切に評価する。 【職業理解】

## 朝の会・帰りの会におけるキャリア教育の展開

指導学年	全学年
指導の場	朝の会・帰りの会

### 1. 目標

自らの生活を向上させようとする意欲をもち、目標を意識した学校生活を送ることができる。

### 2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力

#### キャリア教育のポイント

自分たちの生活を見つめさせ、生活を向上させるための目標を設定させる。  
 会のプログラムに自己PRや夢を語る場を設け、自他の生き方に対する関心を高める。

#### 進路発達にかかわる諸能力

- 【コミュニケーション力】：挨拶、発言、自己PRなどの場で、生き生きと自分の気持ちや考えを表現できる。
- 【自己理解力】：「1分間スピーチ」で、自分の得意なことや興味あることを表現できる。
- 【職業理解力】：「係から」のコーナーで、係の連絡や広報活動に意欲的に取り組むことができる。
- 【情報活用力】：要点をとらえて話を聞いたり、必要なことを適切にメモしたりする。
- 【課題解決力】：めあてを意識し、目標をもった生活を送ろうとする。

### 3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点

進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点
朝の会	挨拶、歌に気持ちよく取り組む。 一日のめあてを確認し、自分ががんばることを決める。 1分間スピーチで、友達の発表(好きなこと・将来の夢等)を聞き、感想を交流し合う。 係からのコーナーで、各係の活動成果を交流し合う。 担任の話聞く。 ・一日の生活に関する話 ・将来の夢や希望に関する話等 めあてについて反省する。	・スピーチのテーマは事前に指示し、内容を考えさせたり、表現を工夫させたりする。発表を基に感想を交流し合わせるにより、互いの夢や生き方を尊重し合う気持ちを育てる。 【コミュニケーション・自己理解】 ・係活動では、創造的な活動等を広めていく。 【コミュニケーション・職業理解】
帰りの会	一日の生活でのよかった点、改善したい点等振り返り、発表し合う。 翌日の連絡事項をメモする。 担任の話聞き、翌日のめあてをもつ。	・担任の話は、一日の生活意欲を高める話や将来への夢や希望を広げる話など、子どもたちの向上心を高める内容を準備する。担任自身の夢を語ったり、具体資料を準備したりする。 【課題解決】 ・話す、聞く、メモを取るなど、基本的な学習習慣をしっかり身に付けさせるよう、継続した指導を行う。 【コミュニケーション・情報活用】

<b>係活動におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・休み時間・放課後等
1. 目 標			
学級生活における係の役割を考え、仕事を創意工夫しながら主体的に活動できる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b>			
学級生活を支える係活動の意義を理解させ、自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。生活をよりよくするために働くことの楽しさを体験的に感得させる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>			
【コミュニケーション力】：グループでの話し合いで進んで意見を出したり、協力して活動したりすることができる。			
【職業理解力】：係活動に進んで取り組み、働くことの楽しさを感じることができる。			
【役割認識力】：学級生活を支える係活動の役割を理解する。			
【自己理解力】：自分の好きなことや得意なことを生かし、係活動を工夫することができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
係に関する話し合い活動	学級生活を充実させるためにどんな係があればよいか、意見を出し合う。係活動の組織を作る。	・単なる当番活動にとどめず、子どもたちの柔軟な発想を大事にしながら、学級生活を豊かにするためのアイデアを出させる。【コミュニケーション・自己理解・役割認識】	
係活動	係のめあて、活動内容、仕事の分担を決める。	・子どもたちの興味や自主性を大事にする。【自己理解・職業理解】	
	係ポスターを作る。	・係を「民間会社」として会社名や組織を工夫するなど、子どもたちの創造性や活動意欲を高める。【コミュニケーション・職業理解・自己理解】	
	日常的な係活動に取り組む。	・「がんばっている会社」を互いに採点し合うなど、互いの活動をチェックし合う場を設ける。教師の側からも、望ましい活動を賞揚したり、広めたりしていく。【役割認識・職業理解】	
	朝の会等で、連絡事項等を学級全体に知らせる。	・個性を発揮し合う場や日常の活動成果を紹介し合う場として「係活動発表会」を設け、働くことの楽しさを実感させる。【コミュニケーション・自己理解・職業理解】	
	係活動の発表会を開く。		

<b>全校朝会におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	朝の会・全校朝会
1. 目 標			
清新な学習意欲を高めたり、規律ある集団行動や表現力を身に付けたりする。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b>			
話の聞き方や規律ある集団行動の態度を育てる。子どもたち自身が自らの生き方を考えるきっかけとなる、話題提供の場とする。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>			
【将来設計力】：校長先生や諸先生の話聞き、自らの将来の生活について夢や希望を膨らませる。			
【情報活用力】：要点をとらえた話の聞き方ができる。			
【課題解決力】：適切な集団行動ができる。また、日々の学校生活や学習に臨む向上心をもつ。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
全校朝会	規律ある行進、整列をする。	・適切な集団行動の仕方が身に付くまで、指導を継続する。【課題解決】	
	清新な気持ちを挨拶と歌で表現する。校長先生、諸先生、ゲストティーチャーの話聞く。	・輪番制で教職員自身の子どものころの生活の様子や夢など紹介したり、地域のゲストティーチャーを招聘したりしながら、働くことへの興味や自らの生き方に対する関心をもたせる。【将来設計】	
朝の会	全校朝会で話された話題について、感想を交流し合う。	・全校朝会での話題を基に、自らの生き方を考えさせる。また、日々の学校生活が将来の豊かな生活につながることを押さえ、生活の具体的なめあてをもたせる。【情報活用・将来設計】	
	担任のまとめの話聞く。		

<b>児童朝会におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	児童朝会・委員会活動等
1. 目 標			
自己の役割を自覚して集会に臨み、主体的な表現活動ができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b>			
委員会やクラブの活動紹介、各学年の表現活動等をとおり、個性や表現力の伸長を図る。			
集会の企画運営をとおり、役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>			
【コミュニケーション力】：場に応じた気持ちのよい挨拶や返事ができる。			
【自己理解力】：自己の個性を生かしながら、クラブ活動や委員会活動の成果を生き生きと表現できる。			
【役割認識力】：集会の運営にかかわる役割を責任をもって果たすことができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
委員会活動	児童朝会での発表(企画)の内容や方法について考えを出し合う。	・子どもたちのアイデアを大事にし、自主性や創造性を育てる。 【自己理解】	
クラブ活動	発表や進行の練習に取り組む。	・児童の手に委ねた会であることを押さえ、集会の企画運営に責任感をもって当たらせるようにする。 【コミュニケーション・役割認識】	
児童朝会	児童会執行部の進行で集会を進める。 音楽委員会を中心に今月の歌を歌う。 全校ゲームを楽しむ。 クラブ発表、委員会発表を見、それぞれの活動内容を知る。	・子どもたちの活動の様子を把握し、責任をもって役割を果たしたり、個性を発揮して表現活動に取り組んでいたりする姿を賞揚していく。 【役割認識】	

<b>縦割り班清掃におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・縦割り集会・清掃時間
1. 目 標			
班内での自分の役割を理解し、協力し合いながら意欲的に清掃活動に取り組む。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b>			
異学年集団での活動をとおり、集団の約束を守ろうとする態度やリーダーシップ、フォロアーシップを身に付けさせる。			
力を合わせて働くことの気持ちよさを味わわせる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b>			
【コミュニケーション力】：グループの中で自己紹介したり、みんなと仲良くしたりすることができる。			
【役割認識力】：リーダー、フォロアーそれぞれの役割を理解し、一生懸命に自分の仕事を果たすことができる。			
【職業理解力】：力を合わせ、体いっばいに働くことの気持ちよさを感じることができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
学級活動	縦割り班清掃の意義や約束を話し合う。	・各学年に応じた役割を具体的に指導する。活動の運営は6年生のリーダーに委ね、教師は活動状況を観察しながら、必要に応じ、指導支援する。 【役割認識】	
縦割り集会	縦割り班毎に、自己紹介をする。 班のめあてや約束を決め、取り組みカードに記入する。	・「縦割り班そうじコンテスト」とし、活動意欲を喚起する。 【役割認識・職業理解】	
縦割り班清掃	班毎に清掃活動に取り組む。 活動を反省し、取り組みカードに記録する。 活動の様子について、担当の先生の話聞く。	・各班の取り組みの様子を校内放送で紹介したり、望ましい清掃活動ができている班を賞揚したりしながら、活動意欲を喚起する。 【コミュニケーション・役割認識】	
		・各班、各学年の取り組み態度を具体的に評価する。一生懸命に働くことの気持ちよさ、役割を果たすことの大切さを押さえる。 【役割認識・職業理解】	

<b>縦割り班自由あそびにおけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・縦割り集会・休み時間
1. 目標			
班内での自分の立場を理解し、協力し合いながら楽しく遊ぶことができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 異学年集団での活動をおし、約束を守ってみんなと仲良くしようとする態度やリーダーシップ、フォロアーシップを身に付けさせる。 遊びを企画したり、集団をまとめたりする力を育てる。(6年生)			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【コミュニケーション力】: 班の約束を守り、みんなと仲良くすることができる。 【役割認識力】: リーダー、フォロアーそれぞれの役割を理解し、一生懸命に自分の仕事を果たすことができる。 【課題解決力】: みんなで楽しく遊ぶための企画や約束を考えることができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
学級活動	縦割り班遊びの意義や約束を話し合う。	・6年生は事前に「遊び企画書」を考えておく。計画の状況を見取り、アドバイスや励ましを与える。企画書をもとに、よりよい遊び方を話し合わせる。【課題解決】	
縦割り集会	縦割り班毎に、自己紹介をする。 班のめあてや約束を決める。	・各学年に応じた役割を具体的に指導する。活動の運営は6年生のリーダーに委ね、教師は活動状況を観察しながら、必要に応じ、指導支援する。【課題解決・役割認識】	
縦割り班遊び	班毎に縦割り班遊びに取り組む。 班ごとに活動の反省をし、より楽しく遊ぶための方法を話し合う。 活動の様子について、担当の先生の話聞く。	・「縦割り班遊びコンテスト」とし、活動意欲を喚起する。【コミュニケーション・役割認識・課題解決】 ・各班、各学年の取り組み態度を具体的に評価する。【役割認識・課題解決】	

<b>清掃活動におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・清掃時間
1. 目標			
清掃活動の意義を知り、進んで仕事に取り組み、働くことの喜びを感じることができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 清掃活動の意義を知らせ、自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。 体をおして働くことの気持ちよさを実感させる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【役割認識力】: 学校生活における清掃活動の役割を理解し、自分の仕事を意欲的に果たすことができる。 【職業理解力】: 清掃活動が気持ちのよい学校生活につながることや働くことの喜びを知る。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
学級活動	そうじの意義や約束を話し合う。	・働くことの価値を全校朝会等でも話題にする。「そうじが無かったら」という観点から、そうじの意義を話し合わせる。【職業理解・役割認識】	
全校朝会	働くことについて話を聞く。 始めの挨拶をし、めあてと役割を確認する。	・教師も共に活動し、協働の楽しさを感じさせる。【役割認識・職業理解】	
清掃活動	自分の仕事に取り組む。 活動の様子を反省する。 教師の評価を聞く。	・取り組みカード等で活動状況を自己評価させる。また、活動を適切に評価し、一生懸命に働いたことによる気持ちよさを感じさせる。【職業理解】	

<b>給食活動におけるキャリア教育の展開</b>		指導学年	全学年
		指導の場	学級活動・給食時間
1. 目標			
当番の仕事を着実に果たしたり、食事をとおして友達との交流を深めたりすることができる。			
2. キャリア教育のポイントと進路発達にかかわる能力			
<b>キャリア教育のポイント</b> 給食にかかわる自分の役割を責任をもって果たそうとする態度を育てる。 食事をとおし、友達との交流を深めさせる。			
<b>進路発達にかかわる諸能力</b> 【役割認識力】: 当番の仕事を着実にやり遂げることができる。 【コミュニケーション力】: 食事のマナーを守りながら、友達との交流を深めることができる。			
3. 進路発達を促す指導上の留意点・工夫点			
進路発達にかかわる主な活動(例)		進路発達を促す指導上の留意点・工夫点	
給食準備	当番の仕事に取り組む。	・当番表を準備し、役割分担を明確にしておく。仕事への取り組み態度を観察し、適宜、評価指導する。【役割認識】	
縦割り班遊び	食事のマナーを守りながら、友達との会話を楽しむ。	・食後の休息時間に、係による「お楽しみタイム」等の企画も工夫する。【コミュニケーション】	